

岐阜県文化財保護センター

調査報告書 第160集

中 村 遺 跡

2023

岐阜県文化財保護センター

なかむら
中 村 遺 跡

2023

岐阜県文化財保護センター

序

揖斐川町は、岐阜県の北西部に位置し、町の西部には標高 1,300m を超える伊吹山や金糞岳、標高 1,200m を超える冠山をはじめとする山岳地帯が広がります。町の南東部には、揖斐川によって形成された扇状地が広がり、市街地が展開します。

このたび、国土交通省中部地方整備局越美山系砂防事務所による奥ノ洞砂防堰堤工群及びパンタ川第1砂防堰堤建設事業に伴い、令和2年度に揖斐郡揖斐川町に所在する中村遺跡の発掘調査を実施しました。今回の発掘調査では、縄文時代の竪穴建物や集石遺構、古代の塀・柵、中世の掘立柱建物等を確認し、各時期において、当遺跡が集落の一部として利用されていたことが明らかとなりました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、揖斐川町教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

令和5年3月

岐阜県文化財保護センター

所長 岡田 知也

例　言

- 1 本書は、岐阜県揖斐郡揖斐川町日坂に所在する中村遺跡（岐阜県遺跡番号 21406－06805）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、奥ノ洞砂防堰堤工群及びバンタ川第1砂防堰堤建設事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県文化財保護センターが委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 宇野隆夫帝塚山大学客員教授の指導のもとに、発掘作業は令和2年度に、整理等作業は令和3年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第1章第2節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆及び編集は、中馬裕太・辻田真穂の所見をもとに磯貝龍志が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は株式会社イビソクに委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、株式会社ユニオンに委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 炭化材年代測定は、株式会社パレオ・ラボに委託して行い、第4章に掲載した。第4章第1節は磯貝が執筆した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
- 揖斐川町教育委員会、鈴木康二、藤澤良祐、中野晴久
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第VII系を使用する。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目 次

序

例言

第1章 調査の経緯

- | | |
|--------------|---|
| 第1節 調査に至る経緯 | 1 |
| 第2節 調査の方法と経過 | 3 |

第2章 遺跡の環境

- | | |
|-----------|---|
| 第1節 地理的環境 | 6 |
| 第2節 歴史的環境 | 7 |

第3章 調査の成果

- | | |
|-------------------|----|
| 第1節 基本層序 | 9 |
| 第2節 遺構の概要 | 11 |
| 第3節 遺物の概要 | 13 |
| 第4節 縄文時代の遺構・遺物 | 20 |
| 第5節 古代・中世の遺構・遺物 | 68 |
| 第6節 撥乱・表土・包含層出土遺物 | 90 |

発掘区全城図 分割図、遺構一覧表、遺物観察表

第4章 自然科学分析

- | | |
|--------------|-----|
| 第1節 分析の概要と成果 | 132 |
| 第2節 炭化物年代測定 | 132 |

第5章 総括

- | | |
|--------------|-----|
| 第1節 集石遺構について | 135 |
| 第2節 まとめ | 139 |

写真図版

報告書抄録

挿図目次

図 1 遺跡位置図	1
図 2 試掘・確認調査坑（発掘区外を除く）	2
図 3 グリッド設定図	3
図 4 遺跡周辺の地形分類図	6
図 5 周辺遺跡位置図	8
図 6 土層柱状図	10
図 7 遺構属性模式図	12
図 8 打製石礫分類模式図	16
図 9 SI 1 遺構図（1）	21
図 10 SI 1 遺構図（2）	22
図 11 SI 1 出土遺物実測図	23
図 12 SP 1・SP 4・SP 5・SP 7・SP11・SP14 遺構図・出土遺物実測図	25
図 13 SP16・SP17・SP19 遺構図・出土遺物実測図	27
図 14 SP23・SP24・SP28 遺構図・出土遺物実測図	28
図 15 SK23 遺構図・出土遺物実測図	30
図 16 SK24 遺構図・出土遺物実測図	31
図 17 SK27・SK28 遺構図・出土遺物実測図	32
図 18 SK33 遺構図・出土遺物実測図	33
図 19 SK40 遺構図・出土遺物実測図	34
図 20 SK42 遺構図	35
図 21 SK42 出土遺物実測図	36
図 22 SK45 遺構図・出土遺物実測図	37
図 23 SK50 遺構図・出土遺物実測図	38
図 24 SK51・SK57 遺構図・出土遺物実測図	39
図 25 SK60 遺構図・出土遺物実測図	40
図 26 SK61 遺構図・出土遺物実測図	41
図 27 SK62 遺構図・出土遺物実測図（1）	43
図 28 SK62 出土遺物実測図（2）	44
図 29 SK62 出土遺物実測図（3）	45
図 30 SK71・SK78・SK81・SK91・SK92・SK93 遺構図・出土遺物実測図	48
図 31 SK95・SK98・SK100・SK112・SK137 遺構図・出土遺物実測図	51
図 32 SK151・SK164・SK166・SK167・SK168・SK172 遺構図・出土遺物実測図	53
図 33 SK181 遺構図・出土遺物実測図	54
図 34 SK185 遺構図（1）	55
図 35 SK185 遺構図（2）	56
図 36 SK185 遺構図（3）・出土遺物実測図	57
図 37 SK186・SK187・SK192・SK193・SK207 遺構図・出土遺物実測図	59
図 38 SK210・SK223・SK224・SK235・SK245・SK246 遺構図・出土遺物実測図	62
図 39 SK248・SK252 遺構図・出土遺物実測図	63
図 40 SK265 遺構図・出土遺物実測図	64
図 41 SK271・SK272・SK296・SK306・SK326・SK355 遺構図・出土遺物実測図	66
図 42 SB 1 遺構図（1）	69
図 43 SB 1 遺構図（2）・出土遺物実測図	70
図 44 SB 2 遺構図（1）	71
図 45 SB 2 遺構図（2）・出土遺物実測図	72
図 46 SA 1 遺構図	73
図 47 SA 2 遺構図・出土遺物実測図	74
図 48 SA 3 遺構図（1）	75
図 49 SA 3 遺構図（2）・出土遺物実測図	76
図 50 SA 4 遺構図・出土遺物実測図	78
図 51 SA 5 遺構図・出土遺物実測図	79
図 52 SA 6 出土遺物実測図	80
図 53 SA 6 遺構図	81
図 54 SA 7 遺構図	82
図 55 SA 7 出土遺物実測図	84
図 56 SA 8 遺構図・出土遺物実測図	84
図 57 SA 9 遺構図・出土遺物実測図	85
図 58 SA10 遺構図・出土遺物実測図	86
図 59 SP 9 遺構図・出土遺物実測図	87

図 60 SK13・SK75・SK76・SK119・SK132・SK301 遺構図・出土遺物実測図	89	図 67 発掘区全域図 分割図(2)	100
図 61 扰乱・表土・包含層出土遺物実測図(1)	91	図 68 発掘区全域図 分割図(3)	101
図 62 扰乱・表土・包含層出土遺物実測図(2)	93	図 69 発掘区全域図 分割図(4)	102
図 63 扰乱・表土・包含層出土遺物実測図(3)	95	図 70 発掘区全域図 分割図(5)	103
図 64 扰乱・表土・包含層出土遺物実測図(4)	96	図 71 历年較正結果	133
図 65 発掘区全域図 刻付図	98	図 72 遺構変遷図(1)	141
図 66 発掘区全域図 分割図(1)	99	図 73 遺構変遷図(2)	143

表目次

表 1 試掘・確認調査結果	2	表 26 土器観察表(3)	117
表 2 周辺遺跡及び社寺等一覧表	8	表 27 土器観察表(4)	118
表 3 検出遺構一覧表	11	表 28 土器観察表(5)	119
表 4 出土遺物一覧表	13	表 29 土器観察表(6)	120
表 5 石器類石材別一覧表	17	表 30 土器観察表(7)	121
表 6 壁穴建物一覧表	104	表 31 土器観察表(8)	122
表 7 壁穴建物付属遺構一覧表	104	表 32 土器観察表(9)	123
表 8 掘立柱建物一覧表	104	表 33 土器観察表(10)	124
表 9 掘立柱建物付属遺構一覧表(1)	104	表 34 土器観察表(11)	125
表 10 掘立柱建物付属遺構一覧表(2)	105	表 35 土器観察表(12)	126
表 11 塚・柵一覧表	105	表 36 土器観察表(13)	127
表 12 塚・柵付属遺構一覧表(1)	105	表 37 土器観察表(14)	128
表 13 塚・柵付属遺構一覧表(2)	106	表 38 土器観察表(15)	129
表 14 単独柱穴一覧表(1)	106	表 39 土器観察表(16)	130
表 15 単独柱穴一覧表(2)	107	表 40 土製品観察表	130
表 16 土坑一覧表(1)	107	表 41 石器観察表(1)	130
表 17 土坑一覧表(2)	108	表 42 石器観察表(2)	131
表 18 土坑一覧表(3)	109	表 43 測定資料及び処理	132
表 19 土坑一覧表(4)	110	表 44 放射性炭素年代測定及び歴年較正の結果	133
表 20 土坑一覧表(5)	111	表 45 掛斐川町内における縄文時代早期の 集石遺構	136
表 21 土坑一覧表(6)	112	表 46 掛斐川町内における早期後葉の縄文土器 出土遺跡	139
表 22 土坑一覧表(7)	113	表 47 中村遺跡出土古代・中世陶磁器	142
表 23 土坑一覧表(8)	114		
表 24 土器観察表(1)	115		
表 25 土器観察表(2)	116		

挿入写真目次

写真1 調査前風景（北から）	5
写真2 遺構掘削作業	5
写真3 遺構測量作業	5

写真図版目次

巻末図版

図版1 遺構（1）	SK185 磨出土状況4（北から）
中村遺跡遠景（東から）	SK185 磨出土状況5（北から）
東区全景（東から）	SK185 完掘状況（南東から）
図版2 遺構（2）	SK186 磨出土状況1（南西から）
西区全景（北東から）	図版6 遺構（6）
SI 1 完掘状況（南西から）	SK186 磨出土状況2（西から）
図版3 遺構（3）	SK186 完掘状況（西から）
SI 1-P 1 土層断面（西から）	SK265 遺物出土状況（南東から）
SI 1-P 1 完掘状況（西から）	SK265 完掘状況（南から）
SI 1-P 2 土層断面（南から）	SB 1・SB 2 完掘状況（南東から）
SI 1-P 2 完掘状況（北から）	図版7 遺構（7）
SI 1-炉検出状況（北西から）	SB 1-P 8・SB 2-P 5 土層断面（北から）
SI 1-炉土層断面（北西から）	SB 1-P 8・SB 2-P 5 完掘状況（北から）
SI 1-炉完掘状況（北西から）	SA 1 完掘状況（北東から）
SK24 土層断面（西から）	SA 5～SA 7 完掘状況（北西から）
図版4 遺構（4）	図版8 出土遺物（1）
SK24 完掘状況（西から）	図版9 出土遺物（2）
SK23 土層断面（北から）	図版10 出土遺物（3）
SK23 土層断面（南から）	図版11 出土遺物（4）
SK23 土層断面（西から）	図版12 出土遺物（5）
SK23 土層断面（東から）	図版13 出土遺物（6）
SK23 完掘状況（西から）	図版14 出土遺物（7）
SK185 磨出土状況1（北から）	図版15 出土遺物（8）
SK185 磨出土状況2（北から）	図版16 出土遺物（9）
図版5 遺構（5）	図版17 出土遺物（10）
SK185 磨出土状況3（南から）	図版18 出土遺物（11）
	図版19 出土遺物（12）

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

中村遺跡は、揖斐郡揖斐川町日坂に所在し（図1）、縄文時代・中世・近世の遺物散布地として知られている。

奥ノ洞砂防堰堤工群及びパンタ川第1砂防堰堤建設に先立ち、その建設予定地に中村遺跡が隣接するため、令和元年7月に岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課（以下、「文化伝承課」という。）が試掘・確認調査を実施した。山沿いの平坦地に試掘・確認調査坑を6箇所設定し、このうちの3箇所（TP 1・2・6）において遺物を伴う土坑等を検出した（表1、図2）。この結果をもとに、令和元年7月31日に実施した岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会において、中村遺跡隣接地内の912.4 m²について本発掘調査が必要との意見がまとめられた。また、揖斐川町長は文化伝承課が実施した試掘・確認調査の結果に基づき、文化伝承課長あて岐阜県遺跡地図の変更について通知（令和2年1月15日付け揖斐川観文第140号）した。これを受け、文化伝承課長は揖斐川町長に通知（令和2年1月28日付け文伝第91号の26）をし、遺跡範囲を変更した。

本工事は、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、国土交通省中部地方整備局越美山系砂防事務所（以下、「越美山系砂防事務所」という。）長から岐阜県知事（以下、「県知事」という。）あて埋蔵文化財発掘通知（令和2年2月14日付け国部整越工第148号）が提出され、同条第4項の規定

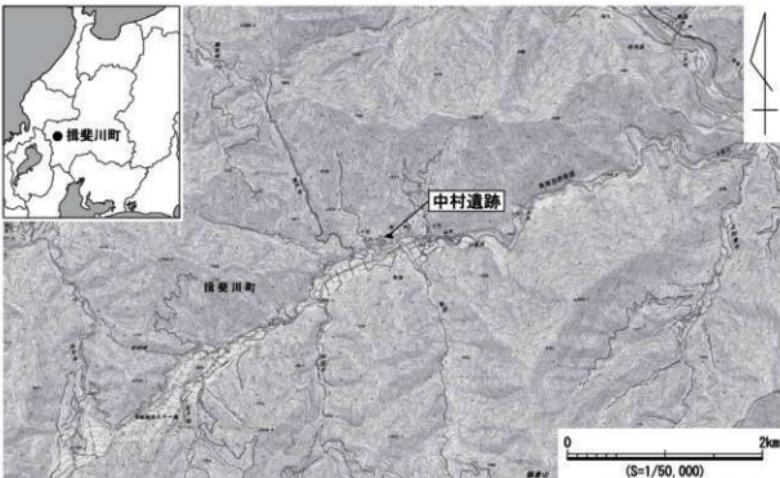


図1 遺跡位置図
(令和2年国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「横山」を使用したものである)

2 第1章 調査の経緯

に基づき、県知事は同事務所長あて発掘調査実施勧告（令和2年3月9日付け文伝第94号の207）を通知した。本発掘調査は、奥ノ洞砂防堰堤工群及びバンタ川第1砂防堰堤建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、越美山系砂防事務所長が県知事に依頼し、令和2年度に912.4m²を対象に、岐阜県文化財保護センター（以下、「当センター」という。）が実施した。当センターは調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告（令和2年5月19日付け文財セ第55号）を県知事に提出した。

表1 試掘・確認調査結果

調査坑 No.	検出遺構 (基数)	出土遺物(点数)						合計
		縄文土器	土師器	灰釉陶器	山茶碗	中近世 陶磁器	石器	
TP 1	土坑 7	14	2	1	0	7	0	0
TP 2	土坑 1、溝状遺構 1	1	2	0	0	3	0	0
TP 6	土坑 5	13	2	0	1	6	1	1
合計	土坑13、溝状遺構 1	28	6	1	1	16	1	1
								54

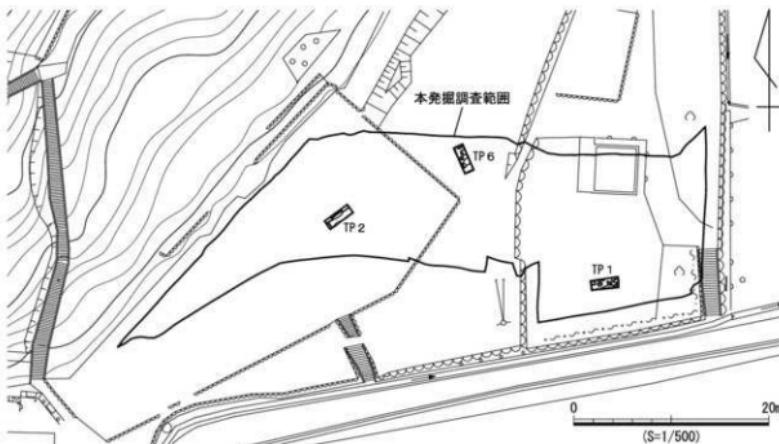


図2 試掘・確認調査坑(発掘区外を除く)

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘作業は、令和2年度に 912.4 m²を実施した。調査面の比高の都合等から発掘区を西区と東区に分け、反転調査を行った。

グリッドの設定 遺物取り上げ等に用いる調査グリッドの設定は、世界測地系の座標に基づき、一边 5 m の区画とした。 $X=49,470$ 、 $Y=-64,740$ を原点として以東を割り付け、南北を A～F、東西を 1～14 に分割した（図 3）。

掘削作業 表土掘削を重機、遺物包含層以下を人力により掘削した。遺構の掘削は、土坑は半割又は 4 分割で掘削を行い、埋土の堆積状況を記録したのち、遺構全体の掘削を行った。なお、倒木痕については、範囲を記録したのち、最もよく観察できると思われる箇所にて堆積状況の記録を行った。

記録作業 遺構には、原則として検出順に通番を付し、「S0001」というように「S」と 4 桁の数字により表記した。この番号は、整理等作業時に遺構種別ごとに番号を振り直した。

遺構等の実測作業については、原則として平面図はデジタル測量、土層断面図は手測り測量にて、実測図を作成した。図面の縮尺は、20 分の 1 とした。

出土遺物については、遺物包含層出土遺物をグリッド単位、遺構出土遺物を遺構単位で取り上げた。ただし、残存状況が良い遺構出土遺物は、デジタル測量により原位置を記録した。

写真撮影については、デジタル一眼レフカメラ及びコンパクトデジタルカメラを使用した。ただし、発掘区全体の景観写真撮影は、ラジコンヘリを用いて実施した。

2 調査の経過

第1週（5月 7 日～8 日） 7 日、東区の I 層（表土）の重機掘削開始。

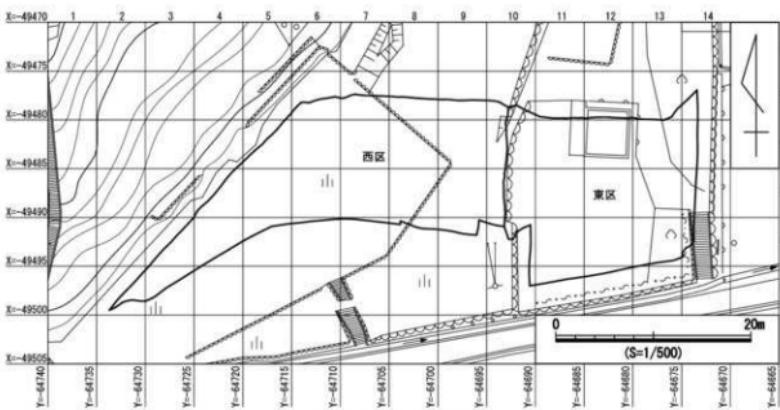


図 3 グリッド設定図

4 第1章 調査の経緯

- 第2週 (5月11日～15日) 12日、東区重機掘削終了。14日、F10グリッド遺構検出開始。15日、E10～F10グリッド遺構検出終了。
- 第3週 (5月18日～22日) 18日～20日、E13～14、D12～14グリッド遺構検出終了。
- 第4週 (5月25日～29日) 26日、C12グリッド遺構検出終了。C12グリッドの遺物包含層から繩文土器が多数出土。28日、遺構検出面を改めて確認するため、東区東壁沿いにトレンチを設定し土層観察を実施。その結果、D12グリッド東部～D14、E14グリッドに遺物包含層の掘り残しがあることが判明、遺物包含層の再掘削実施。
- 第5週 (6月1日～5日) 2日、E11グリッド東部、E12グリッド西部、F11グリッド東部、F12グリッド西部に遺物包含層の掘り残しがあることが判明し、遺物包含層の再掘削を実施。
- 第6週 (6月8日～12日) 10日、SA8-P4土器(223)出土状況図作成。12日、D14グリッド遺構掘削終了。
- 第7週 (6月15日～19日) 15日、SK185の4分割中に集石確認。17日、B13～14、C13～14グリッド遺構検出終了。
- 第8週 (6月22日～26日) SK185の4分割終了。
- 第9週 (6月29日～7月3日) 1日、B10～11、C10～11グリッド遺構検出終了。2日、SK265半截終了。3日、SK185の1段目の礫検出完了、出土状況図作成開始。
- 第10週 (7月6日～10日) 天候不良のため、作業休止。
- 第11週 (7月13日～17日) 15日、SK185の1段目礫出土状況図作成終了。
- 第12週 (7月20日～24日) 20日、SK185を除く東区の遺構掘削完了。21日、東区景観写真撮影実施。22日、東区東壁土層断面図作成。
- 第13週 (7月27日～31日) 27日、SK185を除く東区全体図校正実施。SK185の2段目の礫検出完了。28日、西区のI層(表土)の重機掘削開始。西区東部は、石垣の造成により、一部遺物包含層が消失してしまっている場所があることを確認。西区南部には宅地造成に伴うと考えられる大規模な攪乱を確認。
- 第14週 (8月3日～7日) 3日、西区重機掘削終了。B7グリッド以東に包含層の残存を確認。4日、F3グリッド遺構検出開始。5日、D4、E4グリッドの遺構検出終了。
- 第15週 (8月10日～14日) 夏季作業休止期間。
- 第16週 (8月17日～21日) 17日～18日、B5、C5、D5グリッド北側の遺構検出終了、21日、B7、C7グリッド遺物包含層掘削終了。
- 第17週 (8月24日～28日) 24日、B6～7、C6～7、D6グリッド遺構検出終了。26日、B8～B9グリッド遺構検出終了。
- 第18週 (8月31日～9月4日) C7グリッドで玦状耳飾(323)出土。2日、SK42掘削開始。東区南壁土層断面図作成。3・4日、雨天休止。
- 第19週 (9月7日～11日) 9日、C8～9グリッド遺構検出終了。C8グリッド中央で倒木痕検出。10日、第2回中村遺跡遺跡調査検討委員会を現地で開催。
- 第20週 (9月14日～18日) 16日、SK62の4分割開始。
- 第21週 (9月21日～25日) 21・22日、雨天休工。23日、C7グリッド南側、D7グリッド遺構

検出終了。D7グリッドの全体で擾乱確認。24日、B10、C10グリッド遺構検出終了。

第22週（9月28日～10月2日）30日、西区南部の擾乱の東辺を確認する目的で、D8グリッドの発掘区南壁沿いにトレーニチを設定した。1日、D8～10グリッドの遺物包含層掘削終了。西区南部の擾乱の東辺確認。

第23週（10月5日～9日）6日、指導調査員宇野隆夫氏（帝塚山大学客員教授）現地指導。7日、D8～10、E8～10グリッド遺構検出終了。

第24週（10月12日～16日）12日、SK62完掘。13日、SI1検出、4分割開始。

第25週（10月19日～23日）20日、西区景観写真撮影実施。SI1底面で付属遺構複数検出。21日、西区北壁土層断面図作成。

第26週（10月26日）26日、西区全体図校正実施。

出土遺物の洗浄や注記等の一次整理作業は令和2年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は令和3年度に当センターにおいて実施した。また、令和3年8月23日に宇野隆夫氏（帝塚山大学客員教授）に調査成果全体についての指導を受けた。

令和2年度にSK185出土炭化物の放射性炭素年代測定を実施した。

3 発掘作業及び整理等作業の体制

発掘調査及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長 森 勝利（令和2年度）、岡田 知也（令和3年度）

総務課長 布施 三千代（令和2・3年度）、中通 珠子（令和3年度）

調査課長 春日井 恒（令和2年度）

調査担当課長補佐、係長 大本 直人（令和3年度）、三輪 晃三（令和3年度）

長谷川 幸志（令和2年度）

調査担当職員 中馬 裕太、辻田 真穂、澤村 雄一郎（令和2年度）、

磯貝 龍志（令和3年度）



写真1 調査前風景（北から）



写真2 遺構掘削作業



写真3 遺構測量作業

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

揖斐川町は、平成17（2005）年に揖斐川町、谷汲村、春日村、久瀬村、藤橋村、坂内村の1町5村が合併して成立した町で、岐阜県の北西部に位置する¹⁾。当遺跡の所在する日坂地区は、揖斐川町北西の山間部で、旧久瀬村にあたる。町の西部には、標高1,300mを越える伊吹山や金糞岳、標高1,200mを超える冠山をはじめとする山岳地帯が広がる。山間部には揖斐川、坂内川、日坂川、根尾川、柏川などが流れ、町の北西から貫流する揖斐川に流れ込んでいる。町の南東部には、揖斐川によって形成された扇状地が広がる。この扇状地は、濃尾平野の最北端あたり、市街地が展開する。

当遺跡は、河岸段丘と小規模扇状地から成る砂礫台地である、いわゆる日坂川台地上に展開し、遺跡のすぐ南側には日坂川が東流する（図4）。また、遺跡の周囲には日坂川の源流点のある貝月山と同様に花崗岩を岩体とする山々が広がる。

注

- 記述にあたっては以下の文献を参考とした。

揖斐川町 1971 『揖斐川町史』通史編

揖斐郡久瀬村 1973 『久瀬村誌』

岐阜県 1981 『岐阜県地質鉱産図概説』

岐阜県企画部地域振興課 1995 『岐阜県土地分類基本調査「横山」』



図4 遺跡周辺の地形分類図
(岐阜県企画部地域振興課 1995『岐阜県土地分類基本調査「横山」』の地形分類図を基に作成したものである)

第2節 歴史的環境

揖斐川町北西部の山間地では、山間部を流れる川沿いの各所で遺跡が確認されている¹⁾。特に徳山ダムの建設に伴って廃村となった旧徳山村では38ヶ所の遺跡が確認されている。中村遺跡が所在する久瀬地域でも、日坂川沿いに遺跡が点在している。これらの遺跡は、開発事業に伴ってその存在が知られた例が多い。久瀬地域における本発掘調査の実施は、今回の調査が初めてであり、周辺の遺跡の性格はほとんど判明していない。ここでは、中村遺跡周辺の遺跡や社寺等について時代順に概観する。なお、文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、図5及び表2と一致する。

旧石器時代 日坂川沿いで当該期の遺跡は現在までに確認されていない。

縄文時代 日坂川沿いでは、ぶくりや遺跡（3）、柄江遺跡（4）、日坂遺跡（9）、小坂遺跡（10）で、縄文土器や石器が確認されている。ぶくりや遺跡は、崩落性の緩斜面上に位置する。昭和25年頃に設けられていた畑を水田化した際には、中期末と考えられる縄文土器や磨製石斧や切目石錐といった石器が採集されている。また、昭和40年に揖斐高原スキー場が整備された際には、多数の縄文土器が出土したとされる。柄江遺跡、日坂遺跡、小坂遺跡は、いずれも日坂川左岸の段丘上に位置する。柄江遺跡では、昭和44年・50年にそれぞれ磨製石斧が採集されている。日坂遺跡では、昭和35年の道路改修工事中に石鎚、磨製石斧、石棒が確認された。小坂遺跡では平成元年に石鎚や打製石斧等の石器が採集されている。また、中村遺跡よりもやや東側の日坂字下村では、明治42年の日坂街道改修工事の際に石劍が、翌年には石鎚、磨製石斧、石棒が発見されたという。白川沿いの諸家遺跡（2）は、久瀬地域に隣接する坂内地域の小規模な扇状地に立地する。昭和23・25年に小川栄一氏によって磨製石斧や石鎚が採集され、遺跡の存在が判明した。昭和60年には、林道建設に伴い坂内村教育委員会が遺跡の西端付近の発掘調査を実施した。この際の調査では、早期前葉の集石遺構や前期の土坑が確認され、早期前葉から中期中葉の縄文土器や石鎚、石錐、石匙、磨石、敲石等の石器が出土した。表川沿いの緩斜面上に位置する長者平遺跡（8）では、昭和18年に水田を開墾した際に縄文土器や石器が確認されている。また、昭和24年から25年頃に小川栄一氏・宇佐美賀之氏・高橋俊示氏が、前述した水田を試掘した際には、早期末や晚期後半のものと考えられる縄文土器や磨石が出土した。小津川が揖斐川に合流する下位段丘面に位置する西津汲遺跡（図5位置図外）では昭和44年の工事中に縄文土器や磨製石斧が出土した。また、いくつかの地点で、中期から晚期と考えられる縄文土器や打製石斧、楔形石器等の石器が採集されている。

弥生時代 日坂川沿いで当該期の遺構は現在までに確認されていない。西津汲遺跡から出土した前述した磨製石斧が、弥生時代まで下る可能性があるという。

古墳時代 日坂川沿いで当該期の遺跡は現在までに確認されていない。

古代 日坂川沿いで当該期の遺跡は現在までに確認されていないが、中村遺跡の北東約150mには、天平年間（729～748年）の創建と伝わる春日神社（7）が所在する。

中・近世 中村遺跡の北側約30mには大貴山長国寺（6）が所在する。旧春日村長者平にあった長谷寺が荒廃していたため、応永元（1394）年に壱村老人という人物により、現在の地へ天台宗の寺院として移転再興したものとされる。應永12（1405）年若しくは慶長年間（1596年～1615年）には今須明応寺の第15世転翁嶽継を勧請し、薬師如来を本尊として曹洞宗に改宗している。長国寺が所蔵する花崗岩の鬼瓦屋根石は、元々春日神社の拝殿下にあったが、昭和初期に長国寺内に移したとされる。裏面には「敬白右為父

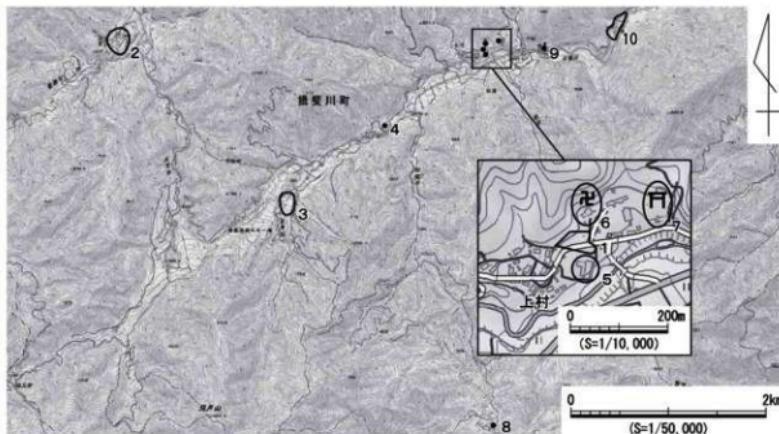


図5 周辺遺跡位置図
(令和2年国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「横山」を使用したものである)

表2 周辺遺跡及び社寺等一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	中村遺跡	集落跡	縄文・中世・近世
2	賤家遺跡	集落跡	縄文
3	ふくりや遺跡	散布地	縄文・中世
4	柳江遺跡	散布地	縄文・中世
5	高橋家住宅	建造物	中世・近世

番号	遺跡名	種別	時代
6	大貴山長国寺	社寺	中世・近世
7	春日神社	社寺	古代・中世・近世
8	長者平廬跡	散布地	縄文
9	日坂遺跡	散布地	縄文・中世・近世
10	小坂遺跡	散布地	縄文・中世・近世

母教養応永五年卯三月一四日教子敬白」と刻まれている。また境内には、昭和50代から60年代頃に日坂一帯から集められたとされる石塔や石仏が複数認められる。中央にある五輪塔が最も古く中世のものと考えられる。中村遺跡の南約15mには、高橋家住宅（5）が所在する。高橋氏は没落した北方氏に変わって中世末に日坂に来住したとされる豪族で、江戸時代を通じて大庄屋を務めた。近世の山村の豪農屋敷の形態・景観をよく残しており、県の重要文化財に指定されている。

注

1) 各遺跡や社寺等の記述は以下の文献を参考にした。縄文時代は主に財团法人岐阜県文化財保護センター1994を参考に記述した。

揖斐郡久瀬村1973『久瀬村誌』大洋社

揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い1993『久瀬村の歴史』

小川栄一 1952『美濃の石器時代文化』

春日村史編集委員会 1983『春日村史』上巻、株式会社ぎょうせい

財團法人岐阜県文化財保護センター1994『長吉遺跡・普賢寺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第12集)

篠田通弘 1987『揖斐谷の縄文遺跡 その1』『揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い 第5回揖斐谷ミニ学会』

高橋好男 2005『ふるさと日坂』、大和印刷

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

令和元年度に文化伝承課が実施した試掘・確認調査の結果と本発掘調査における成果を基に、基本層序を以下のとおり設定した（図6）。

I層 表土及び造成土

10YR1.7/1 黒色土、10YR2/2 黒褐色土、10YR3/2 黒褐色土、10YR3/3 暗褐色土、10YR4/4 褐色砂質土で、しまりはない。発掘区の全域で確認できる。当遺跡の現況は、斜面地を平坦に造成した荒蕪地であるが、この平坦面を形成する際の盛土と、造成後に堆積した表土と考える。縄文時代と古代から近世の遺物を含む。

II層 遺物包含層

東区と西区で土色や土質がやや異なる。西区は 10YR1.7/1 黒色土で、しまりはなく、粘性がある。東区は 2.5Y2/1 黑色土でしまりがややあり、粘性がややある。西区の南東部（D 9～10、E 9～10 グリッド）及び東区の中央以東でのみ確認でき、それ以外の範囲は造成により削平される。II層上面は、造成時の削平の影響を受けていると想定される。西から東に向かって厚くなる。縄文時代と古代から中世の遺物を含む。

III層 基盤層

旧地形を形成する堆積で、土色と土質の違いから3層に分ける。IIIa 層は、10YR2/1 黒褐色土、10YR2/2 黑褐色土、10YR3/2 黑褐色土、10YR3/3 暗褐色土で、花崗岩粒を多く含む。地形が低くなる西区中央以東に堆積する。IIIb 層は、10YR5/4 にぶい黄褐色土である。西区の西部や南壁面で確認し、IIIa 層下に広範囲で堆積していると推定される。IIIc 層は、10YR4/4 褐色、10YR6/4 にぶい黄褐色、10YR6/6 明黃褐色、10YR8/2 灰白色、10YR8/3 浅黄橙色で、いずれも花崗岩が風化により砂礫化した堆積である。なお、発掘区の旧地形は西から東に向かって緩やかに低くなる。

遺構検出面は、II層が確認できない箇所では I層基底面、その他は III層上面とした。また、西区の南部は、大規模な攪乱が掘り込まれており、遺構は確認できなかった。

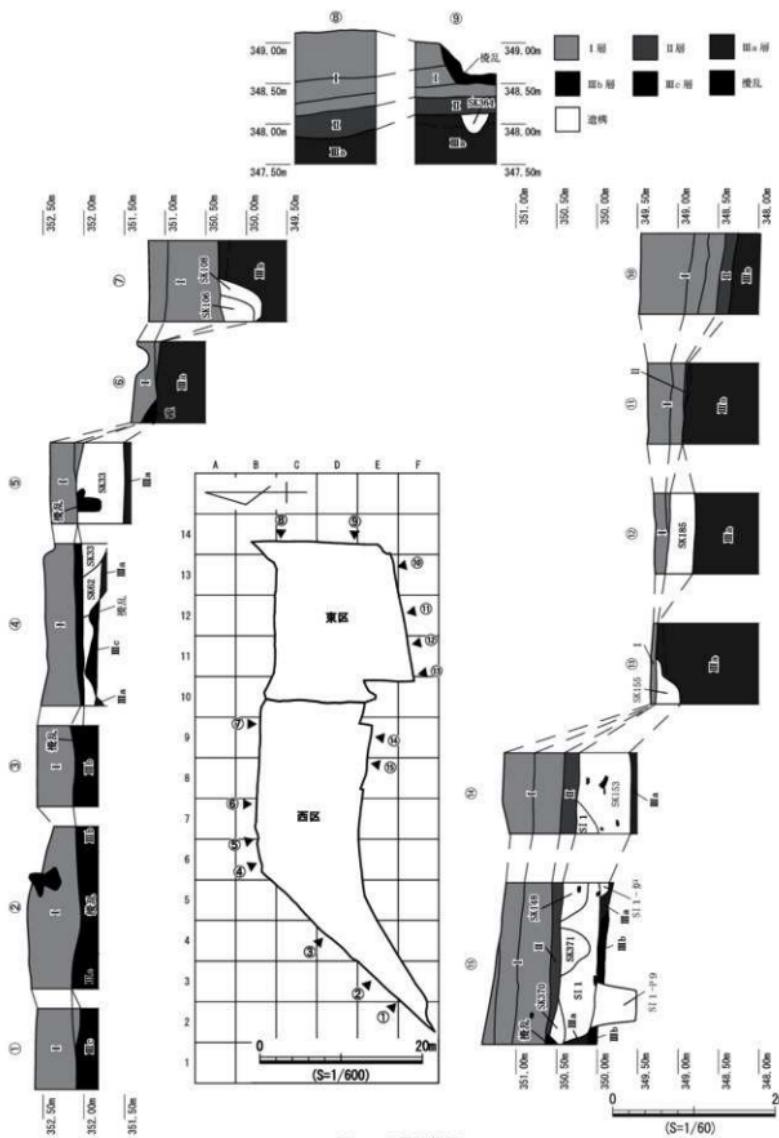


図 6 土層柱状図

第2節 遺構の概要

1 概要

今回の調査では、縄文時代、古代、中世の遺構を検出した。検出した遺構数は表3のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係、検出状況や埋土、長軸方位の類似性等から判断したが、時期不明なものも多い。また、出土遺物が複数の時代にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料としている。

本報告書では、これらの遺構のうち、竪穴建物、掘立柱建物、塀・柵は遺跡の性格を反映すると考えられることから、全て報告する。単独柱穴、土坑は検出数が多いため、遺跡の性格を検討する上で重要なもののや、時期決定が可能な遺物が出土したもの等を抽出して報告する。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

表3 検出遺構一覧表

検出面	S I	S B	S A	S P	S K	合計
Ⅲ層上面	1	2	3	15	224	245
I層基底面	0	0	7	14	150	171
合計	1	2	10	29	374	416

2 遺構の分類

各遺構は、形状や規模、構造から以下のように分類基準を設定し、原則として西側から略号と共に番号を付す。

竪穴建物（S I） 竪穴状に掘り窪めた掘方をもち、上屋の建物構造が想定できるもの。竪穴内で検出した炉は「SI●- 炉」、主柱穴や土坑は、「SI●- P●」と表記する。なお、炉は周囲の土と比較し、被熱のための変色が確認できるものとした。

掘立柱建物（S B） 柱穴跡が直線状に並ぶ遺構のうち、向かい合う2辺以上が認められ、上屋構造を有すると推定できるもの。また、掘立柱建物を構成する柱穴は「SB●- P●」と表記する。

塀・柵（S A） 柱穴跡が規則的に複数並ぶ遺構のうち、上屋構造をもつことが認定できないもの。また、塀・柵を構成する柱穴は「SA●- P●」と表記する。

単独柱穴（S P） 建物に伴う柱穴と同様の掘方（遺構の断面形状が逆台形で、上端長軸長が1m未満の遺構のうち、上端長軸長に対する深さの比率が1.2以上のもの）や堆積を有するもののうち、規則的な配列が確認できず、S BやS Aとして認定できないもの。なお、他の遺構に付属するものは、「（付属する遺構番号）-P●」のように表記し、この遺構略号を使用しない。

土坑（S K） 上記以外で、人為的に掘り窪められた穴のうち、性格不明なもの。

3 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、種別ごとに作成した遺構一覧表に示す。遺構種別により一覧表の項目は一部異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

遺構番号 種別と通番で表記する。

地区割 南北方向をアルファベット、東西方向をアラビア数字で表記する。

検出面 基本層序の層位名を使用し、Ⅲ層上面で検出した遺構は「Ⅲ上」とし、I層基底面で検出した遺構は「I基」と表記する。

規模 () は残存長を示す。

平面形・底面形 以下のとおり、形状をアラビア数字で表記する。

- 1 : 円形 (短径・長径の比が 1:1.2 未満)
- 2 : 楕円形 (短径・長径の比が 1:1.2 以上 3.0 未満)
- 3 : 方形 (短径・長径の比が 1:1.2 未満)
- 4 : 不定形
- : 不明

断面形・堆積状況 図7の分類に基づき記載する。

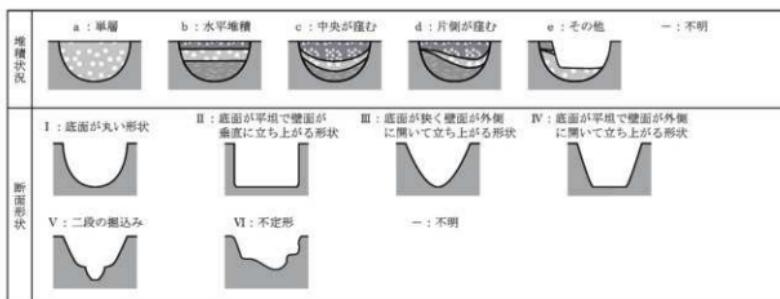


図7 遺構属性模式図

重複関係 「新>古」の関係を示す。

出土遺物 以下のとおり、記号化して表記する。

J-繩文土器、H-土師器、P-須恵器、K-灰陶陶器、Y-山茶碗、T-その他の陶磁器、
D-土製品、S-石器・石製品、I-金属製品

第3節 遺物の概要

1 概要

今回の調査では、縄文土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類、土製品、石器・石製品、金属製品が出土した。出土点数は表4のとおりである。本報告書では、これらの遺物のうち、構造の性格や時期などを検討する上で必要なものや、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

表4 出土遺物一覧表

大別	種別	時期	接合前 破片数 (点)	接合後 破片数 (点)	接合後 破片数 割合	重量 (g)	重量 割合
土器類	縄文土器	早前期	3,201	2,795	48.49%	30,404	62.80%
		中期	572	481	8.34%	7,061	14.58%
		後期	39	31	0.54%	655	1.35%
		不明	2,364	2,336	40.53%	8,132	16.80%
	縄文土器小計		6,176	5,643	97.90%	46,251	95.53%
	土師器		24	24	0.42%	118	0.24%
	須恵器		9	5	0.09%	389	0.80%
	灰釉陶器		3	3	0.05%	47	0.10%
	山茶碗		11	9	0.16%	276	0.57%
	中近世陶磁器		80	80	1.39%	1,334	2.76%
	小計		6,303	5,764	100.00%	48,415	100.00%
	土製品		2	2	—	38	—
	石器類		306	305	—	1,423	—
	金属製品		1	1	—	7	—
	合計		6,612	6,072	—	—	—

(1) 土器類

種別ごとの点数は表4のとおりである。年代観や器種分類は基本的に既存の研究に従った¹⁾。

縄文土器が中心で、接合後破片数5,643点が出土し、出土した土器類の約98%を占める。早期から後期のものがあり、それらのうち早期のものが多い。破片資料多いため、基本的に口縁部や頸胴部に施された文様や調整に着目して分類を行った。ただし、底部は時期が限定できないもの多いため、形態を基に分類した。

① 口縁部から頸胴部の分類

S群 縄文時代早期の土器である。東海系²⁾を1類・2類、西日本系³⁾を3類・4類、東日本系⁴⁾を5類、不明なものを6類⁵⁾に分類した。

1類 器厚は薄く、胎土に纖維が混入するものや器面に条痕調整を施すものが多い。東海条痕文系土器に相当する。

1a類 口縁部外面に刺突を施す。口唇部に盃状突起や盃状突起が退化した面をもつものもある。粕畠式に相当する。

1b類 口唇部や口縁部外面に貼付した隆帯上に交互押捺を施す。隆帯は確認できるものとできないものがある。上ノ山式に相当する。

14 第3章 調査の成果

- 1 c 類 口縁部外面に複数の隆帯を貼付し、その上に連続して刺突を施す。隆帯の断面形は台形に近く高めで、入海 I 類に相当する。
- 1 d 類 口縁部外面に複数の隆帯を貼付し、その上に連続して刺突を施す。隆帯は 1 c 類の隆帯が低く潰れたようなもので、断面形は上側が高く下側が潰れた、三角形となる。入海 II 式に相当する。
- 1 e 類 口縁部外面に刺突を密に施す。石山式に相当する。
- 1 f 類 口縁部外面に櫛状工具・篦状工具・貝殻腹縁を用いて波線・連弧線・ジグザグ線を施す。天神山式に相当する。
- 2 類 器厚は薄く、胎土に繊維を含まず、内面には明瞭に指頭圧痕が認められる。口縁部外面に粘土紐を貼付し、その上に刺突を施すものと、無文のものがある。木島様式第1期に相当する。
- 3 類 器厚は薄く、胎土にわずかに繊維が混入する。器面に条痕調整を施すものと条痕調整を施した後にナデ消すものがある。外面に押引き沈線文を施す。栗津 S Z 1 群に類する。
- 4 類 器厚は薄く、胎土に繊維は含まれない。外面に条痕を施す。口縁部外面に凸帯を貼付し、その上に幅の狭い竹管状工具で連続して刺突を施す。口唇部付近には円形刺突を横位に連続して施す。文様が縄文条痕文系 III b・III c 期に類する。
- 5 類 器厚は厚いものと薄いものがあり、胎土に繊維は含まず、口縁部及び胴部の内外面にナデを施す。口縁部に隆帯を横位に貼付するものや、波状口縁の波頂部から垂下する短隆帯を貼付するものがある。隆帯上を刺突するものとしないものがある。神ノ木台式に類する。
- 6 類 器厚は薄く、器面に条痕調整を施すものと条痕調整を施した後にナデ消すものがある。前述した要素を持ち、口唇部のみに連続して刺突を施すものはここに含めた。
- Z 群 縄文時代前期の土器である。東海系⁶⁾を 1 類・2 類、西日本系⁷⁾を 3 類から 6 類、東日本系⁸⁾を 7 類から 10 類、不明なものを 11 類⁹⁾に分類した。
- 1 類 器厚は薄く、胎土に繊維を含まず、口縁部及び胴部の内面に明瞭な指頭圧痕が認められるもので、S 2 類と共通する特徴をもつ。口縁部外面に貝殻・櫛齒状工具等で圧痕や条痕・条線を施す。木島様式第2期から第4期に相当する。
- 1 a 類 口縁部外面に粘土紐を貼付し、その上に貝殻条痕を施すもの。木島様式第2期に相当する。
- 1 b 類 口縁部外面に粘土紐を貼付し、その上に櫛齒状工具で条線を施すもの。木島様式第3期に相当する。
- 1 c 類 外面に櫛齒状工具で条線を施すもの。木島様式第4期に相当する。
- 2 類 器厚は薄く、口縁部外面に連続して E 字形刺突を帶状に数条施すものや、爪形文列を縦位に数条施すもの。清水ノ上 II 式に相当する。
- 3 類 器厚は薄く、器面に条痕調整を施す。口縁部や胴部外面に 2 連規則の D 字形連続刺突を横位・帯状・多段に施す。羽島下層 II 式並行に相当する。
- 4 類 器厚は薄く、器面に条痕調整を施す。口縁部や胴部外面に D 字形刺突を横位・帶状・多段に施す。北白川下層 I a 式並行に相当する。
- 5 類 器厚は薄く、口縁部及び頸胴部外面に凸帯を貼付する。凸帯上は素文のものと刺突を施すものがある。北白川下層 II c 式並行に相当する。

- 6類 器厚は薄く、口縁部及び頸胴部外面に凸帯を貼付し、その上に凸帯よりも幅の狭い竹管状工具で平行沈線若しくは押し引きを施す。北白川III式新段階並行から大歳山式並行の特殊凸帯文系土器に相当する。
- 7類 器厚は厚めで、器面に条痕調整を施す。口縁部外面に低隆帯を貼付し、口縁部や隆帶上に貝殻腹縁による刺突や貝殻背圧痕を施す。下吉井式に類する。
- 8類 器厚は薄く口縁部と胴部の境に横位の摘みを施し、口縁部外面に格子状沈線を施す。中越様式第4期に相当する。
- 9類 器厚は厚めである。地文に縄文を施し、竹管状工具で押し引きによる平行沈線を施す。口縁部外面に平行沈線を縦位に施し、それに連結するように横位に直線若しくは弧状の平行沈線を施す。諸磣a式に類する。
- 10類 器面は厚く、口縁部外面に鋸歯状印刻文を施す。十三菩提式に類する。
- 11類 器面が薄く外面にナデ、内面には指頭圧痕が認められる。また、前述した要素を持ち、口唇部のみに連続して刺突を施すものもここに含めた。
- C群 縄文時代中期の土器である。東海系¹⁰⁾を1類・2類、西日本系¹¹⁾を3類・4類に分類した。
- 1類 口縁部外面に連続爪形文を施す数条の隆帯を巡らす。北裏C式から北屋敷II式に相当する。
- 2類 キャリバー形で、口縁部外面に沈線や隆帯による施文を施す。中富式・神明式に類する。
- 3類 縄文や撚糸文を地文とし、基本的に竹管状工具や棒状工具で施文する。船元式・里木II式に相当する。
- 3 a類 口縁部及び頸胴部外面に、幅広のC字爪形文帯や円形刺突列を施す。船元I式からII式に相当する。
- 3 b類 口縁部及び頸胴部外面の地文は縄文で、平行沈線で弧文等を施す。船元III式に相当する。
- 3 c類 口縁部及び頸胴部外面の地文は、深い条と浅い条が1条おきに表れる、いわゆる深浅縄文が撚糸文で、平行沈線で細密波状文や連弧文等を施す。里木II式に相当する。
- 4類 口縁部及び頸胴部外面の地文は縄文で、棒状工具により1本ずつの沈線で波線や区画文を施す。北白川C式に類する。
- K群 縄文時代後期の土器である¹²⁾。
- 1類 口縁部外面に凹線や巻貝扇状圧痕文を施す。凹線内の明確な磨き込みは認められない。宮滝式に相当する。
- (2) 底部の分類
- 1類 尖底のもの。早期から前期のものと考えられる。
- 2類 平底のもの。形態から細分する。
- 2 a類 底部外面からみて円形で、径2cmほどのきわめて小形なもの。早期のものと考えられる。
- 2 b類 底部外面からみて円形で、径8cmほどのもの。前期から中期のものと考えられる。
- 2 c類 端部側面から押圧や刺突を施し、底部外面からみて多角形や齒車形となるもの。前期のものと考えられる。
- 3類 上底のもの。前期から中期のものと考える。
- また、古代の須恵器や灰釉陶器、中世の土師器皿や山茶碗・古瀬戸・大窯・貿易陶磁器といった陶

磁器、近世の瀬戸・美濃産陶磁器など古代以降の遺物もわずかに確認できる。

(2) 土製品

土器片を打ち欠いて円形に加工した土製円盤が2点出土した。

(3) 石器・石製品

出土した石器は表5のとおりである。遺構から出土したものを中心図示した。

打製石鏃

平面形を概ね三角形に成形した小型の石器。基部の形態によって4分類し、さらに数の多い1類を基部の抉りの形態からa～eに細分した(図8)。

- 1 a類 基部の抉りが丸く浅い(0.3cm未満)もの。
- 1 b類 基部の抉りが丸くやや深い(0.3cm以上)もの。
- 1 c類 基部の抉りが「く」字状の浅い(0.3cm未満)もの。
- 1 d類 基部の抉りが「く」字状の深い(0.3cm以上)もの。
- 2類 基部に抉りがなく、直線的なもの。
- 3類 別離が粗いことから、石鏃未成品と思われるもの。
- 基部を欠損しており分類できないもの。



図8 打製石鏃分類模式図

石錐

鋭利で細い先端部を作り出した石器。

石匙

素材剥片の一部に、つまみを作出し、縁辺部に連続した剥離を施して、刃部を作り出した石器。

スクレイパー

素材剥片の縁辺部に連続した剥離を施して、刃部を作り出した石器。

調整剥離を施す剥片(RF)

素材剥片に二次加工を施すが、どの器種の製作を意図したのか不明なもの。

微細な剥離痕を有する剥片(MF)

素材剥片の縁辺部に微細な剥離痕が確認できるもの。

打欠石錐

小型の自然縛の両端を打ち欠いて、紐状のものを掛けるための抉りを作り出した石器。

切目石錐

小型の自然縛の両端を掠って、紐状のものを掛けるための抉りを作り出した石器。

表5 石器類石材別一覧表

出土点数 器種内石材比率%	石鏡	石錐	石匙	スクレ イノバ---	RF	MF	打欠 石錐	切目 石錐	装身具	砥石	剥片類	合計点数
												石材比率
黒曜石											1	1
											0.3	0.3
下呂石						1					1	2
						0.3					0.3	0.6
サヌカイト	1	1	1	1	1					6	10	
	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3					2.1	3.3	
凝灰岩										2		2
										0.7		0.7
チャート	29	6	1	3	51	17				151	258	
	9.5	2.0	0.3	1.0	16.7	5.6				49.5	84.6	
泥岩				1	1			2		2	3	9
				0.3	0.3			0.7		0.7	1.0	3.0
砂岩							3			1		4
							1.0			0.3		1.3
水晶	1				5					12	18	
	0.3				1.7					4.0	6.0	
瑪瑙									1			1
									0.3			0.3
点数合計	31	6	2	4	58	19	3	2	1	5	174	305
製品の割合 (%)	23.6	4.6	1.5	3.1	44.3	14.5	2.3	1.5	0.8	3.8	-	100

装身具

瑪瑙製の块状耳飾が1点出土した。

砥石

表面に磨痕や擦痕が明瞭に残り、砥面が確認できる石器。

剥片類

剥離作業によって生じた剥片や碎片などをまとめて剥片類とした。二次加工や微細な剥離痕が確認できなかつたものである。

(4) 金属製品

鉄製の角釘が1点出土した。

2 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、種別ごとに作成し、掲載番号順に記載した。なお、種別により一覧表の項目は一部異なる。

出土位置 複数の地区（グリッド）や遺構から出土した遺物が接合した場合は、すべての出土位置を表記した。項目ごとの内容は以下のとおりである。表土と遺物包含層から出土した場合、基本層序名（I・II）を表記した。また、遺構出土の場合、人工層位又は遺構層位を表記した。なお、複数の土層から出土した遺物が接合した場合は、すべての層位を表記した。

法量 () は復元長を示す。

口縁部残存率 X/12のXにあたる数値を記載した¹³⁾。

胎土 肉眼観察により、粗密や含有物を判断し、記載した。

焼成 肉眼観察により、良好か不良かを記載した。

色調 『新版標準土色帳』¹⁴⁾に基づき肉眼観察で判断し、記載した。

器面調整 摩滅等により不明な場合は「-」と記載した。

文様・その他 摩滅等により不明な場合や何も認められない場合は「-」と記載した。

重量 小数点第1位まで表示した。

石材 肉眼観察により判断し、記載した。

注

- 1) 出土遺物の年代類や器種分類は、以下の文献を参考としたが、調文土器については群ごとの注で対象となる参考文献を示した。調文土器は鈴木康二氏（公益財團法人滋賀県文化財保護協会）、古代・中世陶器は藤澤良祐氏（愛知学院大学）、中野晴久氏（愛知学院大学）から、それぞれ指導をいただいた。ただし、文責は筆者にある。

愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 畜業2 中世・近世 潰戸系』、愛知県

愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史 別編 古代 猿投系』、愛知県

愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史 別編 畜業3 中世・近世 常滑系』、愛知県

赤塙仁 2008『十三菩提式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

泉拓良 2008『鷹島式・船元式・里木II式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

岡田憲一 2008a『繩文条痕文系土器(西日本)』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

岡田憲一 2008b『回線文系土器(宮窓式・元住吉山II式土器)』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

小野木学 1997『美濃地方における中世前期の土師器皿の様相』『美濃の考古学』第2号、美濃の考古学刊行会

金子直行 2008『条痕文系土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

顛細茂・高橋健太郎 2008『中富式・神明式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

瀧谷昌彦 2008『塩屋式・木島式・中越式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

滋賀県教育委員会・財团法人滋賀県文化財保護協会 1984『栗津貝塚湖底遺跡』

関根慎二 2008『諸磯式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

鈴木康二 2008a『北白川下層式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

鈴木康二 2008b『特殊凸帯文系土器(北白川III式・大歳山式土器)』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

鈴木康二 2008c『琵琶湖周辺における入海式の様相 ～石山貝殻を中心～』『入海式をめぐる諸問題』東海調文研究会

第5回研究会(愛知2)、東海調文研究会

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV-1陶磁器分類編一』(太宰府市の文化財第49集)

富井眞 2008『北白川C式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

藤澤良祐 1994『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター

藤澤良祐 2015『付編 中世常滑窯編年』(再検討-5型式期以降を中心に-)『上界2号窯跡第9次発掘調査概要報告書』

(愛知学院大学考古学発掘調査報告20)、愛知学院大学文学部歴史学科

増子康眞 2008『北裏C～北尾敷II式土器』『絶覧繩文土器』、株式会社アム・プロモーション

山下勝年 2008 a 「東海条痕文系土器」『絶賛縄文土器』、株式会社アム・プロモーション

山下勝年 2008 b 「清水ノ上II式・上の坊式土器」『絶賛縄文土器』、株式会社アム・プロモーション

山梨県埋蔵文化財センター1996「第3節 縄文時代早期末～前期初頭の土器について」『中漢遺跡 指久保遺跡』（山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 115）

- 2) S 1類は鈴木 2008 c、山下 2008 a、S 2類は瀧谷 2008 に従った。
- 3) S 3類は滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会 1984、S 4類は岡田 2008 a に従った。
- 4) S 5類は金子 2008 に従った。
- 5) S 6類は前期前半のものを含む可能性があるが、多くは早期のものと考えるため、S群に含めた。
- 6) Z 1類は瀧谷 2008、Z 2類は山下 2008 b に従った。
- 7) Z 3類から 5類は鈴木 2008 a、Z 6類は鈴木 2008 b に従った。
- 8) Z 7類は金子 2008、山梨県埋蔵文化財センター1996、Z 8類は瀧谷 2008、Z 9類は開根 2008、Z 10類は赤塩 2008 に従った。
- 9) Z 11類は早期後葉のものを含む可能性があるが、多くは前期のものと考えるため、Z群に含めた。
- 10) C 1類は増子 2008、C 2類は細嶋・高橋 2008 に従った。
- 11) C 3類は泉 2008 に従った。C 4類は富井 2008 に従った。
- 12) K 1類は岡田 2008 b に従った。
- 13) 口縁部残存率の計測は以下の文献を参考とし、12分の 1 未満の破片は12分の 1 に切り上げ、12分の 1 以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。
宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館
- 14) 小山正忠、竹原秀雄2015『新版標準土色帖』、日本色研事業株式会社

第4節 繩文時代の遺構・遺物

1 壺穴建物

SI 1 (図9~11)

検出状況 D・E 8~9グリッド、III層上面で検出した。埋土が基盤層と類似していたため、平面形は不明瞭であった。北側でSB 2-P 4、西側でSK145、東側でSP28・SK153、遺構埋土上面でSB 1-P 6・SK146・SK147・SK148・SK149・SK150・SK151・SK152と重複する。SK374は本遺構の遺構埋土層中で検出しており、本遺構の埋没途中の掘り込みと考えられる。本遺構はSB 1-P 6・SB 2-P 4・SP28・SK145~SK152・SK374より古く、SK153より新しい。

規模・形状 本遺構の南側は発掘区外に広がっており、全体の規模や形状は不明である。残存部分の長軸は4.31m、短軸は2.76m、長軸方位はN-80°-Wである。検出した範囲においては、直線的な3辺が確認でき、北辺に対し西辺と東辺がほぼ直行することや、北西隅と北東隅が丸みを帯びることから、平面形は隅丸方形若しくは隅丸長方形の可能性がある。壁面は緩やかに外方へ開く。

埋土 4層に分層した。いずれも遺構の底面から検出面にかけて堆積する。遺構の中央付近に1層、壁際付近に2層~4層が認められる。堆積状況から壁際付近が埋まった後に、中央付近が埋没したと考える。1層~4層は、いずれも埋土中央にブロック土や礫を含む。ただし、埋土層中でSK374を検出したことから、本遺構は掘方の途中まで埋没して窪地状になっていた期間が存在した可能性がある。

床面 ほぼ平滑である。整地土や貼床、硬化面は確認できなかった。床面で検出した遺構は、柱穴2基と炉1基、土坑12基である。P 1・P 2は、いずれも掘方内の隅部付近に認められることから、柱穴と考えた。ともに平面形を明瞭に確認できた。埋土はいずれも单層で、柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。また、東西辺の中央付近で炉を確認した。R-R'・S-S'の2層は3層が被熱したもので、地床炉と考えられる。

遺物出土状況 壺穴の埋土から縄文土器297点・石器11点が、それぞれ散在して出土した。また、床面で検出した遺構からは縄文土器9点・石器4点が、散在して出土した。

出土遺物 壺穴の埋土から出土した縄文土器11点(1~9・11・12)・土製品1点(13)・石器2点(14・15)、P 2から出土した縄文土器1点(10)を図示した。1はS 3類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に浅い押引き沈線文を横位に2条施す。2~5はS 6類である。2は胴部で、3~5は口縁部である。3は波状口縁、4・5は平口縁で、4・5の口唇部には連続した刺突を施す。2・4は内外面、3・5は外面に条痕を施す。5には補修孔と想定される焼成後の穿孔が認められる。6はZ 8類である。平口縁で、口縁部と胴部外面の境に、横位の摘みが認められる。7はC 1類である。平口縁で、口縁端部外面に円形刺突列を横位に1条施す。口縁部外面に連続爪型文を施す隆帶を横位に1条貼付する。内面には縄文(R L)を縦位に施す。8~11はC 3 c類である。8は波状口縁である。地文が深浅縄文であることから、この類型に含めた。口縁部外面に円形刺突列を2条施し、1条目は斜位、2条目は水平である。9・10は胴部である。いずれも地文は深浅縄文で、平行沈線により弧線を施す。11は口縁部から頸胴部である。平口縁で、頸部は丸みを帯びて窄まる。地文は撚糸文で、平行沈線で文様を施す。口縁端部外面には細密波状文を横位に1条施し、その下に連弧文を横位に3条施す。3条の連弧文を区切るような縦長の楕円形の文様が確認でき、中心文様と

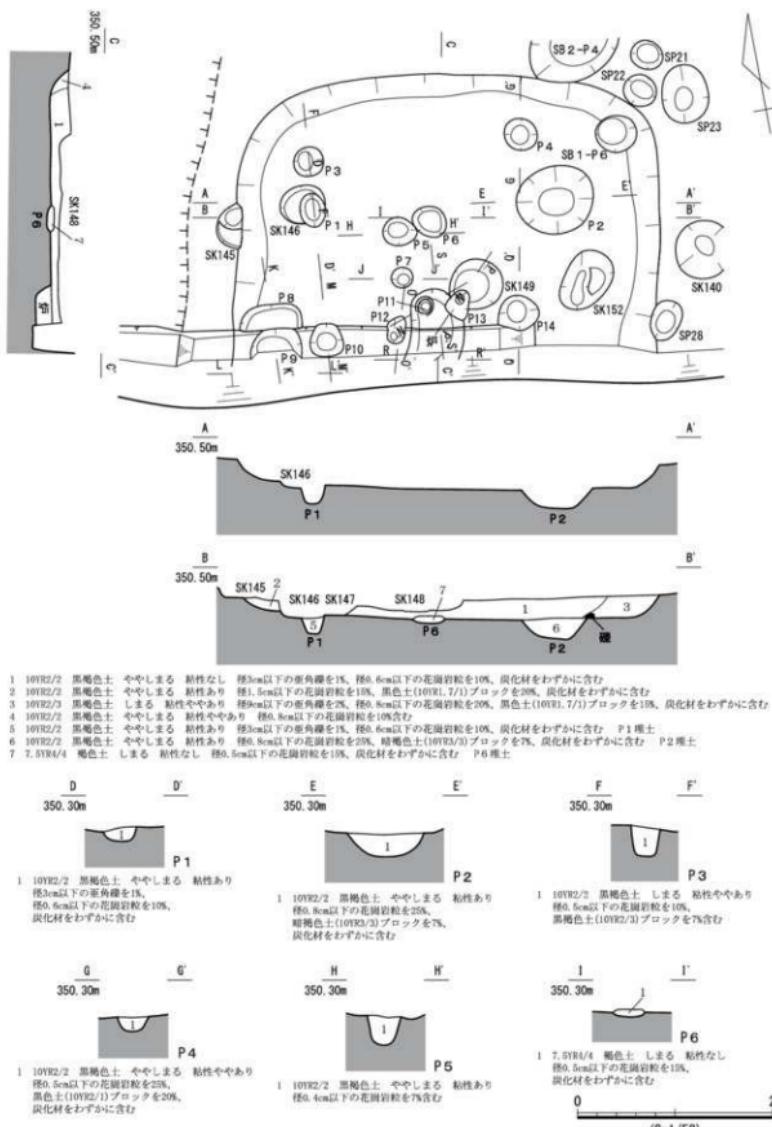


圖9 SI 1遺憾圖(1)

22 第3章 調査の成果

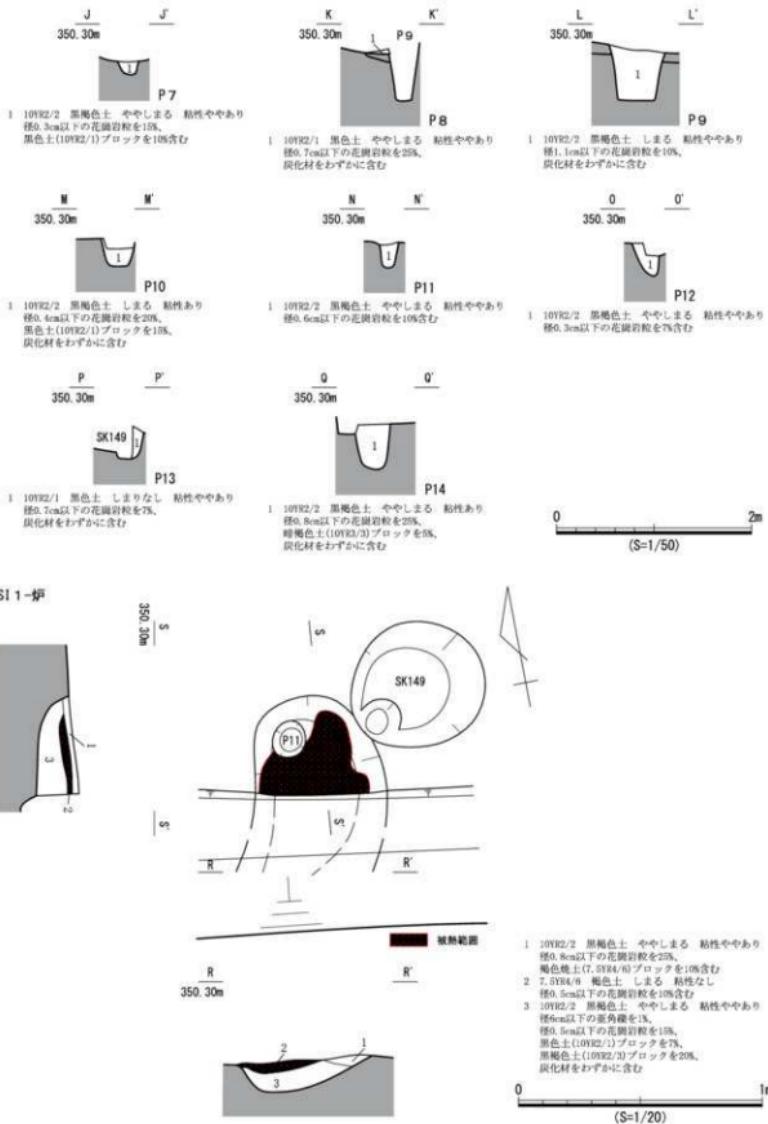


図 10 SI 1 遺構図 (2)

考えられる。頸部付近には細密波状文を横位に2条施し、その間は無文帯となる。欠損により詳細は不明だが、胴部には部分的に弧線が認められ、口縁部と同様に連弧となっていた可能性がある。12は2c類の底部で、端部側面から押圧若しくは刺突した痕跡がある。底部外面に網文(LR)を施す。13は土製円盤で深浅網文が認められる。14は1a類の石鏃である。先端部は欠損する。15は切目石鏃で片側の切目は欠損する。

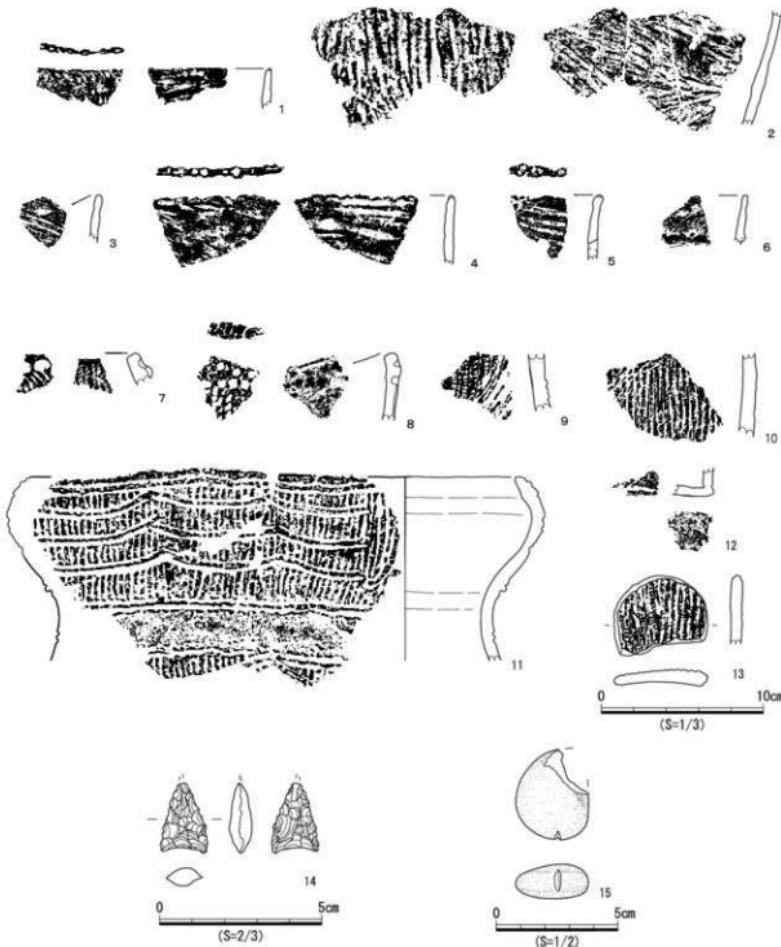


図11 SI 1出土遺物実測図

時期 出土した縄文土器は、早前期が111点・中期が69点・時期不明が126点であった。早前期のものが多いが、細片が多く埋没時に混入したと考えられる。遺物の出土状況から機能時の時期の検討は困難であるが、本遺構よりも新しいSK145からK 1類の土器が出土したことや、埋土から出土した土器の最新型式から、本遺構は中期後半以前のものと考える。

2 単独柱穴

SP 1 (図12)

検出状況 B 6 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK62より新しい。

規模・形状 長軸長0.42m、短軸長0.40m、深さ0.61mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器11点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 11類の縄文土器1点(16)を図示した。平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、縄文時代前期前半以降のものと考える。

SP 4 (図12)

検出状況 C 7 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK42より古い。攢乱により南東側の上部が削平される。

規模・形状 長軸長0.59m、短軸長0.57m以上、深さ0.72mで、平面形は不整円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 1 b類の縄文土器1点(17)を図示した。文様が確認できることから、口縁部付近と考える。外面に粘土紐を横位に2条貼付し、その上に条線を施す。粘土紐は1条目が水平で2条目が波状となる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期前半と考える。

SP 5 (図12)

検出状況 C 7 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.39m、深さ0.66mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器1点・石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 1 a類の石鏃1点(18)を図示した。先端部と脚部が欠損する。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代と考える。

SP 7 (図12)

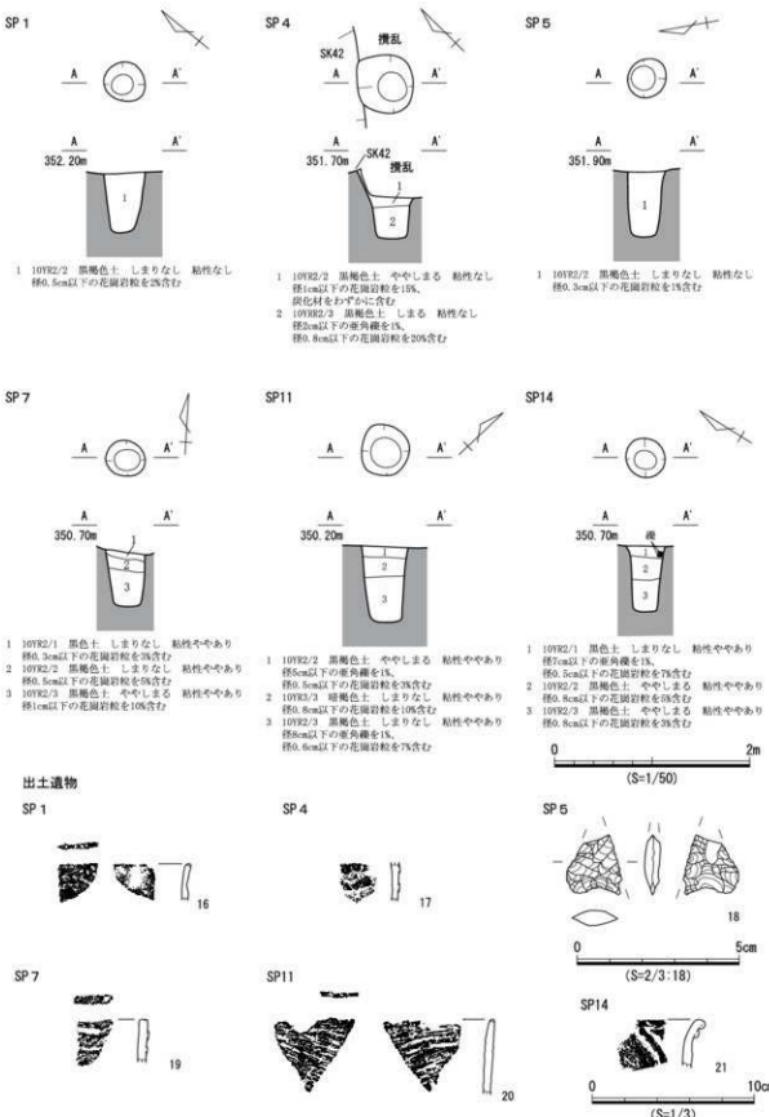
検出状況 B 9 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.36m、深さ0.66mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも概ね水平堆積で、堆積状況は不明である。早期の縄文土器8点・石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 d類の縄文土器1点(19)を図示した。平口縁で、口縁部外面に隆帯を横位に2条貼付する。口唇部と隆帯上に貝殻腹縁による連続した刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉と考える。



SP11（図12）

検出状況 C10グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.52m、短軸長0.49m、深さ0.80mで、平面形は不整円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 S 6類の縄文土器1点（20）を図示した。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期と考える。

SP14（図12）

検出状況 C 9グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.40m、深さ0.67mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器5点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 6類の縄文土器1点（21）を図示した。平口縁で、口縁部外面に緩い弧状の凸帯を斜位に1条貼付する。凸帯上に明確な刺突は確認できず、在地化したもの可能性がある。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期後葉と考える。

SP16（図13）

検出状況 D10グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK136よりも新しい。

規模・形状 長軸長0.55m、短軸長0.47m、深さ0.70mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積である。1層は礫、3層はブロック土を埋土の中央付近に含むことから、人為堆積の可能性がある。縄文土器14点が、散在して出土した。

出土遺物 C 3c類の縄文土器1点（22）を図示した。胴部である。地文は撚糸文で平行沈線による連弧文を横位に3条施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代中期後半と考える。

SP17（図13）

検出状況 D10グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK138よりも新しい。

規模・形状 長軸長0.60m、短軸長0.56m、深さ0.80mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積である。1層や2層はブロック土、3層は礫を埋土の中央付近に含むことから、人為堆積の可能性がある。縄文土器5点が、散在して出土した。

出土遺物 S 4類の縄文土器1点（23）を図示した。当遺跡ではS 4類はこの1点のみ確認した。平口縁である。口縁端部外面に円形刺突列を横位に1条施す。口縁部外面に凸帯を横位に2条貼付し、その上に幅の狭い竹管状工具で連続した刺突を施す。口縁部外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代中期後半と考える。

SP19（図13）

検出状況 D10グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.42m、短軸長0.32m、深さ0.59mで、平面形は楕円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器6点が、散在して出土した。

出土遺物 S2類の縄文土器1点(24)を図示した。平口縁で、口縁部外面に無文の粘土紐を横位に1条貼付する。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期と考える。

SP23(図14)

検出状況 D9グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.59m、短軸長0.48m、深さ0.71mで、平面形は楕円形、断面形は台形である。

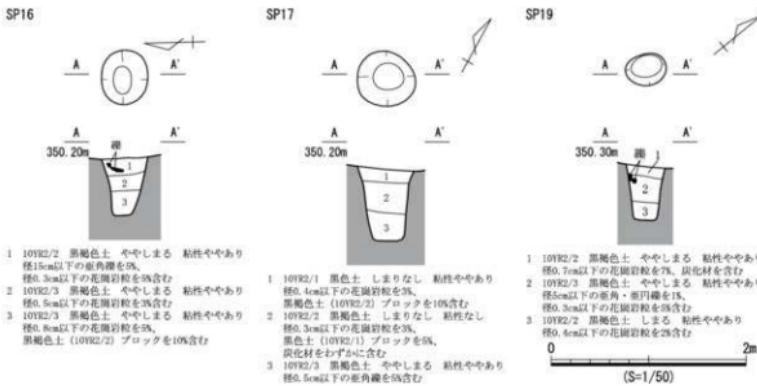
埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器15点が、散在して出土した。

出土遺物 S6類の縄文土器1点(25)を図示した。平口縁で、口唇部に連続して刺突を施す。口縁部外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期と考える。

SP24(図14)

検出状況 D9グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。



出土遺物

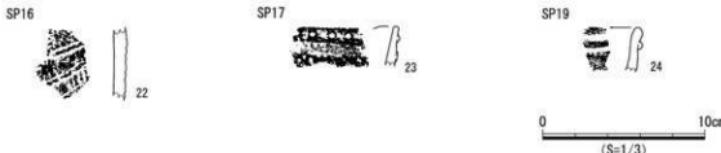


図13 SP16・SP17・SP19 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 長軸長0.45m、短軸長0.40m、深さ0.83mで、平面形は不整円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも概ね水平堆積である。1層はブロック土、2層は礫を埋土の中央付近に含むことから、人為堆積の可能性がある。縄文土器38点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器2点(26、27)を図示した。26はZ2類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に爪形文列を縱位に3条施す。27はZ3類である。胴部外面に2連規制のD字形連続刺突を横位・帶状に7段施す。胴部内外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期前半と考える。

SP28(図14)

検出状況 E9グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SI1、SK153よりも新しい。

規模・形状 長軸長0.43m、短軸長0.31m、深さ0.67mで、平面形は橢円形、断面形は台形である。

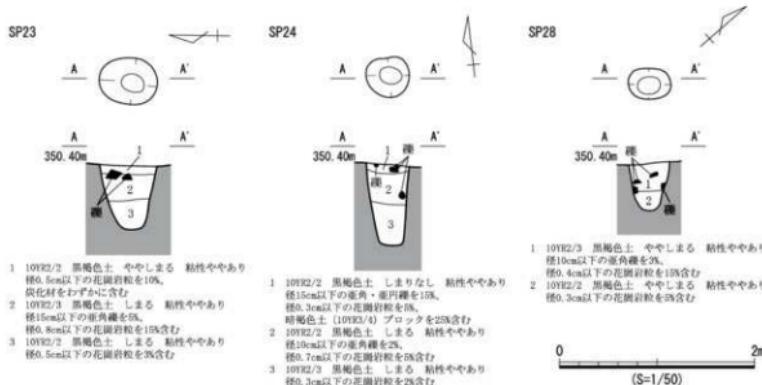


図14 SP23・SP24・SP28遺構図・出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。いずれも概ね水平堆積である。礫を埋土の中央付近に含むことから、人為堆積の可能性がある。繩文土器4点が、散在して出土した。

出土遺物 Z11類の繩文土器1点(28)を図示した。波状口縁で、口唇部に連続して刺突を施す。内外面にナデを施し、内面にはナデと指頭圧痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSI1より新しいため、繩文時代中期後半以降のものと考える。

3 土坑

SK23(図15)

検出状況 C5～6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK20～SK22より古く、SK62より新しい。

規模・形状 長軸長1.96m、短軸長1.83m、深さ0.40mで、平面形は隅丸方形、断面形は台形である。

埋土 4層に分層した。いずれも水平に堆積し、2層は南西部に部分的に認められた。2層は礫、4層は土器が多く含むため、人為堆積の可能性がある。繩文土器82点・石器7点が、散在して出土した。

出土遺物 繩文土器3点(29～31)・石器2点(32・33)を図示した。29はS1b類である。波状口縁で、波頂部は欠損する。口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外側に波状の隆帯を横位に1条貼付し、その上に交互押捺を施す。30はS1c類である。波状口縁で、波頂部は欠損する。口唇部に連続した刺突を施す。口縁端部外側に連続した刺突を1条施し、その下側には隆帯を横位に3条貼付する。隆帯は1条目と3条目が水平、2条目は波状となり、それぞれの隆帶上にも連続した刺突を施す。31はS6類である。口縁部から胴部である。波状口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部と胴部の内外面に条痕が認められる。32・33は石鎌で、いずれも1b類である。32は脚部を欠損する。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、繩文時代中期前半以降のものと考える。

SK24(図16)

検出状況 C6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK62より新しい。

規模・形状 長軸長0.72m、短軸長0.68m、深さ0.31mで、平面形は円形、断面形は隅丸方形である。東部に三日月形のテラスを有する。

埋土 単層で、礫や土器を多く含むため、人為堆積の可能性がある。繩文土器89点・石器2点が、散在して出土した。

出土遺物 S1c類の繩文土器3点(34～36)を図示した。34～36は胎土や文様・調整が類似しており、同一個体の可能性が高いため、以下一括して記載する。いずれも口縁部から胴部である。波状口縁で35では波頂部、36では波底部が残存する。口縁端部内外面には連続した刺突を1条ずつ施す。口縁部外側に波状の隆帯を横位に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。3条目の隆帯より下側には連続した羽状の刺突を横位1条施す。口縁部と胴部の内外面に条痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、繩文時代中期前半以降のものと考える。

SK27(図17)

検出状況 C6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK62より新しい。

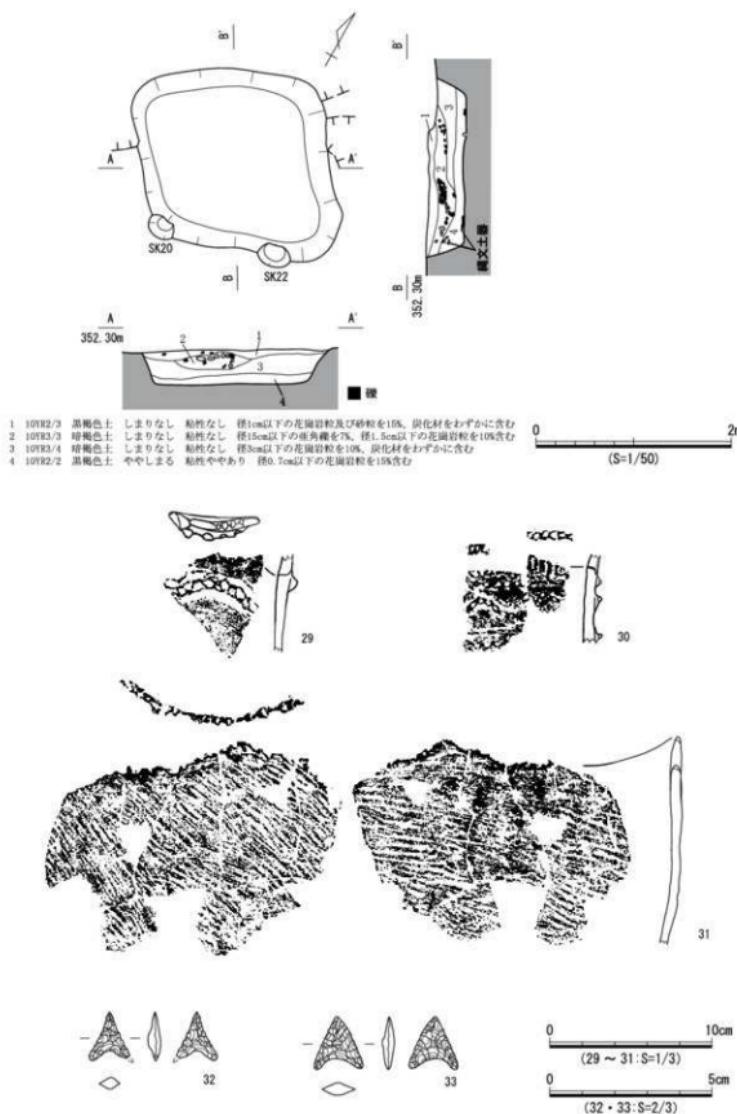


図 15 SK23 遺構図・出土遺物実測図



図16 SK24 遺構図・出土遺物実測図

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.46m、深さ0.41mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも西側に壅む堆積である。1層と2層は、ブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器1点が出土した。

出土遺物 Z1 b類の縄文土器(37)を図示した。平口縁で、口唇部に刺突を施す。口縁部外面に粘土紐を水平に2条貼付し、その上から条線を施す。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、縄文時代中期前半以降のものと考える。

SK28(図17)

検出状況 B・C6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK29・SK30・SK62より新しい。

規模・形状 長軸長0.96m、短軸長0.86m、深さ0.07mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器2点が出土した。

出土遺物 S2類の縄文土器(38)を図示した。文様が確認できることから、口縁部付近と考える。外面に粘土紐を水平に1条貼付し、その上に連続した押捺を施す。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、縄文時代中期前半以降のものと考える。

SK33(図18)

検出状況 B・C6～7グリッド、I層基底面で検出したが、北部は発掘区外に続く。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK29・SK32より古く、SK34・SK62より新しい。

規模・形状 長軸長3.67m、短軸長2.85m以上、深さ1.46mで、平面形は不明、断面形は概ね台形だが、底部はやや丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。堆積状況は不明である。縄文土器199点・石器2点が散在して出土した。

出土遺物 縄文土器13点(39～51)を図示した。39～41はS1 b類である。39は平口縁で、口唇部に交互押捺を施す。補修孔と想定される焼成後の穿孔が認められる。40は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。隆帯より下側に連続した羽状の刺突を横

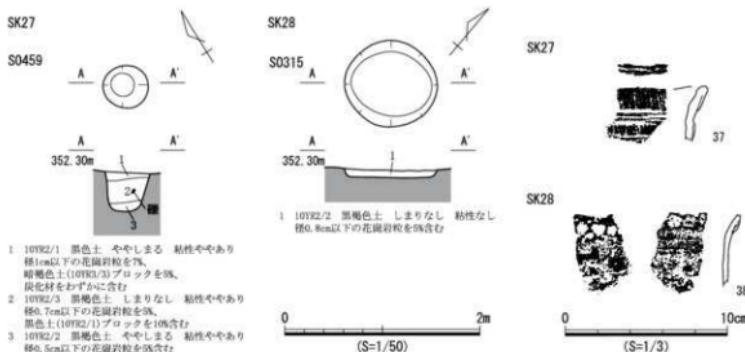


図17 SK27・SK28 遺構図・出土遺物実測図

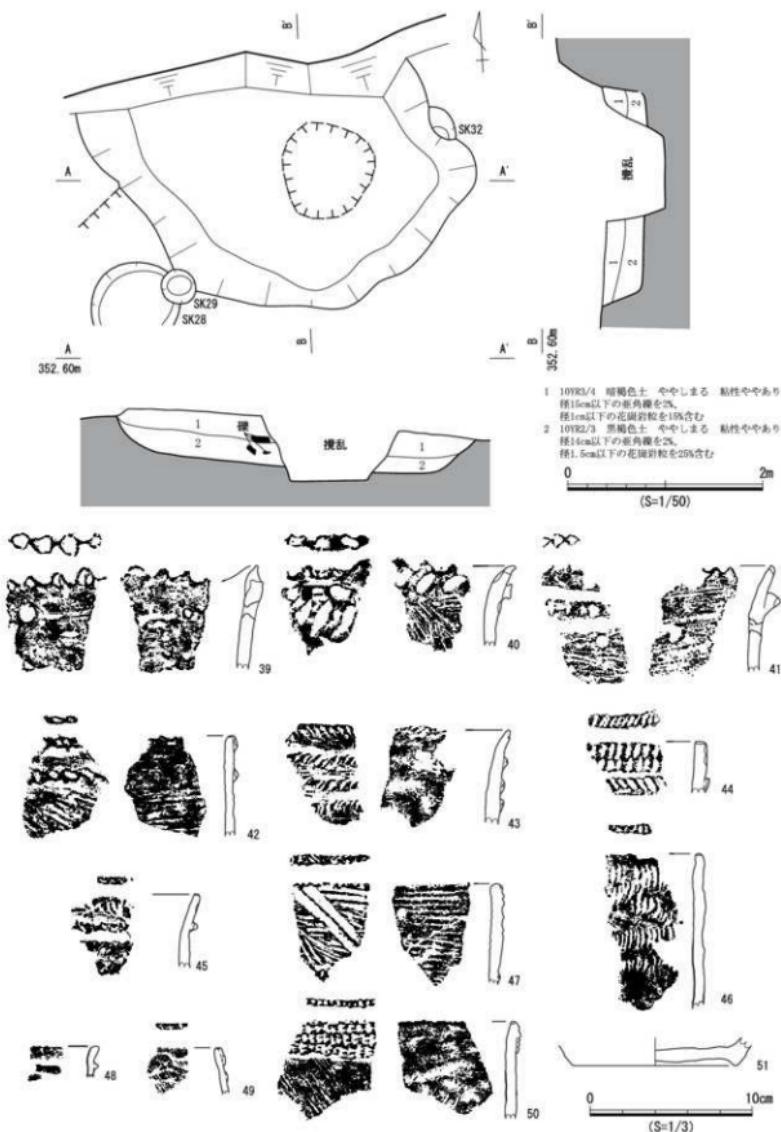


図 18 SK33 造構図・出土遺物実測図

位に1条施す。口縁部内面に条痕が認められる。41は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。補修孔と想定される焼成後の穿孔が認められる。42はS1c類である。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付する。口唇部と隆帯上に連続した刺突を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。43～45はS1d類である。43は平口縁で口縁端部内外面に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を水平に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。44は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面には連続した刺突を2条施す。刺突より下側には隆帯を水平に1条貼付し、その上にも連続した刺突を施す。45は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部・口縁部外面・隆帯上に連続して刺突を施す。46はS1e類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を斜位に5条施す。47はS1f類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に平行沈線を斜位に施す。口縁部内外面に条痕が認められる。48はS5類である。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。49はZ1b類である。口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に粘土紐を横位に3条貼付し、その上に条線を施す。粘土紐は1条目と3条目が水平、2条目が波状となる。50はZ2類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部内外面には条痕をナデ消した痕跡が認められる。口縁部外面に幅約2cmの粘土紐を水平に1条貼付し、その上に連続したE字形刺突を横位に3条施す。51は3類の底部である。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、縄文時代中期前半以降のものと考える。

SK40(図19)

検出状況 C6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK42・SK62より新しい。

規模・形状 径0.22m、深さ0.10mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。中央が窪む堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器1点が出土した。

出土遺物 S5類の縄文土器(52)を図示した。平口縁で、口縁部外面に水平な隆帯を2条貼付する。口縁部内面には輪積痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK62より新しいため、縄文時代中期前半以降のものと考える。

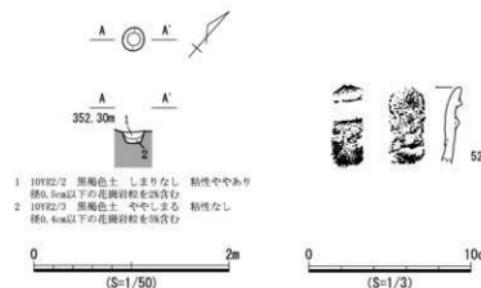


図 19 SK40 遺構図・出土遺物実測図

SK42(図20・21)

検出状況 C・D 6～7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から SA 2-P4・SP 3・SK35～SK41より古く、SP 4・SK46・SK47・SK50・SK60・SK62より新しい。南西部は擾乱により消失する。

規模・形状 長軸長4.69m、短軸長2.92m、深さ0.85mで、平面形は不整梢円形、断面形は半円形である。西側にテラスを有する。

埋土 3層に分層した。いずれも概ね水平堆積だが、層界には凹凸がみられる。堆積状況は不明である。縄文土器493点・石器44点が散在して出土した。

出土遺物 縄文土器13点(53～65)・石器8点(66～73)を図示した。53はS 1 b類である。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互刺突を施す。54はS 1 c類で、波状口縁である。口縁部外面に波状の隆帯を横位に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。55・56はS 1 d類である。55は波状口縁で、波頂部付近では口唇部に連続した刺突を施す。口縁端部内部に1条、口縁端部外面に2条連続した刺突を横位に施す。口縁部外面には隆帯を横位に4条貼付し、その上に連続した刺突を施す。隆帯は1条目・2条目・4条目は概ね水平で、3条目は波状となる。56は文様が確認できることから、口縁部付近と考える。外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上に連

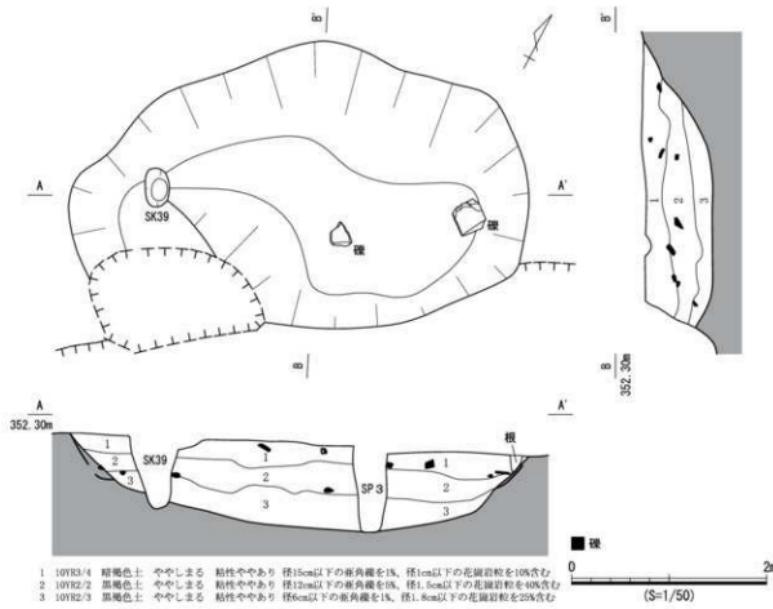


図20 SK42 遺構図



図 21 SK42 出土遺物実測図

続した刺突を施す。また、隆帯より下側にも連続した刺突を横位に1条施す。内外面に条痕が認められる。57はS 1 e類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面には連続した刺突を水平に1条施す。58はS 1 f類である。波状口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に弧線を施す。59はS 6類である。平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。60・61はZ 1 a類である。60は平口縁である。口縁部外面に粘土紐を横位に3条貼付するが、1条目は剥離し、2条目と3条目も一部が剥離する。粘土紐は1条目・2条目が水平、3条目が波状となる。粘土紐の上から、条痕を施す。61は平口縁である。口縁部外面に粘土紐を横位に2条貼付し、その上から、条痕を施す。62~64はZ 1 b類である。62は波状口縁で波頂部が残存する。口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面には口唇部に沿って粘土紐を横位に貼付し、その上から条線を施す。63は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に粘土紐を水平に3条貼付し、その上から条線を施す。64は文様が確認できることから、口縁部附近と考える。外面に粘土紐を横位に2条貼付し、その上から条線を施す。粘土紐は1条目が波状、3条目が水平となる。65はZ 5類で、小片のため部位は不明である。外面の地文は繩文(R L)である。外面に凸帯を水平に1条貼付し、その上に連続した鋸歯状の刺突を施す。66~69は石礫である。66は1 b類である。67は脚部が欠損しており、分類不明である。68は先端部と脚部が欠損しており、分類不明である。69は3類で、剥離が粗く未成品の可能性がある。70は石錐である。71は石匙で、刃部が大きく欠損する。72はスクレイバーである。73は打欠石錐で、部分的に欠損する。

時期 本遺構は重複関係からSK60・SK62より新しいため、繩文時代中期前半以降のものと考える。

SK45(図22)

検出状況 D 6 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK43・SK44より古く、SK50・SK51より新しい。東部がSK44により消失する。

規模・形状 長軸長0.84m、短軸長0.83m、深さ0.17mで、平面形は不整円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、ブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。繩文土器8点・石器1点が、散在して出土した。

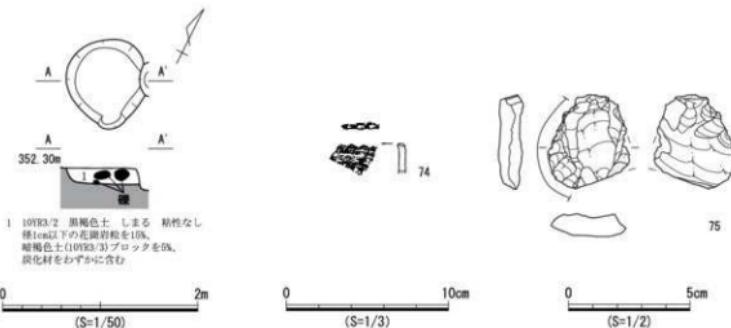


図22 SK45 遺構図・出土遺物実測図

出土遺物 S 6類の縄文土器（74）と石器（75）を図示した。74は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に条痕が認められる。75はスクレイバーである。

時期 本遺構は重複関係からSK50より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期後葉以降のものと考える。

SK50（図23）

検出状況 C・D 6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSA 2-P 3・SK42～SK45・SK48・SK49より古く、SK51より新しい。西側の一部がSK48により消失し。東部から南部にかけてはSK42と擾乱により消失する。

規模・形状 長軸長2.93m以上、短軸長1.81m以上、深さ0.42mで、平面形は不明、断面形は概ね台形だが、底部がやや丸みを帯びる。

埋土 3層に分層した。概ね水平堆積で、2層と3層の層界には凹凸がみられる。3層はブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器45点・石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 f類の縄文土器（76）を図示した。76は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に貝殻腹縁により連弧線を施す。

時期 本遺構は重複関係からSK51より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期後葉以降のものと考える。

SK51（図24）

検出状況 D 6グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSP 2・SK45

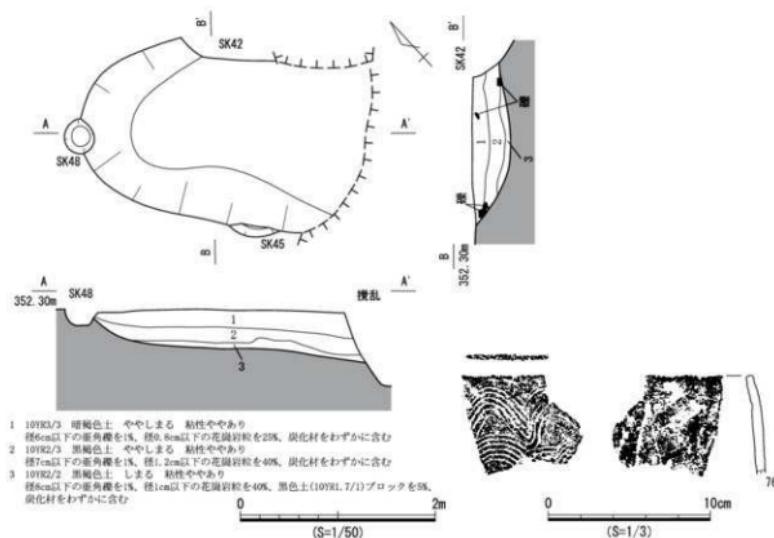


図 23 SK50 遺構図・出土遺物実測図

・SK50より古い。北部と東部はSK50、西部はSK45とSP2、南部は擾乱により消失する。

規模・形状 長軸長0.58m以上、短軸長0.45m以上、深さ0.50mで、平面形は不明、断面形は不明だが、底部は丸みを帯びる。

埋土 2層に分層した。概ね水平堆積である。1層はブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器29点・石器4点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器2点(77・78)を図示した。77はS1fである。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に貝殻腹縁により連弧線を施す。78はS5類である。波状口縁で口唇部に連続した刺突を施す。波頂部から垂下する隆帯を1条貼付する。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉とのものと考える。

SK57(図24)

検出状況 C7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK56より古

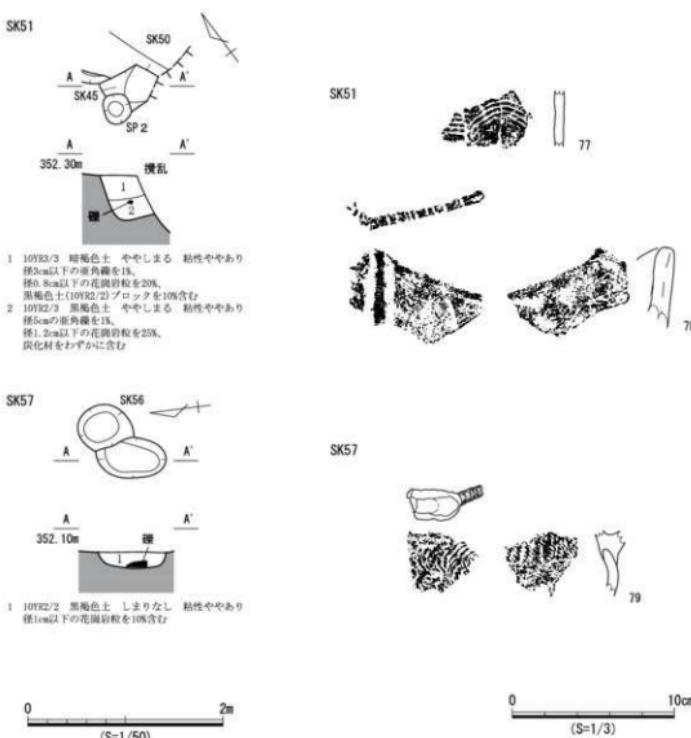


図24 SK51・SK57 遺構図・出土遺物実測図

く、SK62より新しい。北東部がSK56により消失する。

規模・形状 長軸長0.70m以上、短軸長0.41m、深さ0.17mで、平面形は楕円形、断面形は概ね台形だが、底部は丸みを帯びる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。底部中央付近に底面からやや浮いた状態で礫が1個出土した。縄文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 C3a類の縄文土器(79)を図示した。79は波状口縁で、頂部に盃状突起の一部が残存する。口唇部に連続したC字爪形文を施す。地文は摩滅により判然としないが、縄文(LR)と考える。口縁部外面に幅約1.4cmのC字爪形文帯を横位に2条施す。口縁端部内面に縄文(LR)を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代中期前半とのものと考える。

SK60(図25)

検出状況 C7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK42・SK62より古く、SK61より新しい。本遺構の西側がSK42とSK62、南側が擾乱により消失する。

規模・形状 長軸長1.35m、短軸長1.31m以上、深さ0.67mで、平面形は不明、断面形は台形である。

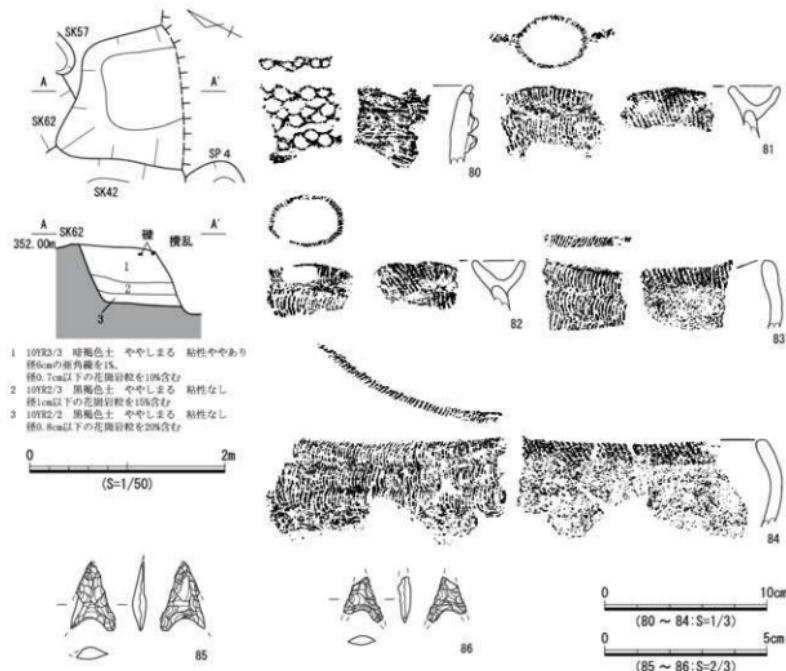


図 25 SK60 遺構図・出土遺物実測図

埋土 3層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器84点・石器6点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器5点(80~84)と石器2点(85・86)を図示した。80はS 1 b類である。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。口縁部内面に条痕が認められる。81~84はC 3 a類である。いずれも胎土や文様・調整が類似しており、同一個体の可能性が高いため、以下一括して記載する。84は波状口縁の波底部の可能性がある。81・82は波頂部に盃状突起が認められる。いずれも口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に幅約1.4cmのC字爪形文帶を横位に、82は2条、81・83・84は3条施す。いずれも口縁端部内面に縄文(R L)を施す。85・86は1 b類の石鏃である。いずれも先端部と脚部を欠損する。

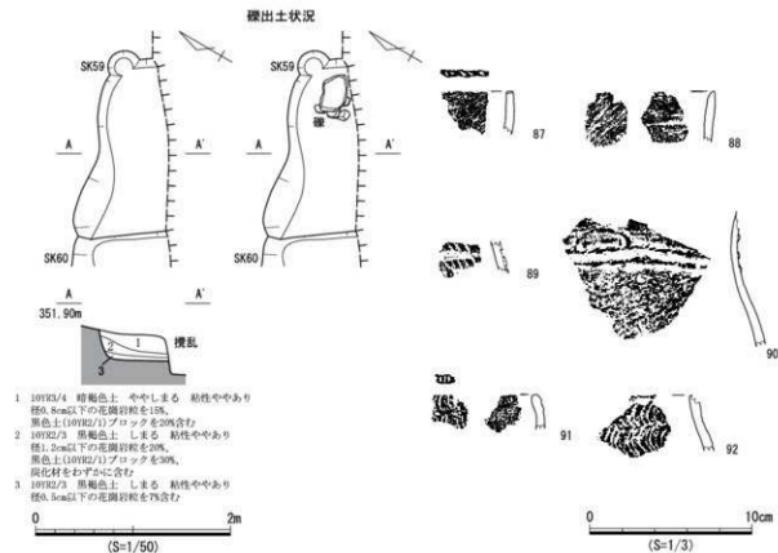
時期 本遺構は重複関係からSK61より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代中期前半以降のものと考える。

SK61 (図26)

検出状況 C 7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK58~SK60より古い。西側がSK60、南側が攪乱により消失する。

規模・形状 長軸長1.76m以上、短軸長0.95m以上、深さ0.52mで、平面形は不明、断面形は概ね台形である。

埋土 3層に分層した。片側が壅む堆積で、1層と2層はブロック土を多く含ため、人為堆積の可能



性がある。3層の堆積状況は不明である。また、遺構の底面で5個の縁を検出し、最も大きなものは平らな面を上にして出土した。縄文土器58点・石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器6点(87~92)を図示した。87・88はS 6類で、いずれも平口縁である。87は口唇部に連続した刺突を施す。87は口縁部外面、88は口縁部外面に条痕が認められる。89はZ 1 a類である。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に粘土紐を水平に2条貼付し、2条目の粘土紐に接続するように別の粘土紐を斜位に貼付する。粘土紐の上から条痕を施す。90はZ 5類で、頸胸部である。胸部外面に磨滅が著しいが、縄文(L R)が認められる。頸部外面に凸帯を水平に2条貼付し、1条目の凸帯の上方に接続するように弧状の凸帯を貼付する。凸帯上には連続した刺突を施す。91・92はC 3 a類で、いずれも平口縁である。91は口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面には幅約1.1cmのC字爪形文帯を横位に2条施す。口縁端部内面には縄文(L R)を斜位に施す。92は幅約1.5cmのC字爪形文帯を横位に2条施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代中期前半とのものと考える。

SK62(図27~29)

検出状況 B・C 5~7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSP 1・SK21~SK31・SK33・SK34・SK40・SK42・SK47・SK52~SK55・SK57・SK63より古く、SK60より新しい。北部は発掘区外に延びる。西側はSK23・SK24、南側はSK42・SK47、東側はSK33・SK54・SK57により部分的に消失する。また、SK63は4層上面で確認した。

規模・形状 長軸長6.76m以上、短軸長5.74m以上、深さ0.74mで、平面形と断面形は不定形である。北西部と南西部にそれぞれ2ヶ所、東部に1ヶ所のテラスを有する。

埋土 6層に分層した。1層・2層・4層は片側が窪む堆積である。3層は西部のみに認められ水平に堆積する。5層は西部の壁際のみに認められ、崩落土の可能性がある。3層と4層はブロック土を多く含み、人為堆積の可能性がある。また、4層上面でSK63を検出したため、1層・2層までと3層以下は重複する2つの遺構であった可能性がある。縄文土器1278点・石器70点・陶器2点が、散在して出土した。陶器は上層のみに認められ、混入と考えられる。

出土遺物 縄文土器43点(93~135)と石器16点(136~151)を図示した。93~95はS 1 b類である。93は平口縁である。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付し、口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。94は平口縁である。口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付し、口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。口縁部外面に条痕が認められる。95は波状口縁で波頂部が残存する。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部に交互押捺を施し、隆帯上には連続したE字の刺突を施す。口縁部内面に条痕が認められる。96・97はS 1 c類である。96は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付する。口唇部と隆帯上に連続した刺突を施す。97は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付する。口唇部と口縁端部外面、隆帯上に連続した刺突を施す。98~102はS 1 d類である。98は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付する。口唇部と隆帯上に連続した刺突を施す。99は波状口縁で波頂部が残存する。口縁端部内面に連続した刺突を1条ずつ施す。口縁部外面に波状の隆帯を横位に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。3条目の隆帯より下側には連続した刺突を2条施す。100・101は胎土や文様・調整が類似しており、同一個体の可能性が高いため、一括して記載する。平口縁で口縁端部の外面に羽状の刺突を水平に1条施す。口縁端部内面には連続した刺突を水平に1条施す。口縁部外面に隆

帶を横位に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。隆帶は、1条目・2条目が水平で3条目が波状となる。口縁部内面には条痕が認められる。102は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帶を水平に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。103～106はS 1 e類である。いずれも平口縁で、103～105は口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を103・105は2条、104は3条、106は4条施す。106は口縁端部内面に連続した刺突を水平に1条施す。103・105は口縁部内面に条痕が認められる。107～116はS 1 f類である。107～111・114～116はいずれも平口縁で、107・108・110・114～116は口唇部に連続した刺突を施す。112・113も文様が確認できるため、口縁部付近と考えられる。107は口縁部外面に貝殻腹縁により波線を施す。108～111は口縁部外面に貝殻腹縁により弧線を施す。112・113は外面に箇状工具により波線を施す。114は櫛状工具、115は貝殻腹縁によ

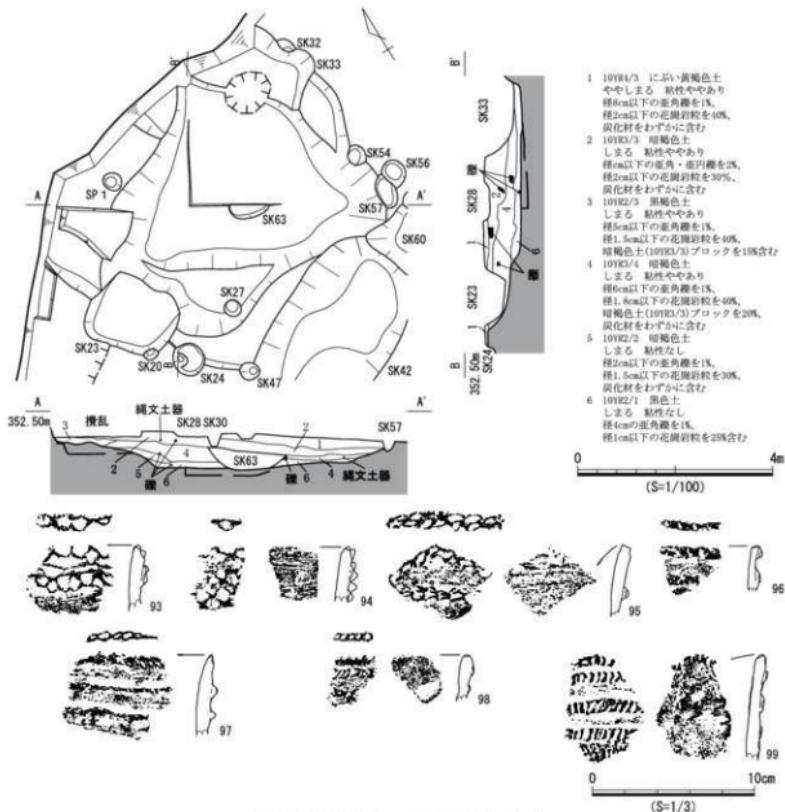


図 27 SK62 遺構図・出土遺物実測図 (1)

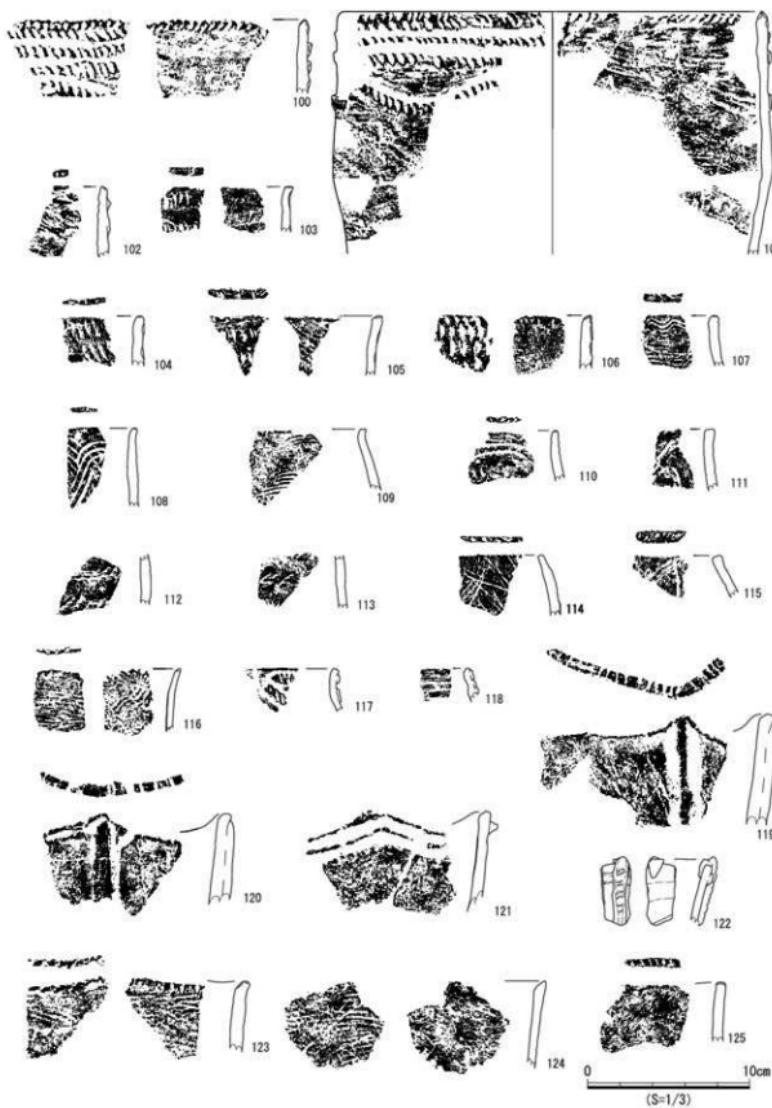


図 28 SK62 出土遺物実測図 (2)

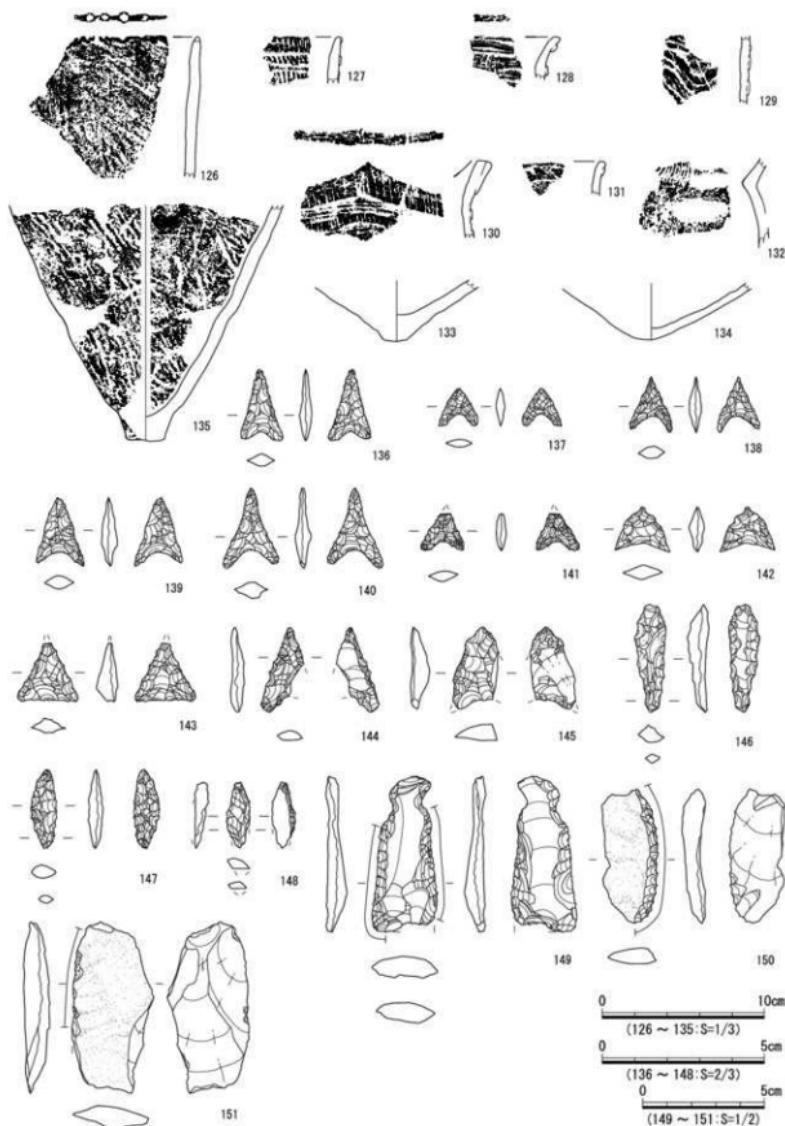


図29 SK62出土遺物実測図(3)

り、口縁部外面にジグザグ線を施す。116は口縁部内面に貝殻腹縁により波線を施す。口縁部外面には条痕が認められる。117・118はS 2類である。117は平口縁で口縁部外面に粘土紐を2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。粘土紐は1条目が水平、2条目は斜位である。118は平口縁で口縁部外面に粘土紐を水平に3条貼付し、その上に貝殻腹縁による刺突を施す。粘土紐の3条目は繋目が認められる。119～122はS 5類である。119・120は胎土や文様・調整が類似しており、同一個体の可能性が高いため、一括して記載する。いずれも波状口縁で波頂部が残存する。口唇部に連続した刺突を施す。波頂部から垂下する隆帯を1条貼付する。121は波状口縁で波頂部が残存する。口縁部外面に口縁部に沿った波状の粘土紐を横位に1条貼付する。122は波状口縁で波頂部が残存する。口縁部外面に粘土紐を横位に1条貼付後、波頂部から垂下する隆帯を1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。123～126はS 6類である。123は波状口縁で、口唇部と口縁端部内面に連続した刺突を施す。口縁部外外面に条痕を施す。124は平口縁で、口縁部外外面に条痕が認められる。125は平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。126は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に条痕が認められる。127～129はZ 1 a類である。127・128は平口縁である。口縁部外面に粘土紐を概ね水平に、127では3条、128では2条貼付し、その上から条痕を施す。129は文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。口縁部外面に波状の粘土紐を横位に3条貼付し、その上から条痕を施す。130・131はZ 1 b類である。130は波状口縁で波頂部が残存する。口唇部に連続した刺突を施す。口縁部に沿った波状の隆帯を横位に2条貼付し、その上から条線を施す。131は平口縁で、口縁部外面に粘土紐を水平に貼付し、その上から条線を施す。132はC 3 a類の頸胴部である。頸部外面に幅約1.5cmのC字爪形文帶を横位に1条施す。胴部外面には弧状の隆帯を貼付するが、大部分が剥離する。粘土紐上にはC字爪形文を施す。133・134は1類、135は2 a類の底部である。135の底部外外面には条痕が認められる。136～145は石礎である。136は1 a類である。137～141は1 b類で141は先端部を欠損する。142はI c類である。143は2類で先端部が欠損する。144・145は脚部が欠損しており、分類不明である。146～148は石錐で148は片面を大きく欠損する。149は石匙である。150・151はスクレイバーである。

時期 本遺構は重複関係からSK60より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代中期前半以降のものと考える。ただし、本遺構で縄文時代中期の土器を含むのは2層まであった。1層～2層から出土した土器のうち、最も新しいのはC 3 a類である。また、3層から6層において出土した土器のうち、最も新しいのはZ 1 a類である。そのため3層以下は、縄文時代前期前半に埋没した可能性がある。なお、SK60が本遺構の何層までと重複していたかは不明である。

SK71（図30）

検出状況 C 7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK72より新しい。

規模・形状 長軸長0.56m、短軸長0.40m、深さ0.08mで、平面形は楕円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器4点が、散在して出土した。

出土遺物 S 3類の縄文土器(152)を図示した。文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。外面に押引き状沈線を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉とのものと考える。

SK78（図30）

検出状況 B・C 8グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.87m、短軸長0.84m、深さ0.50mで、平面形は円形、断面形は不定形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。繩文土器45点と石器5点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 d類の繩文土器（153）と石器（154）を図示した。153は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。154は1 b類の石鏃である。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代早期後葉とのものと考える。

SK81（図30）

検出状況 C 8グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.69m、短軸長0.65m、深さ0.58mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも片側が窪む堆積で、堆積状況は不明である。繩文土器18点と石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 C 3 a類の繩文土器（155）を図示した。平口縁で、口縁部外面に円形刺突列を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代中期前半のものと考える。

SK91（図30）

検出状況 C 9グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK92より新しい。

規模・形状 長軸長0.60m、短軸長0.57m、深さ0.52mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも概ね水平堆積で、堆積状況は不明である。繩文土器4点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 c類の繩文土器（156）を図示した。文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。外面に隆帯を水平に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。

時期 本遺構は重複関係からSK92より新しいことや、本遺構の出土遺物から繩文時代早期後葉以降のものと考える。

SK92（図30）

検出状況 C 9グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK91より古い。

規模・形状 長軸長0.74m、短軸長0.60m以上、深さ0.51mで、平面形は橢円形と考えられ、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。いずれも概ね水平堆積で、1層はブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。繩文土器10点、石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 e類の繩文土器（157）と石器（158）を図示した。157は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を水平に2条施す。158は1 b類の石鏃で、先端部が欠損する。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代早期後葉のものと考える。



図 30 SK71・SK78・SK81・SK91・SK92・SK93 遺構図・出土遺物実測図

SK93（図30）

検出状況 B 9 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.66m、短軸長0.41m、深さ0.45mで、平面形は楕円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、礫やブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器18点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 d 類の縄文土器（159）を図示した。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上から刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK95（図31）

検出状況 B 9 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.36m、深さ0.38mで、平面形は不整円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器6点が、散在して出土した。

出土遺物 S 2 類の縄文土器（160）を図示した。平口縁で、口縁部外面に波状の粘土紐を横位に1条貼付する。粘土紐上は無文である。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期末のものと考える。

SK98（図31）

検出状況 D 9 グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.49m、短軸長0.39m、深さ0.52mで、平面形は不整楕円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積である。1層はブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器6点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 5 類の縄文土器（161）を図示した。胴部で、地文は縄文（LR）である。胴部外面に凸帯を水平に2条貼付する。また、1条目の凸帯の下方に接続するように連弧状の凸帯を貼付する。凸帯上には連続した刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期後半のものと考える。

SK100（図31）

検出状況 C・D 9 グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.62m、短軸長0.34m、深さ0.68mで、平面形は不整楕円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。1層は水平堆積、2層は中央が窪む堆積である。堆積状況は不明である。縄文土器9点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 6 類の縄文土器（162）を図示した。口縁部から頸部である。口縁部外面には地文の縄文（LR）が認められる。頸部外面は縄文をナデ消して無文となる。頸部外面に凸帯を水平に1条貼付し、その上に凸帯の幅より狭いΣ字状工具で押し引きを施す。口縁部内面にススが付着する。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期後半のものと考える。

SK112（図31）

検出状況 B 9～10 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSA 7

-P5・SK109～111・SK115より古く、SK114より新しい。西側はSK109、南側はSA7-P5・SK111、東側はSK110により一部が消失する。

規模・形状 長軸長1.79m以上、短軸長0.97m以上、深さ0.76mで、平面形は不整梢円形、断面形は不定形である。南東部にテラスを有する。

埋土 3層に分層した。概ね水平堆積だが層界に凹凸がみられる。3層はブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器16点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器(163・164)を図示した。163はS1b類である。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上に交互押捺を施す。口縁部内面に条痕が認められる。164はS6類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面には条痕をナデ消した痕跡が認められる。

時期 本遺構よりも古いSK114から縄文時代中期の土器が出土していることから、本遺構は縄文時代中期前半以降のものと考える。

SK137（図31）

検出状況 D9～10グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.94m、短軸長0.56m以上、深さ0.33mで、平面形は梢円形、断面形は半円形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器9点が、散在して出土した。

出土遺物 Z1a類の縄文土器(165)を図示した。文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。外面に粘土紐を水平に1条貼付し、その上に条痕を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期前半のものと考える。

SK151（図32）

検出状況 E9グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSI1より新しい。

規模・形状 長軸長0.42m、短軸長0.37m、深さ0.14mで、平面形は円形、断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器(166)を図示した。底部で、底端部が欠損するが、1類と考えられる。

時期 本遺構は重複関係からSI1より新しいため、縄文時代中期後半以降のものと考える。

SK164（図32）

検出状況 C11グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。北東側は攪乱、南西側はSK163により部分的に消失する。

規模・形状 長軸長1.06m、短軸長0.66m以上、深さ0.57mで、平面形は不定形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも概ね中央が壅む堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器5点が、散在して出土した。

出土遺物 S1c類の縄文土器(167)を図示した。平口縁で口縁端部内外面に連続した刺突を横位に1条施す。口縁部外面に隆帯を水平に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。口縁部内面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

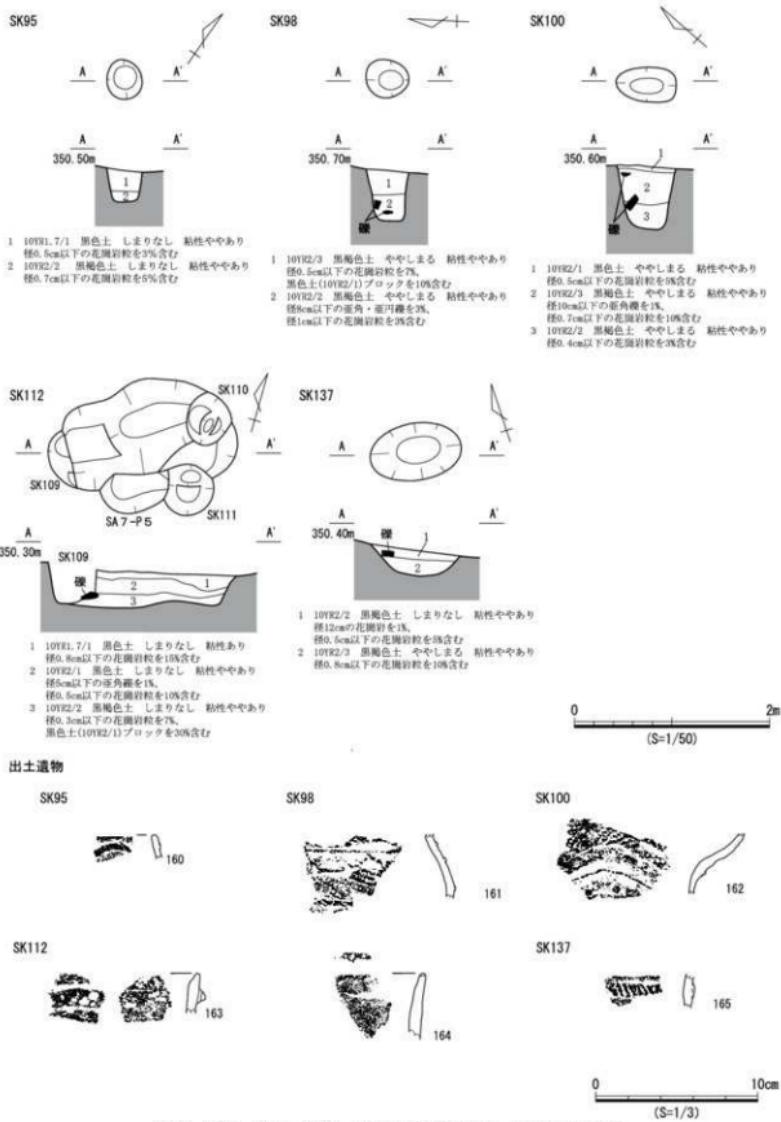


図31 SK95・SK98・SK100・SK112・SK137 遺構図・出土遺物実測図

SK166（図32）

検出状況 D11グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.78m、短軸長0.60m、深さ0.26mで、平面形は橢円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。いずれも概ね水平な堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器7点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 c 類の縄文土器3点（168～170）を図示した。168～170は胎土や文様・調整が類似し、同一個体の可能性がある。いずれも文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。168は外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。隆帯より下側には連続した刺突を横位に2条施す。169は外面に連続した刺突を横位に2条施す。170は外面に連続した刺突を横位に1条施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK167（図32）

検出状況 D11グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.96m、短軸長0.93m、深さ0.44mで、平面形は不整橢円形、断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器37点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器2点（171・172）を図示した。171はS 1 c 類である。平口縁で、連続した刺突を口縁端部外面に1条、口縁部内面に2条、横位に施す。口縁部外面に隆帯を水平に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。3条目の隆帯より下側には連続した刺突を横位に1条施す。172はS 6 類で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK168（図32）

検出状況 D11グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.36m、深さ0.20mで、平面形は円形、断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 b 類の縄文土器（173）を図示した。波状口縁で口縁端部の内外面に交互押捺を施す。口縁部外面に口縁部に沿った波状の隆帯を横位に2条貼付し、その上に交互押捺を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK172（図32）

検出状況 D11グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.90m、短軸長0.73m、深さ0.23mで、平面形は不整橢円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器5点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 c 類の縄文土器（174）を図示した。波状口縁で口縁端部内外面に連続した刺突を横位に1条ずつ施す。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。隆帯より下側には連続した羽状の刺突を横位に1条施す。口縁部内面に指頭圧痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

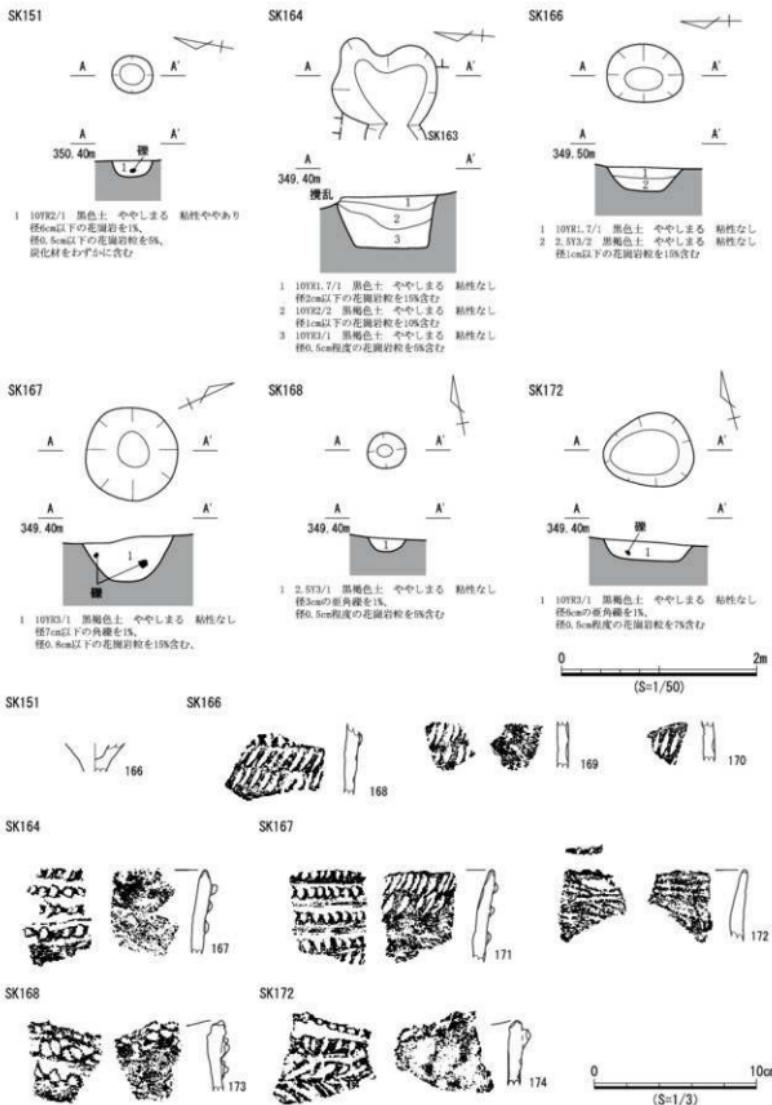


図 32 SK151・SK164・SK166・SK167・SK168・SK172 遺構図・出土遺物実測図

SK181（図33）

検出状況 E・F11グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK180より古く、SK182・SK183・SK185より新しい。北側がSK180と搅乱により消失する。

規模・形状 長軸長1.44m以上、短軸長1.26m以上、深さ0.18mである。平面形は北側が消失し、不明である。断面形は不定形で、底面に凹凸が認められる。

埋土 単層で、ブロック土を多く含むため、人為堆積の可能性がある。縄文土器17点・石器2点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器2点（175・176）を図示した。175はS1f類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に貝殻縁により破線を施す。口縁部内面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。176はZ1a類である。文様が確認できるため、口縁部付近と考える。外面に粘土紐を横位に2条貼付し、その上に条痕を施す。粘土紐は1条目が水平で2条目が波状である。口縁部内面に指頭圧痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK185より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代前期前半のものと考える。

SK185（図34～36）

検出状況 E・F11グリッド、I層基底面で検出したが、南部は発掘区外に続く。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK180～184より古い。北東側は搅乱により消失する。

規模・形状 長軸長3.29m、短軸長2.68m以上、深さ0.94mで、平面形は不明、断面形は2段の掘り込みである。北西部と東部にテラスを有する。本遺構の中央よりやや西側は長軸長1.90m以上、短軸上1.70mの範囲が概ね楕円形に深く掘り込まれる。

埋土 4層に分層した。1層は礫を多く含み人為堆積の可能性がある。1層を掘り下げたところ、概ね2層上面で径1.80mほどの円形の集石を検出した（図35-礫出土状況1）。これ以下も2層中からは礫が多く出土し、計5回にわたる検出を実施し、それぞれの出土状況を記録した（図35-礫出土状況1～5）。集石に含まれる礫は、角礫がほとんどで、花崗岩や砂岩が多かった。また、各検出時に

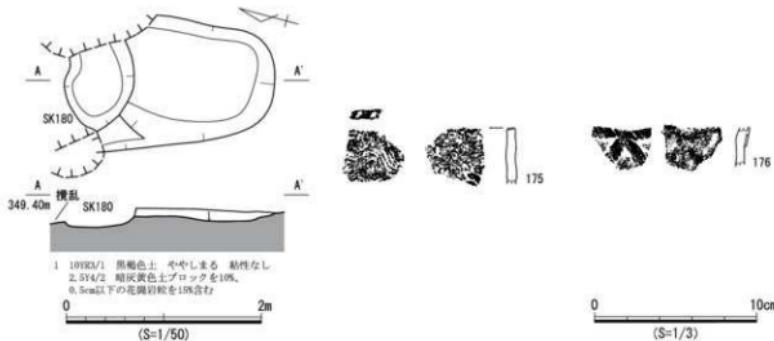


図33 SK181 遺構図・出土遺物実測図

被熱した礫をモザイク状に確認した。2層は礫を多く含み人為堆積と考えられることや、礫の大半に被熱が認められることから、本遺構はいわゆる集石遺構と想定され、谷口氏の分類の1類b種にあたる¹⁾。3層及び4層の直上では、破損した長さ約50cm、幅40cmの大きめの礫が平な面を上に向けて出土し（図35・礫出土状況5）、それをとり扱むように複数の礫を検出した（図35・礫出土状況4）ことから、これらが中敷石にあたる可能性がある。3層と4層は集石の下部で確認し、集石と概ね同一の範囲で認められたことから、礫を配置する以前の何等か造作の可能性があるが、詳細は不明である。3層はブロック土を多く含み、人為堆積の可能性がある。また、被熱面や炭層等、遺構内で火を使用した痕跡は認められず²⁾、礫は別の場所で加熱したと考える。縄文土器62点・石器2点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器3点（177～179）を図示した。177はS 1 b類である。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帶上に交互押捺を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。178はS 1 f類である。文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。外面に貝殻腹縁により弧線を施す。内面には条痕が認められる。179はS 6類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物や、年代測定の結果（第4章）から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

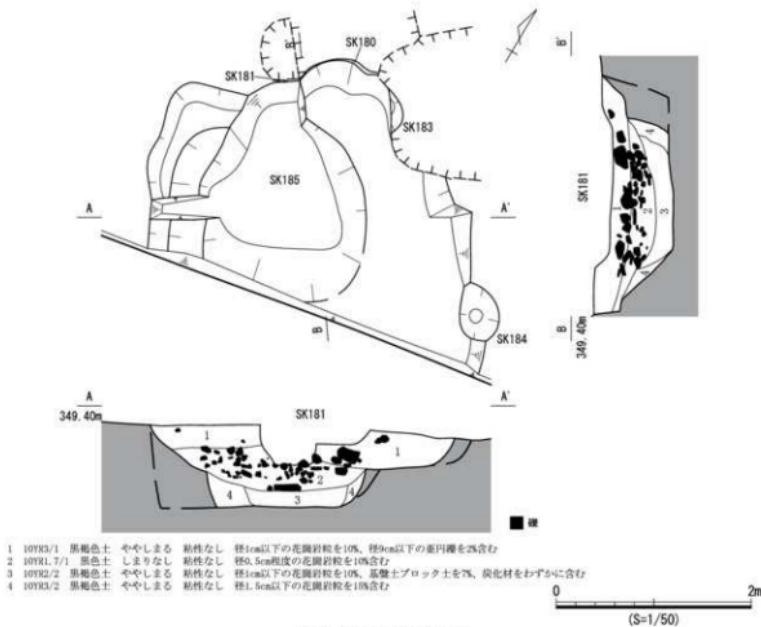
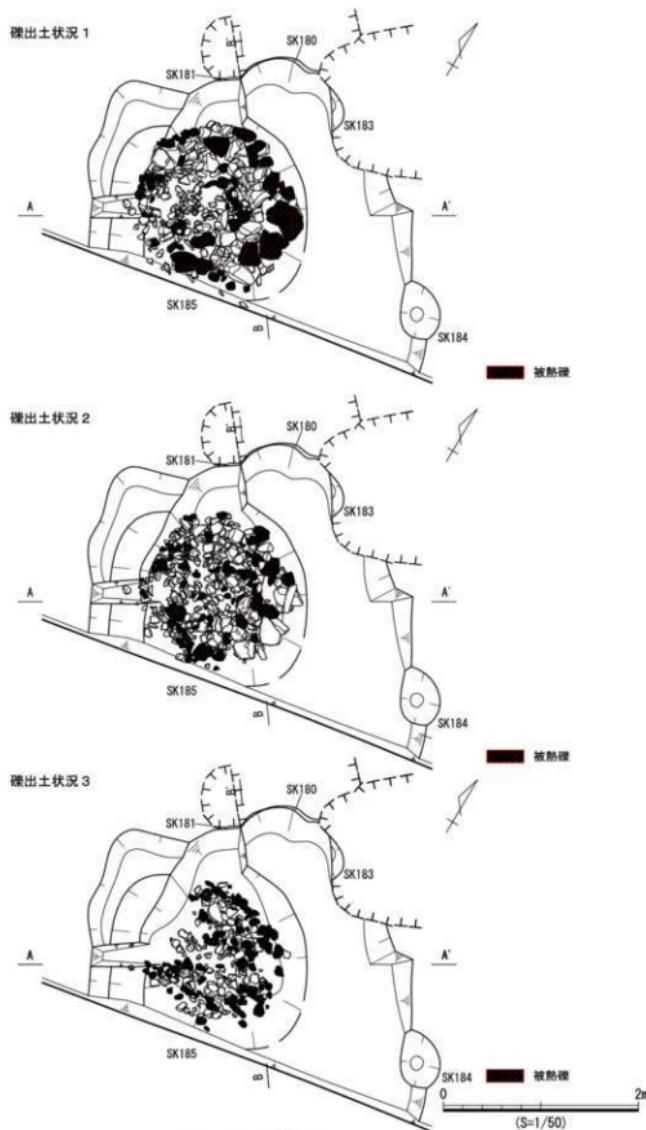


図34 SK185 遺構図（1）



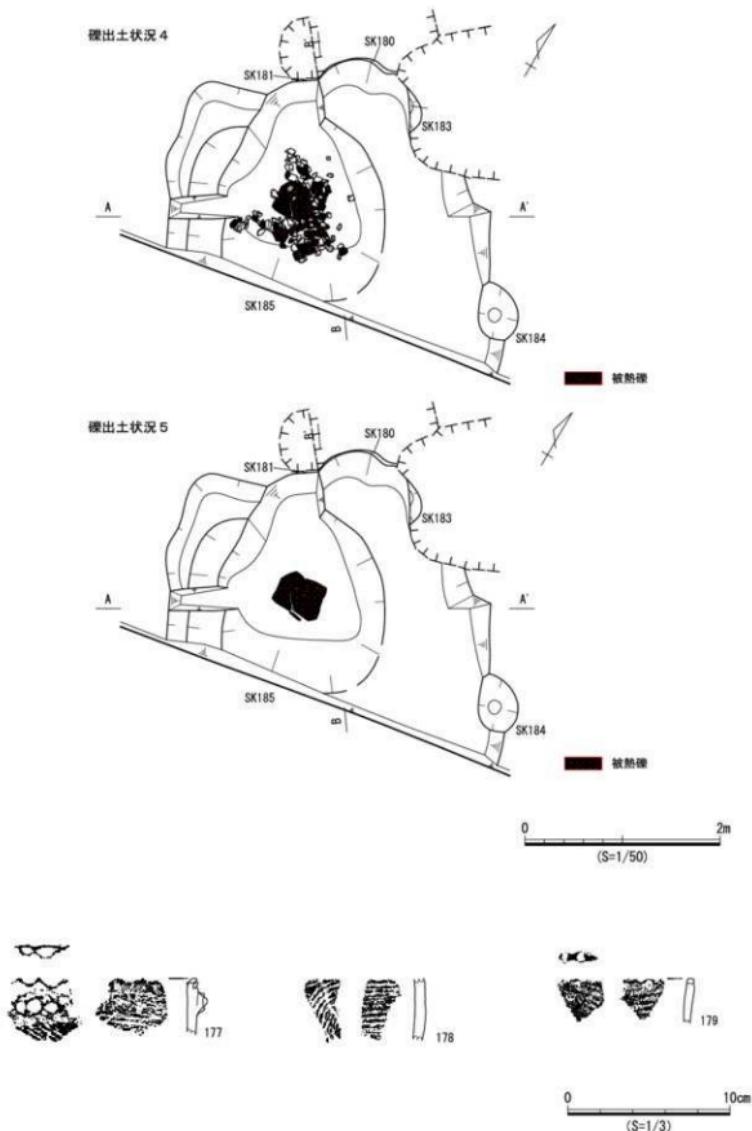


図36 SK185 遺構図(3)・出土遺物実測図

SK186（図37）

検出状況 E11グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK187より新しい。南西側は攪乱により消失する。

規模・形状 長軸長1.60m、短軸長1.09m以上、深さ0.43mで、平面形は不明、断面形は台形である。

埋土 4層に分層した。1層・2層が3層・4層を掘り込むように堆積しており、2つの遺構が重複する可能性がある。1層と2層からは礫が多く出土し、2回にわたり出土状況を記録した（図37-礫出土状況1・2）。1層と2層は礫を多く含み、人為堆積の可能性がある。礫の中には被熱のあるものも認められたが半数以下である。また、被熱面や炭層等、遺構内で火を使用した痕跡は認められなかった。3層・4層の堆積状況は不明である。縄文土器12点が、散在して出土した。

出土遺物 S 6類の縄文土器（180）を図示した。胴部で、内外面に条痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK187より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期後葉以降のものと考える。

SK187（図37）

検出状況 E11グリッド、I層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK186より古い。北西側はSK186と攪乱により消失する。

規模・形状 長軸長1.32m、短軸長0.68m以上、深さ0.21mで、平面形は不明、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器4点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 b類の縄文土器（181）を図示した。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK192（図37）

検出状況 C12グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.70m、短軸長0.60m、深さ0.15mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器1点（182）を図示した。2 b類の底部である。内外面ともに摩滅しており、調整等の痕跡は不明である。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期～中期のものと考える。

SK193（図37）

検出状況 C12グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK195より新しい。

規模・形状 長軸長0.56m、短軸長0.54m、深さ0.21mで、平面形は円形、断面形は底面が丸みを帶びた逆三角形である。

埋土 2層に分層した。中央が壅む堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器6点が、散在して出土した。

出土遺物 S 5類の縄文土器（183）を図示した。波状口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付し、横位と縦位の連続した刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

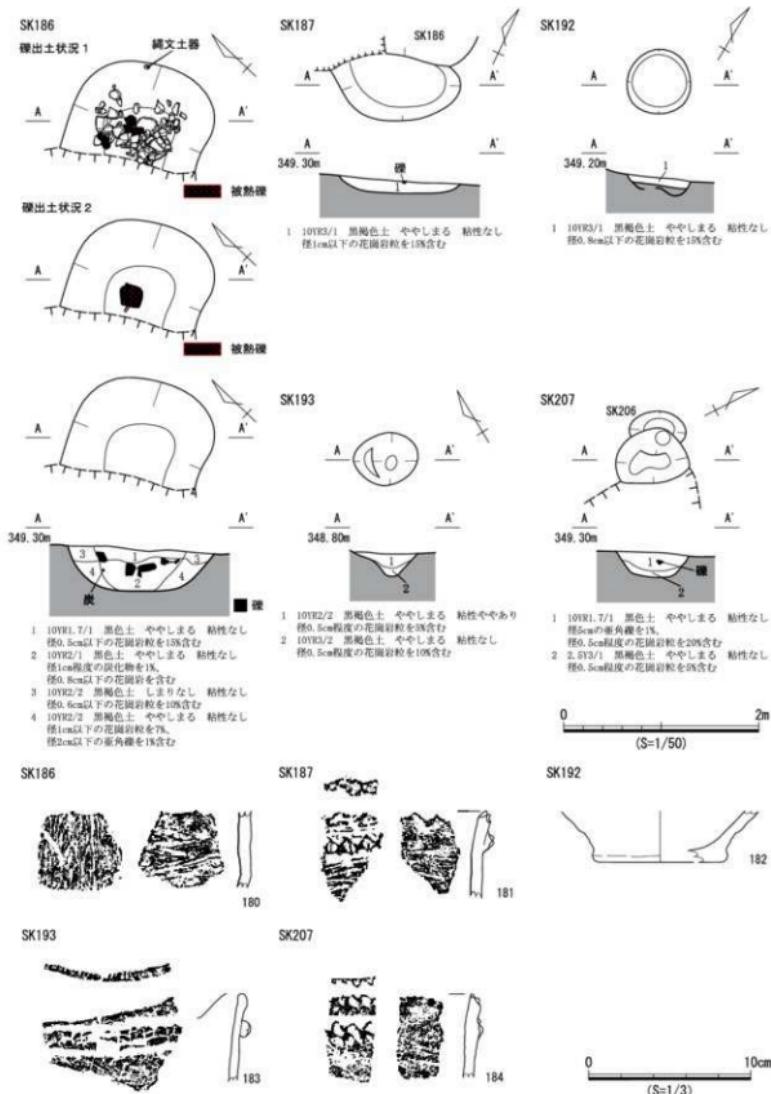


図37 SK186・SK187・SK192・SK193・SK207 遺構図・出土遺物実測図

SK207（図37）

検出状況 D11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK206より古い。西側はSK206、東側は擾乱により部分的に消失する。

規模・形状 長軸長0.73m、短軸長0.58m、深さ0.27mで、平面形は不整楕円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。概ね中央が壅む堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器8点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 b類の縄文土器（184）を図示した。平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK210（図38）

検出状況 D12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.54m、短軸長0.45m、深さ0.22mで、平面形は不整楕円形、断面形は半円形である。

埋土 2層に分層した。中央が壅む堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 b類の縄文土器（185）を図示した。平口縁で、口唇部に交互押捺を施す。口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上に連続した押捺を施す。口縁部内外面に条痕の痕跡が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK223（図38）

検出状況 E・F12グリッド、Ⅰ層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK224・SK225より新しい。

規模・形状 径0.68m、深さ0.31mで、平面形は不整円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 c類の縄文土器（186）を図示した。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に隆帯を水平に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。2条目の隆帯より下側には連続した羽状の刺突を水平に1条施す。

時期 本遺構は重複関係からSK224より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期後葉以降のものと考える。

SK224（図38）

検出状況 E11～12グリッド、Ⅰ層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK223より古い。

規模・形状 長軸長0.68m、短軸長0.60m以上、深さ0.25mで、平面形は不整楕円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。概ね水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器1点が出土した。

出土遺物 S 1 b類の縄文土器（187）を図示した。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に隆帯を水平に1条貼付し、その上に交互押捺を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK235（図38）

検出状況 D・E12グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK265より新しい。

規模・形状 長軸長0.61m、短軸長0.55m、深さ0.11mで、平面形は不整円形、断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器18点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 a 類の縄文土器（188）を図示した。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した横位の刺突を水平に1条施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK265より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期末以降のものと考える。

SK245（図38）

検出状況 E12グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK243・SK244より古く、SK246・SK265より新しい。

規模・形状 長軸長0.96m以上、短軸長0.95m以上、深さ0.14mで、平面形は不明、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器8点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 類の縄文土器（189）を図示した。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した横位の刺突を水平に3条施す。また、3条目より下側には連続した刺突のような痕跡が認められるが、極めて浅いため施用時等についていた何等かの痕跡、意図的なものではない可能性がある。口縁部内面に明瞭な指頭圧痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK246・SK265より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期末以降のものと考える。

SK246（図38）

検出状況 E12グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK245より古い。

規模・形状 長軸長0.88m以上、短軸長0.72m、深さ0.23mで、平面形は不整橈円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。概ね水平堆積で1層と2層の層界には凹凸が認められる。2層はブロック土を多く含み、人為堆積の可能性がある。縄文土器9点が、散在して出土した。

出土遺物 縄文土器2点（190・191）を図示した。190はS 1 b 類である。平口縁で、口唇部に交互押捺を施す。口縁部外面に条痕が認められる。口縁部内面には指頭圧痕と条痕をナデ消した痕跡が認められる。191はS 1 e 類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を水平に2条施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代早期後葉のものと考える。

SK248（図39）

検出状況 D・E12～13グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK251

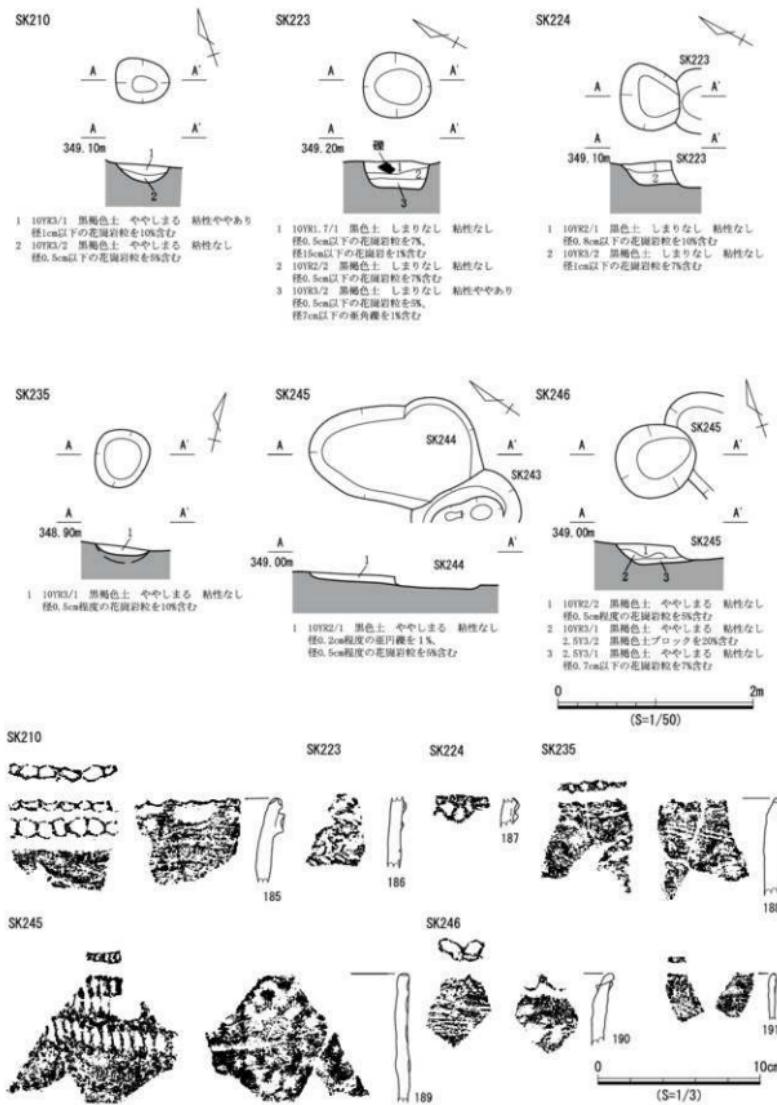


図38 SK210・SK223・SK224・SK235・SK245・SK246 造構図・出土遺物実測図

・SK254・SK255・SK265より新しい。

規模・形状 長軸長0.97m、短軸長0.84m、深さ0.18mで、平面形は不整梢円形、断面形は半円形である。

埋土 2層に分層した。1層が2層を掘り込むような堆積で2つの遺構の可能性がある。1層はブロック土を多く含み人為堆積の可能性がある。縄文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 S6類の縄文土器(192)を図示した。平口縁で、口縁部内外面に条痕が認められる。

時期 本遺構は重複関係からSK265より新しいことや、本遺構の出土遺物から縄文時代早期末以降のものと考える。

SK252(図39)

検出状況 E12~13グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK244・SK247・SK249・SK250より古く、SK253より新しい。

規模・形状 長軸長1.70m以上、短軸長1.38m以上、深さ0.17mで、平面形は不明、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器2点・石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 Z5類の縄文土器(193)を図示した。小片のため部位は不明である。外面に地文の縄文(RL)が認められる。外面に凸帯を水平に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は縄文時代前期後半のものと考える。

SK265(図40)

検出状況 D・E12~13グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSA8-P2・SK228~SK235・SK240~242・SK248・SK251・SK254~256より古い。

規模・形状 長軸長2.16m、短軸長1.62m、深さ0.52mで、平面形は梢円形、断面形は台形である。

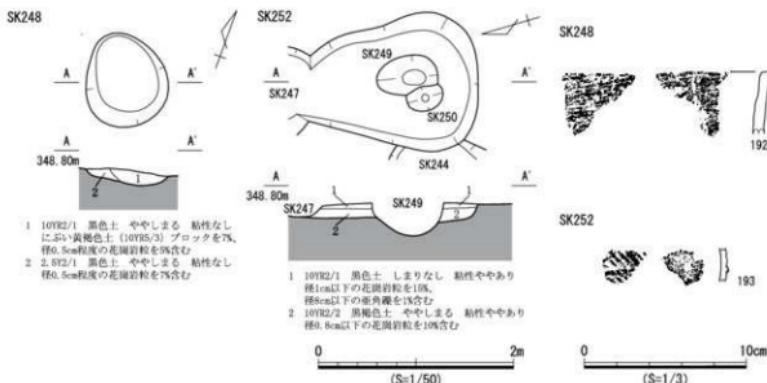


図39 SK248・SK252 遺構図・出土遺物実測図

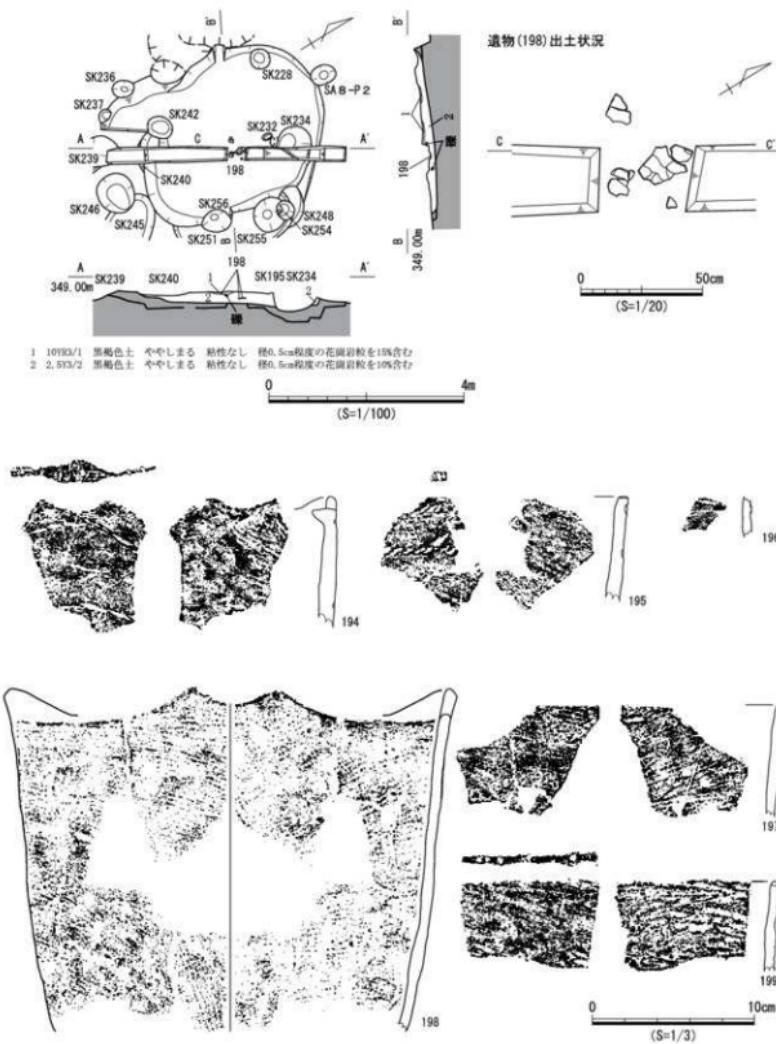


図 40 SK265 遺構図・出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。1層は中央付近にのみ認められる。堆積状況は不明である。繩文土器131点・石器2点が、基本的に散在して出土したが、198の破片は2層からまとめて出土した。

出土遺物 繩文土器6点（194～199）を図示した。194・195はS 1 a類である。194は波状口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。また、口唇部には楕円形の面が認められ、その上に連続した刺突を2条施す。口縁部外面には波線状になるように連続した横位の刺突を2条施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。195は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を水平に2条施す。口縁部内面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。196はS 2類である。文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。外面に粘土紐を水平に1条貼付し、粘土紐の繋目が認められる。粘土紐上は無文である。197～199はS 6類である。197は平口縁で、口縁部内外面に条痕が認められる。198は波状口縁で口縁部内外面に条痕が認められる。199は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部内外面に条痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代早期末のものと考える。

SK271（図41）

検出状況 C13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北側は発掘区外に伸びる。平面形は明瞭であった。重複関係からSK274より新しい。

規模・形状 長軸長0.80m以上、短軸長0.43m以上、深さ0.12mで、平面形は不明、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。繩文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 9類の繩文土器（200）を図示した。波状口縁で波頂部が残存する。口唇部に繩文（LR）を施す。口縁部外面の地文は繩文（LR）で、押し引きによる平行沈線で文様を施す。平行沈線を従位に施し、それに連結するように水平、若しくは横位に弧状の平行沈線を施す。口縁端部内面には波頂部付近のみ繩文（LR）を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代前期後半のものと考える。

SK272（図41）

検出状況 C13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK273・275より新しい。

規模・形状 長軸長0.92m、短軸長0.74m、深さ0.16mで、平面形は楕円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。繩文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 K 1類の繩文土器（201）を図示した。平口縁で、口縁部外面に凹線を水平に2条施す。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代後期のものと考える。

SK296（図41）

検出状況 C・D13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長1.20m、短軸長0.93m、深さ0.47mで、平面形は不整楕円形、断面形は不定形である。東部に2箇所テラスを有する。

埋土 3層に分層した。1層が2層と3層を掘り込むような堆積のため、2つの遺構であった可能性がある。繩文土器2点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 a類の繩文土器（202）を図示した。波状口縁で波頂部に盃状突起が認められる。口唇

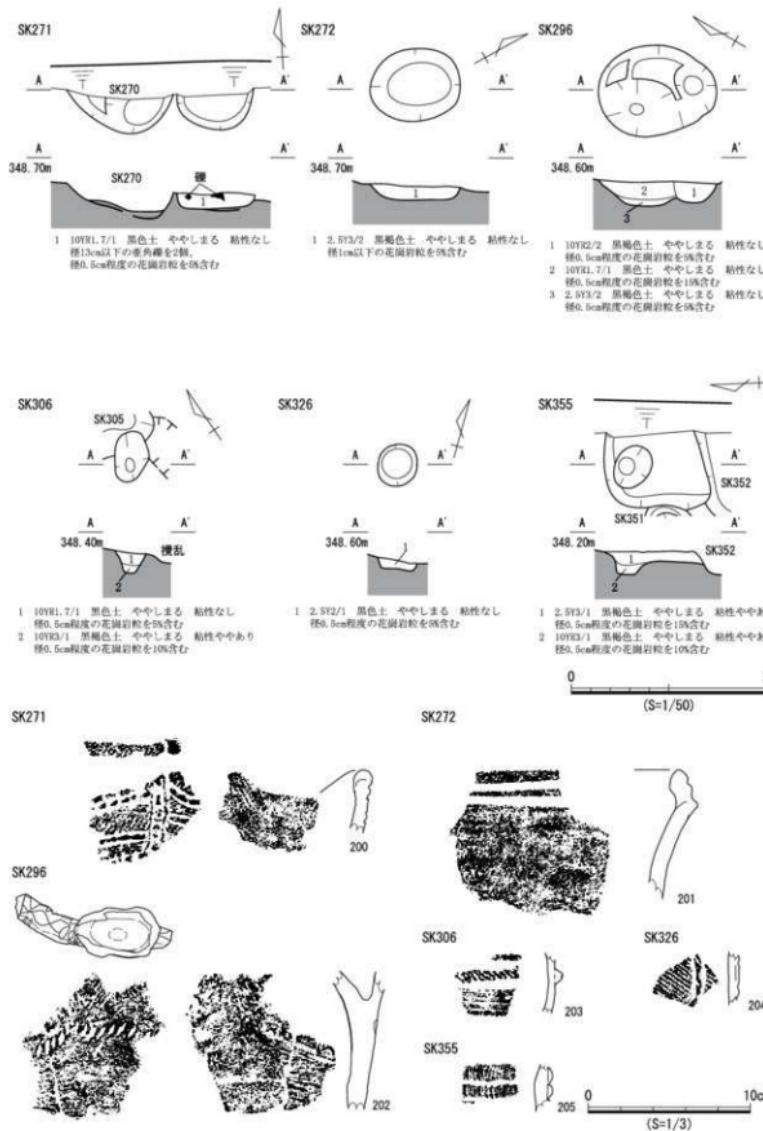


図41 SK271・SK272・SK296・SK306・SK326・SK355遺構図・出土遺物実測図

部に連続した刺突を施す。口縁部外面に波状の連続した刺突を横位に1条施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代早期後葉のものと考える。

SK306（図41）

検出状況 D13グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK305より古い。北東部がSK305と攪乱により部分的に消失する。

規模・形状 長軸長0.51m以上、短軸長0.35m、深さ0.39mで、平面形は不整橢円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。繩文土器2点・石器1点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 7類の繩文土器(203)を図示した。文様が確認できることから口縁部付近と考えられる。外面に隆帯を横位に1条貼付し、その上に貝殻腹縁による連続した刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代前期前半のものと考える。

SK326（図41）

検出状況 E13グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.42m、短軸長0.40m、深さ0.14mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。繩文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 Z 5類の繩文土器(204)を図示した。小片のため部位は不明である。外面の地文は繩文(R L)で、凸帯を縦位に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代前期後半のものと考える。

SK355（図41）

検出状況 C・D14グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。東側は発掘区外に伸びる。重複関係からSK351・SK352より古く、SK359より新しい。南部がSK352と西部がSK351により部分的に消失する。

規模・形状 長軸長1.03m以上、短軸長0.74m以上、深さ0.36mで、平面形は不明、断面形は2段の掘り込みである。

埋土 2層に分層した。層境と壁面の傾斜変換が一致するため2つの遺構であった可能性がある。堆積状況は不明である。繩文土器3点が、散在して出土した。

出土遺物 C 1類の繩文土器(205)を図示した。小片のため部位は不明である。外面に連続爪形文を施す隆帯を水平に3条貼付する。

時期 出土遺物から、本遺構は繩文時代中期前半のものと考える。

注

1) 集石遺構の分類は、谷口康浩 1986「繩文時代「集石遺構」に関する試論—関東・中部地方における早・前・中期の事例を中心として—」『東京考古』4、東京考古談話会に従った。

第5節 古代・中世の遺構・遺物

1 堀立柱建物

SB 1 (図42~43)

検出状況 C・D 9~10グリッド、P2・P3・P5はI層基底面、P1・P4・P6~P8はIII層上面で検出した。対になる柱筋が確認できる。柱穴の平面形はP2が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P6はSI 1と重複し、SI 1よりも新しい。P8の東部は西区と東区の間に存在した石垣を設けた際に削平されたと想定される。北側の柱筋の北東側にはSP12が認められ、本遺構はさらに東へ展開していた可能性があるが、石垣を設置した際の擾乱により、詳細は不明である。

規模・形状 衍行2間(5.10m、柱間2.00m~3.10m)、梁行2間(4.16m、柱間1.80m~2.30m)の側柱建物で、南東方向にむかって緩やかに低くなる地形に沿う方向で設置されていたと考える。長軸方位はN-52°-Eで、SA1・SA2・SA3・SA4・SA7とほぼ同じで、SB2・SA5とほぼ直交する。本遺構とSB2は、規模・形状が類似することや長軸方位がほぼ直交すること、ほぼ同位置で確認できることから、建て替えの可能性があるが、重複関係は認められず、先後関係は不明である。

柱穴 8基の柱穴を確認した。平面形は概ね円形若しくは梢円形で、径は0.36~0.89m、深さは0.26~0.84mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。P8は本遺構とSB2、いずれの柱穴の可能性もある。P8の底部では2箇所の壅みが認められ、東側の壅みが概ね本遺構の柱筋と合う。柱穴の底面は、P1・P8が他と比べて浅い。また、北西辺の柱筋では、柱穴が東に向かって深くなる。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器37点・石器1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P2・P4・P6から出土した縄文土器3点(206~208)を図示した。206はS3類である。平口縁で、口縁部外面に押引き状沈線を施す。207はS1b類である。平口縁で、口縁部外面に水平の隆帯を1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。208はZ3類の胴部である。胴部外面には2連規制のD字形連続刺突を横位・帶状に施す。下部にD字形連続刺突の2段目の上半が確認できることから、2段以上施されていたと分かる。胴部外外面に条痕が認められる。

時期 SA2と方向が類似することから中世後期の可能性がある。柱穴から出土した縄文土器や石器は、後世の掘削時に混入したと想定される。

SB 2 (図44~45)

検出状況 C・D 9~10グリッド、P3はI層基底面、それ以外の柱穴はIII層上面で検出した。対になる柱筋が確認できる。柱穴の平面形はP4が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P3はSK128・SK129と重複し、SK128よりも古く、SK129よりも新しい。P5の東部及び南東隅にあたる柱穴は西区と東区の間に存在した石垣を設けた際に削平されたと想定される。

規模・形状 衍行2間(4.38m、柱間2.50m~2.12m)、梁行2間(4.10m、柱間2.00m~2.10m)の側柱建物で、南東方向にむかって緩やかに低くなる地形に沿う方向で設置されていたと考える。長軸方位はN-36°-Wで、SA5とほぼ同じで、SB1・SA1・SA2・SA3・SA4・SA7とほぼ直交する。本遺構とSB1は、規模・形状が類似することや長軸方位がほぼ直交すること、ほぼ同位置で確認できることから、建て替えの可能性があるが、重複関係は認められず、先後関係は不明である。

柱穴 7基の柱穴を確認した。平面形は概ね円形若しくは梢円形だがP7は不定形である。径は0.38~

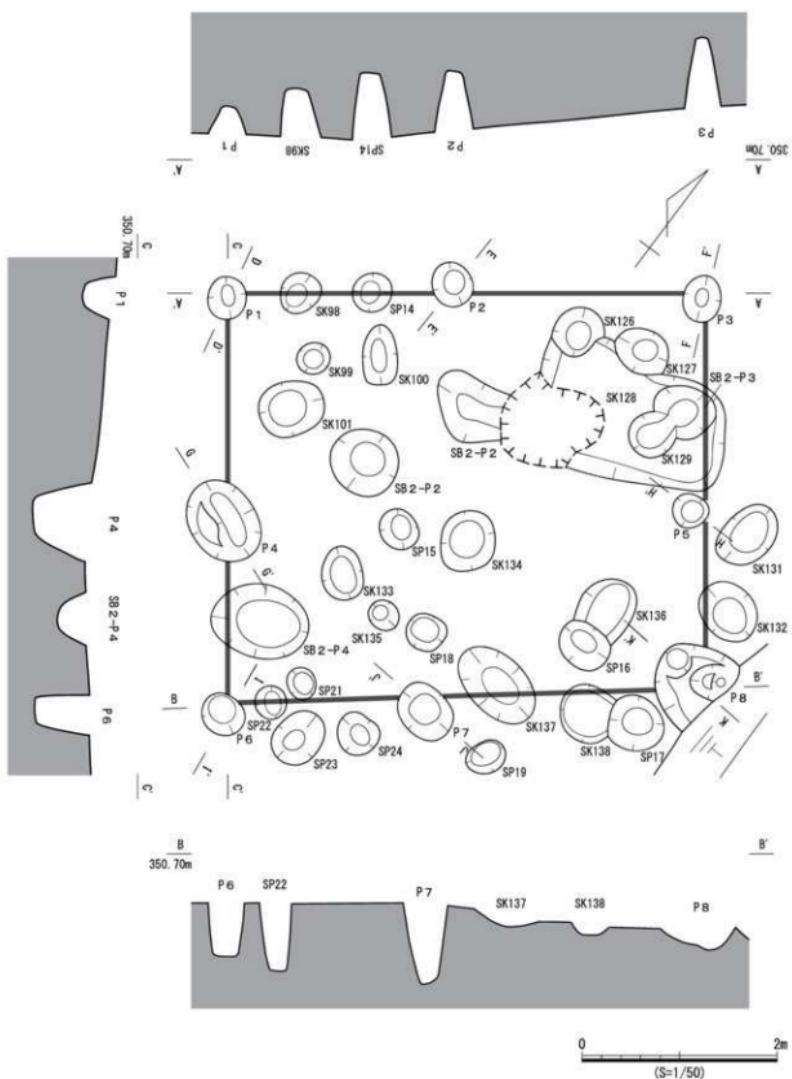


図42 SB 1 遺構図（1）

0.99m、深さは0.10~1.06mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。P8は本遺構とSB1、いずれの柱穴の可能性もある。P8の底部では2箇所の窪みが認められ、西側の窪みが概ね本遺構の柱筋と合う。柱穴の底面は北西辺と南東側の柱筋の中央に位置するP2、P7が他と比べて浅く、南西辺の柱筋の中央に位置するP4が他と比べて深い。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器74点・石器1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P4から出土した縄文土器2点(209・210)を図示した。209はZ1-a類である。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に粘土紐を横位に1条貼付し、その上に条痕を施す。210はZ3類である。平口縁で、口唇部に2連規制のD字形連続刺突を施す。外面には2連規制のD字形

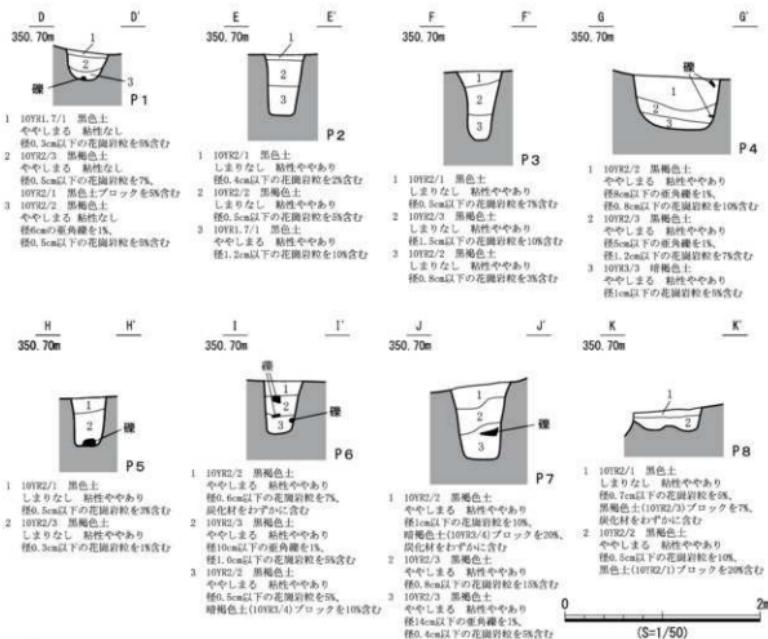


図43 SB1遺構図(2)・出土遺物実測図

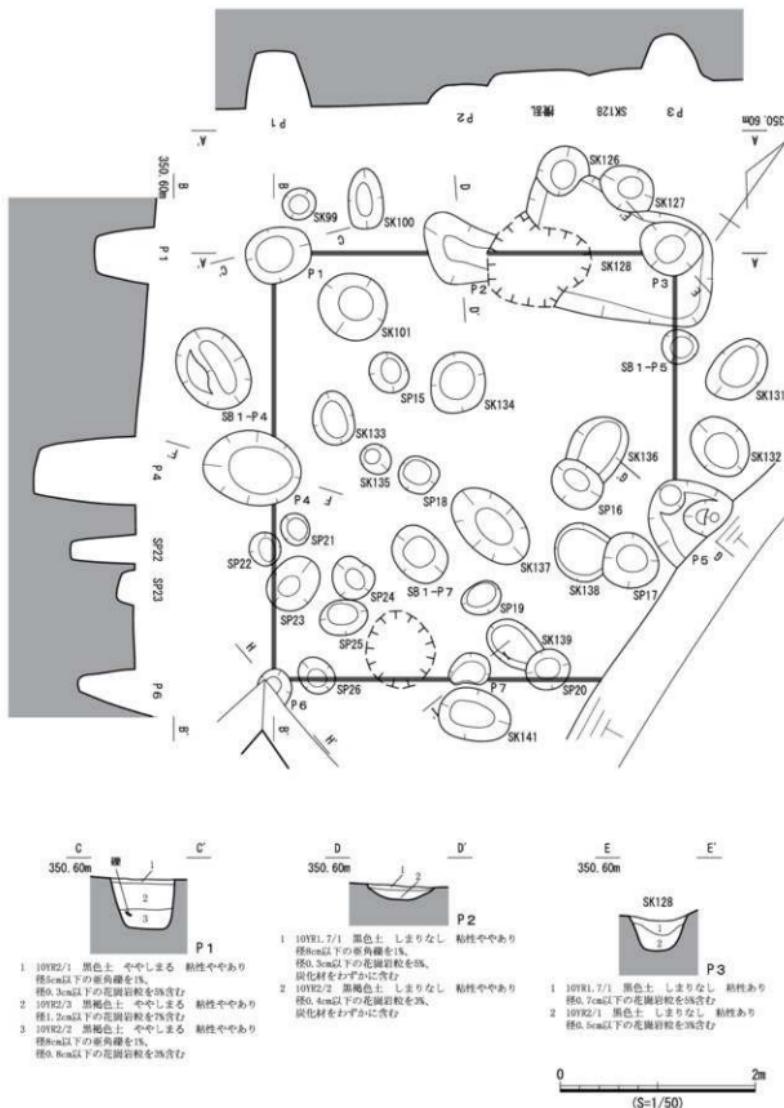


図44 SB 2遺構図(1)

連続刺突を横位・帶状に3段施す。

時期 SA 2 とほぼ直交することから中世後期の可能性がある。柱穴から出土した縄文土器や石器は、後世の掘削時に混入したと想定される。

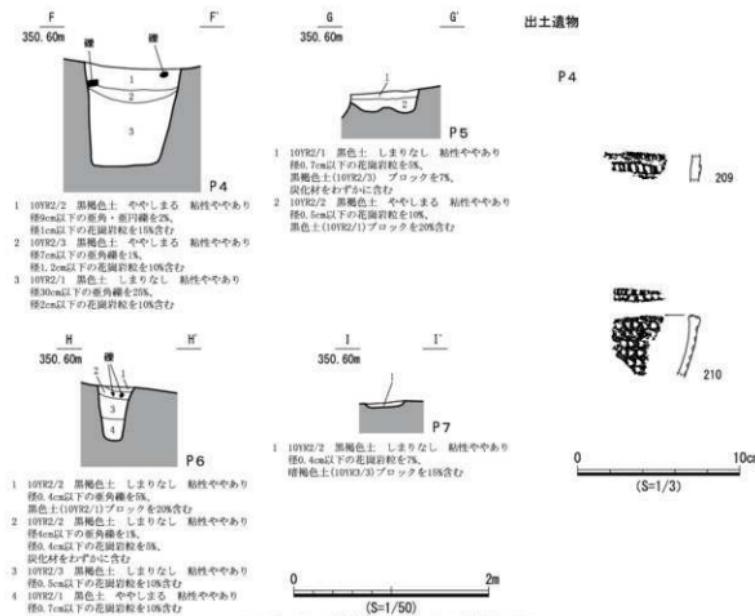


図45 SB 2 遺構図 (2) •出土遺物実測図

2 塚・柵

SA 1 (図46)

検出状況 D 4～5、E 4 グリッド、I 層基底面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P 1 は SK 3・SK 4 と重複し、SK 3 よりも古く、SK 4 よりも新しい。また、P 1 と P 3 の西部はいずれも擾乱と重複する。

規模・形状 3間 (6.00m、柱間1.86m-2.22m) である。長軸方位は N-52° - E で、SB 1・SA 2・SA 3・SA 4・SA 7 とほぼ同じで、SB 2・SA 5 とほぼ直交する。

柱穴 平面形は円形若しくは梢円形で、径は0.34～0.90m、深さは0.13～0.28mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器1点が出士した。

出土遺物 出土した縄文土器は小片のため図示しなかった。

時期 SA 2と方向が類似することから、本遺構は中世後期のもの可能性がある。柱穴から出土した縄文土器は、後世の混入と考える。

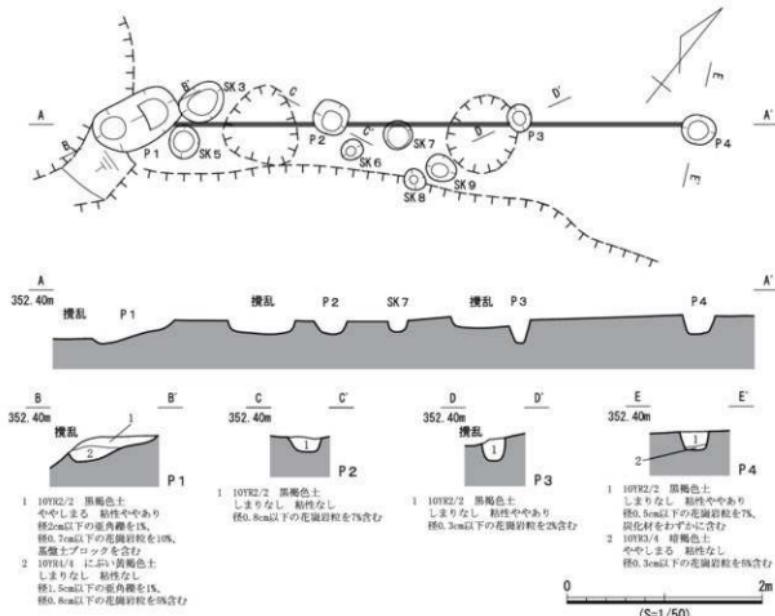
SA 2(図47)

検出状況 C 6・D 5～6 グリッド、I 層基底面で検出した。4 基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形は P 3 が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P 1 は SK12・P 2 は SK19・P 3 は SK50・P 4 は SK42 と重複する。重複関係から、本遺構は SK12・SK19・SK42・SK50 よりも新しい。また、P 4 の南部は擾乱により消失する。

規模・形状 3間(5.40m、柱間1.64m-2.06m)である。長軸方位はN-60°-Eで、SB 1・SA 1・SA 3・SA 4・SA 7 とほぼ同じで、SB 2・SA 5 とほぼ直交する。

柱穴 平面形は円形若しくは梢円形で、径は0.36～0.53m、深さは0.16～0.38mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器2点と中世陶器1点が、それぞれ散在して出土した。

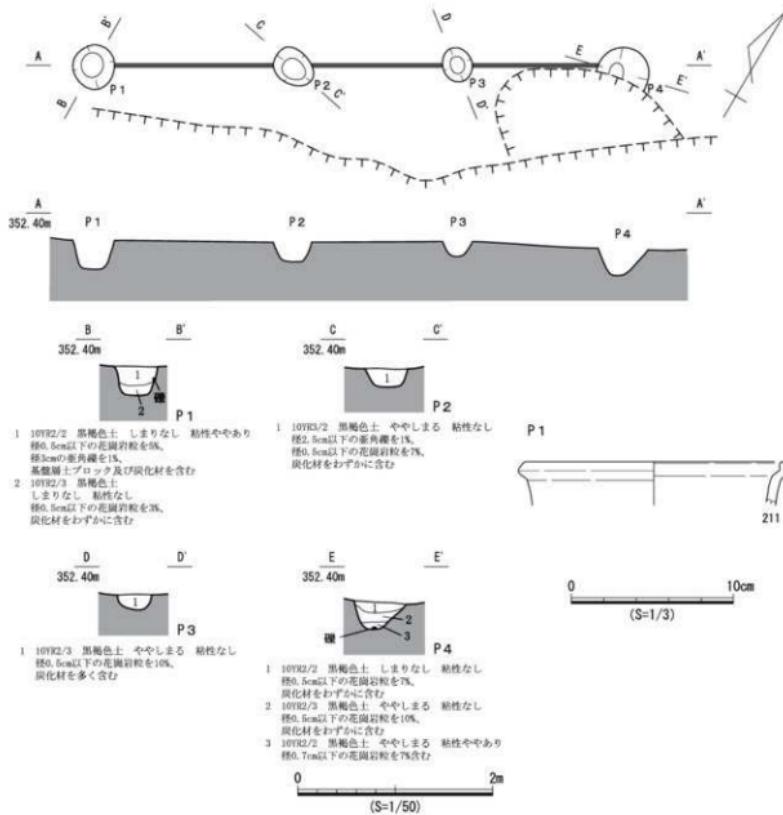
出土遺物 P 1 から出土した古瀬戸中II期の柄付片口(211)を図示した。口縁部内外面に灰釉を施す。破損後の二次被熱が認められる。



時期 出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考える。柱穴から出土した縄文土器は、後世の混入と考える。

SA3 (図48・49)

検出状況 B 7～9、C 7～8 グリッド、1 層基底面で検出した。P6 は一部を検出し、北部は発掘区外に続く。6 基の柱穴がほぼ等間隔に並び、南西側の P3 ではほぼ直角に曲がる。柱穴の平面形は P3 が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P1 は SK64 と重複し、SK64 よりも新しい。また、P3 は攢乱と重複する。北西部及び北東部は発掘区外側に展開する可能性があるため、側柱建物となることも想定される。



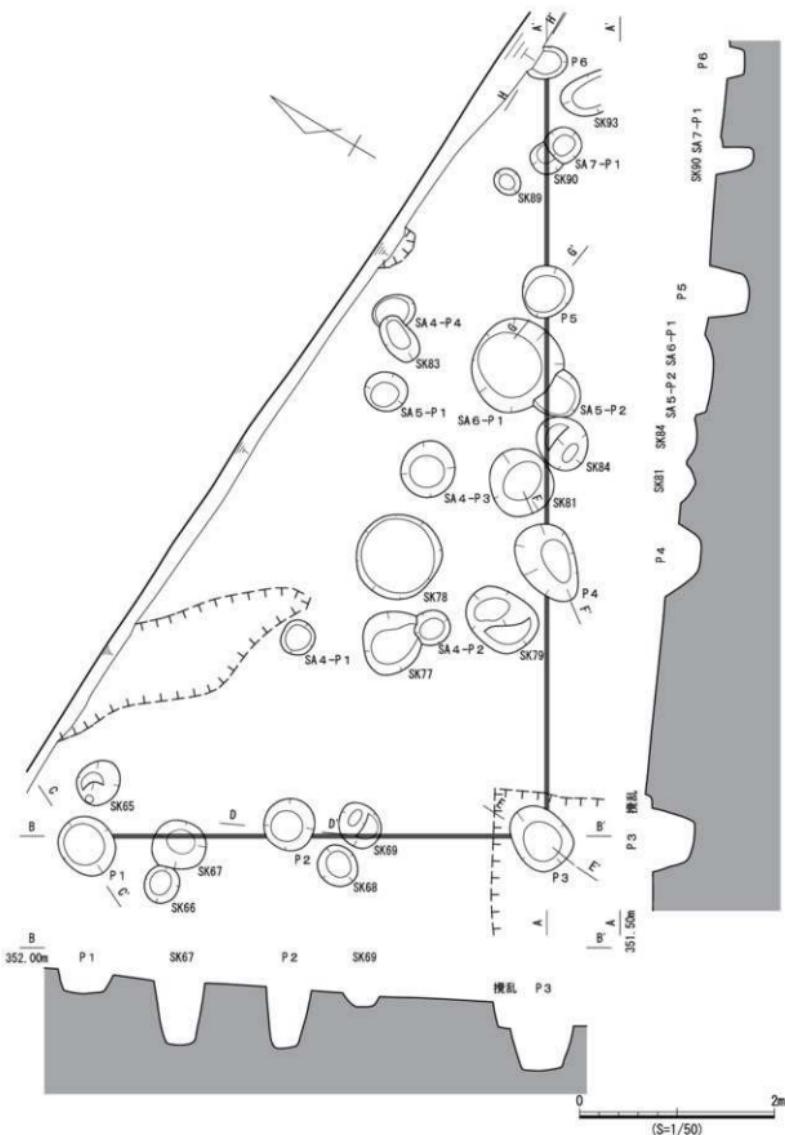


図48 SA 3 造構図（1）

規模・形状 東西方向3間(7.98m、柱間2.38m-2.90m)、南北方向2間(4.74m、柱間2.10m-2.64m)である。長軸方位はN-60°-Eで、SB1・SA1・SA2・SA4・SA7とほぼ同じで、SB2・SA5とほぼ直交する。

柱穴 平面形は円形若しくは梢円形で、径は0.44-0.86m、深さは0.20-0.52mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器49点が、

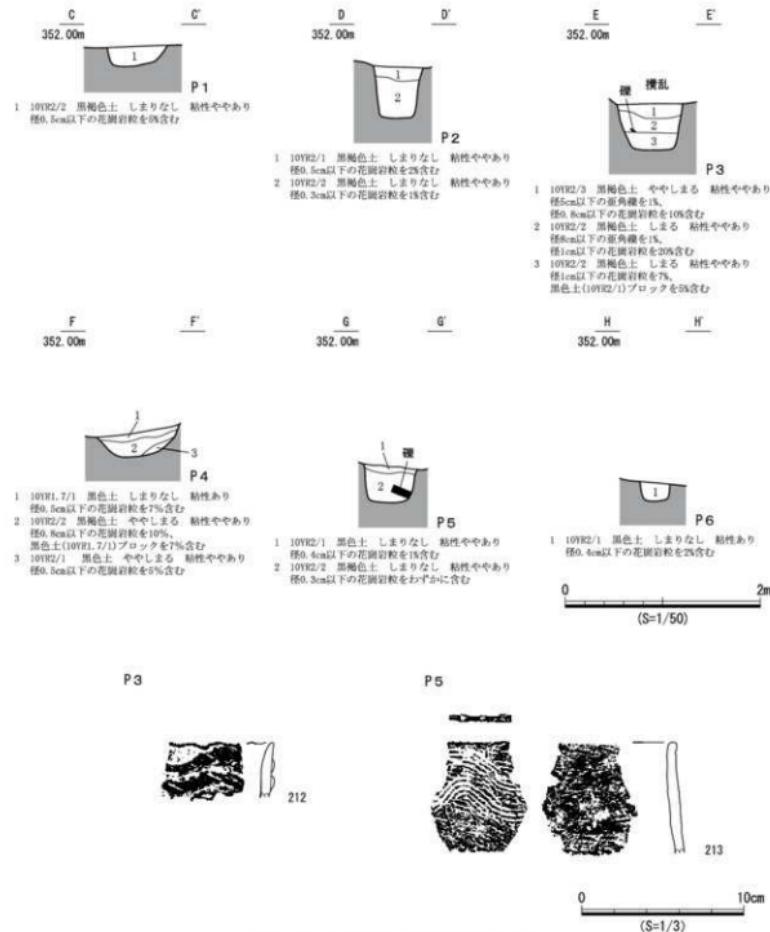


図49 SA3遺構図(2)・出土遺物実測図

それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P3・P5から出土した縄文土器2点(212・213)を図示した。212はZ1b類で、波状口縁である。口縁部外面に波状の粘土紐を横位に2条貼付し、その上から条線を施す。213はS1f類である。平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に貝殻腹縁により波線を施す。

時期 SA2と方向が類似することから、本遺構は中世後期のもの可能性がある。柱穴から出土した縄文土器は、後世の混入と考える。

SA4(図50)

検出状況 B7～8、C8グリッド、I層基底面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔に並び、南西部のP2ではほぼ直角に曲がる。柱穴の平面形はP4が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P2はSK77、P4はSK83と重複する。重複関係から、本遺構はSK77、SK83よりも新しい。本遺構は発掘区外側に展開し、側柱建物となることも想定される。

規模・形状 東西方向2間(3.22m、柱間1.60m-1.62m)、南北方向1間(1.48m)である。長軸方位はN-52°-Eで、SB1・SA1・SA2・SA3・SA7とほぼ同じで、SB2・SA5とほぼ直交する。

柱穴 平面形は円形若しくは梢円形で、径は0.36～0.57m、深さは0.12～0.36mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器19点と石器1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P1・P3から出土した縄文土器2点(214・215)を図示した。214はS1e類である。平口縁である。口縁部外面に2条、口縁部内面に1条、連続した刺突を施す。外面の刺突は羽状となる。215はS1d類である。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に波状の隆帯を横位に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。隆帯より下側に、連続した刺突を水平に施す。内面には条痕が認められる。

時期 SA2と方向が類似することから、本遺構は中世後期のもの可能性がある。柱穴から出土した縄文土器と石器は、後世の混入と考える。

SA5(図51)

検出状況 B8、C8～9グリッド、I層基底面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P2はSA6-P1と重複し、SA6-P1よりも古い。北西部が発掘区外側に展開する可能性がある。

規模・形状 3間(5.30m、柱間1.72m-1.82m)である。長軸方位はN-29°-Wで、SB2・SA5とほぼ同じで、SB1・SA1・SA2・SA3・SA4・SA7とほぼ直交する。

柱穴 平面形は概ね円形若しくは梢円形で、径は0.44～0.58m、深さは0.12～0.73mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器25点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P4から出土した縄文土器2点(216・217)を図示した。216はS3類である。文様が確認できることから口縁部付近と考える。外面に押引き状沈線文を施すが、文様の上半は欠損する。217は1類の底部である。底部内外面に条痕が認められる。

時期 SA2とほぼ直交することから、本遺構は中世後期のもの可能性がある。柱穴から出土した縄文土器は、後世の混入と考える。

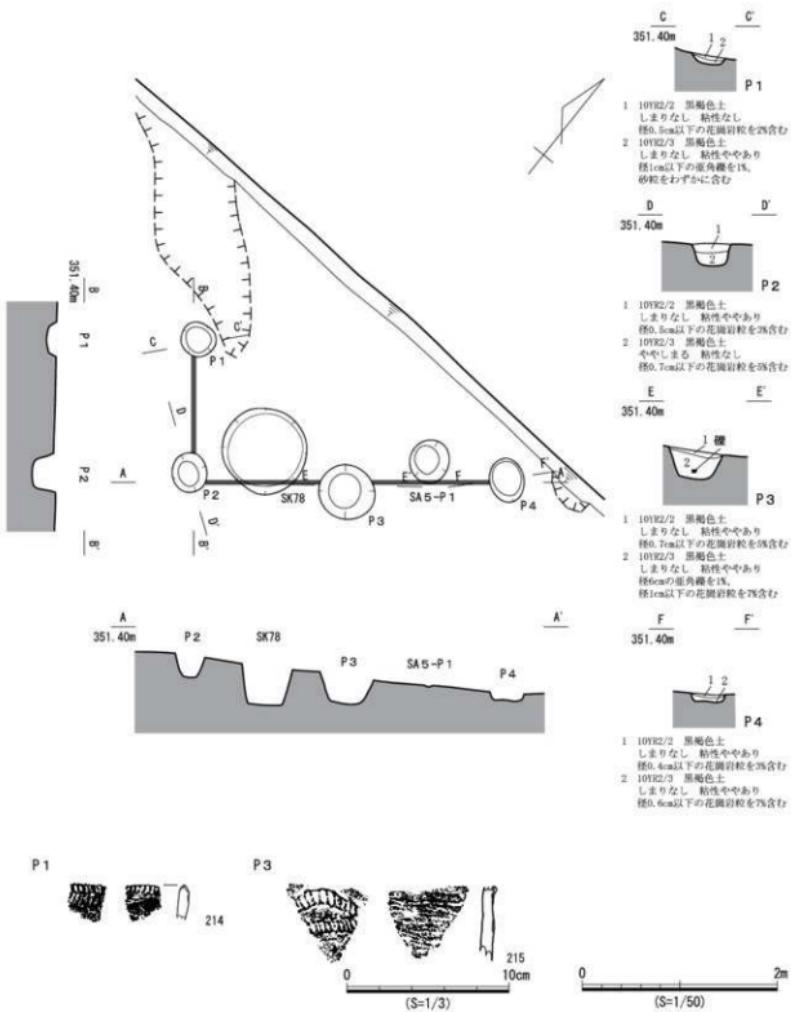


図 50 SA 4 遺構図・出土遺物実測図

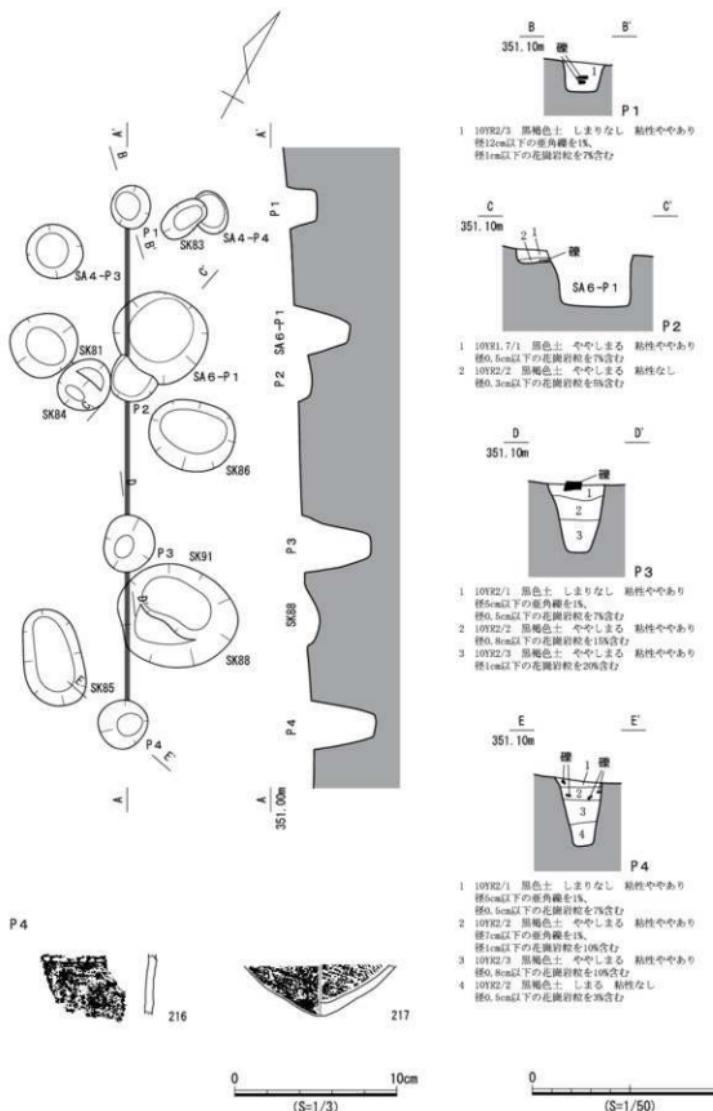


図 51 SA 5 遺構図・出土遺物実測図

SA 6 (図52・53)

検出状況 B 8、C 8～10グリッド、I 層基底面で検出した。5基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP 1、P 4が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P 1はSA 5～P 2、P 2はSK87、P 4はSK120と重複する。重複関係から、本遺構はSA 5～P 2・SK87・SK120よりも新しい。P 6の東側にある柱穴は、西区と東区の間に存在した石垣を設けた際に消失した可能性があり、本遺構はさらに東側に展開していたことも想定される。

規模・形状 4間(8.20m、柱間1.98m-2.14m)である。長軸方位はN-72°-Wで、SA10とほぼ同じである。

柱穴 平面形は円形若しくは楕円形で、径は0.47～0.95m、深さは0.18～0.72mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器26点・灰釉陶器1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P 1から出土した縄文土器(218)とP 5から出土した灰釉陶器(219)を図示した。218はS 1 f類である。平口縁で、口縁部外面に貝殻腹縁により連弧線を施す。219は壺・瓶類の胴部である。胴部外面に自然釉が付着する。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものと考える。柱穴から出土した縄文土器は、後世の混入と考える。

SA 7 (図54・55)

検出状況 B 9～10、C 9グリッド、I 層基底面で検出した。5基の柱穴がほぼ等間隔に並び、南西部のP 3ではほぼ直角に曲がる。柱穴の平面形はP 3・P 5が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P 1はSK90、P 4はSK117、P 5はSK111・SK112と重複する。重複関係から、本遺構はSK111よりも古く、SK90・SK117・SK112よりも新しい。本遺構は発掘区外側に展開し、側柱建物となることも想定される。

規模・形状 東西方向2間(3.50m、柱間1.58m-1.9m)、南北方向2間(2.90m、柱間1.44m-1.46m)である。長軸方位はN-58°-Eで、SB 1・SA 1・SA 2・SA 3・SA 4とはほぼ同じで、SB 2・SA 5とほぼ直交する。

柱穴 平面形は概ね円形若しくは楕円形で、径は0.34～0.86m、深さは0.23～0.38mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器17点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P 3・P 4から出土した縄文土器3点(220～222)を図示した。220はS 1 b類である。平口縁で、口唇部に交互押捺を施す。221はZ 1 b類である。文様が確認できることから、口縁部付近と考

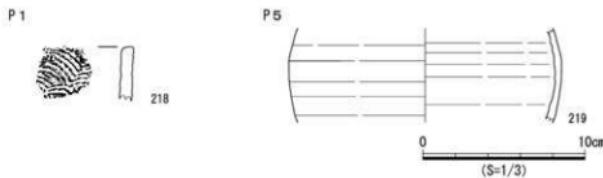


図 52 SA 6 出土遺物実測図

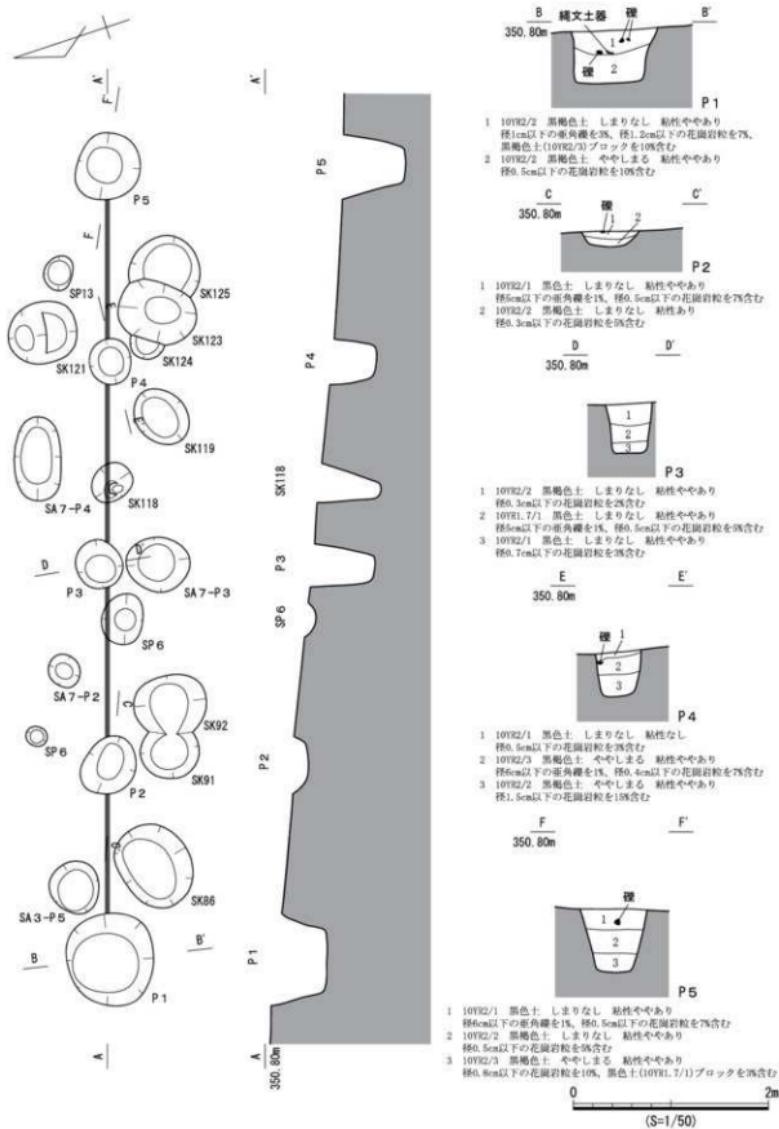


図 53 SA 6 遺構図

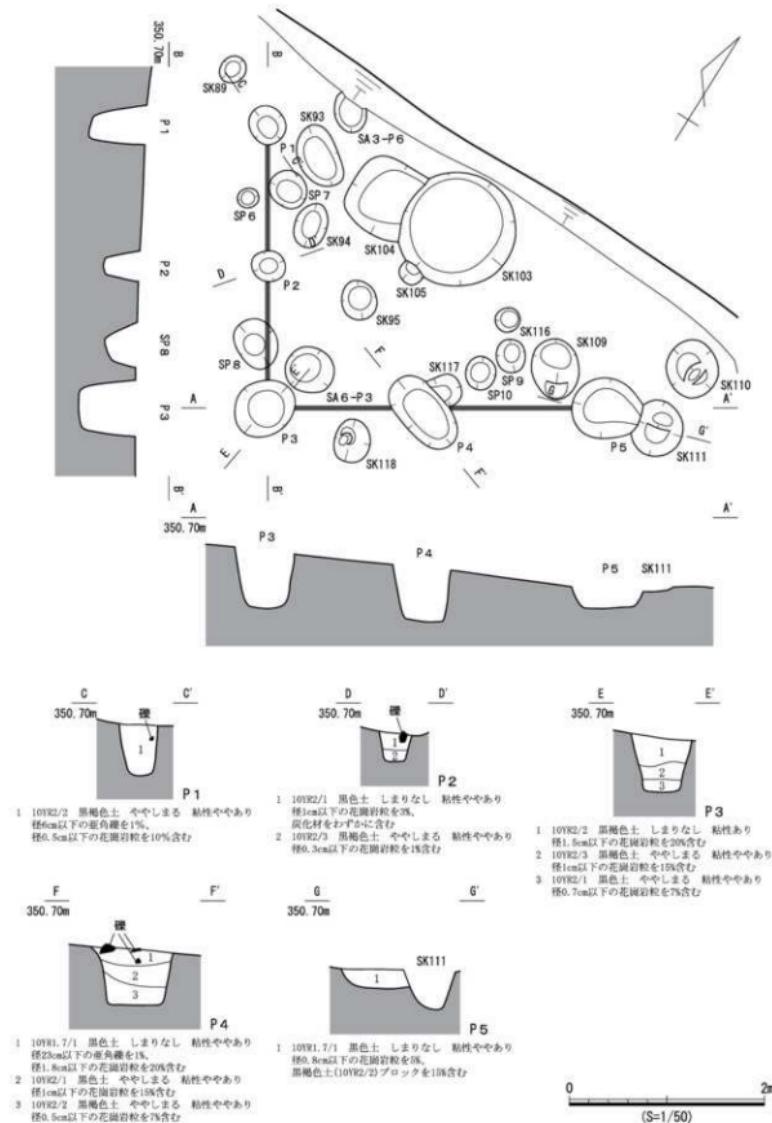


図54 SA7 遺構図

える。外面に粘土紐を横位に2条貼付し、その上から条線を施す。粘土紐は1条目が波状、2条目は水平となる。222はZ5類である。口縁部から頸部にかけてで、外面に凸帯を横位に2条貼する。凸帶上の刺突には凹凸が認められ、貝殻腹縁による刺突若しくは繩文を押捺したもの可能性がある。

時期 SA2と方向が類似することから、本遺構は中世後期のもの可能性がある。柱穴から出土した繩文土器は、後世の混入と考える。

SA8（図56）

検出状況 D12～13グリッド、III層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP3・P4が不明瞭で、P1・P2は明瞭であった。P1はSK216、P2はSK265、P3はSK301、P4はSK303・SA9-P2と重複する。重複関係から、本遺構はSK303よりも古く、SA9-P2・SK216・SK265・SK301よりも新しい。

規模・形状 3間（5.14m、柱間1.42m-1.92m）である。長軸方位はN-90°-EWで、SA9とはほぼ同じである。

柱穴 平面形は概ね円形若しくは楕円形であるが、P4の北東部はSK303と重複しており、本来の形状は不明である。径は0.53～0.80m以上、深さは0.12m以上～0.34mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から繩文土器13点・石器1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P4から出土したC3b類の繩文土器（223）を図示した。胴部である。胴部外面の地文は繩文（RL）で、平行沈線により横位に直線文や弧文を施す。

時期 地形ではなく、東西方位に合わせて設置しており、繩文時代よりも新しい可能性がある。II層からは古代から中世にかけての遺物が出土しており、本遺構は古代から中世のもの可能性がある。柱穴から出土した繩文土器と石器は、後世の混入と考える。

SA9（図57）

検出状況 D12～14グリッド、III層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。柱穴の平面形はP2が不明瞭で、それ以外はいずれも明瞭であった。P1はSK300、P2はSA8-P4・SK301・SK302と重複する。重複関係から、本遺構はSA8-P4・SK300・SK301・SK302よりも古い。また、P3の南側の一部は擾乱と重複する。

規模・形状 3間（5.40m、柱間1.68m-1.92m）である。長軸方位はN-90°-EWで、SA8とはほぼ同じである。

柱穴 平面形は概ね円形若しくは楕円形で、径は0.44m以上～1.30m、深さは0.14～0.58mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から繩文土器15点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P2から出土したS2類の繩文土器（224）を図示した。文様が確認できることから、口縁部付近と考える。外面に波状の粘土紐を横位に2条貼付し、その上から連続した刺突を施す。

時期 SA8と同様の理由で、本遺構は古代から中世のものと考える。柱穴から出土した繩文土器は、後世の混入と考える。

SA10（図58）

検出状況 D13～14グリッド、III層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。

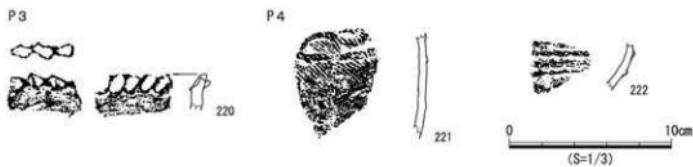


図 55 SA 7出土遺物実測図

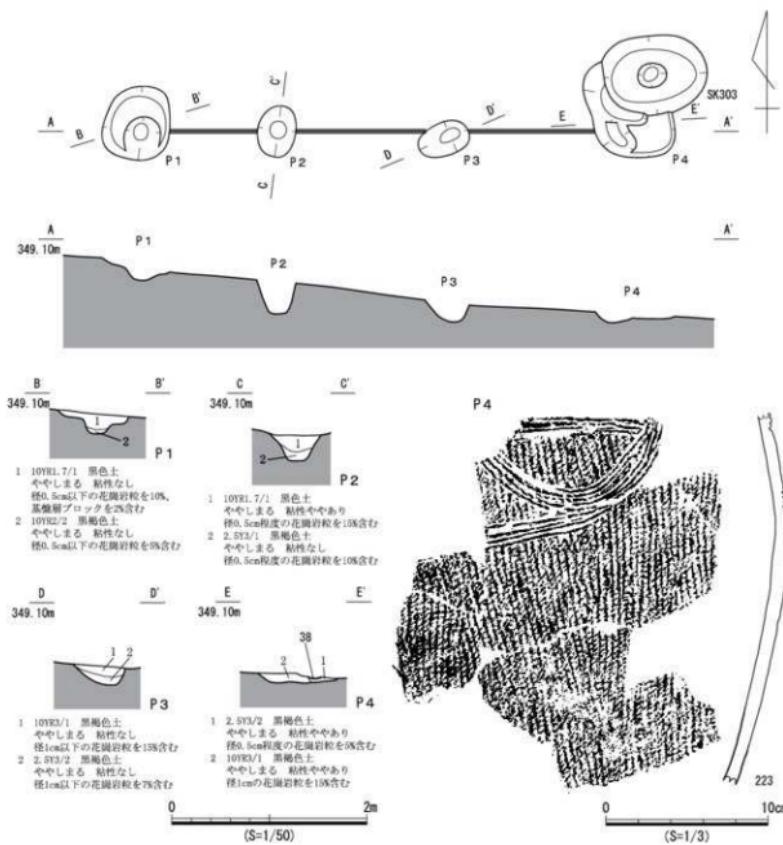


図 56 SA 8 遺構図・出土遺物実測図

柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。P 4 はSK352と重複し、SK352よりも古い。

規模・形状 3間（5.5m、柱間1.72m-1.90m）である。長軸方位はN-76°-Wで、SA 6 とほぼ同じである。

柱穴 平面形は円形若しくは梢円形で、径は0.30~0.70m、深さは0.12~0.41mである。いずれも柱痕跡等の特徴的な堆積状況は認められなかった。本遺構を構成する柱穴の埋土から縄文土器5点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P 1 から出土したC 3 c類の縄文土器（225）を図示した。口縁端部は欠損する。口縁部外

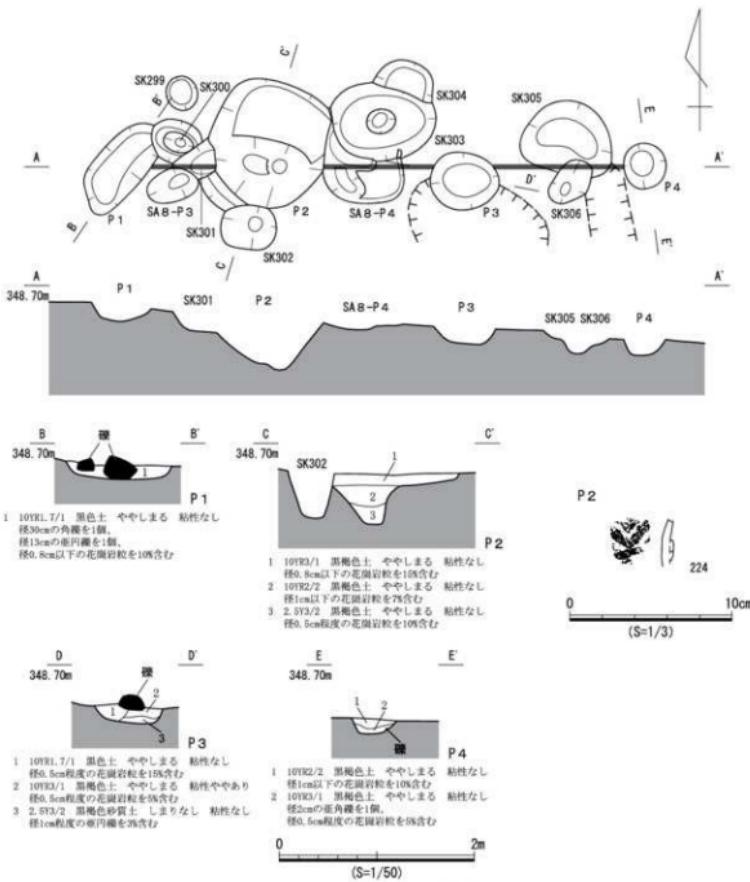
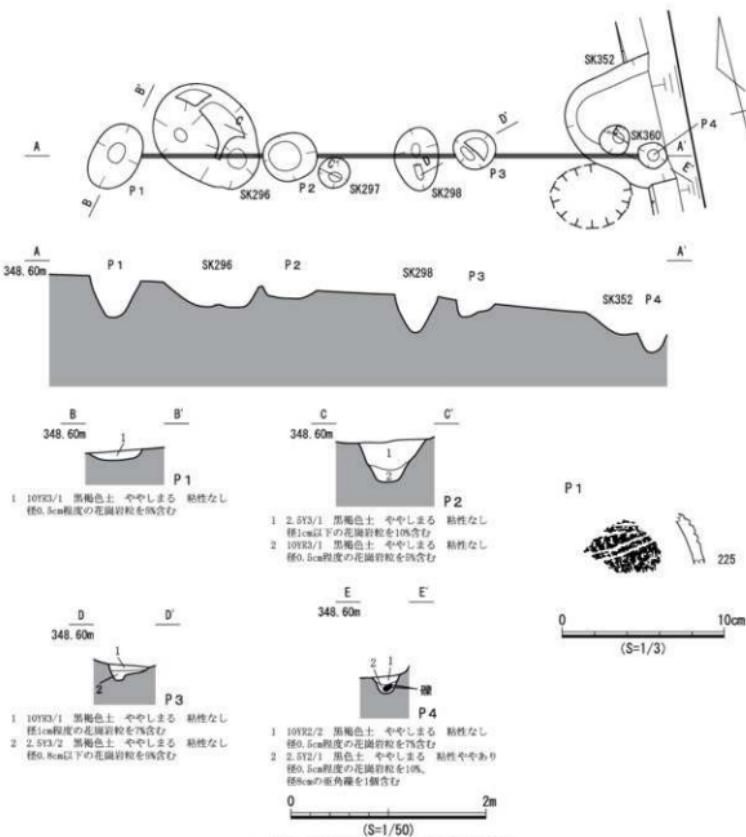


図57 SA 9 遺構図・出土遺物実測図

面にはスグが厚く付着しており地文が判然としないが、撲糸文と考える。平行沈線により直線文と弧文を施す。

時期 SA 6 と方向が類似することから古代の可能性がある。柱穴から出土した縄文土器は、後世の混入と考える。



3 単独柱穴

SP 9 (図59)

検出状況 B 9 グリッド、1層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.33m、短軸長0.30m、深さ0.53mで、平面形は円形、断面形は概ね長方形で上

端付近のみ開く。

埋土 3層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器1点と陶磁器1点が、散在して出土した。

出土遺物 龍泉窯系IIaの青磁碗(226)を図示した。口縁部外面に蓮弁文が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は中世前期のものと考える。

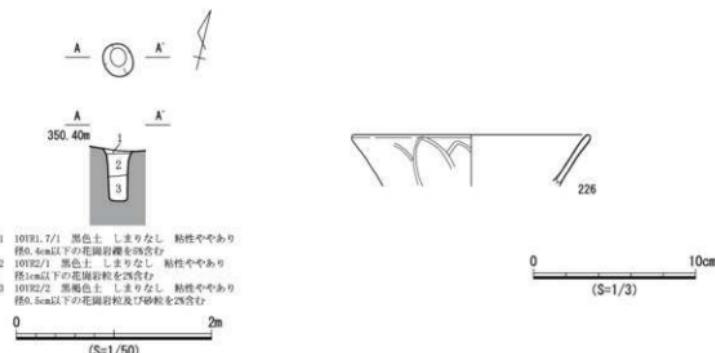


図 59 SP 9 遺構図・出土遺物実測図

4 土坑

SK13 (図60)

検出状況 C・D 5グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK14より新しい。

規模・形状 長軸長0.78m、短軸長0.55m、深さ0.39mで、平面形は不整椭円形、断面形は2段の掘り込みである。西側にテラスを有する。

埋土 3層に分層した。いずれも中央が壅む堆積である。堆積状況は不明である。縄文土器1点・土師器3点・金属製品1点が、散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A 2 c類(227)を図示した。口縁部外面に1段ナデが認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は中世前期のものと考える。

SK75 (図60)

検出状況 C 7グリッド、I層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK74より古い。南側がSK74により消失する。

規模・形状 長軸長0.29m以上、短軸長0.22m以上、深さ0.20mで、平面形は椭円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。縄文土器7点・山茶碗1点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 f類の縄文土器(228)と尾張型第5型式の山茶碗の碗(229)を図示した。228は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に貝殻腹縁により斜位の沈線を施す。229は口縁部を

丸くおさめる。

時期 出土遺物から、本遺構は中世前期のものと考える。

SK76（図60）

検出状況 C 7～8 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK74より古い。西側の一部がSK74により消失する。

規模・形状 長軸長0.44m、短軸長0.39m、深さ0.42mで、平面形は円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。中央が壅む堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器3点・山茶碗1点が、散在して出土した。

出土遺物 大洞東1号窯式～脇之島3号窯式の山茶碗の碗（230）を図示した。口縁部内面の全体に漆が付着する。

時期 出土遺物から、本遺構は中世後期のものと考える。

SK119（図60）

検出状況 C 9 グリッド、I 層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK120より新しい。

規模・形状 長軸長0.64m、短軸長0.51m、深さ0.47mで、平面形は梢円形、断面形は台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。須恵器5点が、散在して出土した。

出土遺物 須恵器の甕の胴部（231）を図示した。胴部外面に平行タタキ目、胴部内面に同心円当具痕が認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものと考える。

SK132（図60）

検出状況 C・D10 グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.65m、短軸長0.53m、深さ0.59mで、平面形は梢円形、断面形は台形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器2点・須恵器1点が、散在して出土した。

出土遺物 S 1 e 類の縄文土器（232）と須恵器の壺・瓶類（233）を図示した。232は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を横位に1条施す。233は胴部で、胴部外面に回転ナデと回転ヘラケズリが認められる。

時期 出土遺物から、本遺構は古代のものと考える。

SK301（図60）

検出状況 D13 グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSA 8-P3・SK300より古くSA 9-P2より新しい。西部がSK300・SA 8-P3により、部分的に消失する。

規模・形状 長軸長0.52m以上、短軸長0.33m以上、深さ0.16mで、平面形は概ね梢円形、断面形は台形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積で、堆積状況は不明である。縄文土器1点が出土した。

出土遺物 Z 5 類の縄文土器（234）を図示した。細片で部位は不明である。外面に地文（R L）を施す。また、外面に垂下する隆帯を1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。

時期 本遺構は重複関係からSA 9-P2より新しいため、古代から中世以降のものと考える。



図 60 SK13・SK75・SK76・SK119・SK132・SK301 遺構図・出土遺物実測図

第6節 攪乱・表土・包含層出土遺物

ここでは、攪乱・表土・包含層から出土した遺物について報告する。当遺跡で確認できた遺構の時期と重なる縄文時代・古代・中世の遺物のうち、残存状態の良好なものを選択し、94点を図示した（図61～64）。

235～299は縄文土器である。235～237はS 1 a類である。235は波状口縁で、波頂部に楕円形の面を設けその上に連続した刺突を施す。口縁部外面に波状の連続した貝殻腹縁による刺突を横位に1条施す。口縁部内面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。236は波状口縁で口唇部に連続した押し引き状の刺突を施す。口縁部外面に波状の連続した貝殻腹縁による刺突を横位に1条施す。口縁部内面に指頭圧痕が認められる。237は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した横位の刺突を施す。口縁部外面では条痕をナデ消しているが、口縁部内面では条痕が認められる。238～243はS 1 b類である。238は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に1条貼付する。口唇部と隆帯上に交互押捺を施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。239は平口縁で、口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付し、その上に交互押捺を施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。240は平口縁で、口唇部に交互押捺を施す。口縁部内外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。241は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付する。口縁端部外面から1条目の隆帯上にかけて竹管状工具による刺突を交互に施す。2条目の隆帯上には連続した竹管状工具による刺突を施す。242は平口縁で、口唇部に交互押捺を施す。口縁部外面に羽状の刺突を水平に1条施す。口縁部外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。243は平口縁で口唇部に突起を有する。口縁部外面に隆帯を1条水平に貼付する。口唇部・突起・隆帯上に交互刺突が認められることからS 1 b類に含めた。口縁部内面に指頭圧痕や条痕をナデ消した痕跡が認められる。244はS 1 c類で、平口縁である。口縁端部外面に連続した刺突を水平に1条施す。口縁部外面に隆帯を水平に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。口縁部内面に連続した刺突を水平に2条施す。245・246はS 1 d類である。245は波状口縁で波頂部が残存する。口唇部に連続した刺突を施す。口縁端部外面には口唇部に沿って連続した刺突を横位に2条施す。口縁部外面に波状の隆帯を横位に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。246は平口縁で、口唇部に連続した刺突を施す。口縁端部外面に水平に2条、口縁端部内面に水平に1条、連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を水平に3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。口縁部内面に条痕が認められる。247はS 1 e類である。平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に連続した刺突を斜位に3条施す。口縁部内面に輪積痕が認められる。248～250はS 1 f類である。248は平口縁で口唇部に連続した貝殻腹縁による刺突を施す。口縁部外面に貝殻腹縁による連弧線を施す。口縁部内面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。249は平口縁で、口唇部に刺突を施す。口縁部外面に貝殻腹縁による弧線を施す。250は平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に貝殻腹縁による波線を施す。251・252はS 2類である。251は平口縁で、口縁部外面に粘土紐を2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。粘土紐は1条目が水平、2条目が斜位となる。252は平口縁で、口縁部外面に粘土紐を3条貼付し、その上に連続した刺突を施す。粘土紐は1条目が水平、2条目・3条目が波状となる。253はS 5類である。平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に隆帯を横位に2条貼付する。隆帯上は無文である。254はS 6類である。平口縁で口唇部

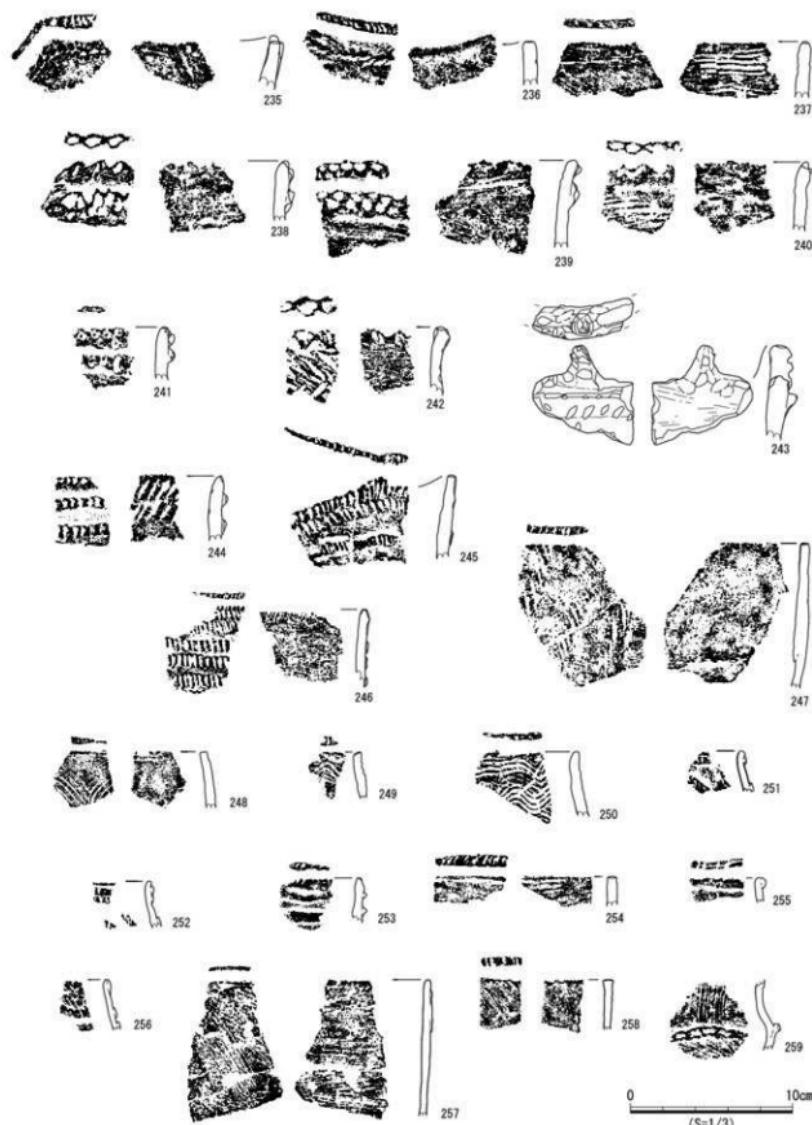


図61 摆亂・表土・包含層出土遺物実測図(1)

に連続した刺突を施す。口縁部外面に条痕が認められる。255・256はZ 1 b類である。255は平口縁で、口縁部に連続した刺突を施す。口縁端部外面に粘土紐を水平に1条貼付し、その上から条線を施す。256は平口縁で口縁部外面に粘土紐を横位に3条貼付し、その上から条線を施す。粘土紐は1条目と3条目は水平、2条目は波状となる。257～261はZ 1 c類である。257は平口縁で、口縁部外面に条線を斜位に施す。口縁部外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。口縁部外面に厚くススが付着する。258は平口縁で、口唇部に連続した貝殻腹縁による刺突を施す。口縁部外面に条線を斜位に施す。口縁部外面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。259は口縁部から胴部で、口縁部と胴部の境に摘みが認められる。口縁部に縦位、胴部に斜位の条線を施す。260は平口縁で、口唇部に連続した貝殻腹縁による刺突を施す。口縁部外面に条線を斜位に施す。口縁部外面に条痕が認められる。261は波状口縁で、波頂部が残存する。口唇部に連続した貝殻腹縁による刺突を施す。口縁部外面に条線を斜位に施す。口縁部外面に条痕が認められる。また、補修孔と想定される焼成後の穿孔が認められる。262・263はZ 2類である。262は平口縁である。口縁部外面に連続したE字形刺突を水平に3条施す。263は平口縁で口唇部に連続した刺突を施す。口縁部外面に幅2cmほどの粘土紐を水平に1条貼付し、その上に連続したE字形刺突を水平に3条施す。264はZ 4類である。胴部で外面に連続したD字形刺突を水平に3段施す。胴部外面に条痕が認められる。265・266はZ 5類である。265は平口縁で、口縁部外面の地文は繩文(R L)である。口縁部外面に凸帯を水平に2条貼付し、その上に連続した刺突を施す。266の部位は不明である。外面に凸帯を4条貼付する。凸帯は1条目から3条目が水平、4条目が横位に波状となる。1条目から3条目の凸帯上には連続した鋸歯状の刺突を施し、4条目の凸帯上には連続した斜位の刺突を施す。1条目と2条目の凸帯の間には器面に連続した刺突を施す。267～269はZ 6類である。267は平口縁で、口縁端部外面に面を有する。口縁部外面の地文は繩文(R L)である。口縁端部内面に繩文(L R)を施す。また口縁端部内外面には対応する位置に2箇所ずつ刺突を施す。268は口縁部から頸部にかけてである。口縁部外面に凸帯を斜位に2条貼付し、その上から凸帯より幅の狭い竹管状工具で平行沈線を施す。また凸帯の下部に接続するように平行沈線を横位に1条施す。頸部外面には平行沈線を水平に1条施す。269の部位は不明である。外面の地文は繩文(R L)である。外面に連弧状の凸帯を横位に1条貼付し、その上に凸帯より幅の狭いΣ字状工具で押引きを施す。270はZ 7類である。波状口縁で波頂部が残存する。口縁部外面に円形とV字の隆帶を貼付する。口唇部と隆帶上に連続した貝殻腹縁による刺突を施す。口縁部内面に条痕をナデ消した痕跡が認められる。271はZ 10類である。平口縁で、口縁部外面に鋸歯状印刻文と平行沈線を施す。272～275はC 1類である。272は平口縁である。口唇部の外側に連続した刺突を施し、内側に繩文(R L)を施す。口縁部外面の地文は繩文(R L)で、隆帶を水平に1条貼付し、その上に連続した刺突を施す。273は平口縁で、口唇部に刺突を1ヶ所施す。口縁端部外面に隆帶を水平に1条貼付する。その上に、磨滅により不明瞭だが、連続爪形文が認められる。口縁部外面に押し引き状の刺突を水平に4条施す。274は波状口縁で波頂部が残存する。口縁部外面の地文は繩文(R L)である。口縁端部外面には口唇部に沿う波状の隆帶と、それに接続し垂下する隆帶をそれぞれ1条貼付し、その上に連続爪形文を施す。また、口縁部に繩文(L R)を逆U字にして押捺する。口縁端部内面には繩文(R L)を施す。275は平口縁である。口縁端部に隆帶を貼付し、その上に連続爪形文を施す。口縁部外面の地文は繩文(R L)で、沈線を5条施す。3条目と4条目の間には連続した刺突を施し、5条目の下には連続爪形文

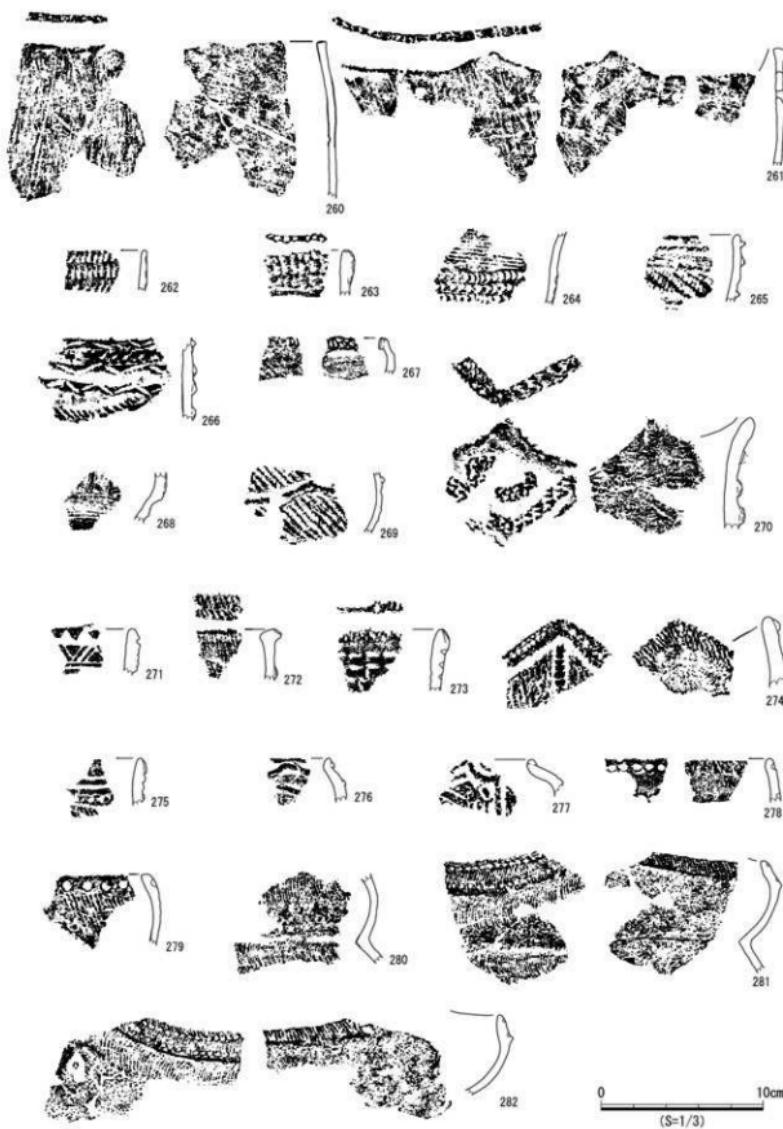


図62 摆亂・表土・包含層出土遺物実測図(2)

を施す。276・277はC 2類である。276は平口縁で口縁部外面に波状の隆帯を横位に2条貼付する。277は波状口縁である。口縁部外面の地文は繩文（R L）で、沈線や隆帯で文様を施す。278～285はC 3 a類である。278は平口縁で、口縁部外面に円形刺突列を水平に2条施す。口縁端部内面に繩文（R L）を施す。279は平口縁である。口縁部外面の地文は無節の繩文（R）である。口縁端部外面に円形刺突列を水平に1条施す。280～282は胎土や文様・器厚・調整が類似しており、同一個体の可能性がある。280は口縁部から頸胴部である。C字爪形文帶を水平に口縁部外面に1条、頸胴部外面に2条施す。C字爪形文帶は、頸胴部の1条のみ両端が残存しており幅約1.6cmである。281は口縁部から頸胴部にかけてである。波状口縁である。口縁部外面に波状のC字爪形文帶を横位に3条施した後、2条目のC字爪形文帶の上下に円形刺突列を横位に1条ずつ施す。C字爪形文帶の幅は、1条目が約0.6cm、2条目が約1.3cm、3条目が約2cmとなる。また、2条目と3条目のC字爪形文帶の間には微隆起線が認められる。頸胴部外面にはC字爪形文帶を水平に2条施す。C字爪形文帶の幅は1条目が約1.7cmで2条目は部分的に確認できるのみで不明である。口縁端部内面には繩文（R L）を施す。282は平口縁で、口縁部外面に波状のC字爪形文帶を横位に3条施した後、2条目のC字爪形文帶の上下に円形刺突列を横位に1条ずつ施す。C字爪形文帶の幅は、1条目が約0.6cm、2条目が約1.3cm、3条目が約2cmとなる。2条目と3条目のC字爪形文帶の間には微隆起線が認められる。また、口縁部外面の波頂部下には円形浮文が認められるが、大部分が欠損する。円形浮文の中央には竹管状工具により円形刺突を施し、円形刺突を廻るように連続したI字刺突を施す。口縁端部内面に繩文（R L）を施す。283は口縁部から頸部にかけてである。口縁部及び頸部外面の地文は繩文（R L）で、連続した刺突を斜位に2条施す。また、円形浮文が認められ、浮文上には連続したI字刺突を施す。また、浮文を廻るように連続した円形刺突を施す。284は波状口縁である。口縁端部外面に波状の円形刺突列を横位に1条施す。口縁部外面に波状の隆帯を横位に1条貼付する。隆帯より上側には隆帯に沿う波状の連続した刺突を横位に1条施す。刺突後に板状工具によるナデを斜位に施す。285は平口縁で、口縁部外面の地文は繩文（R L）である。口縁端部外面に円形刺突列を水平に1条施す。口縁部外面に円形浮文の一部が認められ、浮文を廻るように連続した円形刺突を施す。口縁端部内面には繩文（R L）を施す。286～290はC 3 c類である。286は平口縁である。口縁部外面の地文は深浅繩文である。口縁端部外面に平行沈線で細密波状文を水平に1条施す。口縁端部内面に深浅繩文を施す。287は口縁部から頸胴部にかけてである。口縁部外面と胴部外面の地文は撚糸文で、平行沈線により文様を施す。口縁部内面には水平な弧文を2条施し、それを区切るような縱長梢円形の中心文様の一部が認められる。胴部外面には細密波状文を水平に1条と連弧文を水平に2条施す。頸部外面は無文となる。288は口縁部から頸部にかけてである。口縁部外面の地文は撚糸文で、平行沈線により文様を施す。中心文様と考えられる縱長の梢円文と、それに接続する水平の直線文が1条認められる。頸部外面は無文である。289は胴部である胴部外面の地文は撚糸文で、平行沈線による文様を施す。細密波状文を水平に1条施し、それに接続する縱位の直線文を2条施す。また、縱位の直線文に接続する斜位の直線文が3箇所で認められ、それぞれ2条ずつ施す。なお、細密波状文より上側は無文となる。290は胴部である。胴部外面の地文が撚糸文であることから、この類型に含めた。胴部外面に波状・弧状・縱位の隆帯が認められる。波状と弧状の隆帯上には連続した刺突を施す。291はC 4類で、胴部と考える。胴部外面の地文は繩文（R L）で、沈線による文様を施す。水平な直線文を3条施し、1条目と2条目の間に水平な波

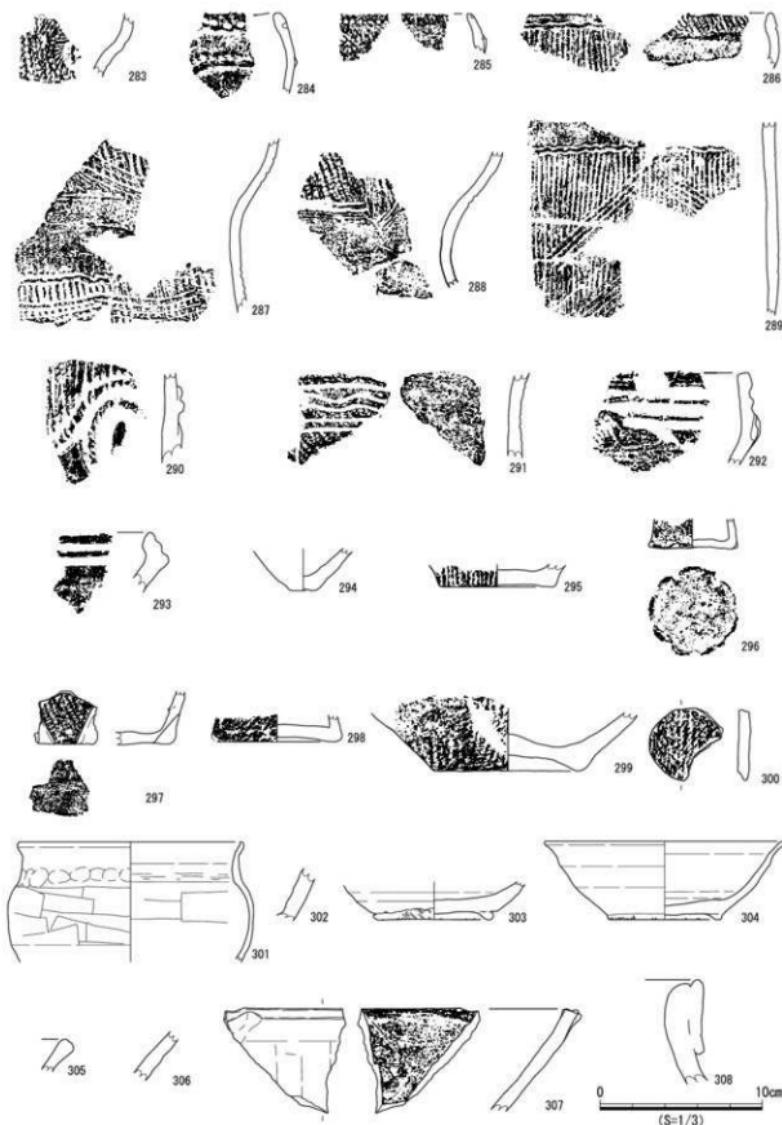


圖 63 摆亂・表土・包含層出土遺物実測図(3)

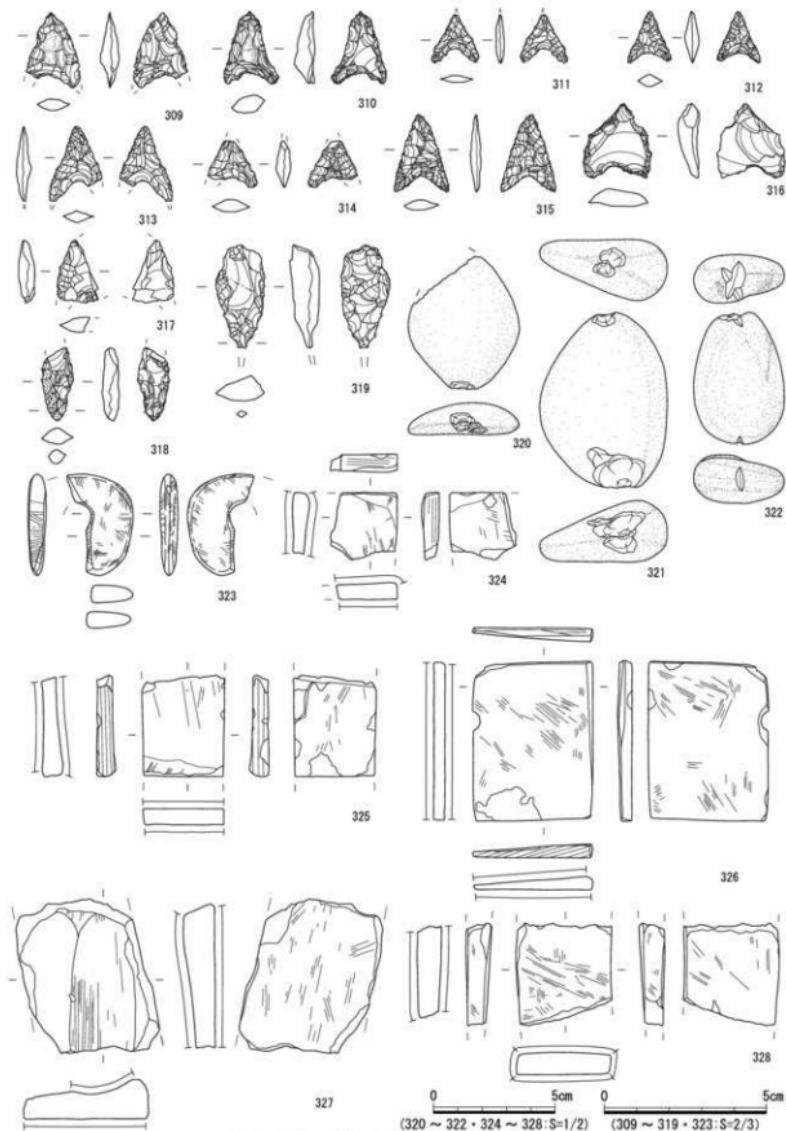


図 64 搾乱・表土・包含層出土遺物実測図(4)

状文が2条認められる。292・293はK 1類である。292は平口縁で、口縁部外面に水平な凹線を3条と巻貝殻頂圧痕を1ヶ所施す。293は平口縁で、口縁部外面に水平な凹線を2条施す。294～299は底部である。294は2a類である。磨滅により内外面の痕跡は不明である。295は2b類で、底部外面に撚糸文を施す。296・297は2c類である。296は底端部側面から8ヶ所刺突を施す。底部外面に縄文(L R)を施す。297は2c類で底端部側面から2ヶ所押圧を施す。底部外面に縄文(R L)を施す。298・299は3類である。298は底部外面に縄文(L R)を施す。299は底部外面に縄文(R L)を施す。

300は土製円盤である。外面に縄文(R L)を施す。

301は土師器の鍋である。口縁部外面にヨコナデ、頸部外面に指頭圧痕が認められる。胴部外面と頸胴部内面にはヨコハケの痕跡が認められる。胴部外面にスス、胴部内面にコゲが認められる。

302は灰釉陶器で、壺・瓶類の胴部の可能性がある。外面に灰釉が施される。

303～309は中世陶器である。303～305は山茶碗である。303は尾張型第5型式の碗である。304は尾張型第6型式の碗である。305は明和1号窯式の山茶碗の片口鉢である。306は古瀬戸後IV期～大窯第2段階の擂鉢で、内外面に錫釉を施す。307は常滑8型式の片口鉢で片口部が一部残存する。口縁部内面に押印が認められる。308は常滑9型式の甕で口縁部である。

309～328は石器・石製品である。309～317は石鎌である。309～314は1b類である。309・313は両側の脚部を欠損する。314は片側の脚部と先端を欠損する。315は1d類である。317は、概ね片面のみにしか押圧剥離が認められず、未完成の可能性があるため、3類とした。317は脚部が欠損しており、分類不明である。318・319は石錐である。318は基部、391は先端部が欠損する。320・321は打欠石錐である。320は片側の打欠が欠損する。322は切目石錐である。片側は一文字、片側は十字の切目となる。323は玦状耳飾で、片側半分が欠損する。外面に擦痕が認められる。324～328は砥石である。324～326は2面の砥面が認められる。327は2面との砥面が確認でき、片側は筋状になる。328は4面の砥面が認められる。

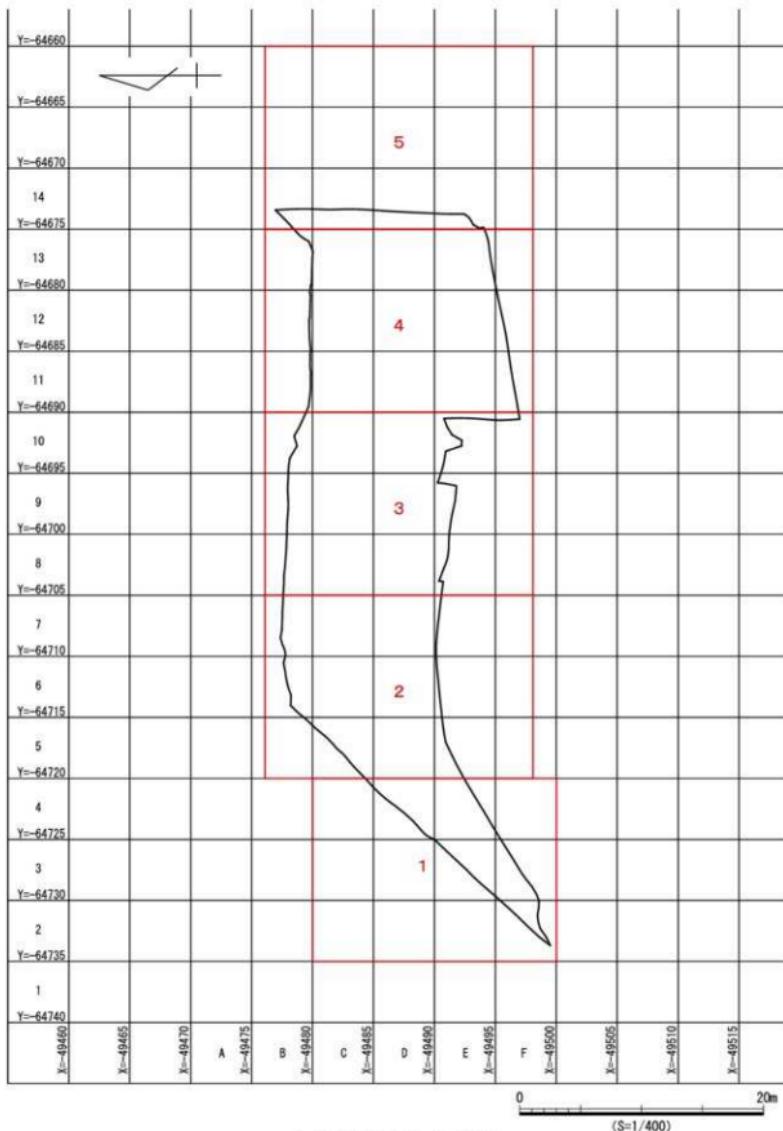


図 65 発掘区全域図 割付図

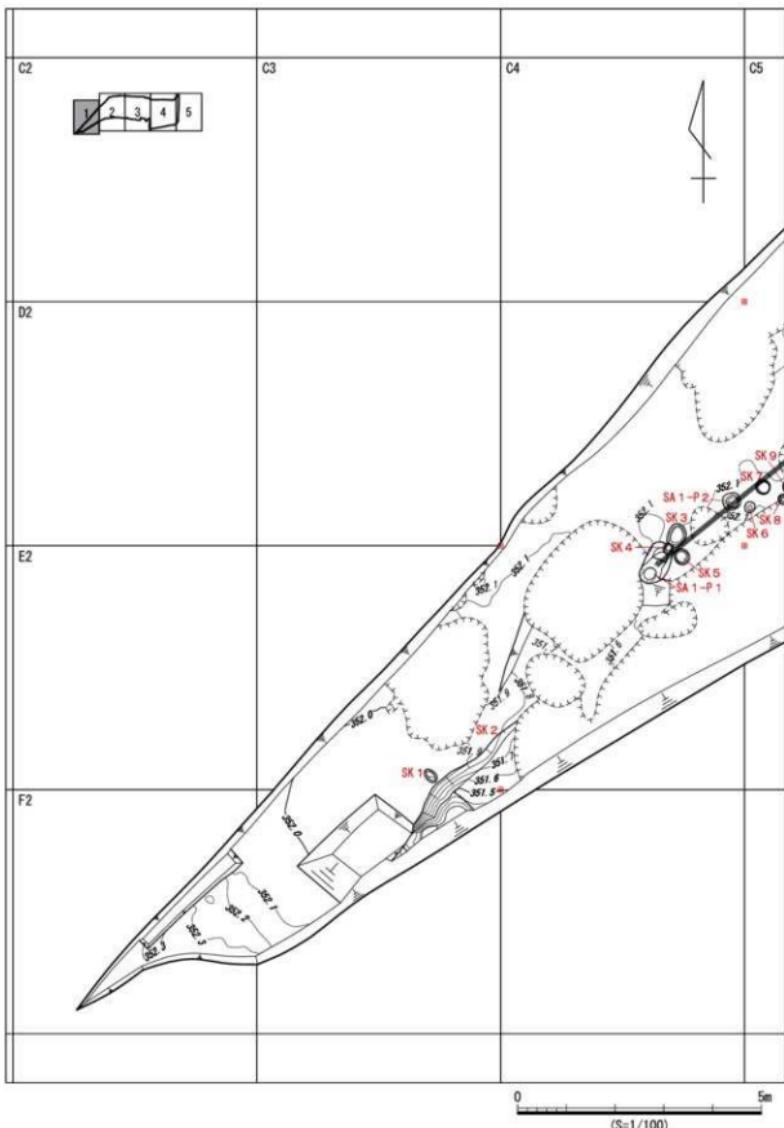


図 66 発掘区全図 分割図 (1)

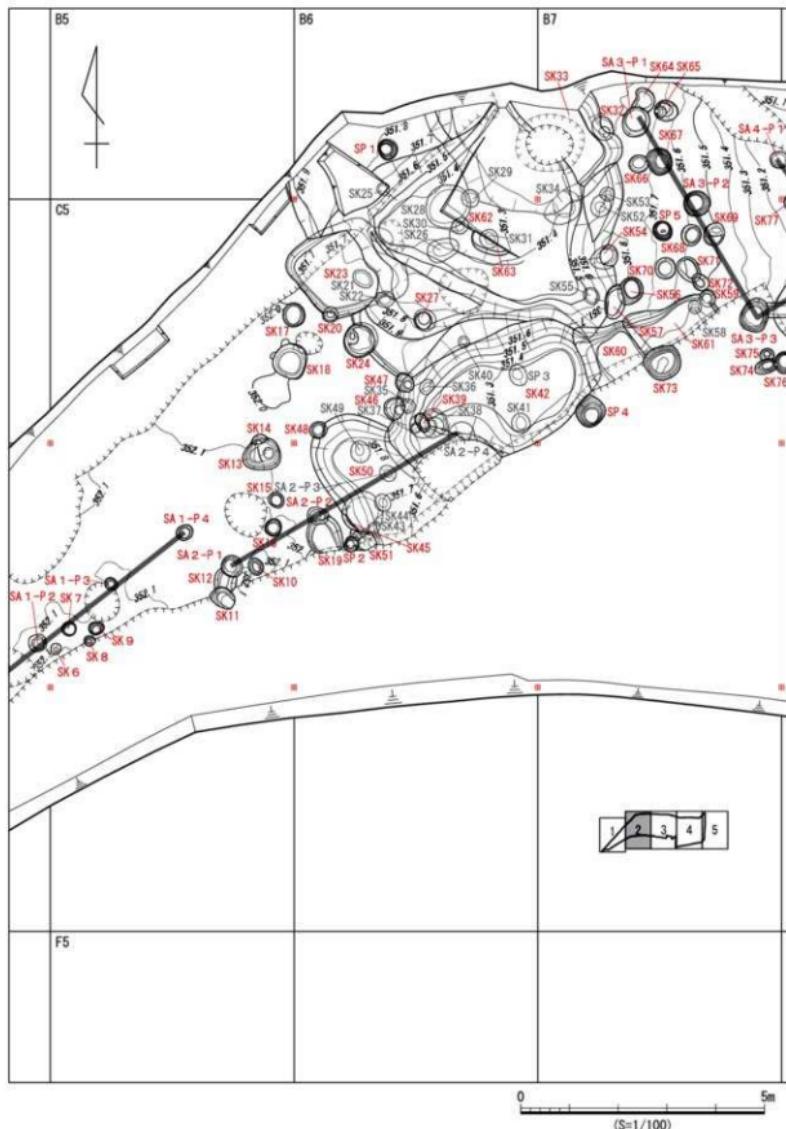


図 67 発掘区全域図 分割図（2）

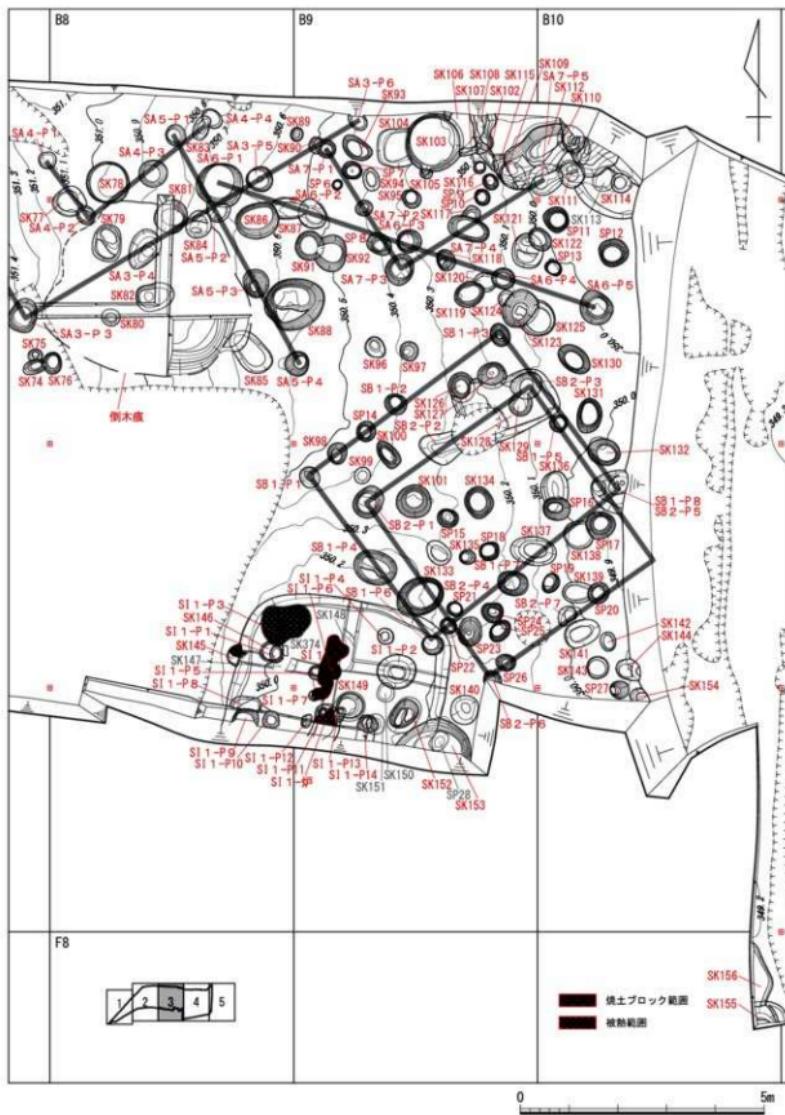


図 68 発掘区全域図 分割図 (3)

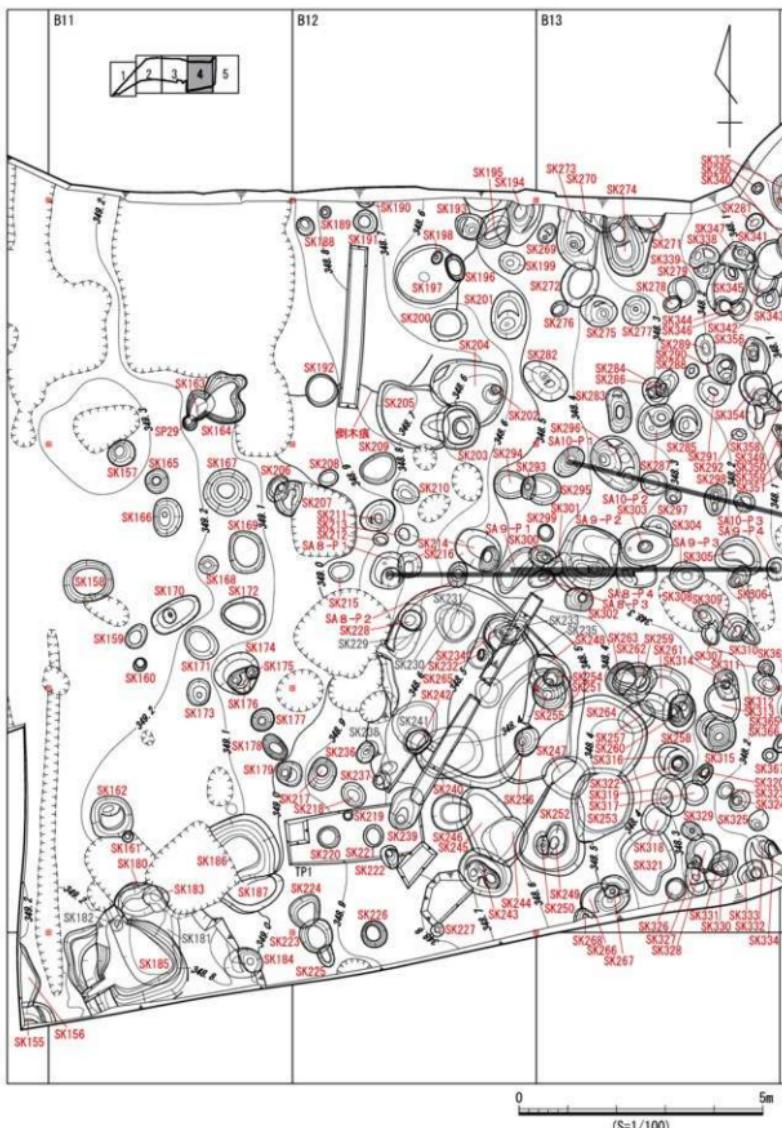


図 69 発掘区全域図 分割図（4）

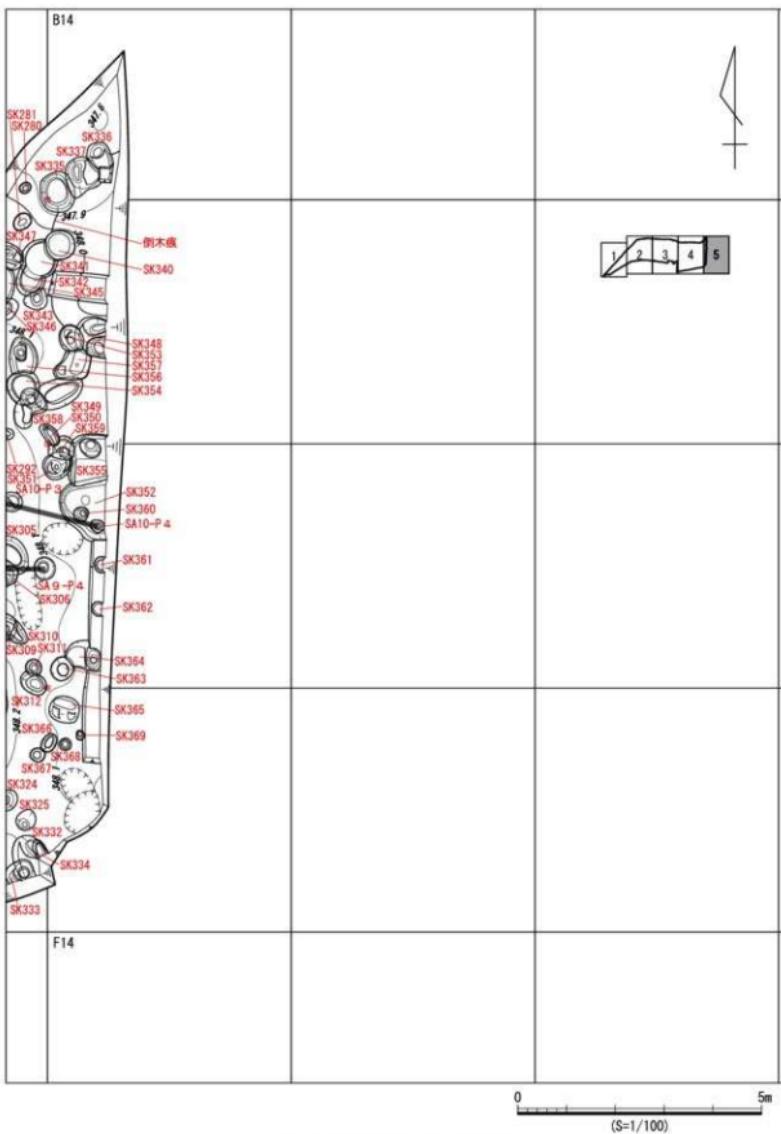


図 70 発掘区全域図 分割図 (5)

表6 壁穴建物一覧表

遺構番号	地区割り 南北 東西	棟 出面	平面形	長軸方位	規模(m)				重複関係		出土遺物	種別	図版		
					上端		下端		深さ	新	旧				
					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
SII	D-E	B-G	■上	3	%80°-W	4.31	(2.76)	3.81	(2.62)	0.36	SB1-P6, SK2-P4, SP28, SK145, SK146, SK147, SK148, SK149, SK150, SK151, SK152, SK370, SK371, SK372, SK373, SK374	SK153	J306, S1 5	9 10	2 3

表7 壁穴建物付属遺構一覧表

遺構番号	地区割り 南北 東西	棟 出面	堆 積 断 面 形	平面形	規模(m)				重複関係		出土遺物	種別	図版		
					上端		下端		深さ	新	旧				
					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
SII-P1	D	B	■上	a	IV	2	2	0.35	0.26	0.22	0.14	0.22	SK146	-	
SII-P2	D-E	B	■上	a	I	1	2	0.79	0.69	0.36	0.27	0.28	-	-	
SII-P3	D	B	■上	a	IV	1	2	0.31	0.30	0.19	0.14	0.29	-	-	
SII-P4	D	B	■上	a	I	1	1	0.34	0.32	0.19	0.17	0.14	-	-	
SII-P5	D	B	■上	a	I	2	1	0.35	0.29	0.20	0.19	0.29	-	-	
SII-P6	E	B	■上	a	IV	2	2	0.36	0.30	0.26	0.21	0.05	-	-	
SII-P7	E	B	■上	a	I	1	1	0.22	0.21	0.12	0.11	0.16	-	-	
SII-P8	E	B	■上	a	-	-	-	(0.64)	(0.26)	(0.53)	(0.21)	0.07	-	SII-P9	
SII-P9	E	B	■上	a	IV	-	-	(0.52)	(0.31)	(0.36)	(0.15)	0.46	SII-P8	-	
SII-P10	E	B	■上	a	IV	1	1	0.34	0.33	0.19	0.18	0.31	-	-	
SII-P11	E	B	■上	a	I	1	1	0.20	0.18	0.09	0.08	0.24	-	SII-P8	
SII-P12	E	B	■上	a	■	2	(2.08)	(0.19)	0.09	0.06	0.33	-	-	-	
SII-P13	E	B	■上	a	-	4	2	(0.28)	(0.24)	(0.11)	(0.08)	0.38	SII-P8, SK149	-	
SII-P14	E	B	■上	a	I	1	1	0.40	0.36	0.22	0.19	0.47	-	-	
SII-P15	E	B	■上	a	I	1	-	(0.70)	(0.53)	(0.65)	(0.34)	0.17	SII-P11, SK149	SII-P13	
SII-P16	E	B	■上	a	I	1	-	-	-	-	-	-	-	3	

表8 捩立柱建物一覧表

遺構番号	地区割り 南北 東西	棟 出面	堆 積 断 面 形	平面形	長軸方位	柱間	規模(m)				重複関係		出土遺物	種別	図版			
							桁行		梁行		新	旧						
							上端	下端	長軸長	短軸長								
SII	C-D	9-10	-	N-E2°-W	2間×2間		5.10		4.16		-	SII	J37, S1 51	42 43	6 7			
SII	C-D	9-10	-	N-E2°-W	2間×2間		4.38		4.10		SK128	SII, SK129	J74, S1 51	44 45	6 7			

表9 捩立柱建物付属遺構一覧表(1)

遺構番号	地区割り 南北 東西	棟 出面	堆 積 断 面 形	平面形	長軸方位	柱間	規模(m)				重複関係		出土遺物	種別	図版			
							桁行		梁行		新	旧						
							上端	下端	長軸長	短軸長								
SII-P1	D	B	■上	c	I	1	2	0.43	0.39	0.21	0.13	0.34	-	-	J5, S1 51			
SII-P2	C	B	1基	b	IV	1	1	0.45	0.42	0.23	0.21	0.67	-	-	J10			
SII-P3	C	B	1基	a	IV	2	2	0.48	0.38	0.18	0.13	0.73	-	-	J2			
SII-P4	D	B	■上	e	IV	2	2	0.89	0.68	0.60	0.18	0.60	-	-	J11			
SII-P5	C	10	1基	d	II	1	1	0.36	0.35	0.22	0.21	0.61	-	-	A2			
SII-P6	D	B	■上	b	IV	1	1	0.45	0.41	0.29	0.26	0.57	-	SII	J10			
SII-P7	D	B	■上	d	IV	2	1	0.62	0.49	0.31	0.30	0.84	-	-	A2			
SII-P8	D	10	■上	b	VII	-	1	(0.89)	(0.71)	0.21	0.20	0.26	-	-	J1 43			
SII-P9	B	9	■上	b	IV	i	1	0.67	0.56	0.38	0.36	0.61	-	-	J7			
SII-P10	C-D	9	■上	b	i	-	-	(0.74)	0.73	(0.46)	0.23	0.21	-	-	J4			
SII-P11	C	9-10	1基	c	IV	1	2	0.61	0.56	0.30	0.25	0.42	SK128	SK129	J8			

表10 据立柱建物付属遺構一覧表(2)

遺構番号	地区割り 南北 東西	被出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模(m)				重複關係		出土遺物	補圖	図版	
							上端		下端		深さ	新		旧		
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧	新	旧	
SH2-P4	B	9	■上	e	IV	2	2	0.99	0.75	0.66	0.47	1.06	-	SII	J58, S1	44 45 -
SH2-P5	B	10	■上	b	VI	-	1	(0.89)	(0.71)	0.21	0.20	0.26	-	-	J1	44 45 7
SH2-P6	B	9	■上	d	IV	-	-	0.38	(0.25)	0.17	(0.11)	0.58	-	-	-	44 45 -
SH2-P7	D	10	■上	a	IV	4	2	0.42	0.36	0.32	0.25	0.10	-	-	-	44 45 -

表11 塙・柵一覧表

遺構番号	地区割り 南北 東西	被出面	長軸 方位	柱間	規模(m)				重複關係		出土 遺物	補 圖	図 版	
					上端		下端		深さ	新		旧		
					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧	新	旧	
SA1	D-E	4-6	I基	N-72°-E	3間	-	6.00	-	-	SK3	SK4	J1	46	7
SA2	C-D	8-6	I基	N-60°-E	3間	-	5.40	-	-	-	SK12, SK19, SK42, SK50	J2, T1	47	-
SA3	B-C	7-9	I基	N-60°-E	3間×2間	-	7.98×4.74	-	-	-	SK64	J49	48	-
SA4	B-C	7-8	I基	N-72°-E	2間×1間	-	3.22×1.68	-	-	-	SK77, SK83	J19, S1	50	-
SA5	B-C	8-9	I基	N-29°-W	3間	-	5.30	-	-	SA6-P1	-	J25	51	7
SA6	B-C	8-10	I基	N-72°-W	4間	-	8.20	-	-	-	SA5-P2, SK87, SK120	J26, K1	53	7
SA7	B-C	9-10	I基	N-78°-E	2間×2間	-	3.50×2.90	-	-	SK111	SK90, SK112, SK117	J17	54	7
SA8	B	12-13	■上	N-90°-E	3間	-	5.14	-	-	SK303	SA9-P2, SK216, SK265, SK501	J13, S1	56	-
SA9	B	12-11	■上	N-90°-E	2間	-	5.40	-	-	-	SA8-P4, SK306, SK301, SK302	J15	57	-
SA10	D	13-14	■上	N-76°-W	3間	-	5.50	-	-	SK352	-	J5	58	-

表12 塙・柵付属遺構一覧表(1)

遺構番号	地区割り 南北 東西	被出面	堆積	断面形	平面形	底面形	規模(m)				重複關係		出土 遺物	補 圖	図 版		
							上端		下端		深さ	新		旧			
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧	新	旧		
SA1-P1	D-E	4	I基	b	VI	2	1	0.90	0.62	0.26	0.23	(0.24)	SK3	SK4	-	46	-
SA1-P2	D	4	I基	a	IV	1	1	0.35	0.34	0.19	0.19	0.13	-	-	-	46	-
SA1-P3	D	5	I基	a	IV	1	1	0.34	0.30	0.17	0.15	0.28	-	-	-	46	-
SA1-P4	D	5	I基	b	IV	1	1	0.35	0.30	0.21	0.20	0.19	-	-	J1	46	-
SA2-P1	D	5	I基	c	IV	1	1	0.45	0.43	0.25	0.23	0.38	-	SK12	J11, T1	47	-
SA2-P2	D	6	I基	a	IV	2	2	0.44	0.33	0.24	0.21	0.18	-	SK19	-	47	-
SA2-P3	D	6	I基	a	IV	2	2	0.36	0.30	0.19	0.14	0.16	-	SK50	-	47	-
SA2-P4	C-D	6	I基	e	IV	-	-	0.53	(0.34)	(0.15)	0.15	0.23	-	SK42	J1	47	-
SA3-P1	B	7	I基	a	IV	1	1	0.63	0.55	0.43	0.39	0.20	-	SK64	-	48	-
SA3-P2	B-C	7	I基	d	IV	1	2	0.53	0.62	0.41	0.32	0.52	-	-	J1	49	-
SA3-P3	C	7	I基	e	IV	2	1	0.70	0.57	0.41	0.38	0.46	-	-	J18	49	-
SA3-P4	C	8	I基	e	IV	2	2	0.86	0.57	0.46	0.26	0.35	-	-	J1	49	-
SA3-P5	B	8	I基	d	IV	1	1	0.55	0.52	0.40	0.36	0.43	-	-	J29	49	-
SA3-P6	B	9	I基	a	II	-	-	(0.44)	0.33	(0.31)	0.24	0.21	-	-	-	49	-
SA4-P1	B	7-8	I基	d	IV	1	1	0.36	0.36	0.26	0.26	0.12	-	-	J1, S1	50	-
SA4-P2	C	8	I基	b	IV	1	2	0.41	0.36	0.26	0.20	0.23	-	SK77	J8	50	-
SA4-P3	B	8	I基	d	IV	1	1	0.57	0.55	0.35	0.32	0.36	-	-	J10	50	-
SA4-P4	B	8	I基	e	VI	2	2	0.45	0.35	0.25	0.29	0.14	-	SK83	-	50	-
SA5-P1	B	8	I基	a	IV	1	1	0.44	0.41	0.29	0.25	0.32	-	-	-	51	-
SA5-P2	C	8	I基	b	IV	-	-	(0.48)	(0.36)	(0.36)	(0.31)	0.12	SA6-P1	-	J3	51	-
SA5-P3	C	8	I基	b	IV	1	2	0.58	0.52	0.25	0.19	0.73	-	-	J2	51	-
SA5-P4	C	8-9	I基	b	IV	1	1	0.50	0.49	0.25	0.23	0.69	-	-	J20	51	-
SA6-P1	B-C	8	I基	e	IV	1	1	0.95	0.88	0.67	0.61	0.59	-	SA6-P2	J21	53	-
SA6-P2	C	9	I基	e	IV	2	2	0.64	0.52	0.37	0.25	0.18	-	SK87	-	53	-

表13 塙・橋付属遺構一覧表(2)

遺構番号	地区割り 南北 東西	検出面 堆積	断面形 平面形	底面形	規模(m)				重複関係		出土 遺物	挿 図	図版		
					上端		下端		深さ	新	旧				
					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
SA6-P3	C	9	I基 b	IV	1	1	0.50	0.48	0.30	0.28	0.65	-	-	J3 53 -	
SA6-P4	C	9	I基 b	IV	1	2	0.47	0.43	0.29	0.19	0.52	-	SK120	J1 53 -	
SA6-P5	C	10	I基 b	IV	1	1	0.68	0.64	0.36	0.35	0.72	-	-	J1, K1 53 -	
SA7-P1	B	9	I基 a	IV	2	2	0.40	0.22	0.35	0.19	0.52	-	SK90	J1 64 -	
SA7-P2	B-C	9	I基 b	IV	1	2	0.34	0.31	0.18	0.15	0.38	-	-	J4 54 -	
SA7-P3	C	9	I基 b	IV	2	1	0.66	0.55	0.38	0.38	0.62	-	-	J2 54 -	
SA7-P4	C	9	I基 d	IV	2	2	0.86	0.48	0.58	0.31	0.57	-	SK117	J10 64 -	
SA7-P5	B	9-10	I基 a	IV	2	-	(0.71)	0.62	(0.58)	0.35	0.23	SK111	SK112 -	- 54 -	
SA8-P1	D	12	III上 e	V	1	1	0.77	0.70	0.73	0.62	0.24	-	SK216	J1 56 -	
SA8-P2	D	12	III上 e	IV	2	1	0.53	0.40	0.17	0.17	0.34	-	SK265	J1 56 -	
SA8-P3	D	12-13	III上 d	IV	2	2	0.53	0.32	0.22	0.11	0.23	-	SK301	- 56 -	
SA8-P4	D	13	III上 e	VI	-	-	(0.80)	0.43	(0.68)	0.40	(0.12)	SK303	SAB-P4, SK301, J11, S1 56 -		
SA9-P1	D	12	III上 a	IV	2	2	1.08	0.50	0.85	0.23	0.17	SK300	-	J2 57 -	
SA9-P2	D	13	III上 c	V	2	1	(1.30)	(1.20)	0.15	0.15	0.58	SAB-P4, SK301, SK302	-	J12 57 -	
SA9-P3	D	13	III上 e	IV	2	2	0.73	0.60	0.47	0.33	0.19	-	-	J1 57 -	
SA9-P4	D	13-14	III上 e	IV	1	1	0.44	0.42	0.28	0.25	0.14	-	-	- 57 -	
SA10-P1	D	13	III上 a	IV	2	2	0.70	0.48	0.21	0.16	0.41	-	-	J1 58 -	
SA10-P2	D	13	III上 e	IV	1	1	0.55	0.47	0.33	0.30	0.12	-	-	J2 58 -	
SA10-P3	D	13	III上 b	V	1	2	0.42	0.40	0.17	0.07	0.19	-	-	J2 58 -	
SA10-P4	D	14	III上 e	1	2	1	0.30	0.25	0.11	0.11	0.25	SK352	-	- 58 -	

表14 単独柱穴一覧表(1)

遺構番号	地区割り 南北 東西	検出面 堆積	断面形 平面形	底面形	規模(m)				重複関係		出土 遺物	挿 図	図版		
					上端		下端		深さ	新	旧				
					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長							
SP1	B	6	I基 a	IV	1	1	0.42	0.40	0.22	0.20	0.61	-	SK62	J11 12 -	
SP2	D	6	I基 b	IV	-	-	(0.33)	(0.30)	(0.15)	(0.15)	0.45	-	SK51	J1 -	
SP3	C	6	I基 b	IV	2	1	0.45	0.36	0.22	0.21	0.85	-	SK42	-	-
SP4	C	7	I基 b	IV	1	1	0.59	(0.87)	0.30	0.29	0.72	SK42	-	12 -	
SP5	C	7	I基 a	IV	1	1	0.39	0.39	0.25	0.24	0.66	-	-	J1, S1 12 -	
SP6	B	9	I基 a	IV	1	1	0.22	0.20	0.14	0.14	0.56	-	-	-	
SP7	B	9	I基 b	IV	1	2	0.40	0.36	0.26	0.21	0.66	-	-	J8, S1 12 -	
SP8	C	9	I基 b	IV	2	1	0.52	0.41	0.23	0.21	0.63	-	-	J3, S1 -	
SP9	B	9	I基 b	IV	1	2	0.33	0.30	0.19	0.15	0.53	-	-	J1, T1 59 -	
SP10	B-C	9	I基 b	IV	1	1	0.34	0.30	0.20	0.18	0.46	-	-	J1 -	
SP11	C	10	I基 b	IV	1	1	0.52	0.49	0.31	0.30	0.80	-	-	J3 12 -	
SP12	C	10	I基 c	IV	1	1	0.58	0.58	0.34	0.34	0.77	-	-	J2 -	
SP13	C	10	I基 b	IV	2	1	0.35	0.29	0.25	0.23	0.65	-	-	J8 -	
SP14	C	9	I基 b	IV	1	2	0.40	0.40	0.23	0.19	0.67	-	-	J5 12 -	
SP15	D	9	III上 b	IV	1	2	0.44	0.37	0.26	0.20	0.62	-	-	J4 -	
SP16	D	10	III上 b	IV	1	2	0.55	0.47	0.28	0.18	0.70	-	SK136	J14 13 -	
SP17	D	10	III上 b	IV	1	1	0.60	0.56	0.32	0.27	0.80	-	SK138	J5 13 -	
SP18	D	9	III上 b	IV	1	1	0.40	0.37	0.28	0.24	0.71	-	-	J1 -	
SP19	D	10	III上 b	IV	2	2	0.42	0.32	0.32	0.21	0.59	-	-	J6 13 -	
SP20	D	10	III上 b	IV	1	1	0.46	0.41	0.25	0.21	0.60	-	SK139	J2 -	
SP21	D	9	III上 a	IV	1	2	0.33	0.30	0.23	0.19	0.58	-	-	J1 -	
SP22	D	9	III上 b	IV	1	2	0.35	0.32	0.24	0.16	0.67	-	-	J13 -	
SP23	D	9	III上 b	IV	2	2	0.59	0.48	0.23	0.18	0.71	-	-	J15 14 -	
SP24	D	9	III上 b	IV	1	2	0.45	0.40	0.23	0.17	0.83	-	-	J38 14 -	
SP25	D	9	III上 b	IV	2	2	0.50	0.36	0.31	0.21	0.72	-	-	J6 -	
SP26	D	9	III上 b	IV	1	1	0.40	0.34	0.20	0.17	0.57	-	-	J2 -	
SP27	D-E	10	III上 a	IV	1	2	0.38	0.36	0.15	0.08	0.70	-	-	- -	

表15 単独柱穴一覧表(2)

遺構番号	地区割り 南北 東西	被出面	堆積	断面形	平面部	底面部	規模(m)				重複關係		出土遺物	補圖	図版		
							上端		下端		深さ	新					
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		旧					
SP28	E	9	Ⅲ上	b	IV	2	2	0.43	0.31	0.23	0.18	0.67	-	SI1, SK153	J4	14 -	
SP29	C	11	Ⅲ上	c	IV	1	1	0.31	0.30	0.15	0.14	0.43	-	SK163	-	- -	

表16 土坑一覧表(1)

遺構番号	地区割り 南北 東西	被出面	堆積	断面形	平面部	底面部	規模(m)				重複關係		出土遺物	補圖	図版		
							上端		下端		深さ	新					
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		旧					
SK1	E	3	I基	a	I	2	2	0.32	0.20	0.23	0.11	0.06	-	-	-	-	
SK2	E-P	3-4	I基	c	VII	-	4	(3.76)	(1.00)	(1.05)	(0.20)	0.81	-	-	J3	-	
SK3	D-E	4	I基	a	I	2	2	0.49	0.34	0.35	0.21	0.12	-	SA1-P1, SK4	-	-	
SK4	D-E	4	I基	b	I	2	2	(0.21)	(0.16)	(0.15)	(0.10)	(0.10)	SA1-P1, SK3	-	-	-	
SK5	E	4	I基	d	I	1	1	0.35	0.33	0.20	0.18	0.18	-	-	-	-	
SK6	D	5	I基	a	I	1	1	0.23	0.22	0.10	0.09	0.06	-	-	-	-	
SK7	D	5	I基	a	IV	I	1	0.32	0.31	0.19	0.18	0.25	-	-	-	-	
SK8	D	5	I基	a	III	I	1	(0.21)	(0.21)	0.09	0.08	0.26	-	-	-	-	
SK9	D	5	I基	a	IV	I	2	0.31	0.28	0.17	0.14	0.37	-	-	-	-	
SK10	D	5	I基	b	IV	2	2	0.37	0.29	0.20	0.13	0.23	-	-	-	-	
SK11	D	5	I基	a	I	2	2	(0.51)	(0.40)	(0.41)	(0.23)	(0.36)	-	SK12	J1, HS	-	
SK12	D	5	I基	a	I	2	2	0.44	(0.30)	(0.36)	0.17	0.21	SA2-P1, SK11	-	-	-	
SK13	C-D	5	I基	e	V	2	1	0.78	0.55	0.20	0.20	0.39	-	SK14	J1, HS, I	60	
SK14	C-D	5	I基	a	I	2	2	(0.35)	(0.20)	(0.12)	(0.07)	(0.23)	SK13	-	J2, HI, S	-	
SK15	D	5	I基	a	I	1	1	0.30	0.29	0.21	0.20	0.16	-	-	-	-	
SK16	D	5	I基	a	IV	I	1	0.36	0.34	0.32	0.22	0.36	-	-	J1	-	
SK17	C	5-6	I基	a	IV	I	2	0.49	0.45	0.38	0.28	0.22	-	-	-	-	
SK18	C	5-6	I基	a	IV	I	1	0.72	0.68	0.43	0.42	0.15	-	-	-	-	
SK19	D	6	I基	b	I	2	2	0.71	(0.68)	(0.55)	0.44	0.27	SA2-P2	-	J2	-	
SK20	C	6	I基	a	IV	I	1	0.31	0.31	0.15	0.14	0.16	-	SK23	-	-	
SK21	C	6	I基	c	IV	2	2	0.43	0.31	0.23	0.17	0.10	-	SK23, SK62	J1	-	
SK22	C	6	I基	b	IV	I	2	0.37	0.33	0.21	0.16	0.31	-	SK23, SK62	-	-	
SK23	C	5-6	I基	b	IV	3	3	1.96	1.83	1.55	1.51	0.40	SK20, SK21, SK22	SK62	J82, ST	15 4	
SK24	C	6	I基	a	II	I	2	0.72	0.68	0.14	0.10	0.31	-	SK62	J89, S2	16 3	
SK25	B	6	I基	a	II	I	1	0.25	0.26	0.17	0.16	0.07	-	SK62	-	-	
SK26	C	6	I基	a	I	2	2	0.65	0.45	0.50	0.27	0.14	-	SK62	J1	-	
SK27	C	6	I基	d	IV	I	1	0.48	0.46	0.24	0.23	0.41	-	SK62	J1	17 -	
SK28	B-C	6	I基	a	IV	I	1	0.96	0.86	0.92	0.71	0.07	-	SK29, SK30, SK62	J2	17 -	
SK29	B-C	6	I基	a	I	1	2	0.36	0.36	0.25	0.20	0.32	SK28	SK33, SK62	J5	-	
SK30	C	6	I基	a	I	1	1	0.35	0.30	0.18	0.17	0.30	SK28	SK62	J1	-	
SK31	C	6	I基	c	IV	I	2	0.39	0.36	0.26	0.20	0.14	-	SK62	T1	-	
SK32	B	7	I基	b	VII	2	1	0.51	0.41	0.22	0.21	0.11	-	SK33	-	-	
SK33	B-C	6-7	I基	b	IV	-	-	3.67	2.85	(2.18)	(2.00)	1.46	SK29, SK32	SK34, SK62	J199, S2	18 -	
SK34	C	7	I基	b	IV	2	2	0.80	(0.66)	(0.60)	0.42	0.54	SK33	SK62	J11, S1	-	
SK35	C	6	I基	a	IV	I	1	0.30	0.26	0.21	0.20	0.18	-	SK42	J1	-	
SK36	C	6	I基	b	IV	2	2	0.33	0.25	0.30	0.21	0.08	-	SK42	-	-	
SK37	C	6	I基	a	I	1	1	0.23	0.21	0.13	0.13	0.18	-	SK39, SK40, SK42	-	-	
SK38	C	5	I基	c	VII	I	1	0.56	0.56	0.25	0.23	0.14	SK37	SK39, SK42	-	-	
SK39	C	6	I基	c	III	I	2	0.52	0.49	0.22	0.16	0.75	SK37, SK38	SK42	J4	-	
SK40	C	6	I基	c	IV	I	1	0.22	0.22	0.14	0.13	0.10	-	SK42, SK62	J1	19 -	
SK41	C	6	I基	b	IV	I	2	0.44	0.44	0.26	0.21	0.20	-	SK42	-	-	
SK42	C-D	6-7	I基	b	I	2	4	4.69	2.92	3.11	1.51	0.85	SA2-P4, SP2, SK35, SK36, SK37, SK38, SK39, SK40, SK41	J493, S4	20 21		
SK43	B	6	I基	a	I	2	2	0.32	0.22	0.21	0.13	0.09	-	SK45, SK50	T1	-	

表17 土坑一覧表（2）

遺構番号	地区割り 南北 東西	検出面	堆積 断面形	平面形	規模 (m)				重複関係		出土 遺物	地図	図版				
					上端		下端		深さ	新	Ⅲ						
					長軸長	短軸長	長軸長	短軸長									
SK44	B	6	I基	a	I	1	I	0.36	0.32	0.19	0.15	0.21	-	SK45, SK50	-	-	
SK45	D	6	I基	a	IV	1	I	0.84	0.83	0.65	0.64	0.17	SK43, SK44	SK50, SK51	J8, S1	22	
SK46	C	6	I基	b	III	1	I	0.44	(0.43)	(0.19)	0.18	0.34	SK42	-	J7	-	
SK47	C	6	I基	b	III	1	I	0.40	0.37	0.15	0.14	0.42	SK42	SK62	J3	-	
SK48	C	6	I基	a	I	1	I	0.35	0.35	0.21	0.19	0.13	-	SK50	J1	-	
SK49	C-D	6	I基	a	I	1	2	0.44	0.39	0.23	0.16	0.21	-	SK50	-	-	
SK50	C-D	6	I基	b	IV	-	-	(2.93)	(1.81)	(2.41)	(1.50)	0.42	SA2-PI, SK42, SK43, SK44, SK45, SK48, SK49	SK51	J45, S1	23	
SK51	B	6	I基	b	-	-	-	(0.58)	(0.45)	(0.38)	(0.30)	0.50	SP2, SK45, SK50	-	J29, S4	24	
SK52	B-C	6	I基	d	IV	1	I	0.45	0.39	0.21	0.21	0.31	-	SK53, SK62	-	-	
SK53	B-C	7	I基	a	I	2	2	0.29	(0.24)	(0.19)	0.18	0.14	SK52	SK62	-	-	
SK54	C	7	I基	b	I	1	2	0.49	0.45	0.37	0.25	0.15	-	SK62	-	-	
SK55	C	7	I基	a	I	1	I	0.36	0.31	0.28	0.24	0.20	-	SK62	-	-	
SK56	C	7	I基	c	IV	1	2	0.56	0.49	0.34	0.25	0.39	-	SK57	-	-	
SK57	C	7	I基	a	I	2	2	(0.70)	0.41	0.51	0.28	0.17	SK56	SK62	J2	24	
SK58	C	7	I基	a	IV	1	1	0.27	0.25	0.15	0.15	0.07	-	SK61	-	-	
SK59	C	7	I基	c	I	2	1	0.44	0.32	0.19	0.18	0.16	-	SK61	-	-	
SK60	C	7	I基	b	IV	-	3	1.35	(1.31)	0.79	(0.69)	0.67	SK42, SK62	SK61	J44, S6	25	
SK61	C	7	I基	d	IV	-	-	(1.76)	(0.96)	(1.69)	(0.72)	0.52	SK58, SK59, SK60	-	J46, S1	26	
SK62	B-C	8-7	I基	e	VII	4	4	(6.76)	(5.74)	3.90	(3.16)	0.74	SP1, SK21, SK22, SK23, SK24, SK25, SK26, SK27, SK28, SK29, SK30, SK31, SK33, SK34, SK40, SK42, SK47, SK52, SK53, SK54, SK55, SK57, SK63	SK60	J127B, T2, S70	27	-
SK63	C	6	I基	-	I	2	2	0.80	(0.26)	0.37	(0.10)	0.54	-	SK62	J7	-	
SK64	B	7	I基	a	IV	4	4	(0.42)	0.40	(0.34)	0.29	0.18	SA3-PI	-	S1	-	
SK65	B	7	I基	c	V	1	I	0.48	0.42	0.08	0.07	0.62	-	-	J2	-	
SK66	B	7	I基	c	IV	1	I	0.39	0.36	0.25	0.22	0.12	-	SK67	-	-	
SK67	B	7	I基	b	IV	1	I	0.55	0.49	0.29	0.25	0.59	SK66	-	J5	-	
SK68	C	7	I基	b	I	1	I	0.42	0.40	0.27	0.25	0.19	-	-	-	-	
SK69	C	7	I基	b	V	1	2	0.45	0.42	0.18	0.10	0.20	-	-	J8	-	
SK70	C	7	I基	b	I	1	I	0.43	0.41	0.27	0.26	0.11	-	-	J1, S1	-	
SK71	C	7	I基	b	IV	2	2	0.56	0.40	0.43	0.25	0.08	-	SK72	J4	30	
SK72	C	7	I基	a	I	2	2	0.38	0.31	0.22	0.14	0.15	SK71	-	J7	-	
SK73	C	7	I基	b	IV	1	2	0.73	(0.68)	0.51	0.38	0.53	-	-	J6	-	
SK74	C	7	I基	b	I	2	2	0.47	0.28	0.23	0.13	0.36	-	SK75, SK76	J4	-	
SK75	C	7	I基	a	IV	2	2	(0.29)	(0.22)	0.12	0.09	0.20	SK74	-	J7, Y1	60	
SK76	C	7-8	I基	c	IV	1	I	0.44	0.39	0.26	0.23	0.42	SK74	-	J3, Y1	60	
SK77	B-C	8	I基	a	IV	1	2	(0.63)	(0.57)	0.49	0.35	0.23	SA4-PI	-	-	-	
SK78	B-C	8	I基	b	VII	1	I	0.87	0.84	0.75	0.75	0.50	-	-	J45, S5	30	
SK79	C	8	I基	a	V	2	2	0.75	0.58	0.37	0.22	0.33	-	-	J1	-	
SK80	C	8	I基	b	I	1	I	0.37	0.34	0.20	0.17	0.20	-	-	J1	-	
SK81	C	8	I基	d	IV	1	2	0.69	0.65	0.45	0.34	0.58	-	-	J18, S1	30	
SK82	C	8	I基	a	IV	2	2	0.77	0.59	0.54	0.36	0.29	-	-	J4	-	
SK83	B	8	I基	a	I	2	2	0.51	0.31	0.32	0.18	0.11	SA4-PI	-	J6, S1	-	
SK84	C	8	I基	a	VII	1	2	0.58	0.51	0.21	0.11	0.19	-	-	J2	-	
SK85	C	8	I基	-	VII	2	2	1.01	0.59	0.79	0.37	0.15	-	-	J16	-	
SK86	C	8	I基	d	IV	2	2	0.89	0.69	0.61	0.43	0.57	-	SK87	J6, S1	-	
SK87	C	8-9	I基	a	I	2	2	(0.79)	0.43	(0.74)	0.29	-	-	-	J1, S1	-	
SK88	C	8-9	I基	b	VII	1	2	1.20	1.06	0.73	0.40	0.96	-	-	J14	-	
SK89	B	8-9	I基	a	IV	2	2	0.30	0.17	0.25	0.15	0.17	-	-	-	-	

表18 土坑一覧表（3）

遺構番号	地区割り 南北 東西 出面	堆積 平面形 面形	底面形 面形	規模(m)						重複關係			出土 遺物	辨 別	圖 版		
				上端			下端			深さ	新		旧				
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長	新	旧		新	旧	新	旧			
SK90	B	9	I基 b	I	2	1	0.33	(0.23)	(0.19)	0.17	0.33	SA7-P1	-	-	J3	-	-
SK91	C	9	I基 b	IV	1	1	0.60	0.57	0.38	0.36	0.52	-	SK92	J4	30	-	
SK92	C	9	I基 b	IV	2	2	0.74	(0.60)	(0.52)	0.39	0.51	SK91	-	J10, S1	30	-	
SK93	B	9	I基 a	IV	2	2	0.66	0.41	0.46	0.27	0.45	-	-	J18	30	-	
SK94	B	9	I基 b	I	2	2	0.47	0.33	0.28	0.17	0.14	-	-	J1	-	-	
SK95	B	9	I基 b	IV	1	1	0.40	0.36	0.23	0.23	0.38	-	-	J6	31	-	
SK96	C	9	I基 d	III	1	2	0.45	0.39	0.18	0.15	0.23	-	-	J1	-	-	
SK97	C	9	I基 b	IV	1	1	0.40	0.37	0.21	0.21	0.30	-	-	-	-	-	
SK98	D	9	Ⅲ上	b	IV	2	2	0.49	0.39	0.29	0.24	0.52	-	-	J6	31	-
SK99	D	9	Ⅲ上	a	I	1	1	0.33	0.33	0.20	0.19	0.08	-	-	J1	-	-
SK100	C-D	9	Ⅲ上	e	IV	2	2	0.62	0.34	0.34	0.15	0.68	-	-	J9	31	-
SK101	D	9	Ⅲ上	b	IV	1	1	0.71	0.66	0.36	0.33	0.70	-	-	J16	-	-
SK102	B	9	I基 a	I	2	2	0.67	0.25	0.31	0.11	0.18	SK115	SK107	J2	-	-	
SK103	B	9	I基 b	IV	1	1	1.21	1.17	0.96	0.94	0.56	-	SK104, SK105, SK106	-	-	-	
SK104	B	9	I基 b	IV	3	-	0.79	(0.68)	0.58	(0.49)	0.18	SK103	-	J5	-	-	
SK105	B	9	I基 b	I	2	2	0.25	(0.20)	0.20	(0.10)	0.37	SK103	-	-	-	-	
SK106	B	9	I基 a	IV	2	2	0.89	(0.84)	(0.72)	0.54	0.33	SK103	SK107, SK108	J3	-	-	
SK107	B	9	I基 a	I	1	1	(0.46)	(0.30)	(0.36)	(0.19)	0.23	SK102, SK106	SK108	-	-	-	
SK108	B	9	I基 b	I	-	-	(0.80)	(0.54)	(0.63)	0.16	0.44	SK106, SK107	-	J9	-	-	
SK109	B	9	I基 a	V	2	2	0.62	0.48	0.30	0.25	0.43	SK115	SK112	J4	-	-	
SK110	B	10	I基 c	V	1	2	0.60	0.53	0.15	0.07	0.77	-	SK112, SK114	J1	-	-	
SK111	B	10	I基 b	VI	1	2	0.57	0.53	0.20	0.12	0.38	-	SA7-P5, SK112, SK114	-	-	-	
SK112	B	9-10	I基 b	VI	2	2	(1.79)	(0.97)	(0.68)	0.29	0.76	SA7-P5, SK109, SK110, SK111, SK115	SK114	J16	31	-	
SK113	B	10	I基 a	II	1	2	0.51	0.45	0.43	0.30	0.23	-	SK114	-	-	-	
SK114	B	9-10	I基 b	VI	4	2	(2.50)	(1.16)	(0.39)	(0.09)	0.92	SK110, SK111, SK112, SK113	-	J3	-	-	
SK115	B	9	I基 a	-	-	-	(0.68)	(0.25)	-	-	0.30	-	SK102, SK109, SK112	J1	-	-	
SK116	B	9	I基 a	I	1	1	0.25	0.25	0.18	0.16	0.25	-	-	J1	-	-	
SK117	C	9	I基 a	IV	2	2	0.33	(0.25)	0.17	(0.13)	0.32	SA7-P4	-	J1	-	-	
SK118	C	9	I基 b	V	1	2	0.44	0.37	0.10	0.08	0.73	-	-	J3	-	-	
SK119	C	9	I基 a	IV	2	2	0.64	0.51	0.45	0.31	0.47	-	SK120	P5	60	-	
SK120	C	9	I基 a	I	2	2	(0.40)	0.38	(0.40)	0.24	0.13	SA6-P4, SK119	-	J1	-	-	
SK121	C	9-10	I基 b	V	1	2	0.70	0.63	0.26	0.19	0.28	SK122	-	J1	-	-	
SK122	C	9-10	I基 b	I	2	2	0.52	0.49	0.33	0.27	0.48	-	SK121	J1	-	-	
SK123	C	9-10	I基 b	III	1	2	0.80	0.69	0.36	0.27	0.68	-	SK124, SK125	J14	-	-	
SK124	C	9	I基 b	IV	1	1	0.36	(0.20)	0.25	(0.15)	0.11	SK123	-	-	-	-	
SK125	C	9-10	I基 c	IV	2	1	0.72	(0.49)	0.48	(0.42)	0.26	SK123	-	J1	-	-	
SK126	C	9	I基 a	IV	1	1	0.61	0.54	0.29	0.25	0.69	-	SK128	J1	-	-	
SK127	C	9	I基 b	IV	1	1	0.57	0.53	0.25	0.21	0.64	-	SK128	J4	-	-	
SK128	C	9-10	I基 b	I	2	2	(1.87)	1.40	1.70	1.14	0.31	SK126, SK127	SB2-P3, SK129	J7	-	-	
SK129	C	9	I基 b	IV	1	1	(0.49)	0.45	(0.40)	0.25	0.34	SB2-P3, SK128	-	-	-	-	
SK130	C	10	I基 b	IV	2	2	0.73	0.48	0.43	0.28	0.65	-	-	J4, S1	-	-	
SK131	C	10	I基 b	IV	2	2	0.71	0.50	0.46	0.32	0.74	-	-	J6, S1	-	-	
SK132	C-D	10	Ⅲ上	b	IV	2	1	0.65	0.53	0.38	0.32	0.59	-	-	J2, P1	60	-
SK133	D	9	Ⅲ上	a	I	2	2	0.55	0.42	0.38	0.24	0.13	-	-	-	-	-
SK134	D	9	Ⅲ上	b	IV	2	1	0.64	0.53	0.39	0.34	0.66	-	-	J3	-	-
SK135	D	9	Ⅲ上	b	IV	1	1	0.31	0.30	0.15	0.15	0.33	-	-	J2	-	-
SK136	D	9-10	Ⅲ上	a	IV	1	2	(0.06)	0.56	(0.62)	0.35	0.19	SP16	-	J8	-	-
SK137	D	9-10	Ⅲ上	b	I	2	2	0.94	0.56	0.46	0.27	0.33	-	-	J9	31	-

表19 土坑一覧表（4）

遺構番号	地区割り 南北 東西	検出面	堆積層 断面形	平面形	底面形	規模(m)				重複関係		出土遺物	拂 國	図版				
						上端		下端		深さ	新	旧						
						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長									
SK138	D	10	■上	a	IV	1	1	0.59	0.51	0.48	0.45	0.17	SPI7	-	J2	-	-	
SK139	D	10	■上	b	IV	2	2	(0.52)	0.42	(0.48)	0.30	0.19	SP20	-	-	-	-	
SK140	E	9	■上	a	■	1	2	0.60	0.55	0.22	0.17	0.10	-	-	J1	-	-	
SK141	D	10	■上	a	I	2	2	0.75	0.52	0.45	0.25	0.17	-	-	J6	-	-	
SK142	D	10	■上	a	I	2	2	0.39	0.31	0.29	0.18	0.10	-	-	-	-	-	
SK143	D	10	■上	b	IV	1	1	0.46	0.44	0.35	0.33	0.22	-	-	J3	-	-	
SK144	D	10	■上	a	V	2	1	(0.48)	0.43	0.19	(0.08)	0.26	-	-	-	-	-	
SK145	D	B-E	■上	-	I	2	2	1.49	(0.47)	1.44	(0.38)	0.12	SK146	SII, SK147	J2	-	-	
SK146	D	8	■上	b	IV	1	1	0.51	0.43	0.38	0.33	0.22	-	SII, SII-P1, SK145	-	-	-	
SK147	D	B-E	■上	a	I	2	1	0.59	(0.20)	0.33	(0.28)	0.22	SK145	SII, SK148	J1	-	-	
SK148	D-E	B-E	■上	a	I	2	2	(2.19)	(1.14)	(2.07)	(1.06)	0.12	SK147	SII	J12, SII	-	-	
SK149	E	9	■上	b	IV	1	2	0.63	0.61	0.16	0.08	0.54	-	SII, SII-BP ¹ , SII-P13	J5	-	-	
SK150	D-E	E	■上	a	IV	1	1	0.39	0.35	0.28	0.25	0.22	-	SII	J1, SII	-	-	
SK151	E	9	■上	a	I	1	2	0.42	0.37	0.25	0.20	0.14	-	SII	J3	32	-	
SK152	E	9	■上	b	VII	2	2	0.82	0.55	0.35	0.12	0.78	-	SII	J11	-	-	
SK153	E	9	■上	b	IV	2	2	1.56	(0.68)	1.21	(0.42)	0.69	SII, SP28, SK373	-	J13	-	-	
SK154	D-E	10	■上	a	I	-	-	(0.43)	(0.33)	(0.30)	(0.23)	0.25	-	-	-	-	-	
SK155	F	10	I基	-	-	-	-	(0.66)	(0.50)	(0.30)	(0.15)	0.25	-	SK156	T2	-	-	
SK156	F	10	I基	-	-	-	-	(1.36)	(0.44)	(1.00)	(0.32)	0.09	SK155	-	-	-	-	
SK157	C-D	11	I基	d	I	1	2	0.57	0.52	0.22	0.17	0.32	-	-	-	-	-	
SK158	D	11	I基	c	IV	2	2	1.02	0.55	0.68	0.54	0.31	-	-	J2	-	-	
SK159	D	11	I基	a	IV	2	2	0.54	0.41	0.30	0.25	0.19	-	-	J1	-	-	
SK160	D	11	I基	a	II	1	1	0.29	0.27	0.17	0.16	0.31	-	-	-	-	-	
SK161	E	11	I基	a	I	1	1	0.23	0.20	0.10	0.10	0.18	-	SK162	-	-	-	
SK162	E	11	I基	c	I	1	1	0.84	(0.92)	0.43	0.40	0.28	SK161	-	J1	-	-	
SK163	C	11	■上	c	IV	2	-	(0.65)	0.55	(0.48)	0.30	0.51	SP29	SK164	J1	-	-	
SK164	C	11	■上	c	IV	4	4	1.06	(0.66)	0.67	(0.50)	0.57	SK163	-	J5	32	-	
SK165	D	11	I基	a	I	1	1	0.50	0.47	0.21	0.20	0.27	-	-	-	-	-	
SK166	D	11	I基	b	IV	2	2	0.78	0.60	0.38	0.23	0.26	-	-	J7	32	-	
SK167	D	11	■上	a	I	1	1	0.96	0.93	0.36	0.32	0.44	-	-	J37	32	-	
SK168	B	11	■上	a	I	2	2	0.39	0.36	0.16	0.13	0.29	-	-	J2	32	-	
SK169	D	11	■上	a	IV	2	1	0.99	0.72	0.62	0.52	0.19	-	-	J6	-	-	
SK170	D	11	I基	c	V	2	2	1.08	0.57	0.10	0.08	0.26	-	-	J3	-	-	
SK171	D	11	I基	a	IV	2	2	0.75	0.60	0.48	0.36	0.20	-	-	-	-	-	
SK172	D	11	■上	a	IV	2	2	0.90	0.73	0.69	0.48	0.23	-	-	J6	32	-	
SK173	D-E	11	■上	a	I	1	1	0.55	0.52	0.31	0.28	0.16	-	-	J1	-	-	
SK174	D-E	11	■上	a	IV	1	1	0.92	0.82	0.65	0.55	0.14	-	SK175, SK176	J1	-	-	
SK175	D	11	■上	a	I	1	1	0.26	0.25	0.15	0.13	0.24	SK174	SK176	-	-	-	
SK176	D-E	11	■上	a	-	-	1	(0.46)	0.50	0.11	0.10	0.35	SK174, SK175	-	-	-	-	
SK177	E	11	■上	c	IV	1	1	0.46	0.45	0.22	0.21	0.36	-	-	-	-	-	
SK178	E	11	■上	c	I	2	2	0.55	0.39	0.30	0.18	0.45	-	-	-	-	-	
SK179	E	11-12	■上	c	IV	1	1	0.54	0.50	0.15	0.15	0.41	-	-	J1	-	-	
SK180	E	11	I基	a	I	2	2	(0.90)	0.68	(0.60)	0.35	0.18	-	SK181, SK183, SK185	-	-	-	
SK181	E-F	11	I基	a	VI	-	-	(1.44)	(1.26)	(1.25)	0.80	0.18	SK180	SK182, SK183, SK185	J17, S2	33	-	
SK182	E	11	I基	a	I	1	1	0.22	0.21	0.08	0.07	0.23	SK181	SK185	-	-	-	
SK183	E	11	I基	-	-	-	-	0.62	(0.48)	(0.27)	0.25	0.19	SK180, SK181	J1	-	-	-	
SK184	F	11	I基	c	V	2	1	0.77	0.59	0.14	0.14	0.39	-	SK185	J2	-	-	-
SK185	E-F	11	I基	#	V	-	4	3.29	(2.68)	1.58	1.25	0.94	SK180, SK181, SK182, SK183, SK184	-	J62, S2	34 ~ 36	4 5	

表20 土坑一覧表（5）

遺構 番号	地区割り 南北 東西	検出面 埋 蔵 形	底面形	規模 (m)						重複關係			出土 遺物	拂 國	図 版		
				上端			下端			深さ	新		旧				
				長軸長	短軸長	長軸長	短軸長										
SK186	E	11	I基	a	IV	-	-	1.60	(1.09)	0.50	(0.40)	0.43	-	SK187	J12	37 5 6	
SK187	E	11	I基	a	IV	-	-	1.32	(0.68)	0.84	(0.54)	0.21	SK186	-	J4	37	
SK188	C	12	面上	d	IV	1	1	0.39	0.34	0.15	0.13	0.34	-	-	-	-	
SK189	C	12	面上	e	I	1	2	0.26	0.24	0.17	0.14	0.25	-	-	-	-	
SK190	C	12	面上	a	I	-	-	0.36	0.19	(0.12)	(0.05)	0.12	-	-	-	-	
SK191	C	12	面上	e	I	1	2	0.51	0.45	0.24	0.17	0.26	-	-	-	-	
SK192	C	12	面上	a	IV	1	1	0.70	0.60	0.49	0.48	0.15	-	-	J3	37	
SK193	C	12	面上	e	III	1	1	0.56	0.54	0.10	0.09	0.21	-	SK195	J6	37	
SK194	C	12-13	面上	b	IV	2	2	(0.95)	0.70	(0.35)	0.20	0.36	-	SK195	-	-	
SK196	C	12	面上	e	III	-	2	(0.75)	0.67	0.48	0.13	0.37	SK193, SK194	-	J2	-	
SK196	C	12	面上	c	IV	2	2	0.58	0.41	0.36	0.25	0.35	-	SK197	-	-	
SK197	C	12	面上	a	IV	2	2	1.20	(1.07)	1.08	(1.04)	0.18	SK196	SK198	J1	-	
SK198	C	12	面上	a	I	2	2	0.29	0.23	0.11	0.07	0.18	SK197	-	-	-	
SK199	C	12	面上	e	I	2	1	0.49	0.40	0.10	0.10	0.21	-	-	-	-	
SK200	C	12	面上	a	IV	1	1	0.75	0.64	0.53	0.45	0.15	-	-	-	-	
SK201	C	12	面上	a	V	2	1	0.97	0.70	0.36	0.27	0.27	-	-	J2	-	
SK202	C	12	面上	c	IV	1	1	0.43	0.42	0.31	0.27	0.14	-	SK204	-	-	
SK203	C-D	12	面上	e	V	1	2	0.98	0.88	0.20	0.12	0.47	-	SK204, SK205	J3	-	
SK204	C	12	面上	a	IV	2	4	1.57	(0.97)	1.30	(0.87)	0.15	SK202, SK203	SK205	J3, S1	-	
SK205	C-D	12	面上	a	IV	-	-	(1.40)	1.20	(1.30)	1.03	0.21	SK203, SK204	-	J1	-	
SK206	D	11	面上	a	I	2	2	0.58	0.37	0.32	0.25	0.17	-	SK207	J1	-	
SK207	D	11-12	面上	c	IV	2	1	0.73	0.58	0.14	0.12	0.27	SK206	-	J8	37	
SK208	D	12	面上	a	IV	2	2	0.40	0.30	0.35	0.20	0.11	-	-	-	-	
SK209	D	12	面上	a	IV	2	2	0.78	0.60	0.64	0.42	0.18	-	-	J2	-	
SK210	D	12	面上	e	I	2	2	0.54	0.45	0.24	0.15	0.22	-	-	J3	38	
SK211	D	12	面上	e	V	2	2	0.74	0.55	0.10	0.06	0.35	-	-	J1	-	
SK212	D	12	面上	a	I	2	1	0.36	0.28	0.11	0.10	0.13	-	-	-	-	
SK213	D	12	面上	c	I	1	2	0.47	0.43	0.26	0.19	0.17	-	-	-	-	
SK214	D	12	面上	b	V	2	2	0.96	0.74	0.22	0.15	0.55	-	-	J3	-	
SK215	D	12	面上	a	IV	1	2	0.50	0.42	0.35	0.24	0.08	-	-	-	-	
SK216	D	12	面上	a	I	1	2	0.52	0.48	0.25	0.18	0.21	SAB-P1	-	J3	-	
SK217	E	11-12	面上	c	I	2	2	0.70	0.58	0.23	0.18	0.47	-	-	-	-	
SK218	E	12	面上	c	IV	2	2	0.54	0.45	0.28	0.18	0.14	-	-	J1	-	
SK219	E	12	面上	a	IV	1	1	0.20	0.19	0.13	0.13	0.15	-	-	-	-	
SK220	E	12	面上	a	I	1	1	0.45	0.44	0.30	0.30	0.15	-	-	-	-	
SK221	E	12	面上	a	IV	1	1	0.45	0.42	0.33	0.28	0.13	-	-	-	-	
SK222	E	12	面上	a	IV	2	1	0.48	0.37	0.14	0.12	0.44	-	-	-	-	
SK223	E-F	12	I基	b	IV	2	2	0.68	0.68	0.62	0.42	0.31	-	SK224, SK225	J2	38	
SK224	E	11-12	I基	b	IV	2	2	0.68	(0.60)	(0.40)	0.39	0.25	SK223	-	J1	38	
SK225	F	12	I基	c	I	2	2	(0.41)	0.30	(0.30)	0.15	0.29	SK223	-	J4	-	
SK226	E	12	面上	e	IV	1	1	0.57	0.62	0.32	0.27	0.43	-	-	-	-	
SK227	E-F	12	面上	a	I	1	2	0.29	0.25	0.16	0.08	0.13	-	-	J1	-	
SK228	D	12	面上	c	I	1	1	0.59	0.55	0.19	0.15	0.19	-	SK229, SK265	J1	-	
SK229	D	12	面上	a	IV	2	2	(0.64)	0.53	0.48	0.30	0.13	SK228	SK265	-	-	
SK230	D	12	面上	e	I	2	1	0.80	0.70	0.62	0.55	0.09	-	SK231, SK265	-	-	
SK231	D	12	面上	e	I	2	2	0.80	0.42	0.53	0.26	0.15	SK230	SK265	J3, S1	-	
SK232	D	12	面上	b	V	2	2	0.63	0.62	0.18	0.07	0.39	-	SK234, SK265	J6	-	
SK233	D	12	面上	b	V	2	2	0.70	0.45	0.47	0.29	0.21	-	SK234, SK265	-	-	
SK234	D	12	面上	-	I	-	-	0.90	(0.47)	0.31	(0.30)	0.34	SK232, SK233	SK265	J6	-	
SK235	D-E	12	面上	a	I	1	1	0.61	0.55	0.40	0.38	0.11	-	SK265	J18	38	
SK236	E	12	面上	a	III	2	2	0.50	0.37	0.14	0.10	0.27	-	-	-	-	

表21 土坑一覧表（6）

遺構番号	地区割り 南北 東西	検出面	堆積 断面形	平面形	底面形	規模(m)				重複関係		出土 遺物	排 闇	図版			
						上端		下端		深さ	新	旧					
						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長								
SK237	E	12	■上	d	IV	2	2	0.40	0.33	0.23	0.14	0.19	-	SK238	-	-	
SK238	E	12	■上	a	IV	2	2	(0.30)	0.28	(0.23)	0.15	0.12	SK237	-	-		
SK239	E	12	■上	d	■上	2	1	0.92	0.60	0.16	0.15	0.36	-	J3	-	-	
SK240	E	12	■上	a	IV	2	2	1.34	1.04	1.12	0.73	0.16	SK242	SK241, SK265	-	-	
SK241	E	12	■上	a	IV	1	1	0.97	(0.87)	(0.80)	0.78	0.09	SK240	SK242, SK265	-	-	
SK242	E	12	■上	a	V	1	2	0.63	(0.52)	0.43	0.27	0.34	SK241	SK240, SK265	-	-	
SK243	E	12	■上	e	V	2	2	1.13	0.83	0.20	0.15	0.50	-	SK244, SK245	J10	-	
SK244	E	12	■上	a	V	1	1	(0.90)	0.89	(0.84)	0.73	0.12	SK243	SK245, SK252	J3	-	
SK245	E	12	■上	a	IV	-	-	(0.96)	(0.95)	(0.74)	(0.70)	0.14	SK243, SK244	SK246, SK265	J8	38	
SK246	E	12	■上	b	IV	2	2	(0.88)	0.72	0.56	0.44	0.23	SK245	-	J9	38	
SK247	E	13	■上	a	IV	1	1	0.94	0.84	0.67	0.63	0.13	-	SK251, SK252, SK253, SK264	J1	-	
SK248	D-E	12-13	■上	e	I	2	2	0.97	0.84	0.80	0.54	0.18	-	SK251, SK254, SK255, SK265	J3	39	
SK249	E	13	■上	c	I	2	2	0.61	0.40	0.25	0.15	0.35	-	SK250, SK252	-	-	
SK250	E	12-13	■上	a	I	2	1	0.55	(0.30)	0.07	0.07	0.31	SK249	SK252	-	-	
SK251	D-E	12-13	■上	a	IV	2	2	(2.24)	1.53	2.17	1.49	0.25	SK247, SK248, SK249, SK250	SK255, SK256, SK264, SK265	J18	-	
SK252	E	12-13	■上	b	IV	-	-	(1.70)	(1.38)	1.40	1.10	0.17	SK244, SK247, SK249, SK250	SK253	J2, S1	39	
SK253	E	13	■上	c	IV	4	1	1.39	(1.23)	1.16	1.04	0.23	SK247, SK252	SK264	J1	-	
SK254	D	13	■上	b	V	1	2	0.40	0.40	0.09	0.05	0.37	SK248	SK251, SK255, SK265	-	-	
SK255	D-E	12-13	■上	-	-	1	1	0.68	(0.50)	0.18	0.18	0.48	SK248, SK251, SK254	SK265	-	-	
SK256	E	12	■上	e	III	2	2	0.61	0.50	0.15	0.12	0.47	SK251	SK265	J2	-	
SK257	E	13	■上	a	IV	2	2	0.82	0.51	0.66	0.25	0.12	-	SK261, SK264	-	-	
SK258	E	13	■上	a	I	2	2	0.88	0.68	0.60	0.35	0.10	-	SK260, SK261	J1	-	
SK259	D-E	13	■上	b	III	2	2	0.80	(0.60)	0.27	0.16	0.56	SK261, SK262	SK263	-	-	
SK260	E	13	■上	b	V	2	2	0.64	(0.45)	0.20	0.10	0.61	SK258, SK261	-	J2	-	
SK261	D-E	13	■上	d	VI	1	2	1.07	0.98	0.40	0.17	0.24	SK257, SK258, SK262	SK259, SK260	J1	-	
SK262	D-E	13	■上	a	IV	2	2	0.84	0.65	0.68	0.45	0.11	-	SK259, SK261, SK263	-	-	
SK263	D-E	13	■上	c	-	-	2	0.70	(0.58)	(0.40)	0.27	0.57	SK259, SK262	-	-	-	
SK264	E	13	■上	a	IV	-	-	(1.77)	(1.66)	(1.66)	(1.44)	0.16	SK247, SK251, SK253, SK257	-	J1, S1	-	
SK265	D-E	12-13	■上	e	IV	2	2	2.16	1.62	1.92	1.45	0.52	SAN-P2, SK228, SK229, SK230, SK231, SK232, SK233, SK234, SK235, SK240, SK241, SK242, SK245, SK248, SK251, SK254, SK255, SK256	-	J131, S2	40	6
SK266	E	13	■上	a	IV	2	2	1.03	(0.67)	0.39	0.28	0.33	-	SK267, SK268	J4	-	
SK267	E	13	■上	a	-	-	1	0.60	(0.47)	0.11	0.11	0.36	SK266	-	-	-	
SK268	E	13	■上	a	I	-	-	0.45	(0.25)	(0.11)	0.10	0.24	SK266	-	-	-	
SK269	C	13	■上	c	V	2	1	0.43	0.35	0.09	0.09	0.16	-	-	-	-	
SK270	C	13	■上	a	V1	-	-	(1.00)	(0.45)	0.31	(0.30)	0.25	-	SK273, SK274	J1	-	
SK271	C	13	■上	a	IV	-	-	(0.80)	(0.43)	(0.26)	(0.26)	0.12	-	SK274	J2	41	
SK272	C	13	■上	a	IV	2	2	0.92	0.74	0.64	0.43	0.16	-	SK273, SK275	J2	41	
SK273	C	13	■上	e	V	-	1	(1.10)	0.86	0.18	0.16	0.42	SK270, SK272	-	J4	-	
SK274	C	13	■上	e	IV	2	2	(1.25)	0.92	0.40	0.26	0.72	SK270, SK271	-	J4	-	
SK275	C	13	■上	e	III	2	1	0.75	0.60	0.11	0.10	0.39	SK272	-	-	-	
SK276	C	13	■上	a	IV	2	2	0.36	0.30	0.22	0.15	0.11	-	-	-	-	
SK277	C	13	■上	e	III	1	1	0.60	0.53	0.08	0.06	0.35	-	-	-	-	
SK278	C	13	■上	a	IV	1	2	0.38	0.34	0.26	0.18	0.12	-	SK279	-	-	-
SK279	C	13	■上	a	IV	1	2	0.58	(0.48)	0.42	0.32	0.15	SK278	-	-	-	

表22 土坑一覧表(7)

遺構番号	地区割り	縦面	横面	断面	平面形	底面形	規模(m)				重複關係		出土遺物	補圖	図版			
							上端		下端		深さ	新						
							長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧					
SK280	B	13	■上	a	I	I	2	0.25	0.21	0.13	0.10	0.16	-	-	-	-		
SK281	C	13	■上	a	I	I	2	0.49	0.33	0.18	0.12	0.12	-	-	-	-		
SK282	C	13	■上	a	V	2	2	0.95	0.68	0.07	0.05	0.34	-	-	-	-		
SK283	C	13	■上	b	V	2	2	0.91	0.45	0.25	0.12	0.29	-	-	J2	-		
SK284	C	13	■上	e	V	2	2	0.60	0.49	0.16	0.08	0.32	-	SK286, SK287	-	-		
SK285	C	13	■上	a	V	I	2	0.74	0.62	0.18	0.12	0.17	-	SK287	J1	-		
SK286	C	13	■上	e	■	2	1	0.58	0.39	0.10	0.09	0.33	SK284	-	-	-		
SK287	C	13-14	■上	b	V	2	1	(0.76)	0.70	0.15	0.14	0.36	SK284, SK285	-	-	-		
SK288	C	13	■上	a	I	I	2	0.31	0.26	0.11	0.08	0.16	-	-	-	-		
SK289	C	13	■上	e	I	I	2	0.59	0.40	0.23	0.12	0.19	-	SK290	-	-	-	
SK290	C	13	■上	d	■	I	2	(0.63)	0.57	0.15	0.12	0.31	SK289	SK291	-	-	-	
SK291	C	13	■上	c	I	I	2	(0.53)	0.64	0.20	0.10	0.23	SK290	-	-	-	-	
SK292	C	13	■上	a	I	I	2	0.29	0.23	0.15	0.10	0.10	-	-	-	-	-	
SK293	D	12	■上	e	I	I	1	0.50	0.31	0.13	0.11	0.44	-	SK294, SK295	-	-	-	
SK294	D	12	■上	c	-	-	2	(0.56)	0.56	(0.46)	0.38	0.29	SK293	-	J2	-	-	
SK295	D	12-13	■上	e	-	-	2	0.64	(0.65)	(0.48)	0.42	0.21	SK293	-	J1	-	-	
SK296	C-D	13	■上	e	VII	2	2	1.20	0.93	0.15	0.11	0.47	-	-	J2	41	-	
SK297	B	13	■上	c	I	I	2	0.33	0.32	0.15	0.10	0.23	-	-	-	-	-	
SK298	B	13	■上	e	I	I	2	0.65	0.42	0.15	0.09	0.38	-	-	-	-	-	
SK299	B	13	■上	c	IV	I	1	0.36	0.31	0.25	0.23	0.35	-	-	-	-	-	
SK300	B	12-13	■上	b	V	2	2	0.60	0.45	0.11	0.08	0.32	-	SA9-P1, SK301	-	-	-	
SK301	B	13	■上	b	IV	2	2	(0.52)	(0.33)	0.33	0.22	0.16	SAB-P3, SK300	SA9-P2	J1	60	-	
SK302	B	13	■上	e	III	2	1	0.60	0.49	0.15	0.15	0.49	-	SA9-P2	J1	-	-	
SK303	B	13	■上	b	V	2	1	1.13	0.81	0.16	0.14	0.35	-	SAB-P4, SK304	J2	-	-	
SK304	B	13	■上	a	IV	-	-	0.57	(0.32)	0.39	(0.25)	0.12	SK303	-	-	-	-	
SK305	B	13	■上	e	I	2	2	(0.91)	0.80	0.63	0.28	0.31	-	SK306	J1	-	-	
SK306	B	13	■上	b	IV	2	2	(0.51)	0.35	0.15	0.10	0.39	SK305	-	J2, S1	41	-	
SK307	B	13	■上	a	IV	2	2	0.45	0.35	0.33	0.22	0.17	-	SK308	-	-	-	-
SK308	B	13	■上	e	I	I	2	(0.67)	0.47	0.17	0.13	0.26	SK307, SK309	-	-	-	-	
SK309	B	13	■上	c	III	I	2	0.58	0.57	0.24	0.12	0.21	-	SK308, SK310	-	-	-	-
SK310	B	13	■上	b	-	-	-	(0.37)	0.37	(0.27)	0.16	0.20	SK309	-	-	-	-	
SK311	B	13	■上	e	I	I	1	0.35	0.34	0.13	0.12	0.22	-	SK312	-	-	-	-
SK312	B-E	13	■上	e	III	2	2	0.57	0.40	0.24	0.17	0.27	SK311	-	-	-	-	
SK313	D-E	13	■上	a	I	2	2	0.88	0.68	0.70	0.43	0.09	-	SK314, SK315	-	-	-	-
SK314	D-E	13	■上	e	V	2	2	(0.62)	(0.47)	0.09	0.07	0.37	SK313	-	-	-	-	
SK315	E	13	■上	e	III	I	1	0.81	(0.75)	0.16	0.14	0.65	SK313	-	-	-	-	
SK316	E	13	■上	a	IV	I	2	0.80	0.72	0.43	0.34	0.16	-	SK319, SK322	J3	-	-	-
SK317	E	13	■上	a	IV	I	1	0.51	0.50	0.39	0.38	0.08	-	SK319, SK320	-	-	-	-
SK318	E	13	■上	a	IV	I	2	0.67	0.57	0.50	0.41	0.12	-	SK319, SK321	-	-	-	-
SK319	E	13	■上	a	VII	I	1	(0.84)	(0.73)	0.46	0.40	0.29	SK316, SK317, SK318	-	J1	-	-	
SK320	E	13	■上	e	V	2	2	0.48	0.30	0.13	0.08	0.30	SK317	-	-	-	-	
SK321	E	13	■上	b	IV	4	4	1.16	1.05	0.87	0.80	0.24	SK318	-	J2	-	-	
SK322	E	13	■上	e	I	I	1	0.37	0.36	0.21	0.18	0.25	SK316	-	J2	-	-	
SK323	E	13	■上	a	I	2	2	0.40	0.30	0.25	0.20	0.11	-	-	-	-	-	
SK324	E	13	■上	e	III	2	2	0.45	0.39	0.15	0.12	0.25	-	-	-	-	-	
SK325	E	13	■上	e	III	I	2	0.44	0.39	0.11	0.09	0.16	-	-	J1	-	-	
SK326	E	13	■上	a	IV	I	1	0.42	0.40	0.31	0.30	0.14	-	-	J3	41	-	
SK327	E	13	■上	e	IV	2	2	0.70	0.41	0.28	0.20	0.21	-	SK328, SK330	-	-	-	-
SK328	E	13	■上	e	V	I	1	0.72	0.70	0.07	0.06	0.36	SK327	-	-	-	-	
SK329	E	13	■上	e	III	2	1	(0.46)	0.35	0.07	0.06	0.33	SK328	-	-	-	-	

表23 土坑一覧表(8)

遺構番号	地区割り 南北 東西	検出面	堆積 断面形	平面形	底面形	規模(m)				重複関係		出土 遺物	神 國	図版				
						上端		下端		新	Ⅲ							
						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	Ⅲ						
SK330	E	13	■上	-	I	-	-	0.50	(0.45)	0.35	(0.33)	0.15	SK327, SK328	SK331	-	-	-	
SK331	E	13	■上	d	IV	2	2	0.62	0.51	0.46	0.23	0.27	SK328, SK330	-	-	-	-	
SK332	E	13	■上	-	-	-	-	(0.90)	(0.75)	(0.75)	(0.64)	0.12	-	SK333, SK334	-	-	-	
SK333	E	13	■上	e	I	-	1	(0.70)	(0.43)	(0.14)	(0.13)	0.26	SK332	-	-	-	-	
SK334	E	13-14	■上	b	IV	2	2	(0.35)	0.25	(0.26)	0.15	0.19	SK332	-	-	-	-	
SK335	B+C	13-14	■上	a	IV	1	2	0.83	0.70	0.48	0.40	0.31	-	SK337	-	-	-	
SK336	B	14	■上	a	-	2	2	(0.50)	0.49	0.21	0.15	0.16	-	SK337	J2	-	-	
SK337	B	14	■上	a	V	-	2	0.69	(0.36)	0.30	0.10	0.26	SK335, SK336	-	J2	-	-	
SK338	C	13	■上	c	I	2	2	0.62	0.43	0.19	0.15	0.13	-	SK339	J1	-	-	
SK339	C	13	■上	a	I	-	1	0.40	(0.32)	0.10	0.10	0.11	SK338	-	-	-	-	
SK340	C	13-14	■上	a	IV	1	1	0.65	0.62	0.47	0.45	0.11	-	SK341	-	-	-	
SK341	C	13	■上	a	IV	1	1	0.84	0.75	0.68	0.57	0.11	SK340	SK342, SK347	J4	-	-	
SK342	C	13	■上	-	-	-	-	0.58	(0.50)	0.36	(0.35)	0.11	SK341	SK343	-	-	-	
SK343	C	13	■上	u	I	-	1	0.48	(0.36)	(0.28)	0.25	0.08	SK342	-	-	-	-	
SK344	C	13	■上	c	IV	1	1	0.39	0.38	0.20	0.20	0.22	-	SK345, SK346	-	-	-	
SK345	C	13	■上	a	-	2	2	0.80	(0.74)	0.18	0.10	0.16	SK344	SK346, SK347	-	-	-	
SK346	C	13	■上	c	IV	1	-	0.48	0.42	(0.23)	0.21	0.19	SK344, SK345	-	-	-	-	
SK347	C	13	■上	a	V	-	2	0.70	(0.56)	0.10	0.07	0.27	SK341, SK345	-	J1	-	-	
SK348	C	14	■上	e	-	2	2	0.81	(0.63)	0.27	0.18	0.36	-	SK354, SK357, SK358	-	-	-	
SK349	C	13-14	■上	a	IV	2	2	1.05	0.59	0.68	0.25	0.10	-	SK354, SK357, SK358	J1	-	-	
SK350	C	13-14	■上	a	VII	2	2	0.53	0.29	0.37	0.10	0.21	-	SK358, SK359	-	-	-	
SK351	D	13-14	■上	b	I	2	2	0.64	0.51	0.10	0.07	0.31	-	SK355, SK359	-	-	-	
SK352	D	14	■上	-	IV	-	-	1.21	(0.95)	(0.81)	0.60	0.29	-	SK355, SK355, SK360	-	-	-	
SK353	C	14	■上	d	III	1	1	0.56	0.49	0.15	0.13	0.24	SK348	SK357	J1	-	-	
SK354	C	13	■上	a	IV	1	1	0.71	0.66	0.59	0.42	0.21	SK349	SK356, SK358	S1	-	-	
SK355	C-D	14	■上	d	V	-	1	(1.03)	(0.74)	0.17	0.16	0.36	SK351, SK352	SK359	J3	41	-	
SK356	C	13	■上	b	V	2	1	(0.72)	0.58	0.12	0.11	0.30	SK354	-	-	-	-	
SK357	C	14	■上	a	IV	-	2	(0.65)	(0.55)	(0.55)	0.26	0.15	SK348, SK349, SK353	-	-	-	-	
SK358	C	13-14	■上	a	III	4	2	(0.85)	(0.60)	0.19	0.13	0.42	SK349, SK350, SK354	-	-	-	-	
SK359	C-D	14	■上	c	V	-	-	(0.54)	(0.41)	0.05	0.05	0.21	SK356, SK358, SK355	-	J1	-	-	
SK360	D	14	■上	c	I	1	2	0.31	0.30	0.12	0.10	0.35	SK352	-	-	-	-	
SK361	D	14	■上	-	IV	-	-	0.31	(0.20)	0.19	(0.13)	0.19	-	-	-	-	-	
SK362	D	14	■上	-	IV	-	-	0.30	(0.26)	0.20	(0.18)	0.08	-	-	-	-	-	
SK363	D	14	■上	c	I	2	0.49	0.48	0.25	0.20	0.16	-	SK364	-	-	-	-	
SK364	D	14	■上	b	V	4	2	(0.72)	0.62	0.12	0.10	0.38	SK363	-	J3	-	-	
SK365	E	13-14	■上	a	IV	1	2	0.63	0.53	0.48	0.16	0.06	-	-	-	-	-	
SK366	E	13-14	■上	c	I	2	2	0.40	0.30	0.24	0.12	0.18	-	SK367	-	-	-	
SK367	E	13	■上	a	I	1	1	0.30	(0.29)	0.15	0.15	0.19	SK366	-	-	-	-	
SK368	E	14	■上	c	I	1	1	0.25	0.23	0.13	0.11	0.13	-	-	-	-	-	
SK369	E	14	■上	a	I	2	0.20	0.16	0.09	0.07	0.19	-	-	-	-	-		
SK370	E	8	■上	a	I	-	-	(0.40)	-	-	-	0.28	-	S11	-	-	-	
SK371	E	8-9	■上	a	III	-	-	0.59	-	-	-	0.35	-	S11	-	-	-	
SK372	E	9	■上	a	I	-	-	0.75	-	-	-	0.34	-	S11, SK373	-	-	-	
SK373	E	9	■上	a	III	-	-	(0.42)	-	-	-	0.35	SK372	S11, SK153	-	-	-	
SK374	D	8-9	■上	b	I	4	-	1.05	0.82	-	-	0.19	-	S11	J6, S2	-	-	-

表24 土器観察表(1)

揭露番号	種別	基盤	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 焼付率 O/L(%)	粘土	焼成	色調 (内面) (外面) (断面)	器面調整 内面/外面	分類 ・時期	文様・その他	種別	図版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
1	縄文土器	深鉢	—	SII	②	+	— (2.5)	1.2	黒(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TR 6/3 10TR 4/2 10TR 3/1	朱赤/ナデ	S3類	口縁部連續刺突、口縁部外面押引き彫文	11	8
2	縄文土器	深鉢	—	SII	③	4	— (7.1)	—	黒(φ1mm以下の長石・雲母を多く含む)	良好	10TR 3/3 10TR 4/4 10TR 4/4	朱赤/朱赤	S6類	外面スッペ着	11	8
3	縄文土器	深鉢	—	SII	④	d	— (2.9)	1.0	黒(φ1mm以下の質母をわずかに含む)	良好	10TR 4/2 10TR 4/3 10TR 4/2	ナデ/朱赤・ナデ	S6類	内面コグ付着	11	8
4	縄文土器	深鉢	—	SII	⑤	d	— (4.3)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TR 4/2 10TR 3/2 10TR 2/2	朱赤/朱赤	S6類	口唇部連續刺突	11	8
5	縄文土器	深鉢	—	SII	⑥	e	— (4.0)	1.0	黒(φ0.5mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TR 3/4 10TR 2/3 10TR 2/2	ナゲ/朱赤	S6類	口唇部連續刺突、穿孔有	11	8
6	縄文土器	深鉢	—	SII	⑦	n	— (3.1)	1.0	黒(φ1mm以下の質母をわずかに含む)	良好	10TR 3/2 10TR 3/2 10TR 2/2	ナデ・指屈正板/ナデ・指屈正板	28類	口縁部外面格子状模様、口縁部・底盤部外面彫刻有、スヌード有	11	8
7	縄文土器	深鉢	—	SII	⑧	b	— (1.8)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・チャートを多く含む)	良好	10TR 7/4 10TR 7/4 —/-	—/-	C1類	口縁部内面凹彫文(R)、口縁部外 面円形刻印列、連続爪形	11	8
8	縄文土器	深鉢	—	SII	⑨	n	— (4.1)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・石英・雲母を多く含む)	良好	2.5TR 5/6 10TR 2/2 10TR 5/2	ナデ/ナデ	C3c類	口唇部連續刺突、口縁部外 面浅彫文、円形刻印列研究	11	8
9	縄文土器	深鉢	—	SII	⑩	n	— (3.5)	—	やや粗(φ2mm以下の長石・石英・雲母を多く含む)	良好	10TR 4/1 10TR 3/3 10TR 4/1	ナゲ/-	C6類	底盤部外面深彫文、平行弦線	11	8
10	縄文土器	深鉢	—	SII-P2	⑪	1	— (8.3)	—	やや粗(φ1mm以下の長石・雲母を多く含む)	良好	BY 6/2 2.5TR 5/2 2.5TR 5/2	ナデ/-	C6類	脚部外面深彫文、平行弦線	11	8
11	縄文土器	深鉢	—	SII	⑫	n	(29.8)	2.5	やや粗(φ2mm以下の長石・石英・雲母をわずかに含む)	良好	7.5TR 4/4 10TR 5/6	ナデ/ナデ	C6類	口縁部・底盤外 面彫刻糸文、平行弦線	11	8
12	縄文土器	深鉢	—	SII	⑬	a	— (1.8)	—	やや粗(φ1mm以下の長石・石英・雲母をわずかに含む)	良好	10TR 6/4 10TR 4/1 10TR 6/4	ナデ・オサエ/ナ ブ	底部2e類	底盤部外 面押引き糸文・深彫文(LG)	11	8
16	縄文土器	深鉢	—	SP1	⑭	c	— (2.3)	1.0	黒(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TR 6/4 10TR 6/3 10TR 5/2	ナデ・指屈正板/ナ デ	Z11類	口唇部連續刺突	12	8
17	縄文土器	深鉢	—	SP4	⑮	s	— (2.4)	—	やや粗(φ1mm以下の長石・石英をわずかに含む)	良好	10TR 5/6 10TR 5/6	ナデ・指屈正板/ナ デ	Z11類	外面粘土貼付・朱赤・スヌード有	12	8
19	縄文土器	深鉢	—	SP7	⑯	b	— (2.7)	1.0	やや粗(φ0.5mm以 下の長石・雲母・繊維をわずかに含む)	良好	7.5TR 5/6 7.5TR 5/6 7.5TR 5/6	ナデ/ナデ	S16類	口縁部・口縁部 外側帶上連続刺突	12	8
20	縄文土器	深鉢	—	SP11	⑰	3	— (4.6)	1.0	黒(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TR 5/3 10TR 6/4 10TR 6/3	朱赤/朱赤	S6類	口唇部連續刺突	12	8
21	縄文土器	深鉢	—	SP14	⑱	2	— (3.0)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	7.5TR 7/4 7.5TR 6/4 7.5TR 8/2	ナデ/ナデ	Z6類	口縁部外側 貼付・スヌード有	12	8
22	縄文土器	深鉢	—	SP16	⑲	d	— (4.6)	—	やや粗(φ4mm以下の長石・石英を多く含む)	良好	10TR 6/2 10TR 7/4 10TR 7/4	ナデ/-	C6類	脚部外 面燃悉文、平行弦線	13	8
23	縄文土器	深鉢	—	SP17	⑳	2	— (2.5)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・雲母を多く含む)	良好	10TR 5/4 10TR 3/2 10TR 5/4	朱赤・ナデ/ナデ	S4類	口縁部外側凹 彫文・凸彫文・上連 続刺突	13	8

表25 土器観察表（2）

出 土 品 番 号	種 別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 残存率 (%)	胎土	焼 成	色調 (内面) (外面) (侧面)	器面調査 内面/外面	分類 時期	文様・その他	補 國	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
24	圓文 土器	深鉢	—	SP19	②	2	— (2.7)	1.0	やや粗 (φ 0.5mm以 下の雲母をわずかに 含む)	良好 好	10YR 5/4 10YR 5/6 10YR 6/3	ナデ/ナデ	S2類	口縁部外面粘土 縫隙付	13	8
25	圓文 土器	深鉢	—	SP23	①	a	— (2.3)	1.0	素 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 好	10YR 3/1 10YR 3/3 10YR 3/1	—/条痕	S6類	口唇部連續刺突	14	8
26	圓文 土器	深鉢	—	SP24	②	1	— (2.5)	1.0	やや粗 (φ 0.5mm以 下の長石・雲母・織 維をわずかに含む)	良好 好	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6	ナデ/ナデ	Z2類	口唇部連續刺 突、口縁部外面 弧形文列	14	8
27	圓文 土器	深鉢	—	SP24	②	3	— (12.6)	—	やや粗 (φ 1mm以下 の長石・雲母をわ ずかに含む)	良好 好	10YR 4/2 10YR 5/3 10YR 5/2	条痕/条痕	Z2類	胴部外面2周規則 の字形連續刺 突、口縁部内面 スカリ、口縁部外 面斜面付	14	9
28	圓文 土器	深鉢	—	SP28	①	a	— (2.5)	1.0	素 (φ 0.5mm以下の 長石・雲母をわずか に含む)	良好 好	10YR 5/3 10YR 5/1 10YR 5/1	ナデ・指壓压痕/ ナデ	Z11類	口唇部連續刺突	14	8
29	圓文 土器	深鉢	—	SK23	①	a	— (6.0)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・雲母をわ ずかに含む)	良好 好	2.5YR 5/6 2.5YR 5/2 2.5YR 4/3	ナデ/ナデ	S1b類	口唇部連續刺 突、口縁部外 面斜面付	15	9
30	圓文 土器	深鉢	—	SK23	③	e	— (5.5)	1.0	やや粗 (φ 2mm以下 の長石・石英・雲 母・織維をわずかに 含む)	良好 好	10YR 5/6 10YR 5/2 2.5YR 4/2	ナデ/ナデ	S1c類	口唇部・口縁部 内面斜面付、口縁部 外斜面付	15	9
31	圓文 土器	深鉢	—	SK23	③	e, d	— (12.9)	3.0	素 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 好	10YR 5/3 10YR 5/3 10YR 5/3	条痕/条痕	S6類	口唇部内面規則 刺突、口縁部内面 コゲ付着、口縁部 外斜面付	15	9
34	圓文 土器	深鉢	—	SK24	②	1	— (19.3)	1.0	素 (φ 1mm以下の長 石・石英・雲母・織 維をわずかに含む)	良好 好	7.5YR 5/6 7.5YR 4/2 7.5YR 5/6	条痕/ナデ/条 痕/ナデ	S1e類	口縁部内面規則 刺突、コゲ付 着、口縁部外 面、口縁部外 面斜面付、口縁部 外斜面付	16	10
35	圓文 土器	深鉢	—	SK24	②	1	— (23.6)	1.0	素 (φ 1mm以下の長 石・石英・雲母をわ ずかに含む。織維混 入)	良好 好	10YR 6/6 10YR 4/2 10YR 6/6	条痕/ナデ/条 痕/ナデ	S1e類	口縁部内面規則 刺突、コゲ付 着、口縁部外 面斜面付	16	10
36	圓文 土器	深鉢	—	SK24	②	1	— (18.5)	1.0	素 (φ 1mm以下の長 石・石英・雲母をわ ずかに含む。織維含 む)	良好 好	7.5YR 5/6 10YR 4/2 7.5YR 5/6	条痕/指壓压痕/ ナデ/条痕/ナデ	S1e類	口縁部内面規則 刺突、コゲ付 着、口縁部外 面、口縁部外 面斜面付、口縁部 外斜面付	16	10
37	圓文 土器	深鉢	—	SK27	①	a	— (3.4)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・雲母をわ ずかに含む)	良好 好	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6	ナデ・指壓压痕/ —	Z1b類	口唇部刺突、口 縁部外面粘土 縫隙付、条痕	17	10
38	圓文 土器	深鉢	—	SK28	②	1	— (4.5)	—	素 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわ ずかに含む)	良好 好	10YR 4/2 10YR 4/2 10YR 4/2	ナデ/ナデ	S2類	外斜面斜面付上規 則押捺	17	10
39	圓文 土器	深鉢	—	SK33	①	d	— (6.4)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・雲母・織 維をわずかに含む)	良好 好	10YR 5/6 10YR 5/2 10YR 5/2	ナデ/ナデ	S1b類	口唇部交差押 捺、外斜面孔有	18	10
40	圓文 土器	深鉢	—	SK33	①	a	— (4.9)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・雲母・織 維をわずかに含む)	良好 好	10YR 5/6 10YR 5/2 10YR 5/2	条痕/ナデ	S1b類	口唇部交差押 捺、口縁部外 面斜面付、織 維亂入	18	9
41	圓文 土器	深鉢	—	SK33	①	e	— (6.6)	1.0	素 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわ ずかに含む)	良好 好	10YR 5/2 10YR 6/4 10YR 2/1	条痕/ナデ/ナデ	S1b類	口唇部交差押 捺、口縁部外 面斜面付、織 維亂入	18	10

表26 土器観察表（3）

掲載番号	種別	器種	出土位置			大きさ(cm)	口縁部 残存率 G/U12) 底径 高さ	断土	焼成	色調 (内面 (外面)) 断面	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	邦 國	図 版
			出土区・ グリット	遺構番号	部位										
42	縄文土器	深鉢	—	SK33	① c	— (6.3)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・石英・織維 をわずかに含む)	良好	10YR 4/2 10YR 4/3 10YR 4/3	条痕/朱痕	S1e類	口唇部・ 外腹側上連続 刺突	18	10
43	縄文土器	深鉢	—	SK33	① e	— (5.8)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・石英・織維 をわずかに含む)	良好	10YR 8/2 10YR 7/5 10YR 3/1	指屈压痕・ナデ/ ナラ・条痕	S1d類	口縁部外面部・ 口縁部外腹帶 上連続刺突	18	10
44	縄文土器	深鉢	—	SK33	① i	— (3.3)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・織維をわざか に含む)	良好	10YR 5/8 10YR 5/3 10YR 4/1	ナデ・指屈压痕/—	S1d類	口唇部連続刺 突・ 口縁部外面部 ・口縁部外腹帶 上連続刺突	18	10
45	縄文土器	深鉢	—	SK33	④ 2	— (4.6)	1.0	衛(φ1mm以下の長 石・石英・雲母をわざ かに含む)	良好	10YR 5/7 10YR 6/2 10YR 3/1	指屈压痕・ナデ/ ナラ	S1d類	口唇部・ 口縁部外面部・ 口縁部外腹帶 上連続刺突	18	10
46	縄文土器	深鉢	—	SK33	① j	— (9.4)	1.0	衛(φ1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好	10YR 4/2 10YR 3/1 10YR 4/2	ナデ/ナデ	S1e類	口唇部・ 口縁部外面部 連続突起	18	10
47	縄文土器	深鉢	—	SK33	③ r	— (6.3)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・石英・雲母をわざ かに含む)	良好	10YR 5/3 10YR 6/2 10YR 4/2	条痕/朱痕	S1f類	口唇部連続刺 突・ 口縁部外面部 平行沈線	18	10
48	縄文土器	深鉢	—	SK33	① l	— (2.0)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6	ナデ・指屈压痕/ ナラ	S5類	口縁部外面部 貼付	18	10
49	縄文土器	深鉢	—	SK33	① s	— (2.9)	1.0	衛(φ1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好	10YR 4/4 10YR 3/1 10YR 4/7	ナデ/—	Z1b類	口唇部連続刺 突・ 口縁部外面部 點點貼付・条 痕	18	10
50	縄文土器	深鉢	—	SK33	④ z	— (6.0)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 7/3 10YR 8/5 10YR 4/1	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	Z2類	口唇部連続刺 突・ 口縁部外面部 點點貼付・E字 形刺突	18	10
51	縄文土器	深鉢	—	SK33	① a	— (10.0) (1.7)	1.0	やや粗(φ1mm以下の 長石・雲母をわざかに 含む)	良好	2.5YR 4/4 10YR 5/6 2.5YR 4/3	ナデ/ナデ	底部S型	—	18	9
52	縄文土器	深鉢	—	SK40	② 1	— (4.7)	1.0	衛(φ2mm以下の長 石・チャート・雲母 をわずかに含む)	良好	7.5YR 4/4 7.5YR 4/4 7.5YR 4/3	ナデ/ナデ	S5類	口縁部外面部 貼付	19	10
53	縄文土器	深鉢	—	SK42	① r	— (2.7)	1.0	衛(φ1.5mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 5/6 10YR 5/6 10YR 4/7	ナデ/ナデ	S1b類	口唇部・ 口縁部外面部 上交互 押捺	21	11
54	縄文土器	深鉢	—	SK42	③ e	— (3.8)	1.0	衛(φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ざかに含む)	良好	2.5Y 7/2 2.5Y 7/2 2.5Y 4/1	ナデ/ナデ	S1e類	口縁部外面部 上連続刺突	21	11
55	縄文土器	深鉢	—	SK42	③ i	— (8.6)	1.0	やや粗(φ2mm以下の 長石・石英・雲母 を多く含む) (織維混入)	良好	10YR 7/2 10YR 7/2 10YR 5/1	条痕・ナデ・指屈 压痕/ナデ	S1d類	口唇部・ 口縁部外面部 上連続刺突	21	11
56	縄文土器	深鉢	—	SK42	③ i	— (4.3)	—	やや粗(φ1.5mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 6/4 10YR 4/2 10YR 5/2	条痕/朱痕	S1d類	外面部 ・外面部 上連続刺突	21	11
57	縄文土器	深鉢	—	SK42	② z	— (5.1)	1.0	衛(φ1mm以下の長 石・石英・雲母をわ ざかに含む)	良好	10YR 4/2 10YR 5/2 10YR 4/2	ナデ/ナデ	S1e類	口唇部・ 口縁部外面部 上連続刺突	21	11
58	縄文土器	深鉢	—	SK42	③ e	— (3.0)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長 石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 4/3 10YR 3/2 10YR 4/2	ナデ/ナデ	S1f類	口唇部連続刺 突・ 口縁部外面部 張	21	11

表27 土器観察表(4)

出範番号	種別	器種	出土位置			口縁部 埋存率 (%)	胎土	焼成	色調 (内面 外面 断面)	表面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	被 団	国 版
			出土区・ グリット	遺構番号	層位									
59	調文 土器	深鉢	—	SK42	① d	— (3.7)	1.0	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 4/2 10YR 3/4 10YR 6/4	朱赤/条痕	56類	口唇部連続刺 突、口縁部外面 スス付着	21	11
60	調文 土器	深鉢	—	SK42	② j	— (2.4)	1.0	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 6/4 7.5YR 5/4 10YR 6/4	ナデ/ナデ・朱赤	Z1a類	口縁部外面粘土 絆點付	21	11
61	調文 土器	深鉢	—	SK42	③ n	— (2.2)	1.0	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 4/2 10YR 3/2 10YR 4/2	ナデ/条痕	Z1a類	口縁部外面粘土 絆點付	21	11
62	調文 土器	深鉢	—	SK42	① e	— (2.7)	1.0	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 7.5YR 5/6 10YR 5/6 10YR 6/4	ナデ/ナデ	Z1b類	口唇部連続刺 突、口縁部外面 粘土絆點付・条 縞	21	11
63	調文 土器	深鉢	—	SK42	② 2 ③ d	— (4.2)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6	指端圧痕・ナデ/ ナデ・条痕	Z1b類	口唇部連続刺 突、口縁部外面 粘土絆點付・条 縞	21	11
64	調文 土器	深鉢	—	SK42	① e	— (3.2)	—	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 7.5YR 5/6 10YR 5/6	ナデ/-	Z1b類	外表面粘土絆 點付・条痕	21	11
65	調文 土器	深鉢	—	SK42	③ e	— (3.3)	—	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 4/1 10YR 7/2 10YR 4/1	ナデ/ナデ	Z5類	口縁部外表面 (内)・口縁部外 面粘土帯上連続刺 突状刺突	21	11
74	調文 土器	深鉢	—	SK45	② l	— (1.9)	1.0	透 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 7.5YR 4/2 7.5YR 4/3	ナデ/条痕	56類	口唇部連続刺 突	22	11
76	調文 土器	深鉢	—	SK50	④ l	— (6.1)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・石英・雲 母をわずかに含む、 繊維混入)	良好 10YR 4/2 10YR 3/1	ナデ・指端圧痕/ ナデ	S1d類	口唇部連続刺 突、口縁部外 面連続乳頭・ス ス付着	23	11
77	調文 土器	深鉢	—	SK51	① n	— (3.4)	—	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・雲母をわ ずかに含む、繊 維混入)	良好 10YR 5/2 10YR 4/1	ナデ・指端圧痕/ ナデ	S1d類	外表面連続・ス ス付着	24	11
78	調文 土器	深鉢	—	SK51	② 2	— (5.0)	1.0	透 (φ 3mm以下の長 石・雲母、繊維をわ ずかに含む)	良好 10YR 4/2 10YR 6/2	ナデ・指端圧痕/ ナデ	55類	口唇部連続刺 突、口縁部外 面直下連続乳頭・ スス付着	24	11
79	調文 土器	深鉢	—	SK57	① n	— (4.0)	1.0	やや粗 (φ 2mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好 10YR 6/4 10YR 3/4 10YR 4/1	ナデ/ナデ	C3a類	口唇部直状突 起・C字爪形文 様・口縁部外 面繊維混入	24	11
80	調文 土器	深鉢	—	SK60	② 2	— (4.9)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下の 長石・石英・雲母 をわずかに含む、 繊維混入)	良好 10YR 7/4 2.5Y 4/1	条痕/ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 外表面土交又 押捺	25	11
81	調文 土器	深鉢	—	SK60	② n	— (3.2)	1.0	やや粗 (φ 0.5mm以 下の長石・石英・雲 母をわずかに含む)	良好 10YR 7/4 10YR 7/4 2.5Y 4/2	ナデ/ナデ	C3a類	口唇部直状突 起・連続刺突、 口縁部外表面 (内)・口縁部外 面C字爪形文 様	25	11
82	調文 土器	深鉢	—	SK60	② b	— (3.1)	1.0	やや粗 (φ 1mm以下 の長石・石英・雲 母をわずかに含む)	良好 10YR 7/6 10YR 7/6 10YR 4/2	ナデ/ナデ	C3a類	口唇部直状突 起・連続刺突、 口縁部外表面 (内)・口縁部外 面C字爪形文 様	25	11
83	調文 土器	深鉢	—	SK60	② b	— (4.2)	1.0	透 (φ 0.5mm以下の 長石・雲母をわ ずかに含む)	良好 2.5Y 5/2 2.5Y 4/4 2.5Y 4/1	ナデ/ナデ	C3a類	口唇部連続刺 突、口縁部内面 (内)・口縁部外 面C字爪形文 様	25	11

表28 土器観察表(5)

出 品 番 号	種別	基盤	出土位置		大きさ (cm)	口縁部 既存半 径(G/12)	粘土	焼成	色調 (内面) (外面)	表面調整 内面/外面	分類 時期	文様・その他	排 列	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号											
84	圓文 土器	深鉢	—	SE60	②	f (24.6) — (5.7)	2.0	やや粗 (φ1mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 7/4 10YR 7/6 10YR 6/3	ナデ/ナデ	Gla相	口縁部連続刺 突、口縁部内面 圓文(凹)、口縁 部外面C字爪形文 等	25	11
			—	—	—	II	—	—	良好	10YR 5/3 10YR 3/2 10YR 5/3	ナデ/指淵正梳/ 柔梳	56相	口縁部連続刺 突	26	12
87	圓文 土器	深鉢	—	SE61	②	3 — (2.7)	—	密 (φ1mm以下の 長石・雲母をわずか に含む)	良好	10YR 3/2 10YR 3/2 10YR 4/3	柔梳/柔梳	56相	口縁部外面スス 付脊	26	12
88	圓文 土器	深鉢	—	SE61	②	3 — (3.2)	1.0	密 (φ1mm以下の 長石・雲母をわずか に含む)	良好	10YR 6/2 10YR 3/1 10YR 6/2	ナデ/ナデ・柔梳	71a相	外面粘土細粒 付・スス付脊	26	12
89	圓文 土器	深鉢	—	SE61	②	3 — (2.6)	—	密 (φ1mm以下の 長石・雲母をわずか に含む)	良好	10YR 6/2 10YR 3/1 10YR 6/2	ナデ/ナデ・柔梳	71a相	外面粘土細粒 付・スス付脊	26	12
90	圓文 土器	深鉢	—	SE61	②	b — (7.3)	—	やや粗 (φ0.5mm以 下の長石・石英・雲 母をわずかに含む)	良好	10YR 6/3 2.5Y 4/4 10YR 6/3	ナデ/指淵正梳/ ナデ	25相	側面部外縁上 連続刺突、側面部 外面圓文(凹)、 側面部外縁スス 付脊	26	12
91	圓文 土器	深鉢	—	SE61	②	a — (2.2)	—	密 (φ1mm以下の 長石・雲母をわずか に含む)	良好	10YR 7/4 10YR 6/4 10YR 6/4	ナデ/—	Gla相	口縁部連続刺 突、口縁部内面 圓文(凹)、口縁 部外面C字爪形文 等	26	12
92	圓文 土器	深鉢	—	SE61	②	b — (3.4)	—	やや粗 (φ2mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 6/4 10YR 5/2 10YR 6/4	ナデ/—	Gla相	口縁部外面C字爪 形文等	26	12
93	圓文 土器	深鉢	—	SE62	②	2 — (4.1)	—	やや粗 (φ1mm以下 の長石・雲母をわざか に含む。織維混入)	良好	10YR 5/4 10YR 5/4 10YR 6/4	ナデ/ナデ	S1b相	口縁部・口縁部 外縁階層上交互 押突、外面スス 付脊	27	12
94	圓文 土器	深鉢	—	SE62	③	f — (3.4)	—	やや粗 (φ0.5mm以 下の長石・雲母をわざか に含む)	良好	7.5YR 6/4 2.5Y 4/5 2.5Y 4/5	ナデ/ナデ	S1b相	口縁部・口縁部 外縁階層上交互 押突	27	12
95	圓文 土器	深鉢	—	SE62	③	d — (4.5)	—	やや粗 (φ1mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	7.5YR 5/6 10YR 5/6 10YR 5/6	柔梳/ナデ	S1b相	口縁部交差押 突、口縁部外縁 階層上連続刺突	27	12
96	圓文 土器	深鉢	—	SE62	④	2 — (3.7)	—	密 (φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ざかに含む)	良好	7.5YR 5/4 7.5YR 5/4 7.5YR 5/4	柔梳・ナデ/ナデ	S1c相	口縁部・口縁部 外縁階層上連続 刺突	27	12
97	圓文 土器	深鉢	—	SE62	④	b — (5.0)	—	やや粗 (φ1mm以下 の長石をわざかに含 む)	良好	10YR 8/2 10YR 5/1 10YR 5/1	指淵正梳/ナデ/ ナデ	S1e相	口縁部・口縁部 外縁階層上連続 刺突	27	12
98	圓文 土器	深鉢	—	SE62	⑤	b — (2.9)	—	密 (φ1mm以下の長 石・石英・雲母をわ ざかに含む)	良好	7.5YR 6/6 7.5YR 6/6 7.5YR 6/6	柔梳・指淵正梳/ ナデ/ナデ	S1d相	口縁部・口縁部 外縁階層上連続 刺突	27	12
99	圓文 土器	深鉢	—	SE62	⑤	2 — (6.6)	—	やや粗 (φ1.5mm以 下の長石・雲母・織 維をわざかに含む)	良好	7.5YR 5/6 10YR 5/2 10YR 4/3	ナデ/ナデ	S1d相	口縁部内面・口 縁部外縁・口縁 部外面C字爪形文 等	27	12
100	圓文 土器	深鉢	—	SE62	⑤	f — (4.5)	—	やや粗 (φ0.5mm以 下の長石・雲母・織 維をわざかに含む)	良好	10YR 6/6 7.5YR 5/6 7.5YR 5/6	柔梳・ナデ/— ナデ	S1d相	口縁部内面・口 縁部外縁・口縁 部外面C字爪形文 等	28	12
101	圓文 土器	深鉢	—	SE62	⑥	— (26.0)	—	やや粗 (φ1.0mm以 下の長石・雲母・織 維をわざかに含む)	良好	10YR 5/6 10YR 4/3 10YR 4/3	柔梳・ナデ/柔 梳・ナデ	S1d相	口縁部内面・口 縁部外縁・口縁 部外面C字爪形文 等	28	13
102	圓文 土器	深鉢	—	SE62	①	a — (4.4)	—	やや粗 (φ1.5mm以 下の長石・石英・雲 母をわざかに含む。 織維混入)	良好	10YR 8/1 10YR 3/1 10YR 3/1	ナデ/ナデ	S1d相	—	28	12
103	圓文 土器	深鉢	—	SE62	③	h — (2.8)	—	密 (φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ざかに含む)	良好	10YR 4/2 10YR 3/2 10YR 3/1	柔梳・ナデ/ナデ	S1e相	口縁部・口縁部 外縁連続刺突	28	12

表29 土器観察表(6)

出 土 品 番 号	種 別	形 種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 埋蔵率 (X/12) 底径 底高	胎土	焼成	色調 (内面 外面 断面)	器面調整 内面/外面	分類 ・時 期	文様・その 他の 特 徴	図 版
			出土区 グリット	遺構番号	層位									
104	調文 土器	深鉢	—	S862	③ h	— (3, 1)	1.0	素(φ 1.5mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.SYR 3/1 T.SYR 6/6 T.SYR 6/4	ナデ・指圧圧痕/ ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外面連続剥突、 内面ゴ付着	28 12
105	調文 土器	深鉢	—	S862	③ n	— (3, 7)	1.0	素(φ 0.5mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 7/2 T.YTR 7/2 T.YTR 4/1	条痕・ナデ/ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外面連続剥突	28 12
106	調文 土器	深鉢	—	S862	④ 2	— (3, 3)	1.0	素(φ 2mm以下の長石・チャート・雲母をわざかに含む)	良好	T.SYR 6/4 T.YTR 6/4 T.YTR 4/1	ナデ/ナデ	S1e類	口縁部外外面連 続剥突	28 12
107	調文 土器	深鉢	—	S862	④ 4	— (3, 1)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.SYR 6/6 T.SYR 6/6 T.YTR 6/4	ナデ/ナデ	S1f類	口唇部透視剥 突、口縁部外面 張裂	28 12
108	調文 土器	深鉢	—	S862	⑤ 6	— (4, 8)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.SYR 5/4 T.YTR 5/3	ナデ/ナデ	S1f類	口唇部透視剥 突、口縁部外面 張裂	28 12
109	調文 土器	深鉢	—	S862	⑤ 2	— (3, 8)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・チャート・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 6/6 T.YTR 4/4 T.YTR 4/1	ナデ/ナデ	S1f類	口縁部外面張裂	28 12
110	調文 土器	深鉢	—	S862	⑤ 2	— (3, 1)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・チャート・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 7/4 T.YTR 6/4 T.YTR 6/2	ナデ/ナデ	S1f類	口唇部透視剥 突、口縁部外面 張裂	28 12
111	調文 土器	深鉢	—	S862	⑥ 2	— (3, 8)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母をわざかに含む、織維混入)	良好	T.YTR 6/4 T.YTR 5/2	ナデ/ナデ	S1f類	口縁部外面張裂	28 12
112	調文 土器	深鉢	—	S862	⑥ 2	— (3, 1)	—	素(φ 1mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 6/3 T.YTR 6/2 T.YTR 6/2	ナデ/ナデ	S1f類	外面部波紋	28 12
113	調文 土器	深鉢	—	S862	⑦ h	— (3, 2)	—	素(φ 1mm以下の雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 6/3 T.YTR 5/2	ナデ/ナデ	S1f類	外面部波紋・スス 付着	28 12
114	調文 土器	深鉢	—	S862	⑦ 6	— (3, 7)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 4/2 T.YTR 3/2 T.YTR 4/2	ナデ/ナデ	S1f類	口縁部透視剥 突、口縁部外面 ジグザグ縫	28 12
115	調文 土器	深鉢	—	S862	⑦ 2	— (2, 6)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母、織維をわざかに含む)	良好	T.YTR 5/2 T.YTR 4/2 T.YTR 5/3	ナデ/ナデ	S1f類	口唇部透視剥 突、口縁部外面 ジグザグ縫	28 12
116	調文 土器	深鉢	—	S862	⑧ h	— (4, 0)	1.0	素(φ 0.5mm以下の雲母をわざかに含む)	良好	T.YTR 4/6 T.SYR 3/3 T.YTR 4/6	ナデ/条痕	S1f類	口唇部透視剥 突、口縁部内面 波紋、外面部 付着	28 13
117	調文 土器	深鉢	—	S862	⑧ 4	— (2, 6)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母をわざかに含む)	良好	T.YTR 6/2 T.YTR 5/2 T.YTR 4/1	ナデ/ナデ	S2類	口縁部外面粘土 被付・胎土縫上連 続剥突	28 13
118	調文 土器	深鉢	—	S862	⑨ 4	— (2, 1)	1.0	素(φ 1mm以下の長石・雲母をわざかに含む)	良好	T.SYR 5/4 T.SYR 3/1 T.SYR 4/2	ナデ/-	S2類	口縁部外面粘土 被付・胎土縫上連 続剥突	28 13
119	調文 土器	深鉢	—	S862	⑩ d	— (6, 9)	1.0	やや粗(φ 6mm以下の長石・チャートをわざかに含む)	良好	T.SY 5/4 T.YTR 2/3 T.SY 4/2	ナデ/ナデ	S5類	口唇部透視剥 突、垂下階帯粘 付	28 13
120	調文 土器	深鉢	—	S862	⑪ 6	— (5, 7)	1.0	やや粗(φ 0.5mm以下の長石・雲母をわざかに含む)	良好	T.SY 4/6 T.YTR 2/3 T.SY 4/2	ナデ/ナデ	S5類	口唇部透視剥 突、垂下階帯粘 付	28 13
121	調文 土器	深鉢	—	S862	⑪ 1	— (6, 2)	1.0	やや粗(φ 1mm以下の長石・雲母をわざかに含む)	良好	T.YTR 4/2 T.YTR 3/2 T.YTR 4/2	ナデ/ナデ	S5類	口縁部外面部 粘付・スス付着	28 13
122	調文 土器	深鉢	—	S862	⑫ 1	— (4, 1)	1.0	やや粗(φ 1mm以下の長石・雲母をわざかに含む)	良好	T.YTR 6/4 T.YTR 5/4 T.YTR 5/4	ナデ/ナデ	S5類	口縁部外面部 粘付後縫隙 粘付・垂下階 帶粘付	28 13

表30 土器観察表(7)

出 土 場 所 番 号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 焼存率 G/12)	胎土	焼成	色調 (内面) (外面)	表面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	種 別	因 版
			出土区・ グリット	遺構番号	層位										
123	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑤	— (4.4)	1.0	赤(φ 0.5mm以下の 黒土をわずかに含む)	良好	10YR 4/2 10YR 3/2 10YR 3/2	朱痕/朱痕	S6類	口縁部 内面連續刷毛	28	13
124	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑥	— (5.4)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・石英・黒土をわ ずかに含む。繩維混 入)	良好	10YR 5/4 10YR 5/4 10YR 4/1	朱痕/朱痕	S6類	—	28	13
126	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑦	— (3.8)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・石英・黒土をわ ずかに含む)	良好	10YR 5/2 10YR 5/2 10YR 5/2	ナデ/指壓正直版/ 朱痕・ナデ	S6類	口唇部連續刷 毛	28	13
126	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑧	— (8.8)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・黒土をわずかに 含む)	良好	10YR 5/3 10YR 5/3 10YR 5/3	ナデ/朱痕	S6類	口唇部連續刷 毛、口縁部外 面スス付着	29	13
127	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑨	— (2.9)	1.0	赤(φ 0.5mm以下の 長石・黒土をわずかに 含む)	良好	2.5YR 4/3 2.5YR 3/1 2.5YR 3/1	指壓正直・ナデ/ ナデ・朱痕	Z1a類	口縁部外面粘 土貼付	29	13
128	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑩	— (2.7)	1.0	赤(φ 0.5mm以下の チートをわずかに含 む)	良好	10YR 4/6 10YR 4/6 10YR 4/6	ナデ/指壓正直版/ 朱痕	Z1a類	口唇部連續刷 毛、口縁部外 面粘土貼付	29	13
129	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑪	— (4.2)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・黒土をわずかに 含む)	良好	10YR 6/4 7.5YR 5/4 10YR 6/4	指壓正直・ナデ/ ナデ・朱痕	Z1a類	外面部粘土貼付	29	13
130	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑫	— (4.8)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・石英・黒土をわ ずかに含む)	良好	7.5YR 5/6 7.5YR 4/3 10YR 6/3	指壓正直・ナデ/ ナデ・朱痕	Z1b類	口唇部連續刷 毛、口縁部外 面粘土貼付・朱 痕	29	13
131	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑬	— (2.1)	1.0	やや粗(φ 1mm以下 の長石をわずかに含 む)	良好	7.5YR 5/8 7.5YR 4/4 7.5YR 4/4	指壓正直・ナデ/ ナデ	Z1b類	口縁部外面部 粘土貼付・朱 痕	29	13
132	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑭	— (5.6)	—	粗(φ 0.5mm以下の 長石・チート・黒 土をわずかに含む)	良好	10YR 7/8 10YR 6/4 10YR 3/1	ナデ/ナデ	Cha類	腹頭・胴部外 面粘土紐上C字形 文	29	13
133	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑮	— (3.8)	—	やや粗(φ 1mm以下 の長石・黒土をわ ずかに含む)	良好	10YR 7/4 10YR 5/3 10YR 7/4	ナデ/ナデ	底部外面部 着目	29	13	
134	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑯	— (3.5)	—	やや粗(φ 1mm以下 の長石・チート・黒 土をわずかに含む。繩 維混入)	良好	10YR 5/6 10YR 6/6 10YR 6/6	ナデ/ナデ	底部1類	—	29	13
135	縄文 土器	深鉢	—	SK62	⑰	d, h — (2.4) (14.7)	—	やや粗(φ 1mm以下 の長石をわずかに含 む。繩維混入)	良好	10YR 6/4 10YR 5/3 10YR 6/3	朱痕/朱痕	底部2a類	—	29	13
152	縄文 土器	深鉢	—	SK71	⑱	— (3.4)	—	赤(φ 1mm以下の長 石・黒土をわずかに 含む)	良好	10YR 4/3 10YR 5/3 10YR 5/3	ナデ/朱痕・ナデ	S3類	外面部押引き状 況	30	14
153	縄文 土器	深鉢	—	SK78	⑲	r — (2.8)	1.0	やや粗(φ 1mm以 下の長石・石英・黒 土をわずかに含む)	良好	10YR 4/3 10YR 5/1 10YR 4/3	ナデ/ナデ	S1d類	口唇部・口縁部 前面隆起上連續 刷毛・口縁部外 面スス付着	30	14
155	縄文 土器	深鉢	—	SK81	⑳	— (2.6)	1.0	やや粗(φ 1mm以 下の長石・チート・黒 土をわずかに含む)	良好	10YR 8/3 10YR 8/3 10YR 4/1	ナデ/ナデ	Cha類	口縁部外面部 刷毛	30	14
156	縄文 土器	深鉢	—	SK91	㉑	— (4.1)	—	赤(φ 1mm以下の長 石・黒土をわずかに 含む)	良好	10YR 4/6 10YR 3/5 10YR 3/5	指壓正直版/ ナデ/ナデ	S1e類	外面部隆起上連 続刷毛	30	14
157	縄文 土器	深鉢	—	SK92	㉒	— (2.2)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・石英・黒土をわ ずかに含む)	良好	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 10YR 4/2	ナデ/ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外面部連續刷 毛	30	14
159	縄文 土器	深鉢	—	SK93	㉓	b — (3.6)	1.0	赤(φ 1mm以下の長 石・黒土をわずかに 含む)	良好	10YR 5/2 10YR 5/2 10YR 3/2	指壓正直・ナデ/ ナデ	S1d類	口唇部・口縁部 前面隆起上連 続刷毛	30	14

表31 土器観察表(8)

出 土 品 番 号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm) 口縁部 既存半 径(L/12)	胎土	焼 成	色調 (内面 外面 断面)	器面調整 内面/外面	分類 ・ 時期	文様・その他	神 國 固 版
			出土区 グリット	遺構番号	層位								
160	圓文 土器	深鉢	—	SK05	①	— (1.5)	1.0	密 (φ 1mm以下の雲 母をわずかに含む)	良好 10YR 4/4 10YR 4/4	ナデ/ナデ	S2類	口縁部外面粘土 織紋貼付	31 14
161	圓文 土器	深鉢	—	SK08	①	— (4.1)	—	密 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 2.5Y 6/2 2.5Y 6/2 2.5Y 6/2	陶腹圧痕・ナデ/ ナデ	Z5類	側部外面圓文 G20、口帯上連 続網突	31 14
162	圓文 土器	深鉢	—	SK100	①	— (3.8)	—	密 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 7/4 10YR 4/1 10YR 4/4	陶腹圧痕・ナデ/ 陶腹圧痕・ナデ	Z6類	口縁部外面圓文 G30、側部外面 凸筋上押つき、 口縁部・頭部外 面スヌード	31 14
163	圓文 土器	深鉢	—	SK112	②	3	— (2.5)	1.0 やや粗 (φ 1mm以下の 長石・雲母を 含む)	良好 10YR 5/4 10YR 4/4 10YR 4/4	余痕・ナデ/ナデ	S1b類	口縁部外面織 紋上凹凸押つき、 口縁部外面スヌ ード	31 14
164	圓文 土器	深鉢	—	SK112	②	3	— (4.1)	1.0 密 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 3/2 10YR 3/2 10YR 3/2	余痕・ナデ/余 痕・ナデ	S6類	口唇部連続網突	31 14
165	圓文 土器	深鉢	—	SK137	②	1	— (2.2)	— やや粗 (φ 3mm以下 の長石・雲母をわ ずかに含む)	良好 10YR 6/2 10YR 6/2 10YR 5/2	陶腹圧痕・ナデ/ ナデ・余痕	Z1a類	外面粘土貼付	31 14
166	圓文 土器	深鉢	—	SK151	①	8	— (1.7)	— やや粗 (φ 3mm以下 の長石・雲母をわ ずかに含む)	良好 10YR 5/4 10YR 4/4 10YR 4/4	ナデ/余痕・ナデ	底部1類	—	32 —
167	圓文 土器	深鉢	—	SK164	②	2	— (5.5)	1.0 やや粗 (φ 3mm以下 の長石・チャート・ 雲母・織紋をわ ずかに含む)	良好 10YR 6/4 10YR 5/3 10YR 5/3	余痕・ナデ/ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外面抹除上連 続網突	32 14
168	圓文 土器	深鉢	—	SK166	①	c	— (4.3)	— 密 (φ 2mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む・織紋含む)	良好 10YR 7/3 10YR 4/2 10YR 4/2	ナデ/余痕・ナデ	S1e類	外縁・外面帶 上連続網突	32 14
169	圓文 土器	深鉢	—	SK166	①	a	— (2.9)	— やや粗 (φ 3mm以下 の長石・石英・雲 母・織紋をわずかに 含む)	良好 10YR 6/3 10YR 5/2 10YR 5/1	ナデ/ナデ	S1e類	外面連続網突	32 14
170	圓文 土器	深鉢	—	SK166	①	b	— (2.6)	— 密 (φ 3mm以下の長 石・雲母・織紋をわ ずかに含む)	良好 10YR 6/4 10YR 5/3 10YR 4/1	ナデ/ナデ	S1e類	外面連続網突・ スヌード	32 —
171	圓文 土器	深鉢	—	SK167	②	1	— (5.7)	1.0 やや粗 (φ 2mm以下の の長石をわずかに含 む・織紋含む)	良好 10YR 7/3 10YR 4/2 10YR 4/1	陶腹圧痕・ナデ/ 余痕・ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 内面・口唇部外 面・口縁部外 面帶上連続網 突、口縁部外 面スヌード	32 14
172	圓文 土器	深鉢	—	SK167	②	1	— (4.5)	1.0 やや粗 (φ 1mm以下 の長石・チャート・ 雲母をわずかに含 む)	良好 10YR 4/3 10YR 3/2 10YR 4/4	余痕/余痕	S6類	口唇部連続網 突、口縁部外 面スヌード	32 14
173	圓文 土器	深鉢	—	SK168	②	8	— (4.4)	1.0 やや粗 (φ 1mm以下 の長石・石英・雲 母をわずかに含む)	良好 10YR 6/4 10YR 5/6 10YR 5/1	余痕・ナデ/ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 内外面・口縁部 外面帶上交互 押捺	32 14
174	圓文 土器	深鉢	—	SK172	②	1	— (4.1)	1.0 密 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 5/4 10YR 3/1 10YR 3/1	陶腹圧痕・ナデ/ ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 内外面・口縁部 外面帶上連 続網突、口縁部外 面スヌード	32 14
175	圓文 土器	深鉢	—	SK181	②	1	— (3.5)	1.0 やや粗 (φ 1mm以下 の長石・チャート・ 雲母をわずかに含 む・織紋含む)	良好 10YR 5/4 10YR 3/2 10YR 2/1	余痕・ナデ/ナデ	S1f類	口唇部連続網 突、口縁部外 面波瀾、スヌード	33 14
176	圓文 土器	深鉢	—	SK181	①	u	— (2.4)	— 密 (φ 1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良好 10YR 5/4 10YR 3/1 10YR 3/2	陶腹圧痕・ナデ/ 余痕	Z1a類	外面粘土貼 付、スヌード	33 14

表32 土器観察表(9)

掲載番号	種別	器種	出土位置		大きさ(cm)	口縁部 口徑 底径 高さ	断土	焼成	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	被 因	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号											
177	圓文土器	深鉢	—	SK185 ④	2	— (3.5)	1.0	直 (0.1m以下)の長 石・石英・雲母、織 紋をわずかに含む)	良 好	10YR 6/4 10YR 4/3 10YR 2/1	条痕・ナデ/条痕	S1b類	口唇部・口縁部 外面部磨擦上交互 押捺	36	14
178	圓文土器	深鉢	—	SK185 ③	b	— (3.9)	—	直 (0.05m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	7.5YR 3/4 7.5YR 2/2 7.5YR 4/6	条痕・ナデ	S1d類	外面部磨擦	36	14
179	圓文土器	深鉢	—	SK185 ⑥	i	— (2.8)	1.0	直 (0.05m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10YR 5/4 10YR 4/3 10YR 4/3	条痕・ナデ/条痕	S6類	口唇部連続刺 突・口縁部外面部 スス付着	36	14
180	圓文土器	深鉢	—	SK186 ①	a	— (4.7)	—	直 (0.2m以下)の長 石・石英・織紋をわ ずかに含む)	良 好	10YR 4/1 10YR 7/4 10YR 4/1	条痕・ナデ/条痕	S6類	側面部外面部スス付 着	37	14
181	圓文土器	深鉢	—	SK187 ①	a	— (5.1)	1.0	やや粗 (0.1m以下の 長石・石英・織 紋をわずかに含む)	良 好	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 7/6	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 外面部磨擦上交互 押捺	37	14
182	圓文土器	深鉢	—	SK192 ②	1	— (8.0) (3.2)	—	やや粗 (0.3m以下 の長石・石英・ チャート・雲母を多 く含む)	良 好	10YR 6/6 10YR 6/6 10YR 6/4	—/—	底部2b類	—	37	—
183	圓文土器	深鉢	—	SK193 ①	2	— (4.9)	2.0	直 (0.05m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10YR 3/2 10YR 3/2 10YR 3/2	指屈正痕・ナデ/ ナデ	S5類	口唇部・口縁部 外面部磨擦上連続 刺突・口縁部外 面部スス付着	37	14
184	圓文土器	深鉢	—	SK207 ②	1	— (5.2)	1.0	直 (0.1m以下の長 石・直線・織紋をわ ずかに含む)	良 好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 4/1	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 外面部磨擦上交互 押捺・口縁部外 面部スス付着	37	14
185	圓文土器	深鉢	—	SK210 ①	a	— (5.1)	1.0	直 (0.1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む・織紋含む)	良 好	2.5YR 6/6 10YR 6/4 10YR 4/1	指屈正痕・条痕・ ナデ/条痕・ナデ	S1b類	口唇部交互押 捺・口縁部外面部 磨擦上連続押捺	38	14
186	圓文土器	深鉢	—	SK223 ①	a	— (4.6)	—	直 (0.2m以下)の長 石・チャート・雲母 をわずかに含む)	良 好	7.5YR 6/4 7.5YR 6/4 7.5YR 6/4	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	S1e類	外面部磨擦上連 続刺突	38	14
187	圓文土器	深鉢	—	SK224 ②	1	— (1.8)	—	直 (0.1m以下)の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10YR 6/3 10YR 6/4 10YR 3/1	ナデ/—	S1b類	外面部磨擦上交互 押捺	38	14
188	圓文土器	深鉢	—	SK235 ①	a	— (5.9)	1.0	直 (0.1m以下の長 石・直線・織紋をわ ずかに含む)	良 好	10YR 6/4 10YR 4/2 10YR 4/1	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	S1a類	口唇部・口縁部 外面部連続刺突	38	14
189	圓文土器	深鉢	—	SK245 ②	1	— (8.0)	1.0	直 (0.1m以下)の長 石・チャート・雲母・ 織紋をわずかに含む)	良 好	7.5YR 5/4 10YR 2/1 10YR 5/4	指屈正痕・ナデ/ ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外面部連続刺突・ 口縁部外面部スス付 着	38	15
190	圓文土器	深鉢	—	SK246 ①	a	— (4.4)	1.0	直 (0.1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10YR 5/4 10YR 5/4 10YR 3/1	条痕・指屈正痕・ ナデ/条痕	S1b類	口唇部交互押 捺・口縁部外面部 スス付着	38	15
191	圓文土器	深鉢	—	SK246 ①	a	— (2.9)	1.0	直 (0.1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10YR 5/6 10YR 5/4 10YR 5/4	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外面部連続刺突	38	15
192	圓文土器	深鉢	—	SK248 ②	i	— (3.9)	1.0	やや粗 (0.05m以 下)の長石・雲母・ 織紋をわずかに含む)	良 好	10YR 4/4 10YR 4/4 10YR 5/1	条痕/条痕	S6類	口縁部外面部ス ス付着	39	15
193	圓文土器	深鉢	—	SK252 ②	c	— (2.1)	—	直 (0.1m以下)の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10YR 6/4 10YR 4/4	指屈正痕・ナデ/ —	23類	外面部磨文(ER)・ 凸面部連続刺突・ 口縁部外面部コ ロゲ付着	39	15
194	圓文土器	深鉢	—	SK265 ③	a	— (8.1)	1.0	直 (0.1m以下)の長 石・チャート・雲 母・織紋をわずかに 含む)	良 好	10YR 5/4 10YR 4/4 10YR 4/1	条痕・ナデ/ナデ	S1a類	口唇部・口縁部 外面部連続刺突・ 口縁部外面部ス ス付着	40	15

表33 土器観察表(10)

用 器 番 号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm)	口縁部 積存率 (%)	胎土	焼成	色調 (内面 外面 裏面)	器面調整 内面/外面	分類 時期	文様・その他	補 圖	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
195	調文 土器	深鉢	-	SK265	③	b	- (6.5)	1.0	やや粗（φ1mm以下 の長石・雲母・織維 をわずかに含む）	良好 好	10YR 3/1 10YR 3/1 10YR 3/1	条痕・ナデ/ナデ	S1a類	口唇部・口縁部 外面連続網付	40	15
196	調文 土器	深鉢	-	SK265	③	b	- (2.6)	-	やや粗（φ1mm以下 の長石を多く含む）	良好 好	7, SYR 5/4 10YR 5/3 7, SYR 5/4	指印圧痕・ナデ/ ナデ	S2類	外面粘土點貼付	40	15
197	調文 土器	深鉢	-	SK265	②	2	- (7.0)	1.0	素（φ1mm以下の 長石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	10YR 5/6 10YR 5/3 10YR 5/6	条痕/条痕	S6類	口縁部外面スス 付着	40	15
198	調文 土器	深鉢	-	SK265	②	2 (26.8)	- (21.3)	5.3	素（φ1mm以下の 長石をわずかに含む; 織維含む）	良好 好	10YR 5/3 10YR 4/2 10YR 4/2	条痕/条痕	S6類	口縁部内面コ ダ・口縁部外面 スス付着	40	15
199	調文 土器	深鉢	-	SK265	③	2	- (5.6)	1.0	素（φ1mm以下の 長石・雲母をわずかに 含む）	良好 好	10YR 3/3 10YR 2/2 10YR 2/2	条痕/条痕	S6類	口唇部迷れ利 突、口縁部内面 コダ・口縁部外 面スス付着	40	15
200	調文 土器	深鉢	-	SK271	②	a	- (3.9)	1.0	やや粗（φ4mm以下 の長石・チャート・雲母 をわずかに含む）	良好 好	10YR 2/3 10YR 2/3 10YR 2/3	ナデ/-	S7類	口唇部・口縁部 内外面網文 (O.R.)、口縁部外 面平行線文・ス ス付着	41	15
201	調文 土器	深鉢	-	SK272	①	a	- (8.1)	1.0	素（φ2mm以下の長 石・チャート・雲母 を多く含む）	良好 好	10YR 5/6 10YR 4/2 10YR 6/4	ナデ/ナデ	K1類	口縁部外回輪	41	15
202	調文 土器	深鉢	-	SK296	②	1	- (8.6)	1.0	素（φ1mm以下の長 石・石英・雲母・織 維をわずかに含む）	良好 好	10YR 5/6 10YR 5/2 10YR 2/1	条痕・ナデ/条 痕・ナデ	S1a類	口唇部状突 起、口唇部・口 縁部外面連続網 突	41	15
203	調文 土器	深鉢	-	SK306	①	b	- (3.7)	-	素（φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	10YR 5/4 10YR 5/3 10YR 6/3	ナデ/条痕・ナデ	Z7類	外面隆起上連続 網突、内面コ ダ・外面スス付 着	41	15
204	調文 土器	深鉢	-	SK326	②	1	- (3.3)	-	素（φ1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む）	良好 好	10YR 2/1 10YR 4/4 10YR 4/3	指印圧痕・ナデ/ ナデ	Z5類	外面隆文(O.R.)、 凸槽上面連続網 突	41	15
205	調文 土器	深鉢	-	SK355	②	1	- (2.9)	-	素（φ2mm以下の長 石・チャート・雲母 をわずかに含む）	良好 好	10YR 6/4 10YR 5/2 10YR 5/2	ナデ/-	C1類	外面隆起上連続 形文	41	15
206	調文 土器	深鉢	-	SRI- P2	②	2	- (3.0)	1.0	素（φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	10YR 4/2 10YR 4/2 10YR 4/2	ナデ/条痕・ナデ	S3類	口縁部外面押 き状沈痕	43	16
207	調文 土器	深鉢	-	SRI- P4	②	1	- (3.9)	1.0	素（φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	7, SYR 3/2 10YR 3/2 10YR 3/2	ナデ/ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 外面拂上交互 押捺	43	16
208	調文 土器	深鉢	-	SRI- P6	①	a	- (3.4)	-	素（φ1mm以下の長 石・雲母をわずかに 含む）	良好 好	10YR 5/3 10YR 4/2 10YR 5/3	条痕/条痕	Z3類	脚部外面U字 形連続網突	43	16
209	調文 土器	深鉢	-	SRI- P4	①	g	- (1.7)	-	素（φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	10YR 2/3 10YR 4/2 10YR 4/3	ナデ/ナデ・条 痕	Z1a類	外面拂上連続 研究	45	16
210	調文 土器	深鉢	-	SRI- P4	①	c	- (4.0)	1.0	やや粗（φ1mm以下の 長石・雲母をわ ずかに含む）	良好 好	7, SYR 2/3 7, SYR 5/3 7, SYR 2/1	ナデ/ナデ/-	Z3類	口唇部・口縁部 外面連続網字 形連続網突、口 縁部内面コダ	45	16
211	古頬2	柄付片 口	SAS-P1	②	1	(16.0) (2.7)	1.0	素（φ0.5mm以下の 長石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	2, BY 7/3 2, BY 7/3 2, BY 4/2	ナデ/ナデ	中Ⅱ期	内外面施施 無・2次被熱	47	18	
212	調文 土器	深鉢	-	SAS-P3	①	a	- (3.4)	1.0	素（φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	10YR 5/6 10YR 5/3 10YR 5/6	ナデ/条痕・ナデ	Z1b類	口縁部粘土 點貼付・朱漆	49	16
213	調文 土器	深鉢	-	SAS-P5	①	h	- (6.9)	1.0	素（φ1mm以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	良好 好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 6/4	条痕・ナデ/ナデ	S1f類	口唇部迷れ利 突、口縁部外 面波紋	49	16

表34 土器観察表(11)

開 示 番 号	種別	基盤	出土位置		大きさ (cm)	口縁部 横存半 径(G/12)	胎土	焼成	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類 ・ 時期	文様・その他	種 別	図 版	
			出土区・ 遺構番号	層位											
214	圓文 土器	深鉢	-	SAA- P1	①	a (2.2)	1.0	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む。織維抜有)	良 好	10TR 4/2 10TR 4/3 10TR 4/3	ナデ/ナデ	S1d類	口縁部内外連 続刺突	50	16
215	圓文 土器	深鉢	-	SAA- P3	②	2 (4.7)	-	素(φ1m以下の長 石・石英・雲母をわ ずかに含む)	良 好	10TR 7/3 10TR 5/3 10TR 4/1	ナデ・条斑/ナデ	S1d類	外側・外周連 帶上連続刺突	50	16
216	圓文 土器	深鉢	-	SAS- P4	①	b (3.8)	-	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10TR 3/2 10TR 3/2 10TR 3/2	条斑・ナデ/条 斑・ナデ	S3類	外側押引き状況 織文	51	16
217	圓文 土器	深鉢	-	SAS- P4	②	3 (3.2)	-	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10TR 6/4 10TR 5/3 10TR 4/4	条斑/条斑	底部1類	底部外周スス付 着	51	16
218	圓文 土器	深鉢	-	SAS- P1	②	2 (3.3)	1.0	素(φ1m以下の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む)	良 好	SYR 4/4 SYR 4/3 SYR 4/3	ナデ/ナデ	S1f類	口縁部外面連弧 線	52	16
219	灰釉 陶器	壺・瓶 類	-	SAS- P5	②	2 (5.8)	-	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10TR 5/2 10TR 6/2 10TR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ・回転ヘタケズ リ	-	脚部外面自然輪 付着	52	18
220	圓文 土器	深鉢	-	SAT- P3	②	3 (2.2)	1.0	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10TR 5/6 10TR 4/4 10TR 4/4	ナデ/条斑・ナデ	S1b類	口唇部交互押 突	53	16
221	圓文 土器	深鉢	-	SAT- P4	②	2 (6.5)	-	素(φ2m以下の長 石・チャート・織維 をわずかに含む)	良 好	10TR 5/4 10TR 5/4 10TR 5/4	ナデ・指端压痕/ ナデ	Z1b類	外周粘土被貼 付・条斑・内面 コダ・外周スス付 着	55	16
222	圓文 土器	深鉢	-	SAT- P4	①	a (2.9)	-	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10TR 7/3 10TR 7/4 10TR 7/4	ナデ・指端压痕/ ナデ	Z5類	口縁部・頸部外 周凸帯上連続刺 突・スス付着	55	16
223	圓文 土器	深鉢	-	SAS- P4	①	a (23.0)	-	やや粗(φ1m以 下の長石・雲母を多く 含む)	良 好	10TR 6/1 10TR 4/4 10TR 4/1	ナデ/-	C3b類	脚部外面圓文 (RL)・平行沈線	56	16
224	圓文 土器	深鉢	-	SAS- P2	②	b (2.9)	-	素(φ1m以下の長 石・雲母をわずかに 含む)	良 好	10TR 5/4 10TR 4/6 10TR 4/6	ナデ・指端压痕/ -	S2類	外周粘土被貼 付・外周上連 続刺突	57	16
225	圓文 土器	深鉢	-	SA10- P1	①	a (3.1)	-	やや粗(φ1m以 下の長石・石英を多く 含む)	良 好	10TR 8/3 10TR 8/3 10TR 8/3	ナデ/-	C4c類	口縁部外周捺系 文・平行沈線・ スス付着	58	16
226	質品陶 磁器	青磁碗	-	SP9	②	2 (14.8) (3.2)	1.0	素(φ1m以下の長 石をわずかに含む)	良 好	10TR 6/2 10TR 6/2 10TR 6/2	ナデ/ナデ	龍泉青瓷 碗B1類	口縁部外面連 弧	59	18
227	土師器	小皿 舟口	-	SK13	①	g (1.1)	1.0	素(φ1m以下の質 器をわずかに含む)	良 好	2.5Y 5/3 2.5Y 7/2 2.5Y 7/2	ヨコナデ/指端压 痕・一段ナデ	中世前期 A2c類	-	60	-
228	圓文 土器	深鉢	-	SK75	①	a (2.9)	1.0	素(φ1m以下の長 石をわずかに含む)	良 好	7.SYR 5/4 10TR 4/2 10TR 4/2	ナデ/ナデ	S1f類	口唇部連続刺 突・口縁部外周 条斑・スス付着	60	16
229	山茶碗 (尾張室)	碗	-	SK73	①	a (3.0)	1.0	素(φ1m以下の長 石をわずかに含む)	良 好	2.5Y 6/2 2.5Y 6/2 2.5Y 6/2	回転ナデ/回転ナ デ	第5型式	-	60	18
230	山茶碗 (家農堂)	碗	-	SK76	①	a (3.3)	1.0	素(φ1m以下の長 石をわずかに含む)	良 好	10TR 5/2 10TR 5/2 2.5Y 6/2	回転ナデ/回転ナ デ	大根丸I 口縁部内面庫付 着	60	18	
231	須恵器	甕	-	SK119	②	1 (21.7)	-	素(φ1m以下の長 石をわずかに含む)	良 好	2.5Y 4/2 10TR 5/2 10TR 6/1	同心円当其瓶/平 行タキ	-	-	60	18
232	圓文 土器	深鉢	-	SK132	②	1 (2.5)	1.0	やや粗(φ1m以 下の長石・織維をわ ずかに含む)	良 好	10TR 6/6 10TR 6/6 10TR 6/6	ナデ/条斑・ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外周連続刺突	60	16
233	須恵器	壺・瓶 類	-	SK132	①	b (4.8)	-	素(φ1m以下の長 石をわずかに含む)	良 好	N 6/ N 5/1 N 6/	回転ナデ/回転ナ デ・回転ヘタケズ リ	-	-	60	18

表35 土器観察表(12)

図版番号	種別	器種	出土位置			大きさ (cm) 口縁部 横径 底径	胎土	焼成	色調 (内面 外側 裏面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	補 説	図 版
			出土区・ グリット	遺構番号	層位									
234	縄文土器	深鉢	—	SK301	②	1 — (3.2)	—	良好 好	10YR 4/4 10YR 5/4 10YR 4/1	ナデ//—	S15類	外面縄文(OR)・ 縫合上連続刺突	60	16
235	縄文土器	深鉢	D13	—	—	II — (3.3)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 5/4 10YR 5/4 10YR 4/1	条痕・ナデ//ナデ	S1a類	口唇部・口縁部 外側連続刺突	61	16
236	縄文土器	深鉢	D12	—	—	II — (2.7)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・石英・雲母・織 維をわずかに含む）	10YR 4/2 10YR 5/4 10YR 5/1	指頭圧痕・ナデ// ナデ	S1a類	口唇部刺突(押 引き)・口縁部外 側連続刺突	61	16
237	縄文土器	深鉢	BE12	—	—	II — (3.5)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・チャート・雲 母・織維をわずかに 含む）	10YR 6/4 7.5YR 5/4 10YR 4/1	条痕//条痕・ナデ	S1a類	口唇部・口縁部 外側連続刺突	61	16
238	縄文土器	深鉢	E11	—	—	II — (3.8)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・石英・雲母・織 維をわずかに含む）	10YR 7/4 10YR 3/2 10YR 3/1	条痕・ナデ//条 痕・ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 外側隙縫上交互 押捺	61	16
239	縄文土器	深鉢	E11	—	—	II — (5.4)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 7/4 10YR 7/4 10YR 4/1	条痕・ナデ//条 痕・ナデ	S1b類	口縁部外側隙縫 上交互五互摺	61	16
240	縄文土器	深鉢	E11	—	—	II — (4.3)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 5/4 10YR 5/4 10YR 2/1	条痕・指頭圧痕・ ナデ//条痕・ナデ	S1b類	口唇部交互押 捺・口縁部外 側ス付着	61	16
241	縄文土器	深鉢	C11	—	—	II — (3.2)	1.0	やや粗（φ1mm以下 の長石・雲母・織 維をわずかに含む） 織維合意	10YR 7/3 10YR 4/6 10YR 5/1	指頭圧痕・ナデ// ナデ	S1b類	口唇部・口縁部 外側隙縫上交互 連続刺突・隙 縫(1条目)上交互 刺突	61	16
242	縄文土器	深鉢	D6	—	—	I — (4.3)	1.0	やや粗（φ1mm以下 の長石・雲母・織 維をわずかに含む）	10YR 5/3 10YR 3/3 10YR 3/3	条痕・ナデ//条 痕・ナデ	S1b類	口唇部交互押 捺・口縁部外 側連続刺突	61	16
243	縄文土器	深鉢	D13	—	—	II — (5.8)	1.0	やや粗（φ2mm以下 の長石・チャート・ 雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 5/4 10YR 5/2 10YR 4/1	条痕・指頭圧痕・ ナデ//ナデ	S1b類	口唇部裏有、 口唇部・突起・ 口縁部外側隙縫 上交互五互摺、口 縁部外側連続刺 突	61	16
244	縄文土器	深鉢	D11	—	—	II — (4.1)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 5/2 10YR 5/1	ナデ//条痕・ナデ	S1c類	口縁部外側、 口縁部外側隙縫 上連続刺突	61	—
245	縄文土器	深鉢	D11	—	—	II — (5.0)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・チャート・雲 母・織維をわ ずかに含む）	10YR 5/3 10YR 5/3 10YR 5/3	条痕・ナデ//ナデ	S1d類	口唇部・口縁部 外側隙縫上連 続刺突・口縁部外 側ス付着	61	—
246	縄文土器	深鉢	CD11	櫻丸	—	— — (5.1)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 6/3 10YR 4/2 10YR 4/2	条痕//ナデ	S1d類	口唇部・口縁部 内外面・口縁部 外側隙縫上連 続刺突	61	—
247	縄文土器	深鉢	CD11	櫻丸	—	— — (9.0)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 6/2 10YR 6/2 10YR 6/2	指頭圧痕・ナデ// ナデ	S1e類	口唇部・口縁部 外側隙縫上連 続刺突・口縁部外 側ス付着	61	17
248	縄文土器	深鉢	D6	—	—	II — (3.5)	1.0	悪 （φ1mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	10YR 6/3 10YR 3/1 10YR 4/1	条痕・指頭圧痕・ ナデ//ナデ	S1f類	口唇部連続刺 突・口縁部外 側隙縫上連 続刺突・ス付 着	61	17
249	縄文土器	深鉢	D6	櫻丸	—	— — (2.9)	1.0	悪 （φ4mm以下）の長 石・雲母・織維をわ ずかに含む）	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 10YR 4/2	指頭圧痕・ナデ// ナデ	S1f類	口唇部刺突、口 縁部外側弧線	61	—
250	縄文土器	深鉢	C8	—	—	I — (4.0)	1.0	悪 （φ4mm以下）の長 石・織維をわ ずかに含む）	7.5YR 5/6 7.5YR 5/6 10YR 4/2	指頭圧痕・ナデ// ナデ	S1f類	口唇部連続刺 突・口縁部外 側弧線	61	—

表36 土器観察表(13)

揭露番号	種別	基盤	出土位置			大きさ(cm)	口縁部 残存率 (0/12)	粘土	焼成	色調 (内面) (外面)	表面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	補 図	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
251	縄文土器	深鉢	C6	—	—	II (2.6)	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10TR 6/4 10TR 6/4 10TR 6/1	指面圧痕・ナデ/ ナデ	S2類	口縁部外面粘土 貼付、粘土斑上過焼裂痕	61	—
252	縄文土器	深鉢	C6	—	—	II (2.9)	—	1.0	やや粗 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10TR 6/2 2.8TR 4/2 2.8TR 4/1	指面圧痕・ナデ/ ナデ	S2類	口縁部外面粘土 貼付、粘土斑上過焼裂痕	61	—
253	縄文土器	深鉢	C13	—	—	II (2.8)	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	7.5TR 4/3 7.5TR 5/3 10TR 5/2	指面圧痕・ナデ/ ナデ	S3類	口縁部過焼裂痕 突起、口縁部外面 粘土貼付	61	17
254	縄文土器	深鉢	D6	横乱	—	—	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	7.5TR 4/4 7.5TR 4/2 7.5TR 3/1	条板・条板	S6類	口唇部過焼裂痕	61	—
255	縄文土器	深鉢	C8	倒木痕	—	—	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・石英・雲母をわ ずかに含む)	良好	10TR 7/4 10TR 7/4 10TR 7/4	指面圧痕・ナデ	Z1b類	口唇部過焼裂 痕、口縁部外面 粘土貼付、条板	61	—
256	縄文土器	深鉢	D9	—	—	II (3.2)	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10TR 6/4 10TR 6/6 10TR 6/6	指面圧痕・ナデ/ ナデ	Z1b類	口縁部外面粘土 貼付、条板	61	—
257	縄文土器	深鉢	F11	横乱	—	—	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・石英・鐵錆をわ ずかに含む)	良好	7.5TR 4/3 7.5TR 2/1 7.5TR 4/3	条板・ナデ/ナデ	Z1c類	口縁部過焼 裂、口縁部外面 粘土斑・条板	61	17
258	縄文土器	深鉢	CD11	横乱	—	—	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・石英・雲母をわ ずかに含む)	良好	10TR 4/6 10TR 5/3 10TR 4/6	条板・ナデ/—	Z1c類	口唇部過焼 裂、口縁部外面 粘土斑・スズ付着	61	—
259	縄文土器	深鉢	C13	—	—	II (4.3)	—	—	磨 (φ1mm以下の長石・石英・雲母をわ ずかに含む)	良好	7.5TR 7/4 7.5TR 6/4 7.5TR 7/4	ナデ/ナデ	Z1c類	口縁部・側面外 面条板、口縁部 ・側面外側彫 み、口縁部外面 スズ付着	61	17
260	縄文土器	深鉢	C12	—	—	II (9.7)	—	1.0	磨 (φ4mm以下の長石・チャート・雲母 をわずかに含む)	良好	10TR 4/4 10TR 3/3 10TR 4/4	指面圧痕・柔軟/ ナデ	Z1c類	口唇部過焼 裂、口縁部外面 粘土斑・柔軟 スズ付着	62	—
261	縄文土器	深鉢	C12	—	—	II (7.1)	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・雲母・鐵錆をわ ずかに含む)	良好	10TR 4/4 10TR 3/2 10TR 4/4	柔軟/—	Z1c類	口唇部過焼 裂、口縁部外面 柔軟、穿孔有	62	17
262	縄文土器	深鉢	D9	—	—	II (2.5)	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲 母をわずかに含む)	良好	10TR 7/4 10TR 7/4 10TR 7/4	指面圧痕・ナデ/ ナデ	Z2類	口縁部外面過焼 E字形崩壊	62	17
263	縄文土器	深鉢	C8	倒木痕	—	—	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・雲母をわずかに 含む)	良好	10TR 4/3 10TR 6/2 10TR 4/1	ナデ/ナデ	Z2類	口唇部過焼 裂、口縁部外面 粘土斑上過焼E字 形崩壊	62	—
264	縄文土器	深鉢	D14	—	—	II (4.6)	—	—	やや粗 (φ1mm以下の長石・チャート・雲 母をわずかに含む)	良好	10TR 4/2 10TR 3/1 10TR 4/2	ナデ/柔軟	Z4類	脛面外側過焼E字 形崩壊、脛面内 面ゴマ付着、脛 面外側付着	62	—
265	縄文土器	深鉢	B6	—	—	I (4.1)	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・石英)	良好	10TR 4/2 10TR 3/2 10TR 3/2	柔軟・ナデ/ナデ	Z5類	口縁部外側圓文 (G)・柔軟、口 縁部上面過 焼裂痕	62	17
266	縄文土器	深鉢	D6	—	—	II (5.3)	—	—	やや粗 (φ1mm以下の長石・石英・チャ ート・雲母をわ ずかに含む)	良好	10TR 5/4 10TR 5/2 10TR 5/4	ナデ/ナデ	Z5類	外面過焼裂痕、 凸形上面状況過 焼裂痕、スズ付 着	62	17
267	縄文土器	深鉢	C8	倒木痕	—	—	—	1.0	磨 (φ1mm以下の長石・石英をわずかに 含む)	良好	10TR 5/2 10TR 5/2 10TR 7/3	ナデ/ナデ	Z6類	口縁部内部圓文 (G)・柔軟、口 縁部外側圓文 (G)・柔軟	62	—
268	縄文土器	深鉢	D9	—	—	II (3.2)	—	—	磨 (φ1mm以下の長石・雲母をわずかに 含む)	良好	10TR 6/6 10TR 6/4	指面圧痕・ナデ/ ナデ	Z6類	口縁部外面凸帶 上平行弦目、口 縁部・底部外側 平行弦目	62	17

表37 土器観察表(14)

器種番号	種別	器種	出土位置			口縁部 埋存率 (X/12)	胎土	焼成	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	邦 國	國 版		
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
269	圓文土器	深鉢	C13	-	-	II	- (3.8)	-	赤(φ1mm以下の長石をわずかに含む)	良好	10TH 3/1 10TH 3/2 10TH 3/2	指顎圧痕・ナデ/-	Z6類	外面圓文(RL)・ 凸帶上斜引き、 内面コガ付、 外面スス付	62	17
270	圓文土器	深鉢	C11	-	-	II	- (6.9)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	2.5Y 6/6 10TH 3/2 10TH 3/1	柔軟・ナデ/ナデ	Z7類	口唇部・口縁部 外面隆起・連續 削突、口縁部外 面スス付	62	17
271	圓文土器	深鉢	西区	-	-	I	- (2.9)	1.0	赤(φ1mm以下の長石・チャート・雲母をわずかに含む)	良好	7.5YR 5/4 10TH 3/2 10TH 3/2	ナデ/ナデ	Z10類	口縁部外面觀音 吹叶文・平行 波紋	62	17
272	圓文土器	深鉢	-	TP2	-	II	- (3.2)	1.0	粗(φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母を多く含む)	良好	5Y 6/6 10TH 4/2 10TH 4/2	ナデ/-	C1類	口唇部圓文 (RL)・連續削 突、口縁部外 面圓文(RL)・隆 起上連續削突、口 縫部外側付	62	17
273	圓文土器	深鉢	B13-14	-	-	II	- (3.8)	1.0	粗(φ2mm以下の長石・チャートを多く含む)	良好	10TH 7/4 10TH 7/4 10TH 3/2	ナデ/ナデ	C1類	口唇部削突、口 縁部外側削帶上 連續爪形文・削 突文(押引き)	62	17
274	圓文土器	深鉢	B13	-	-	II	- (4.7)	1.0	やや粗(φ2mm以下の長石・石英をわずかに含む)	良好	10TH 6/3 10TH 6/3 10TH 5/1	ナデ/ナデ	C1類	口縁部内面圓文 (RL)・口縫部外 面圓文(RL)・連 続爪形文・圓文 (RL)・圓文(LR) 押突	62	17
275	圓文土器	深鉢	B13	-	-	II	- (2.9)	1.0	赤(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TH 4/4 10TH 3/2 10TH 3/2	ナデ/-	C1類	口縁部外側隆 起上斜引き、 圓文(RL)・沈 線・削突、C字底 形文	62	17
276	圓文土器	深鉢	B9	-	-	II	- (2.7)	1.0	やや粗(φ1.5mm以下の長石・チャート・雲母をわずかに含む)	良好	5YR 6/6 5YR 6/4 10TH 4/1	ナデ/ナデ	C2類	口縁部外側隆 起付	62	17
277	圓文土器	深鉢	B9	-	-	II	- (2.3)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・チャート・雲母を多く含む)	良好	7.5YR 5/6 5YR 5/6 5YR 5/6	ナデ/ナデ	C2類	口縁部外側圓文 (RL)・沈線・削 突貼付	62	17
278	圓文土器	深鉢	C7	-	-	I	- (2.7)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・石英・チャート・雲母をわずかに含む)	良好	10TH 6/3 10TH 6/2 10TH 4/2	ナデ/ナデ	C3a類	口縁部内面圓文 (RL)・口縫部外 面円形削突文列	62	17
279	圓文土器	深鉢	C7	-	-	I	- (4.0)	1.0	赤(φ1mm以下の長石・雲母をわずかに含む)	良好	10TH 4/2 10TH 3/1 10TH 4/2	ナデ/-	C3a類	口縁部内面圓文 (RL)・内形削突 文列・C字底付	62	17
280	圓文土器	深鉢	C8, C7	-	-	I	- (3.5)	-	やや粗(φ1mm以下の長石・チャート・雲母をわずかに含む)	良好	7.5YR 6/4 10TH 4/2 10TH 3/1	ナデ/ナデ	C3a類	口縁部・頸部外 面爪形文、口縫部内 面コガ付	62	17
281	圓文土器	深鉢	C8	-	-	I	- (7.0)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・チャートをわずかに含む)	良好	7.5YR 3/2 10TH 4/2 10TH 4/2	ナデ/ナデ	C3a類	口縁部内面圓文 (RL)・口縫部外 面円形削突文列・ C字底形文・微 隆起線、円形浮 文上円形削突、I 字削突	62	17
282	圓文土器	深鉢	C8	倒木板	-	-	- (5.3)	1.0	やや粗(φ1mm以下の長石・チャートを含む)	良好	10TH 3/2 10TH 4/2 10TH 5/4	ナデ/ナデ	C3a類	口縁部内面圓文 (RL)・口縫部外 面円形削突文列・ C字底形文・微 隆起線、円形浮 文上円形削突、I 字削突	62	17
283	圓文土器	深鉢	B13	-	-	II	- (3.9)	-	やや粗(φ2mm以下の長石・石英・チャート・雲母をわずかに含む)	良好	10TH 5/4 7.5YR 6/6 10TH 2/1	ナデ/-	C3a類	口縁部・頸部外 面圓文(RL)・連 続削突・円形削 突文上子痕突	63	17

表38 土器観察表(15)

出 示 番 号	種別	基盤	出土位置		大きさ (cm)	口縁部 構成率 (U/12)	培土	焼成	色調 (内面) (外面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	排 出 回 数	回 版
			出土区・ グリット	遺構番号										
284	調文 土器	深鉢	B9	- - I	- (5.0)	1.0	やや粗 (φ1.5mm以下 の長石・チャート・ 雲母をわずかに含む)	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	ナデ/ナデ/板ナ デ	Cla類	口縁部外周円形 削り突起・通縫継 合・隙間貼付	63	17
285	調文 土器	深鉢	C9	- - I	- (2.5)	1.0	やや粗 (φ2mm以下 の長石・チャート・ 雲母を多く含む)	良好	10YR 6/4 10YR 7/4 10YR 7/4	ナデ/ナデ	Cla類	口縁部内面調文 (RL)・口縁部外 面調文(RL)・円 形削り突起・円形 浮輪	63	17
286	調文 土器	深鉢	D9	- - II	- (3.4)	1.0	密 (φ1mm以下 の長石・石英・雲母を わずかに含む)	良好	10YR 6/3 10YR 6/2 10YR 3/1	ナデ/ナデ	Glc類	口縁部内面浅 削文・口縁部外 面浅削文・平行 底輪	63	17
287	調文 土器	深鉢	D9	- - II	- (10.0)	1.0	やや粗 (φ5mm以下 の長石・チャートを 多く含む)	良好	10YR 7/3 10YR 4/2 10YR 7/3	ナデ/ナデ	C3c類	口縁部・胸組外 面削文系・平行 底輪・スベ付着	63	17
288	調文 土器	深鉢	D9, E9	- - II	- (8.0)	1.0	やや粗 (φ4mm以下 の長石・チャートを わずかに含む)	良好	10YR 7/4 10YR 5/2 10YR 5/1	ナデ/ナデ	C3c類	口縁部・胸組外 面削文系・平行 底輪	63	17
289	調文 土器	深鉢	D9	- - II	- (12.0)	1.0	粗 (φ1.5mm以下の 長石・チャートを多 く含む)	良好	10YR 7/4 10YR 7/3 10YR 5/1	ナデ/ナデ	C3c類	胸組外面部底 文・平行底輪	63	17
290	調文 土器	深鉢	D9	- - II	- (4.0)	1.0	やや粗 (φ1mm以下 の長石・チャート・ 雲母をわずかに含 む)	良好	2.5Y 8/2 10YR 6/2 10YR 3/1	指屈正痕・ナデ/ ナデ	C3c類	胸組外面部底 文・世襲上統 削突	63	17
291	調文 土器	深鉢	D9	- - II	- (5.0)	1.0	密 (φ1mm以下 の長石・雲母をわ ずかに含む)	良好	10YR 4/2 10YR 4/2 10YR 4/2	ナデ/-	C4類	脚部外面部底 文・脚部内面コ マ・脚部外面部 底文付着	63	17
292	調文 土器	深鉢	E14	- - II	- (5.5)	1.0	やや粗 (φ1mm以下 の長石・チャート・ 雲母をわずかに含 む)	良好	10YR 6/6 10YR 6/4 10YR 3/2	ナデ/ナデ	E1類	口縁部外周凹 縫・唇貝痕頂突	63	17
293	調文 土器	深鉢	C13	- - II	- (3.7)	1.0	やや粗 (φ1mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 3/2 10YR 3/2 10YR 3/2	ナデ/ナデ	X1類	口縁部外周凹 縫	63	17
294	調文 土器	深鉢	E12	- - II	- (2.0)	1.0	やや粗 (φ1mm以下 の長石・チャート・ 雲母を多く含む)	良好	10YR 5/4 10YR 5/4 10YR 4/1	-/-	底部2e型	-	63	-
295	調文 土器	深鉢	D8	- - II	- (7.0)	1.0	やや粗 (φ5mm以下 の長石・チャート・ 雲母を多く含む)	良好	2.5Y 7/3 10YR 7/3 10YR 4/1	指屈正痕・ナデ/ ナデ	底部2d型	底部外面部底 文	63	-
296	調文 土器	深鉢	C8	倒木痕	-	5.4 (1.0)	やや粗 (φ3mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	10YR 6/3 10YR 6/3 10YR 6/3	指屈正痕・ナデ/ ナデ	底部2e型	底部外面部底 文	63	18
297	調文 土器	深鉢	C12	- - II	- (3.4)	1.0	やや粗 (φ1mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	5.5Y 7/4 10YR 6/4 10YR 4/1	ナデ/ナデ	底部2e型	底部外面部底 文	63	18
298	調文 土器	深鉢	C9	- - I	- (8.0)	1.0	密 (φ1mm以下 の長石・チャート・ 雲母をわずかに含 む)	良好	2.5Y 7/2 10YR 6/4 10YR 4/1	ナデ/指屈正痕・ ナデ	底部3型	底部外面部底 文・底部内面 コマ付着	63	18
299	調文 土器	深鉢	D13	- - II	- (9.0)	1.0	粗 (φ2mm以下 の長石・石英・雲母 を多く含む)	良好	10YR 6/4 10YR 6/4 10YR 4/1	ナデ/ナデ	底部3型	底部外面部調文 (RL)	63	-
301	土師器	鍋	C10	- - I	(14.0) (7.5)	2.0	密 (φ2mm以下 の長石・石英・雲母 をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 10YR 5/2 10YR 5/2	ヨコナデ・ヨコハ ケ/指屈正痕・ヨ コナデ・ヨコハケ	-	脚部内面コマ・ 脚部外面部スベ付 着	63	-
302	灰陶 器	壺・瓶	D14	- - II	- (3.0)	1.0	密 (φ1mm以下 の長石をわ ずかに含む)	良好	10YR 7/1 10YR 7/1 10YR 7/1	回転ナデ/回轉ヘ リケツリ	-	脚部外面部底 文	63	-

表39 土器観察表(16)

掲載番号	種別	器種	出土位置			大きさ(cm)	口縁部 残存率 (X/12)	出土	焼成	色調 (内面 外面 断面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	挿 図	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
303	山茶碗 (瓦蓋型)	碗	09-10	横乱	-	-	7.0 (2.3)	-	やや粗(φ2mm以下 の長石をわずかに含む)	普通	10YR 7/1 10YR 7/1 10YR 7/1	回転ナデ/回転ナ デ・回転切り 底・高台輪付	第5型式	柳脇瓶	63	18
304	山茶碗 (瓦蓋型)	碗	08	-	-	II	14.8 7.0 4.9	1.0	粗(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好	2.5Y 7/1 2.5Y 7/1 2.5Y 7/1	回転ナデ/回転ナ デ・回転切り 底・高台輪付	第6型式	柳脇瓶	63	18
305	山茶碗 (瓦蓋型)	片口鉢	西区	-	-	I	- (2.0)	1.0	粗(φ1.5mm以下 の長石・石英・チャーブ をわずかに含む)	良好	2.5Y 6/1 2.5Y 6/1 2.5Y 6/1	回転ナデ/回転ナ デ	明和I	内外面自然輪付 器	63	-
306	古須口 ~大盤	堆錐	II12	-	-	II	- (3.0)	-	粗(φ1mm以下の長 石をわずかに含む)	良好	7.5YR 4/2 7.5YR 4/2 10YR 8/1	回転ナデ/回転ナ デ	後W期~ 大室二期	内外面堆錐施釉	63	-
307	常滑	片口鉢 II型	-	TP6	-	II	- (6.3)	1.0	やや粗(φ5mm以下 の長石・石英・チャーブ を多く含む)	普通	10YR 5/2 7.5YR 4/2 7.5YR 4/2	ハケ・回転ナデ/ ハケ・回転ナデ	8型式	-	63	-
308	常滑	甌	-	TP6	-	I	- (6.5)	1.0	粗(φ2mm以下の長 石をわずかに含む)	良好	5Y 4/3 5Y 4/3 2.5Y 7/3	回転ナデ/回転ナ デ	9型式	内外面自然輪付 器	63	-

表40 土製品観察表

掲載番号	種別	器種	出土位置			大きさ(cm)	口縁部 残存率 (X/12)	出土	焼成	色調 (内面 外面 断面)	器面調整 内面/外面	分類・ 時期	文様・その他	挿 図	図 版	
			出土区・ グリット	遺構番号	層位											
13	土製品	土製円盤	-	S11	③	a	5.8 (4.9) 0.7	-	やや粗(φ1mm以下 の長石・石英・雲母 を多く含む)	良好	10YR 7/3 10YR 6/2 10YR 6/2	ナデ/-	-	外面深浅織文	11	-
300	土製品	土製円盤	E9	-	-	II	(4.5) (4.5) 0.7	-	やや粗(φ1mm以下 の長石・石英・雲母 を多く含む)	普通	2.5Y 4/4 10YR 4/4 2.5Y 4/4	ナデ/-	-	外面織文(RL)	63	-

表41 石器観察表(1)

掲載番号	器種	出土位置			石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考			挿 図	図 版
		出土区・ グリット	遺構番号	層位		長さ	幅	厚さ						
14	石鏃	-	S11	④	b	チャート	(2.2)	1.5	0.7	2.0	1a類、先端部欠損	-	11	19
15	切目石鏃	-	S11	①	n	花崗岩	(3.7)	3.0	1.4	19.2	上部欠損	-	11	19
16	石鏃	-	SP5	②	l	チャート	(1.8)	(1.7)	0.5	1.4	1a類、先端部・脚部欠損	-	12	19
32	石鏃	-	SK23	①	a	チャート	1.5	(1.2)	0.4	0.4	1b類、脚部欠損	-	15	19
33	石鏃	-	SK23	③	d	チャート	1.6	1.5	0.4	0.6	1b類	-	15	19
66	石鏃	-	SK42	①	f	チャート	1.8	1.5	0.4	0.8	1b類	-	21	19
67	石鏃	-	SK42	②	3	チャート	(1.4)	(1.7)	0.4	0.9	分類不明、脚部欠損	-	21	19
68	石鏃	-	SK42	③	n	チャート	(1.7)	(2.0)	0.7	2.1	分類不明、先端部・脚部欠損	-	21	19
69	石鏃	-	SK42	①	c	チャート	1.7	1.0	0.3	0.4	3類	-	21	19
70	石鏃	-	SK42	③	i	チャート	2.3	0.9	0.5	1.1	-	-	21	19
71	石鏃	-	SK42	③	e	チャート	2.7	(3.1)	0.7	5.0	刃部欠損	-	21	19
72	スクレイパー	-	SK42	③	e	チャート	3.8	3.1	1.0	12.1	-	-	21	19
73	打目石鏃	-	SK42	③	i	砂岩	4.1	3.8	1.4	29.6	部分的に欠損	-	21	19
75	スクレイパー	-	SK45	①	b	チャート	3.8	(3.3)	1.0	13.6	-	-	22	19
85	石鏃	-	SK60	②	2	チャート	(2.1)	(1.3)	0.4	0.7	1b類、先端部・脚部欠損	-	25	19
86	石鏃	-	SK60	②	2	チャート	(1.4)	(1.2)	0.4	0.4	1b類、先端部・脚部欠損	-	25	19
136	石鏃	-	SK62	④	2	チャート	2.2	1.3	0.4	0.5	1a類	-	29	19

表42 石器観察表(2)

器 種 名 称 番 号	器種	出土位置			石材	大きさ(cm)			重量(g)	備考	排 出 日 付	因 版					
		出土区・ グリット	遺構番号	層位		長さ	幅	厚さ									
137	石鏃	—	S602	③ k	チャート	1.1	1.2	0.3	0.2	Hb類	29	19					
138	石鏃	—	S602	④ i	チャート	1.7	1.3	0.4	0.5	Hb類	29	19					
139	石鏃	—	S602	⑤ k	チャート	2.1	1.5	0.5	1.0	Hb類	29	19					
140	石鏃	—	S602	⑥ k	チャート	2.5	1.7	0.5	0.8	Hb類	29	19					
141	石鏃	—	S602	⑦ l	チャート	(1.2)	1.3	0.3	0.3	Hb類、先端部欠損	29	19					
142	石鏃	—	S602	⑧ k	チャート	1.4	1.7	0.5	0.8	1c類	29	19					
143	石鏃	—	S602	⑨ 2	チャート	(1.8)	1.9	0.6	1.5	2類、先端部欠損	29	19					
144	石鏃	—	S602	⑩ 2	チャート	2.6	(1.3)	0.4	1.0	分類不明、脚部欠損	29	19					
145	石鏃	—	S602	⑪ k	水晶	(2.6)	(1.4)	0.6	1.7	分類不明、脚部欠損	29	19					
146	石鏃	—	S602	⑫ k	チャート	3.4	1.6	0.6	1.7	—	29	19					
147	石鏃	—	S602	⑬ b	チャート	2.4	0.8	0.4	0.7	—	29	19					
148	石鏃	—	S602	⑭ 6	チャート	2.0	0.7	(0.4)	0.4	片面欠損	29	19					
149	石鏃	—	S602	⑮ k	ナスカイト	6.4	2.7	0.9	12.5	—	29	19					
150	スクレイバー	—	S602	⑯ b	チャート	5.4	2.2	0.8	11.9	—	29	19					
151	スクレイバード	—	S602	⑰ b	泥岩	6.7	3.3	1.0	28.2	—	29	19					
154	石鏃	—	S602	⑱ e	チャート	1.7	1.8	0.3	0.5	Hb類	30	19					
158	石鏃	—	S602	⑲ f	チャート	(2.2)	1.7	0.4	1.2	Hb類、先端部欠損	30	19					
309	石鏃	D9	—	II	ナスカイト	(2.3)	(1.7)	0.6	1.4	Hb類、脚部欠損	64	19					
310	石鏃	C8	—	I	チャート	2.2	1.7	0.6	1.6	Hb類	64	19					
311	石鏃	B7	—	I	チャート	1.5	1.5	0.3	0.4	Hb類	64	19					
312	石鏃	C8	倒木痕	—	チャート	1.6	1.3	0.4	0.6	Hb類	64	19					
313	石鏃	D6	—	II	チャート	(2.3)	(1.7)	0.5	1.0	Hb類、脚部欠損	64	19					
314	石鏃	B9	—	I	チャート	(1.4)	(1.5)	0.5	0.7	Hb類、先端部・脚部欠損	64	19					
315	石鏃	C8	—	II	チャート	2.4	1.7	0.3	0.8	1d類	64	19					
316	石鏃	D6	搅乱	—	チャート	2.3	2.1	0.6	2.6	3類	64	19					
317	石鏃	C8	倒木痕	—	チャート	(2.0)	(1.3)	0.5	1.3	分類不明、脚部欠損	64	19					
318	石鏃	D8	搅乱	—	チャート	(2.2)	1.0	0.5	1.2	基部欠損	64	19					
319	石鏃	B-D4-6	搅乱	—	チャート	(3.2)	1.5	0.9	4.5	先端部欠損	64	19					
320	打穴石錐	D6	—	II	砂岩	(5.4)	4.6	1.3	40.0	片側打穴欠損	64	19					
321	打穴石錐	C7	—	I	砂岩	7.2	5.3	2.5	109.0	—	64	19					
322	切目石錐	B14	—	II	泥岩	5.4	3.7	2.0	57.1	—	64	19					
323	块状耳飾	C7	—	I	瑪瑙	3.1	(2.1)	0.5	4.8	片側半分欠損、外面部底有 仕上げ痕石、側面に製作時の摺切り痕	64	19					
324	砾石	東区	—	I	凝灰岩	(2.7)	(2.7)	0.7	7.7	仕上げ痕石、側面に製作時の摺切り痕	64	—					
325	砾石	D11	—	II	凝灰岩	(4.1)	3.4	0.8	18.1	仕上げ痕石、側面に製作時の摺切り痕	64	—					
326	砾石	C11	—	I	泥岩	6.4	5.0	0.6	31.0	仕上げ痕石	64	—					
327	砾石	西区	—	I	泥岩	(6.2)	5.1	1.6	69.3	仕上げ痕石、片面の圓面扁状	64	—					
328	砾石	東区	—	I	砂岩	(4.1)	3.9	1.1	25.9	仕上げ痕石	64	—					

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果

炭化材年代測定

分析の経緯 SK185 は、多量の被熱した石材や炭化物が出土したことから、いわゆる集石遺構と考える。SK185 の時期決定の一助とすることを目的として、埋土から出土した炭化材の年代測定を実施した。

分析の概要と所見 測定した炭化物の年代は 5477BC~5374BC で、これは縄文時代早期後葉に相当する。SK185 の埋土から出土した縄文土器の年代観と合致する結果を得ることができた¹⁾。

注

1) 年代観は、山下勝年 2008 「東海条痕文系土器」『總覽縄文土器』、株式会社アム・プロモーションを参考にした。

第2節 炭化物年代測定

1 はじめに

SK185 から出土した試料について、加速器質量分析法（AMS 法）による放射性炭素年代測定を行った¹⁾。分析は伊藤 茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹 Zaur Lomtatidze・小林克也（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

2 試料と方法

試料は、SK185 から出土した炭化材 1 点（試料 No. 1 : PLD-42792）である。試料には、最終形成年輪は残っていなかった。

測定試料の情報、調製データは表 43 のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクト AMS : NEC 製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた ¹⁴C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C 年代、暦年代を算出した。

表 43 測定資料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-42792	試料No. 1 遺構: SK185 層位: 2層 遺物No. 0615	種類: 炭化材（広葉樹） 試料の性状: 最終形成年輪以外 部位不明 状態: wet	超音波洗浄 有機溶剤処理: アセトン 酸・アルカリ・酸洗浄（塗酸: 1.2 mol/L, 水酸化ナトリウム: 1.0 mol/L, 塩酸: 1.2mol/L）

3 結果

表 44 に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した ¹⁴C 年代、図 71 に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 枝を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C 半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.27% であることを示す。

曆年較正の詳細は以下のとおりである。

曆年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 \pm 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の曆年較正には OxCal4.4 (較正曲線データ : IntCal20) を使用した。なお、 1σ 曆年代範囲は、OxCal1 の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.27% 信頼限界の曆年代範囲であり、同様に 2σ 曆年代範囲は 95.45% 信頼限界の曆年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に曆年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は曆年較正曲線を示す。

表44 放射性炭素年代測定及び曆年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	曆年較正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を曆年代に較正した年代範囲	
				1σ 曆年代範囲	2σ 曆年代範囲
PLD-42792 試料No. I	-22.60 \pm 0.31	6465 \pm 24	6465 \pm 25	5475-5470 cal BC (5.90%) 5437-5385 cal BC (62.37%)	5477-5461 cal BC (12.69%) 5454-5374 cal BC (82.76%)

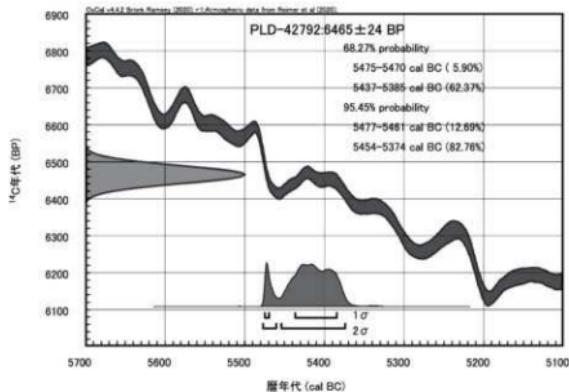


図71 曆年較正結果

4 考察

SK185 から出土した炭化材（試料 No. 1 : PLD-42792）は、 ^{14}C 年代が 6465 ± 25 ^{14}C BP、 2σ 曆年代範囲（確率 95.45%）が 5477-5461 cal BC (12.69%) 及び 5454-5374 cal BC (82.76%) を示した。これは、小林（2017）を参照すると、縄文時代早期後葉に相当する。

注

- 1) 記載にあたっては以下の文献を参考にした。

小林謙一 2017『縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代ー』、同成社
中村俊夫 2000「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の¹⁴C年代』、日本第四紀学会
Bronk Ramsey, C. 2009 「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」『Radiocarbon』 51(1)
Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng,
H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G.,
Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J.,
Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Sounthor, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen,
U., Capello, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen,
J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020 「The IntCal20 Northern Hemisphere
radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP)」『Radiocarbon』 62(4) doi:10.1017/RDC.2020.41.
<https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

第5章 総括

第1節 集石遺構について

ここでは、研究史を踏まえつつ、集石遺構¹⁾と考えられるSK185について、若干の検討を試みる。

1 SK185の機能について

集石遺構の機能については民族例に基づき複数の説が提示されており、いまだ解決をみていない。ただし、掘り込みを有する集石遺構を調理施設とする考えは一定の支持を得ている²⁾。民族例に基づく研究からは、掘り込み内で加熱した礫を用いるあり方は、蒸気の保存や熱効率に優れ、石蒸焼き調理をする上で理にかなっていることが指摘されている³⁾。また、集石遺構を形態分類し、各類型の機能について検討した研究もある⁴⁾。谷口康浩氏の分類に基づくと、SK185は掘り込みの上半に礫が認められるため、1群1類b種（以下、b種と記載）にあたり、調理施設としての機能が想定される。ただし、b種は礫下部にまとまった炭化材や灰・焼土・燃熱痕が認められ、坑内で礫を加熱したと想定される例が多いとされるが、SK185の中敷石下部では、そうした痕跡は認められなかつた。この状況を理解する上では、谷口氏の分類における1群1類a種（以下、a種と記載）の礫下部に着目した細分が参考になる。谷口氏は、掘り込み内に礫を充填するa種のうち、礫下部にまとまった炭化材や灰・焼土・燃熱痕が認められるものを①、そうでないものを②とし、坑内で礫を加熱したか否かの差と考えた。谷口氏の分析方法から、坑内で礫を加熱したか否かの把握には調理面と想定される礫を捉え、その下部を観察する必要があることが分かる。そのため、b種であっても調理面が想定できれば、a種と同様の検討が可能と考える。SK185の中敷石下部の状況は、a種の細分における②にあたり、坑内で礫を加熱しなかつた蓋然性が高い⁵⁾。

坑内で礫を加熱したか否かが、調理にどのような影響を与えたかは、民族例の研究⁶⁾が参考になる。オセアニアや北米の民族例を検討した野嶋氏の研究によると、石蒸焼き調理には礫加熱地点をそのまま調理場所に供する例と、別の場所で加熱した礫を調理場所に持ち込む例があるとする。前者は焼石に加えて燃え残った燐も熱源として作用するため、長時間にわたり高温を維持することが可能となる。一方、後者は焼石のみが熱源となるため、前者と同程度の熱量を得られたとしても、高温状態を長時間持続させるのに不向きとなる。そのため、燐火の有無は、石蒸し焼き調理の熱調節機能の差に影響するようである。SK185は後者にあたり、蒸し焼き調理でも比較的短時間の調理や少量の食物加熱に用いられた可能性がある⁷⁾。

また、谷口氏は、坑内の礫の堆積状況からも調理方法の復元を試みている⁸⁾。しかし、谷口氏自身も指摘しているように発掘時に捉えられる礫は必ずしも機能時の状態を留めているとは言いきれず、多くは廃棄時の状況を示している可能性がある。SK185では、中敷石と考えた礫よりも上では被熱した礫がモザイク状に確認できるのみで、調理時の状態を保つといえる積極的な根拠は見出せなかつた。そのため、今回は調理面と考えられる礫下部の状況に着目した調理方法の検討にとどめる⁹⁾。

2 SK185と周辺の事例との比較

次にSK185と周辺遺跡で確認されている集石遺構の比較検討を試みたい。比較検討を進めるにあた

り、揖斐川町内で確認されている早期¹⁰⁾の集石遺構を集成した（表45）¹¹⁾。表45に示した分類の「礫堆積状況」の項目は、谷口氏の分類に則り、a種・b種・b亞種で示した¹²⁾。「坑内加熱」の項目は、a種の①・②の細分をb種にも反映し、b種は、中敷石下部と底部の両者の状況を示した¹³⁾。また、報告書によっては炭化物が被熱面のどちらかにしか言及していないものも存在したため、①については以下のように細分して示した。

①'：炭化物や炭化材を検出したもの。

①"：焼土や被熱面が認められるもの。

①：①'・①"で示した痕跡がいずれも確認できるもの。

表45 揖斐川町内における縄文時代早期の集石遺構

遺跡名	遺構名	長軸長 (m)	短軸長 (m)	深さ (m)	分類 状況		時期	放射性炭素年代測定結果 (20個年代範囲)	備考	
					礫堆積 状況	中敷石 下部				
若井谷	SI 1	1.1	0.9	0.2	b	①'	②	早期後半 6794-6769 cal BC (94.91%) 6720-6702 cal BC (0.54%)		
	SI 2	1.3	1.1	0.2	a	-	②			
	SI 3	0.8	0.7	0.2	b	①'	②	早期中葉 5627-5296 cal BC (90.43%) 5172-5110 cal BC (3.22%) 5109-5071 cal BC (1.79%)		
	SI 4	1.1	0.8	0.53	b	②	①	早期後葉 6057-6045 cal BC (0.87%) 6031-5934 cal BC (94.58%)		
	SI 7	1.50	1.30	0.45	b	①'	①"	早期後葉 5470-5438 cal BC (1.33%) 5384-4796 cal BC (94.12%)		
	SI 12	1.60	1.60	0.40	a	-	②	早期以降		
いわべく	SI 15	2.20	1.80	0.40	b	①'	②	早期後葉 6371-6294 cal BC (4.54%) 6270-5734 cal BC (96.91%)		
	SI 1	1.80	1.80	0.50	a	-	①	早期後葉 6435-5872 cal BC (94.01%) 5871-5842 cal BC (1.44%)		
	SI 2	2.10	2.10	0.30	a	-	①	早期		
尾元	SK115	1.75 (1.10)	0.67	-	-	②	早期末		東半が倒木底による擾乱受ける	
	SK442	1.10	1.08	0.19	b種	②	②	早期～ 初期初期		
上岡田村平	SI 3	4.00	4.00	0.20	a	-	①'	7309-7283 cal BC (0.79%) 7255-7229 cal BC (0.77%) 7190-6567 cal BC (92.69%) 6549-6510 cal BC (1.22%)	複層ありか	
	小谷戸	集石遺構	0.80	0.70	0.06	a	-	②	早期	
	下岡田村平	第1号焼成窯遺構	1.80	1.30	0.10	b	②	早期前半		
	小の原	第1号集石炉跡	1.17	1.11	0.35	a	-	②	早期	
塙黒山	SI28	0.95	0.60	0.48	b	②	①'	早期後葉	内壁面に被熱痕あり	
	SI39	2.00	1.42	0.40	b	①'	②	早期後葉 7032-6964 cal BC (3.41%) 6949-6929 cal BC (0.87%) 6917-6878 cal BC (2.20%) 6860-6849 cal BC (0.40%) 6841-6394 cal BC (88.57%)		
	SI41	2.05	1.50	0.53	b	①'	①"	早期末～ 初期前半 5296-5261 cal BC (1.34%) 5220-5138 cal BC (94.11%)		
	中村	SK185	3.1	3.1	0.84	b	②	②	早期後葉 5477-5461 cal BC (2.69%) 5451-5374 cal BC (92.76%)	
梨子谷 第1C地区	SI 3	0.90	0.70	0.25	b	①'	①"	早期後葉 5977-5947 cal BC (1.57%) 5919-5472 cal BC (93.24%) 5429-5414 cal BC (0.64%)		
	SI 4	1.00	1.00	0.25	a	-	①'	早期末～ 初期前半 5360-5342 cal BC (0.75%) 5336-4720 cal BC (94.70%)		
	SI 5	1.10	1.10	0.25	b	①'	①"	早期中葉 7938-7900 cal BC (0.63%) 7832-7041 cal BC (94.82%)		
	SI 6	0.90	0.90	0.25	b	②	①'	早期後葉 7025-7008 cal BC (0.35%) 6980-6969 cal BC (0.43%) 6943-6906 cal BC (0.12%) 6911-6883 cal BC (0.63%) 6830-5981 cal BC (93.54%) 5942-5925 cal BC (0.38%)	ただし炭化物は少量	
綿野	SI 1	1.40	-	0.50	b	①'	①"	早期後半 5615-5599 cal BC (1.67%) 5564-5200 cal BC (82.84%) 5187-5051 cal BC (10.93%)		
諸家	1号集石遺構	1.20	1.20	0.30	b	①'	①"	早期前半 8795-8181 cal BC (90.12%) 8127-7960 cal BC (5.33%)		

概ね谷口氏の解釈に則り、①'・①"・②はいずれも坑内で礫を加熱した可能性があるもの、②はそうでないものとして論を進める。

検討の結果、a種は①'・①・②、b種は中敷石下部で①'・②、底部で①'・①"・②が確認でき、a種・b種ともに坑内で礫を加熱した可能性があるものとそうでないものが認められた。SK185の類例としては、下開田村平遺跡例があり、早期前半からSK185と同様の調理方法が採用されていた可能性がある。また、坑内で礫を加熱した可能性のある早期前半の例としては諸家遺跡例がある。そのため、当遺跡周辺では早期前半時点での坑内で礫を加熱する方法とそうでない方法の両者が存在したことが窺える。また、早期後半以降も両者の方法が認められ、早期を通じて両者が併存したようである。民族例によると坑内での礫加熱の有無は、集団差に起因する場合もあるという¹⁴⁾。ただし、現状でその問題に言及するには資料数が薄弱であるため、今後の課題とし、資料の増加を待ちたい。

3 SK185の礫の加熱場所について

ここまで述べてきたように、SK185に伴う焼礫は別の場所で加熱したものを持ち込んだと想定され、礫の加熱場所についても課題となる。民族例では10m程離れた場所で加熱した礫を調理施設に持ち込む例もあることが指摘されている（青嶋2005）。そこで、SK185から半径10m程の範囲に火を使用した痕跡が認められないかについても検討を行ったが、そうした痕跡を確認することはできなかった。表45の「坑内加熱」の項目で②とした例についても礫の加熱場所に関する報告は認められなかった。礫の加熱には掘り込みは必要ないため、後世の削平により消失した可能性もある¹⁵⁾。ただし、集石遺構の利用方法をより具体的に把握するには、石材の加熱場所は重要な課題の一つである。今後も、②にあたる集石遺構を検出した際には、周辺に礫を加熱した痕跡が残されている可能性を想定し、調査を行う必要があると考える。

注

1) 集石遺構の定義は、谷口氏が示した「人為的な被熱に成る焼礫・破碎礫が故意に集積された一群」（谷口 1986）に則る。

また、本節の執筆にあたっての参考文献は以下のとおりである。

青嶋邦夫2000「愛鷹山南麓の縄文時代早期集石遺構に関する考察～報告書からここまで生活のあり方を読みとれるか～」

『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第7号、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

青嶋邦夫2005「集石遺構の研究法について」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第11号、財団法人静岡県埋蔵文化

財調査研究所

上田典男1983「縄文時代焼礫集積遺構の形態の把握」『物質文化』41、物質文化研究会

後藤守一1956「衣・食・住」『日本考古学講座』3、河出書房

小堀一夫1999「遺構研究 集石遺構」『縄文時代』第10号、縄文時代文化研究会

谷口康浩1986「縄文時代「集石遺構」に関する試論 一関東・中部地方における早・前・中期の焼礫集積遺構を中心として一」『東京考古』4、東京考古談話会

野嶋洋子2005「集石調理の民族誌—種群研究の民族考古学的視点—」『月刊考古学ジャーナル』No. 531、ニューサイエンス社

野嶋洋子2007「集石の民族誌—焼石調理の特徴と先史学的意義—」『縄文時代の考古学5 なりわい—食料生産の技術

—』、同成社

- 2) 集石遺構を調理施設とする説は、後藤守一（後藤1966）により示され、近年の研究（上田1983、谷口1986、小栗1999、青嶋2000・2005、野嶋2005・2007）においても支持されている。ただし、研究者によっては全ての集石遺構を調理施設とみなしていない点は注意を要する。
- 3) 野嶋2005・2007による。
- 4) 上田典男1983、谷口1986による。
- 5) 繭下部の土層は粘性がないため、水分含有率が低いと考えられ、湿気抜き等、保熱性を高めるための効果を期待した造作であった可能性がある旨のご教授を宇野隆夫氏から得た。
- 6) 野嶋2007による。
- 7) 谷口1986による。
- 8) 谷口氏はa種について、坑内で繭を加熱した後に火床や繭を搔き出し改めて繭を充填する調理法も想定しており、この場合坑内で繭を熟したとしても痕跡は②となる可能性がある。ただし、搔き出しを行ったとすれば煥を熱源として利用することはできないため、いずれにしても比較的短時間の調理や少量の食物加熱に用いられたと考える。
- 9) 次項以降も同様の理由で繭下部のみに着目して検討を行う。
- 10) 表45における「放射性炭素年代測定結果（ 2σ 繁年代範囲）」の項目は小林克也氏（バレオ・ラボ）のご助言を得た。
- 11) 谷口氏の分類における1群1類を集め成し、繭に被熱がない例は除外した。ただし、岩井谷遺跡のSI7・細野遺跡のSI1・諸家遺跡の1号集石遺構は、繭の被熱については言及されていないものの、遺構の底面から多量の炭化物や被熱面が確認されており、集石遺構の可能性があるため、集成に含めた。表45に示した遺跡の参考文献は以下のとおりである。
- 岐阜県教育委員会1991『小の原遺跡・戸入障子暮遺跡』（徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第2集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター1993『追分遺跡・下開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第5集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター1999『上開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第6集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター1999『細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡・宮上遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第53集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『いんべ遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第55集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『岩井谷遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第60集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2000『戸入村平遺跡Ⅱ・小谷戸遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第64集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2003『尾元遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第82集）
- 財団法人岐阜県文化財保護センター2007『塙奥山遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第103集）
- 坂内村教育委員会1989『諸家遺跡』
- 中村俊夫・岩花秀明1990『岐阜県諸家遺跡出土の遺物から採取された炭化物とその抽出フミン酸の加速器¹⁴C年代の比較』
『考古学と自然科学』第22号、日本文化財科学会
- 12) 坑底施設や中敷石の有無には、言及していない報告がほとんどため、それらに關わる細分は示していない。
- 13) b種としたもので、中敷石に言及した報告は認められなかった。しかし、断面図における上部の集石の最下層が中敷石として機能した可能性があるため、上部の集石の直下の状況に關わる記録を基に「中敷石」の项目的分類を示した。
- 14) 野嶋2007による。
- 15) SK185が発掘区の端にあるため、発掘区外に何等かの痕跡が残されている可能性もある。

第2節 まとめ

本節では、調査成果や研究史を基に当遺跡における各時期の様相について概観する。

1 縄文時代草創期以前

今回の調査では、当該期の遺構・遺物は確認できなかった。現時点で日坂川流域でも、当該期の遺跡は確認されておらず、周辺でも人々の活動はなかったと想定される。

2 縄文時代早期（図72）

発掘区で人々の活動の痕跡が捉えられるようになるのは、当該期の後葉以降である。

当該期の遺構は、単独柱穴4基、土坑29基で、縄文時代の遺構の中で最も多いが、遺構の分布的なまとまりは見い出せない。蒸し焼き調理を行ったと考えられる集石遺構（SK185）を検出した（第5章第1節）。

当該期の遺物としては、東海条痕文系土器が多く出土した。土器型式が特定できたものの接合後破片数は98点である。船底式・上ノ山式・入海I式・入海II式・石山式・天神山式といった概ね連続した土器型式が確認できる。また、縄文時代早前期の細別型式を特定できなかった土器のうち、器面に条痕調整を施したり、胎土に纖維を混入したりするものは2,407点あり、これらも東海条痕文系土器の可能性がある¹⁾。揖斐川町内で発掘調査を実施した遺跡のうち、早期後葉の縄文土器が出土した遺跡は16例あり、東海条痕文系土器の概ね連続した土器型式を確認できたのは、いんべ遺跡・小の原遺跡・塚奥山遺跡である（表46）²⁾。いずれも旧徳山村の揖斐川上流域に位置する。当遺跡は、揖斐川町内でまとまって東海条痕文系土器が出土した遺跡としては最も南に位置する。他にも早期末に位置づけられる木島様式第1期の土器も認められた。また、主に東日本に見られる神ノ木台式に類似する土器も確認できたが、数は少なく客体的である。いずれにしても、当該期の縄文土器は、時期を位置づけられた縄文土器の中で最も数が多く、主体を成す。

出土した土器から、早期後葉には発掘区内で継続的に人々の活動があったことが窺える。建物等の痕跡は認められなかつたが、集石遺構を確認したため、生活の場として土地利用された可能性がある。当遺跡周辺では白川流域の諸家遺跡で早期前半の土坑や押型文系土器が³⁾、表川流域の長者平遺跡で天神山式土器が確認されている⁴⁾が、日坂川流域で当該期の遺構・遺物を確認したのは初めてである。

3 縄文時代前期（図72）

当該期の遺構は、単独柱穴4基、土坑9基である。遺構の分布的なまとまりは見いだせない。

表46 揖斐川町内における早期後葉の縄文土器出土遺跡

通番	遺跡名	型式
1	岩井谷遺跡	(八ヶ崎I)、上ノ山、入海II
2	いんべ遺跡	八ヶ崎I、船底、上ノ山、入海、石山、塙屋下層、天神山、塙屋上層
3	道分遺跡	(八ヶ崎I)
4	尾元遺跡	塙屋
5	上開田村平遺跡	条痕・条痕（条痕文土器か？）
6	下開田村平遺跡	（上ノ山）
7	小の原遺跡	八ヶ崎I、船底、上ノ山、入海I、入海II、石山、天神山、塙屋
8	千日遺跡	条痕・条痕（条痕文土器か？）
9	長吉遺跡	(八ヶ崎 I)
10	駿馬山遺跡	八ヶ崎I、船底、上ノ山、入海I、入海2、石山、天神山、塙屋上層
11	中里敷遺跡	入海II、塙屋
12	仲村遺跡	船底、上ノ山、入海I、入海II、石山、天神山、木島様式第1期
13	梨子谷遺跡（第1地区）	(八ヶ崎 I)、（船底）
14	細野遺跡（第2地区）	条痕・条痕（条痕文土器か？）
15	宮上遺跡（B地区）	条痕・条痕（条痕文土器か？）
16	山手宮前遺跡	塙屋

縄文時代早前期とした土器のうち、確実に当該期に位置付けられる土器の接合後破片数は115点である。早期に引き続き木島様式が確認でき、第2期～第4期まで認められる。その他、清水ノ上Ⅱ式・羽島下層Ⅱ式並行・北白川下層Ⅰa式並行・北白川下層Ⅰc式並行・特殊凸帯文系土器といった前期前半～後半にかけての土器が、断続的に認められる。また、下吉井式・中越様式・諸磯a式に類似するもの・十三菩提式に類似するものといった、主に東日本に分布する土器も僅かに確認できる。

当該期は早期に比べ、遺構・遺物ともに減少する。そのため、早期に比べて発掘区内での活動が低調になったことが考えられる。出土した土器から、断続的ながらも前期を通じて人々の活動があったようである。ただし、主要な遺構は確認できず、具体的な土地利用の状況は不明である。周辺では、諸家遺跡で当該期の土坑や羽島下層式・北白川下層式・清水ノ上式・諸磯式土器が出土している⁶⁾が、日坂川流域で当該期の遺構・遺物を確認したのは初めてである。

4 縄文時代中期（図72）

当該期の遺構は、堅穴建物1基（SI1）、単独柱穴2基、土坑6基である。SK355のみが東区にあり、他の遺構は西区に集中する。SI1の長軸方位は南北軸から西に80°傾き、発掘区周辺の地形とは合わない⁶⁾。中期後半に廃絶したと考えるSI1の存在から、今回の発掘区は中期後半以前に居住域として利用されたと考える。

当該期の土器の接合後破片数は488点である。縄文時代早期よりは少ないが、前期に比べると多い。主に東海地域に分布する北裏C式～北屋敷II式・中富式・神明式、主に西日本に分布する船元I～III式・里木II式・北白川C式土器が認められる。当遺跡周辺では、諸家遺跡から船元式土器や信州系・北陸系の土器⁷⁾、ぶくりや遺跡から中期末の土器が出土しているが⁸⁾、当遺跡では信州系や北陸系の土器は確認できなかった。

当該期は前期に比べ遺物数が増加したことから、発掘区内での活動が活発化したことが窺える。また、出土した土器の時期幅から、中期を通して人々の活動があったと想定される。周辺では、諸家遺跡で当該期の遺構が確認されていたが、土坑のみで具体的な状況は不明であった⁹⁾。今回の調査で、SI1を確認したことにより、周辺地域において初めて当該期の集落跡の一端を捉えることができた。

5 縄文時代後期（図73）

当該期に比定できた遺構は土坑1基（SK272）のみである。

また、当該期の土器の接合後破片数は31点で、時期を比定できた縄文土器の中では最も少ない。土器型式が特定できたのは宮窓式のみである。

当該期の遺構・遺物は僅かであり、人々の活動は低調であったと考える。主要な遺構も確認できず、土地利用状況の詳細も不明である。当遺跡周辺でも、当該期の遺跡は確認されていない。ただし、日坂街道改修工事の際に日坂字下村で石剣¹⁰⁾が確認されており¹¹⁾、当遺跡周辺で当該期における人々の活動があったことが窺われる。

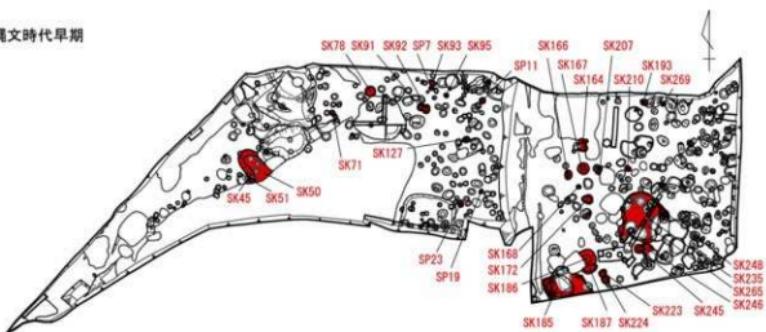
6 縄文時代晩期・弥生時代・古墳時代

当該期の遺構や遺物は確認できなかった。日坂川流域でも当該期の遺跡は認められず、同様の状況であったと考えられる。水田開発等の影響で、平野部での活動が活発化した結果の可能性がある。

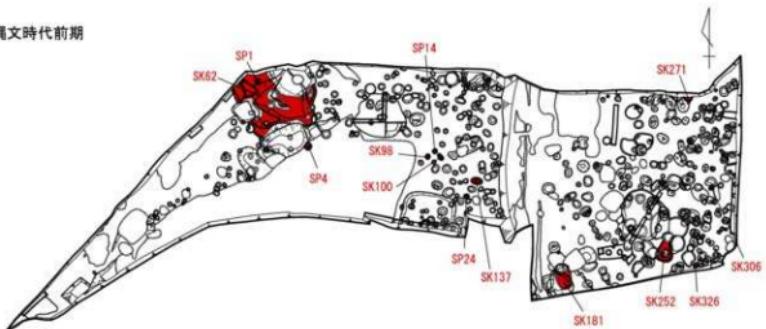
7 古代（図73）

今回の発掘区で、再び人々の活動の痕跡が捉えられるようになるのは当該期からである。

縄文時代早期



縄文時代前期



縄文時代中期

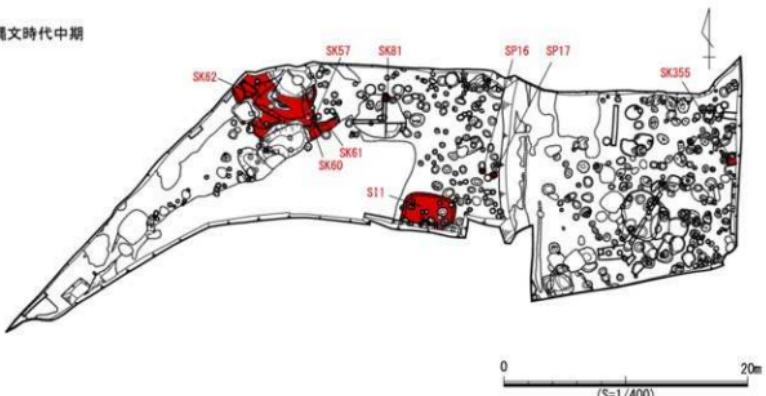


図 72 造構変遷図（1）

当該期の遺構は、塀・柵2列（SA6・SA10）、土坑2基である。塀・柵の長軸方位は南北軸から西に72°～76°傾き、発掘区周辺の地形とは合わない¹²⁾。SA6・SA10が何等かの施設を囲繞するような状況は確認できなかった。

遺物としては、須恵器5点と灰釉陶器3点が出土した（表47）。全て細片で詳細時期は不明である。

主要遺構は塀・柵のみで、具体的な土地利用状況は不明である。ただし、縄文時代晩期以降に空白期がみられ古代に再び遺構・遺物が確認できる点は、美濃北西部の山間部の遺跡と傾向が一致する¹³⁾。また、当遺跡の北東には天平年間（729～748年）創建とされる春日神社が存在する¹⁴⁾が、周辺で当該期の遺跡は確認されていなかった。今回初めて日坂川流域で当該期の遺構・遺物を確認した。

8 中世（図73）

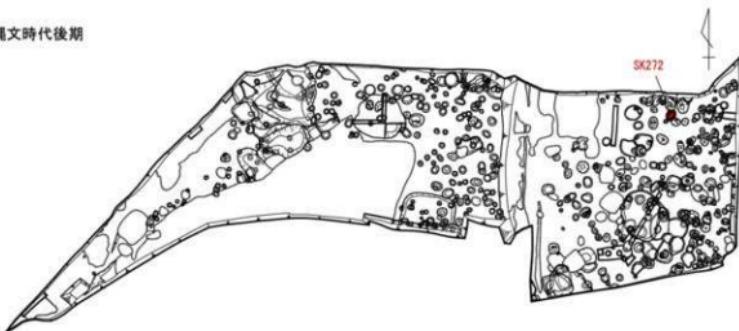
当該期の遺構は、掘立柱建物2棟（SB1・SB2）、塀・柵6列（SA1～SA5・SA7）・単独柱穴1基・土坑2基である。中世前期の遺構は、SK5（山茶碗第5型式）、SK13・SP9（山茶碗第5～6型式）で、中世後期の遺構はSB1・SB2・SA1～SA5・SA7（山茶碗第8型式～第9型式）である¹⁵⁾。山茶碗第4型式以前・第7型式・第10型式以降の遺構は確認できなかつたが、断続的ながら中世前期～中世後期の遺構を確認した。遺構の分布は西区に集中する。掘立柱建物、塀・柵の長軸方位は南北軸から西に29°～36°、若しくはそれにはば直行し南北軸から東に52°～60°傾く。発掘区西側にある舌状の丘陵の南東側傾斜とほぼ揃い、自然地形の影響を受けた可能性がある。掘立柱建物の存在から、中世後期には集落が展開していたと考えられる。ただし、SB1・SB2はいずれも小規模であるため、居住するためのものではなく物置等として利用されたものの可能性がある。

遺物は陶器22点と土師器皿1点が出土した（表47）。山茶碗は碗と片口鉢がみられ、接合後破片数は9点である。尾張型は第5型式～第6型式まで、東濃型は明和1号型窯式～脇之島3号窯式までのものが認められる。時期を判断できた破片数は、尾張型第5型式が4点と最も多く。また、尾張型は7型式以降、認められなくなり、東濃型に統一される。美濃地方の消費地における山茶碗は、第5型式から第7型式までの出土量が最も多く、第7型式以降は出土量が減少することや、第6型式以降は尾張型が東濃型に凌駕されることが指摘されている¹⁶⁾。当遺跡から出土した山茶碗の傾向は、出土点数は少ないものの、概ね美濃地域の傾向と一致する。古瀬戸・大窯製品については、古瀬戸中II期

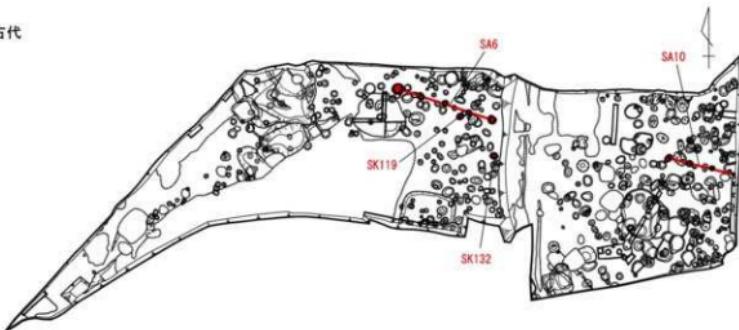
表47 中村遺跡出土古代・中世陶磁器

時期	種別	器種	型式	接合後破片数	
古代	須恵器	甕	—	4	
		壺・瓶類	—	1	
	灰釉陶器	壺・瓶類	—	2	
		不明	—	1	
				小計 8	
中世	山茶碗	碗	尾張型第5	3	
			尾張型第6	1	
			大窯戸1～脇之島3	1	
	古瀬戸・大窯	片口鉢	尾張型第5 明和1号窯式	1 1	
			—	1	
			古瀬戸中II	1	
	常滑	片口鉢	古瀬戸後IV～大窯2	1	
			8型式	1	
			—	1	
	竈	甕類	9型式	1	
		甕	—	5	
		青磁	龍泉窯青磁碗IIa型	3	
				小計 22	
				合計 30	

縄文時代後期



古代



中世

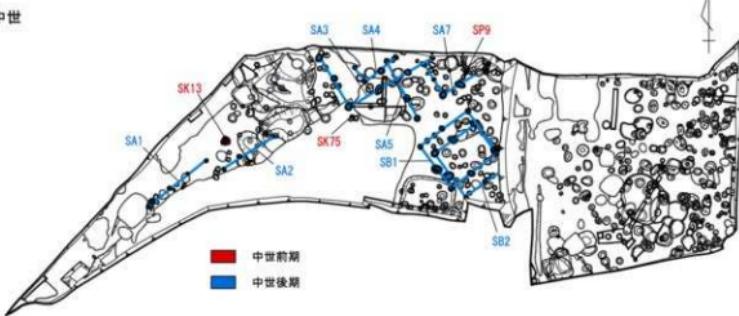


図 73 遺構変遷図（2）

の柄付片口1点と古瀬戸後IV期～大窯第2段階の擂鉢1点がある。古瀬戸前期から中III期までは鎌倉を中心出土することが指摘されており¹⁷⁾、西濃地域の山間部に位置する当遺跡において古瀬戸中II期の遺物が認められる点は注目される。古瀬戸後IV期以降は、東海地域や南関東にかけて村落部を含めて出土量が増加することが指摘されている¹⁸⁾。次の時期に帰属する可能性がある後IV期～大窯第2段階の擂鉢はこうした傾向を反映している可能性がある。常滑製品では、片口鉢・瓶類・甕がある。時期を判断できたものは第8型式～第9型式で、古瀬戸中II期の柄付片口や大洞東1号窯式～脇之島3号窯式の山茶碗の碗とほぼ併行する。中国産陶磁器には龍泉窯青磁碗IIa類がみられ、尾張型第5型式～第6型式の山茶碗の碗とほぼ併行する。また、今回の発掘区の掘削面積は689.3m²であり、1m²辺りの出土数は0.03点となる。中世の農村を調査した場合、1m²調査した際には1破片出土するかしないか程度の遺物が出土することが指摘されており¹⁹⁾、今回の発掘区の遺物出土量は極めて少ないといえる²⁰⁾。

出土した土器から、今回の発掘区では断続的ながら中世前期～中世後期まで人々の活動があったことが窺える。中世前期は主要な遺構が認められず、状況が不明であるが、中世後期には集落が展開していたと想定される。ただし、SB1・SB2はいずれも小規模であることや、当該機の遺物量の少なさを踏まえると、集落の中心域とは考えにくく、末端にあたる可能性がある。日坂川流域では当該機の散布地がいくつもあり、当遺跡周辺には当該期の文化財や伝承が複数存在する²¹⁾。春日神社には鎌倉時代～室町時代作とされる複数の御神像・仏像や室町時代～桃山時代作とされる21面の能面が所蔵されている。長国寺は、応永元（1394）年に春日から日坂に移転したとされ、裏面に「敬白右為父母教養応永五年卯三月一四日教子敬白」と刻まれた花崗岩の鬼瓦屋根石²²⁾が所蔵される。また、土岐頼興の子である北方興国は、正平（1347～1370）年間に日坂に移って土豪になったとされる。北方氏は天文（1532）年間の末頃まで日坂の豪族として栄えたようである。以上のことから日坂地域では、中世前期から中期後期にかけて人々の活動があったことが窺える。日坂川流域では当該期の遺物は採取されていたものの、遺構は確認できおらず、今回の調査で初めて集落跡を捉えることができた。

9 戦国期以降

当該期の遺構は確認できなかった。

遺物は中世後期から当該期にかけての瀬戸後IV期～大窯第2段階の擂鉢1点を確認したのみである。この擂鉢は遺物包含層から出土しており、遺物包含層出土遺物のうち最も新しい。

今回の調査から当該期の状況について言及することは困難である。しかし、当遺跡周辺の文化財・伝承・文献史料から当該期の状況について窺い知ることができる²³⁾。伝承によると北方氏が没落して以降は、小川但馬守の家来であった高橋匡綱が日坂住民の懇望により日坂に来住したとされる。その後、高橋家は江戸時代を通じて大庄屋を務めた。高橋家には文書も所蔵されており、確認できる最古の文書は貞享元（1687）年とされる。また、近世に大垣藩主が北山巡見に訪れた際には高橋家の間人が案内役を務め、大垣藩主や大垣藩の役人達は高橋家住宅に宿泊したようである。このように戦国期以降も当遺跡周辺では人々の活動があったようである。

以上、各時期の様相について整理した。今回の発掘区では断続的ながら繩文時代から中世にかけて人々が活動した痕跡を捉えることができた。ただし、古代の柵が囲繞する施設等が不明な点やSB1・SB2が帰属すると考えられる集落の全体像が不明な点、時期によっては主要な遺構が捉えられない点

等の課題も残される。今回の発掘区の南側及び南西側には、高橋家や日坂上村の集落が展開し、比較的広い平坦面が広がる。今回の発掘区が山際に迫っていることを考慮すれば、これらの平坦面に今回の発掘区で得られた成果と関係する遺構が展開する可能性もある。

また、各時期において、山間部における当該地を人々が活動の場として選択した理由についても考えてみたい。当遺跡は南側に日坂川が流れ、北側には丘陵が迫る。大きな平坦面は確保しにくいものの、山と川が近接するため、水や食料を獲得しやすく、縄文時代の人々が暮らす上で利点があったと考えられる。また、古代以降、日坂地域には集中して社寺が設けられ、豪族が居を構える。理由の一つとしては、日坂地域が、美濃・近江・越前を繋ぐルート上に存在することが考えられる。春日神社が所蔵する能面の中には越前出目家作のものと近江井関家作のものが含まれ、当地域と近江・越前の両地域との関わりが窺える。また、高橋家は現代にいたるまで日坂の大地主として栄え、農業だけでなく林業や炭焼きも行っていたようである。江戸時代に大垣藩主が巡見に訪れていることも考慮すれば、日坂地域で得られる山林資源の存在も当該地が選択された理由の一つであったかもしれない。

日坂川流域では発掘調査が実施された遺跡がなく、今回の調査ではこれまで確認されていなかった多くの情報を得ることができた。今後も、当遺跡周辺の遺跡や文献史料の調査・研究が進展することで、当該地域のより具体的な歴史像が描けるようになることを期待したい。将来的に今回の調査成果がそのための一助となれば幸いである。

注

- 1) 山下氏によると、東海条痕文系土器は器面内外を柔軟で調整したり胎土に纖維を混入したりする特徴があるとする。ただし、上ノ山式以降はどちらの要素も減少するようである。参考文献は以下のとおりである。
山下勝年 2008「東海条痕文系土器」『絶覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 2) 表 46 の遺跡は五十音順に示した。各型式名はそれぞれの報告に準拠し、統一していない。報告において「●式に類似するもの」とされるものは（ ）を付す。表 46 の作成にあたっての参考文献は以下のとおりである。
岐阜県教育委員会 1991『小の原遺跡・戸入障子暮遺跡』（徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第 2 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 1993『追分遺跡・下開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 5 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 1994『長吉遺跡・普賢寺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 12 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 1997『山手宮前遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 28 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 1999『上開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 25 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 1999『細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡・宮上遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 53 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 2000『いんべ遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 55 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 2000『岩井谷遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 60 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 2001『寺星敷遺跡・磯谷口遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 35 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 2003『尾元遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 82 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター 2007『塙奥山遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 103 集）
- 3) 坂内村教育委員会 1989『諸家遺跡』

- 4) 春日村史編集委員会 1983『春日村史』上巻、株式会社ぎょうせい
 - 5) 3) に同じ。
 - 6) 発掘区周辺の地形は、発掘区西側にある舌状の丘陵の南東斜面に影響を受け、概ね北西から南東に向かって傾斜するため、SI 1 の長軸方位とは類似しない。ただし、発掘区南側及び南西側の平坦面に位置する高檜家住宅や日坂上村集落の北部東部の建物は、自然地形の影響を受けながら南北軸からやや東側に傾いて展開しており、SI 1 の長軸方位と類似する(図 5)。このことを踏まえると、当該期の遺構は、発掘区より南側や南西側にさらに展開していた可能性がある。
 - 7) 3) に同じ。
 - 8) 損斐郡久瀬村 1973『久瀬村誌』
 - 9) 3) に同じ。
 - 10) 石劍は主に縄文時代後期以降にみられるとしてある。
- 鈴木道之助 1991『図録・石器入門事典<縄文>』、柏書房株式会社
- 11) 8) に同じ。
 - 12) 6) と同様の理由で、当該期の遺構は、発掘区より南側や南西側にさらに展開していた可能性がある。
 - 13) 小野木学氏は美濃北西部の山間部では、縄文時代以降、10世紀になるまで本格的な集落が確認できない点を指摘している。また、春日井恒氏は、徳山地域においては9世紀以降に遺構や遺物が増加し、白山信仰等の宗教的施設を核として、人々の活動があった可能性を指摘している
- 小野木学 2000「第6章 古代以降の遺物」『岩谷遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第60集)
- 春日井恒 2003「第5章 まとめ」『寺平遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書第83集)
- 14) 4) に同じ。
 - 15) 内堀信雄氏らによると、美濃地域の中世集落の変動を踏まえて山茶碗の第4型式～第7型式までを中世前期、8型式以降を中世後期とし、中世後期は11型式とそれよりも後でさらに細分している。今回も基本的にこの区分に則り4～7型式を中世前期、8～11型式を中世後期、11型式よりも後を戰国期として記載する。
- 内堀信雄ほか 2002『美濃地域における中世集落の様相』『東海の中世集落を考える—考古学から中世のムラをどう読み解くか—』、第9回東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 16) 小野木学 2004「美濃の山茶碗—士師器皿と中国陶磁の共伴事例—」『第23回中世土器研究会 中世須恵器と山茶碗』、日本中世土器研究会
 - 17) 藤澤良祐 2007「第3節 古瀬戸生産の成立と展開」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県
 - 18) 17) に同じ。
 - 19) 小野正敏 1991「中世陶磁器研究の視点と方法—消費地遺跡からみた問題—」『考古学と中世史研究』、名著出版
- 井川啓介 2002「中世集落遺跡の分析方法の一事例～遺物カウントによる遺跡の理解～」『東海の中世集落を考える—考古学から中世のムラをどう読み解くか—』、第9回東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 20) 有機質の遺物についても考慮する必要があるものの、残念ながら今回の調査では確認することができなかつた。
 - 21) 8) に加え、以下の文献を基に記載した。
- 高橋好勇 2005『ふるさと日坂』、大和印刷
- 22) この鬼瓦屋根石は、元々春日神社の拝殿下にあったが、昭和初期に長国寺内に移したとされる。
 - 23) 21) に加え、以下の文献を参考にした。
- 小寺武久 1991「高檜家住宅」『岐阜県指定文化財調査報告書』第35巻、岐阜県教育委員会

引用・参考文献

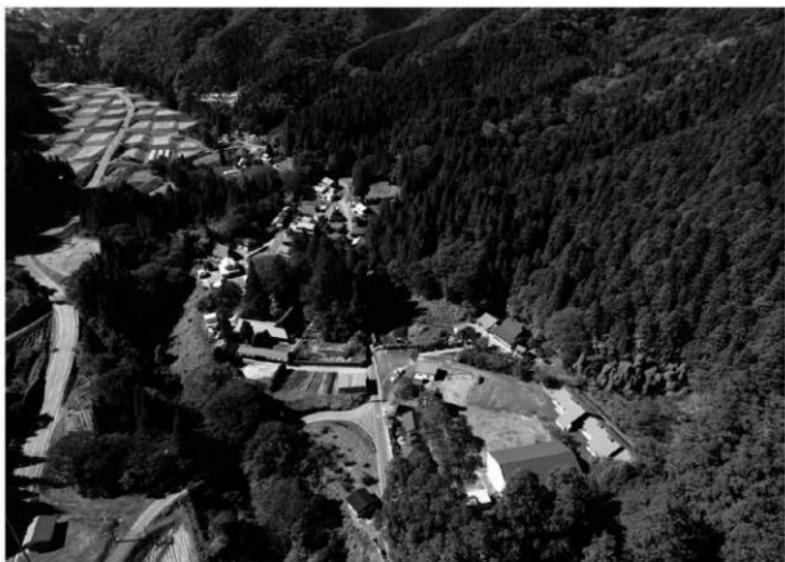
- 愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 潤戸系』、愛知県
 愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史 別編 窯業3 中世・近世 常滑系』、愛知県
 愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史 別編 古代 猿投系』、愛知県
- 青嶋邦夫2000「愛鷹山南麓の縄文時代早期集石遺構に関する考察～報告書からどこまで生活のあり方を読みとれるか～」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第7号、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 青嶋邦夫2005「集石遺構の研究法について」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第11号、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
- 赤塙仁 2008「十三菩提式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 井川啓介 2002「中世集落遺跡の分析方法の一事例～遺物カウントによる遺跡の理解～」『東海の中世集落を考える—考古学から中世のムラをどう読み解くかー』、第9回東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 泉拓良 2008「鷹島式・船元式・里木II式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 揖斐川町 1971『揖斐川町史』通史編
- 揖斐郡久瀬村 1973『久瀬村誌』、大洋社
- 揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い 1993『久瀬村の歴史』
- 上田典男1983「縄文時代焼廻集積遺構の形態的把握」『物質文化』41、物質文化研究会
- 内堀信雄ほか 2002「美濃地域における中世集落の様相」『東海の中世集落を考える—考古学から中世のムラをどう読み解くかー』、第9回東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
- 宇野隆夫1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館
- 岡田憲一 2008 a 「縄文条痕文系土器（西日本）」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 岡田憲一 2008 b 「回線文系土器（宮滝式・元住吉山II式土器）」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 小川栄一 1952『美濃の石器時代文化』
- 小野木学 1997「美濃地方における中世前期の土師器皿の様相」『美濃の考古学』第2号、美濃の考古学刊行会
- 小野木学 2000「第6章 古代以降の遺物」『岩井谷遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第60集）
- 小野木学 2004「美濃の山茶碗—土師器皿と中国陶磁の共伴事例—」『第23回中世土器研究会 中世須恵器と山茶碗』、日本中世土器研究会
- 小野正敏 1991「中世陶磁器研究の視点と方法—消費地遺跡からみた問題—」『考古学と中世史研究』、名著出版
- 春日井恒 2003「第5章 まとめ」『寺平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第83集）
- 春日村史編集委員会 1983『春日村史』上巻、株式会社ぎょうせい

- 岐阜県 1981『岐阜県地質鉱産図概説』
- 岐阜県企画部地域振興課 1995『岐阜県土地分類基本調査「横山」』
- 織田頼茂・高橋健太郎 2008「中富式・神明式土器」『總覽縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 小葉一夫1999「遺構研究 集石遺構」『縄文時代』第10号、縄文時代文化研究会
- 小寺武久 1991「高橋家住宅」『岐阜県指定文化財調査報告書』第35巻、岐阜県教育委員会
- 後藤守一1956「衣・食・住」『日本考古学講座』3、河出書房
- 小林謙一 2017『縄文時代の実年代—土器型式編年と炭素14年代—』、同成社
- 小山正忠、竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』、日本色研事業株式会社
- 岐阜県教育委員会1991『小の原遺跡・戸入障子暮遺跡』（徳山ダム水没地区埋蔵文化財発掘調査報告書第2集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1993『追分遺跡・下開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第5集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1999『上開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第6集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1994『長吉遺跡・普賢寺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第12集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1997『山手宮前遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第28集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1999『上開田村平遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第25集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター1999『細野遺跡・梨子谷遺跡・千日遺跡・宮上遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第53集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2000『いんべ遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第55集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2000『岩井谷遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第60集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2000『戸入村平遺跡II・小谷戸遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第64集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2001『寺屋敷遺跡・磯谷口遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第35集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2003『尾元遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第82集）
- 財團法人岐阜県文化財保護センター2007『塚奥山遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第103集）
- 坂内村教育委員会1989『諸家遺跡』
- 篠田通弘 1987『揖斐谷の縄文遺跡 その1』『揖斐谷の自然と歴史と文化を語る集い 第5回揖斐谷ミニ学会』
- 滋賀県教育委員会・財團法人滋賀県文化財保護協会 1984『栗津貝塚湖底遺跡』

- 濫谷昌彦 2008 「塙屋式・木島式・中越式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 鈴木道之助 1991 『図録・石器入門事典<縄文>』、柏書房株式会社
- 鈴木康二 2008 a 「北白川下層式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 鈴木康二 2008 b 「特殊凸帯文系土器（北白川III式・大歳山式土器）」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 鈴木康二 2008 c 「琵琶湖周辺における入海式の様相～石山貝殻を中心に～」『入海式をめぐる諸問題』東海縄文研究会第5回研究会（愛知2）、東海縄文研究会
- 関根慎二 2008 「諸磯式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 高橋好勇 2005 『ふるさと日坂』、大和印刷
- 太宰府市教育委員会 2000 『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』（太宰府市の文化財第49集）
- 谷口康浩1986『縄文時代「集石遺構」に関する試論 一関東・中部地方における早・前・中期の焼躰集積遺構を中心としてー』『東京考古』4、東京考古談話会
- 富井眞 2008 「北白川C式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 中村俊夫・岩花秀明1990『岐阜県諸家遺跡出土の遺物から採取された炭化物とその抽出フミン酸の加速器¹⁴C年代の比較』『考古学と自然科学』第22号、日本文化財科学会
- 中村俊夫 2000 「放射性炭素年代測定法の基礎」『日本先史時代の¹⁴C年代』、日本第四紀学会
- 野嶋洋子2005「集石調理の民族誌—躰群研究の民族考古学的視点—』『月刊考古学ジャーナル』No.531、ニューサイエンス社
- 野嶋洋子2007「集石の民族誌—焼石調理の特徴と先史学の意義—』『縄文時代の考古学5 なりわい—食料生産の技術—』、同成社
- 藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』第3号、三重県埋蔵文化財センター
- 藤澤良祐 2007 「第3節 古瀬戸生産の成立と展開」『愛知県史 別編 窯業2 中世・近世 瀬戸系』、愛知県
- 藤澤良祐 2015 「付編 中世常滑窯編年の再検討—5型式期以降を中心に—」『上県2号窯跡第9次発掘調査概要報告書』（愛知学院大学考古学発掘調査報告20）、愛知学院大学文学部歴史学科
- 増子康眞 2008 「北裏C～北屋敷II式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 山下勝年 2008 a 「東海条痕文系土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 山下勝年 2008 b 「清水ノ上II式・上の坊式土器」『総覧縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
- 山梨県埋蔵文化財センター1996「第3節 縄文時代早期末～前期初頭の土器について」『中溝遺跡 掘久保遺跡』（山梨県埋蔵文化財センター調査報告書115）
- Bronk Ramsey, C. 2009 「Bayesian Analysis of Radiocarbon dates」『Radiocarbon』 51(1)
- Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton, T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M., Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig,

- F., Sakamoto, M., Sookdeo, A. and Talamo, S. 2020「The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP)」『Radiocarbon』 62(4) doi:10.1017/RDC.2020.41.
<https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41> (cited 12 August 2020)

図版1 遺構（1）



中村遺跡遠景（東から）



東区全景（東から）

図版2 遺構（2）

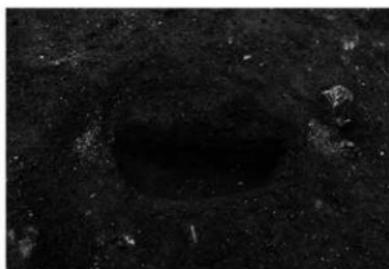


西区全景（北東から）

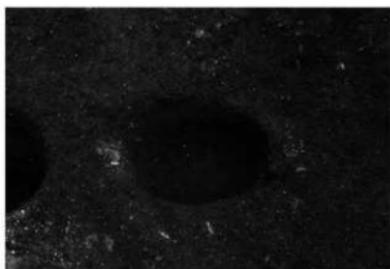


SI 1 完掘状況（南西から）

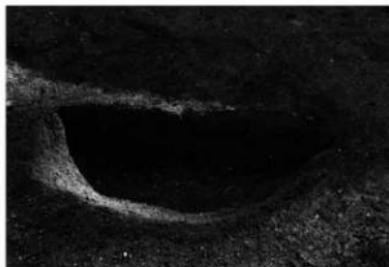
図版3 遺構(3)



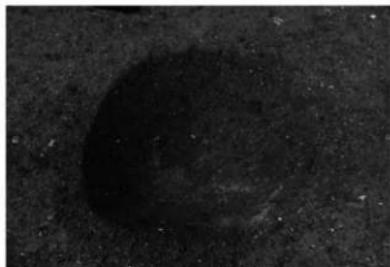
SI 1-P1 土層断面 (西から)



SI 1-P1 完掘状況 (西から)



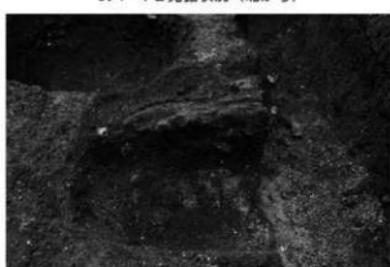
SI 1-P2 土層断面 (南から)



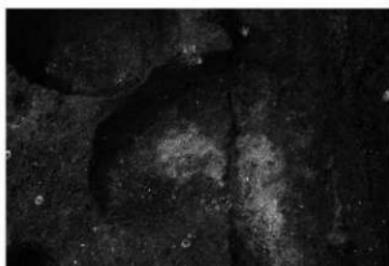
SI 1-P2 完掘状況 (北から)



SI 1-炉検出状況 (北西から)



SI 1-炉土層断面 (北西から)

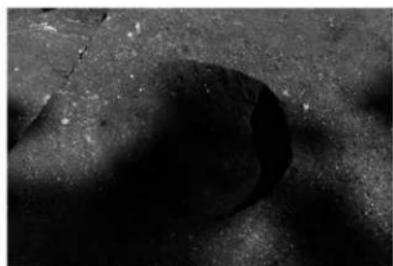


SI 1-炉完掘状況 (北西から)



SK24 土層断面 (西から)

図版4 遺構（4）



SK24 完掘状況（西から）



SK23 土層断面（北から）



SK23 土層断面（南から）



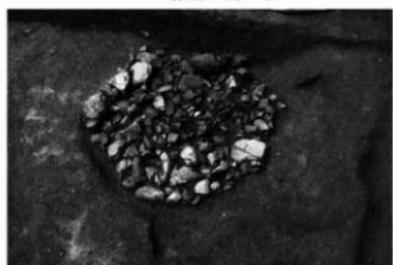
SK23 土層断面（西から）



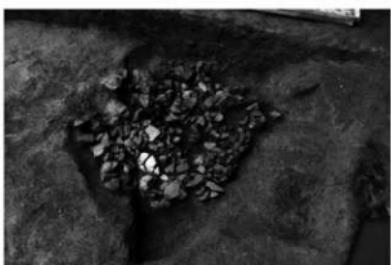
SK23 土層断面（東から）



SK23 完掘状況（西から）



SK185 破出土状況 1（北から）



SK185 破出土状況 2（北から）

図版5 遺構（5）



SK185 碓出土状況3（南から）



SK185 碓出土状況5（北から）



SK185 碓出土状況4（北から）

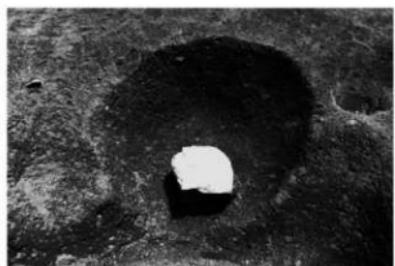


SK185 窓掘状況（南東から）



SK186 碓出土状況1（南西から）

図版6 遺構（6）



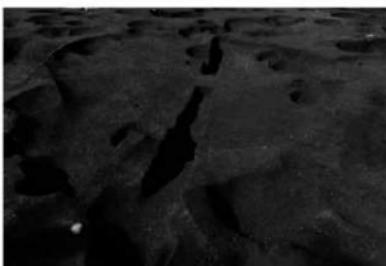
SK186 砥出土状況2（西から）



SK186 完掘状況（西から）



SK265 遺物出土状況（南東から）



SK265 完掘状況（南から）



SB 1・SB 2 完掘状況（南東から）

図版7 遺構(7)



SB 1 - P8・SB 2 - P5 土層断面（北から）

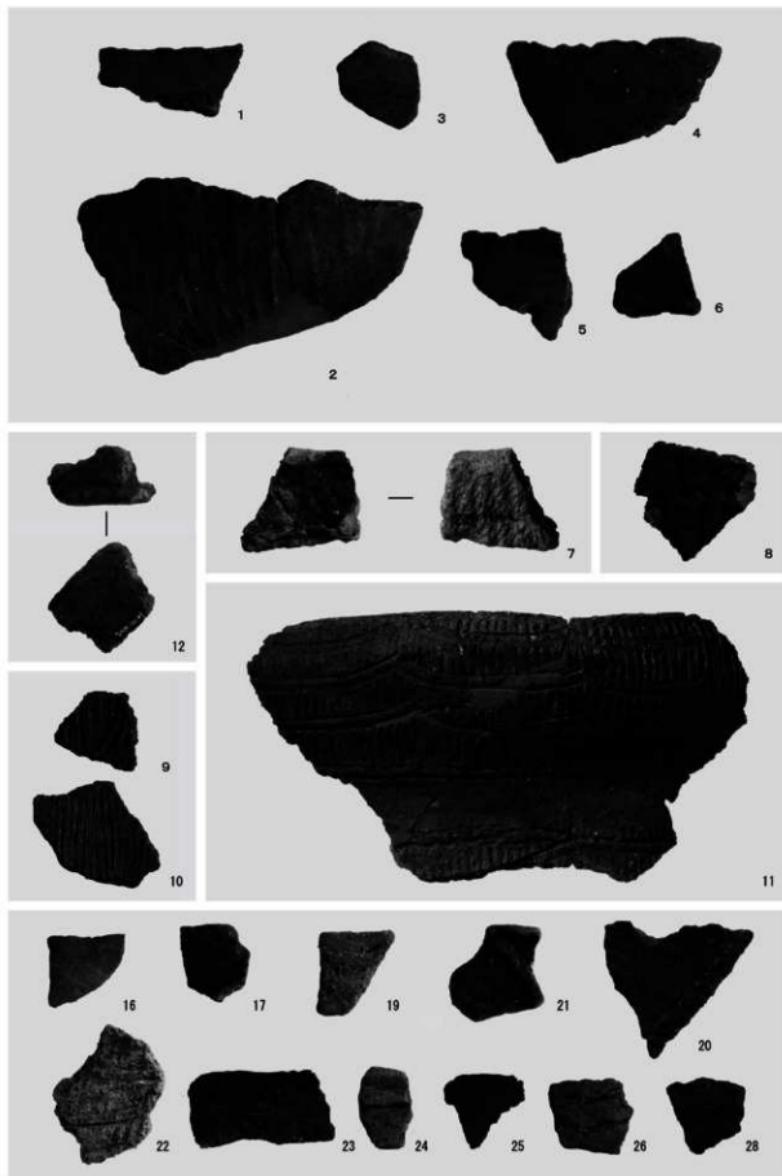


SA 1 完掘状況（北東から）

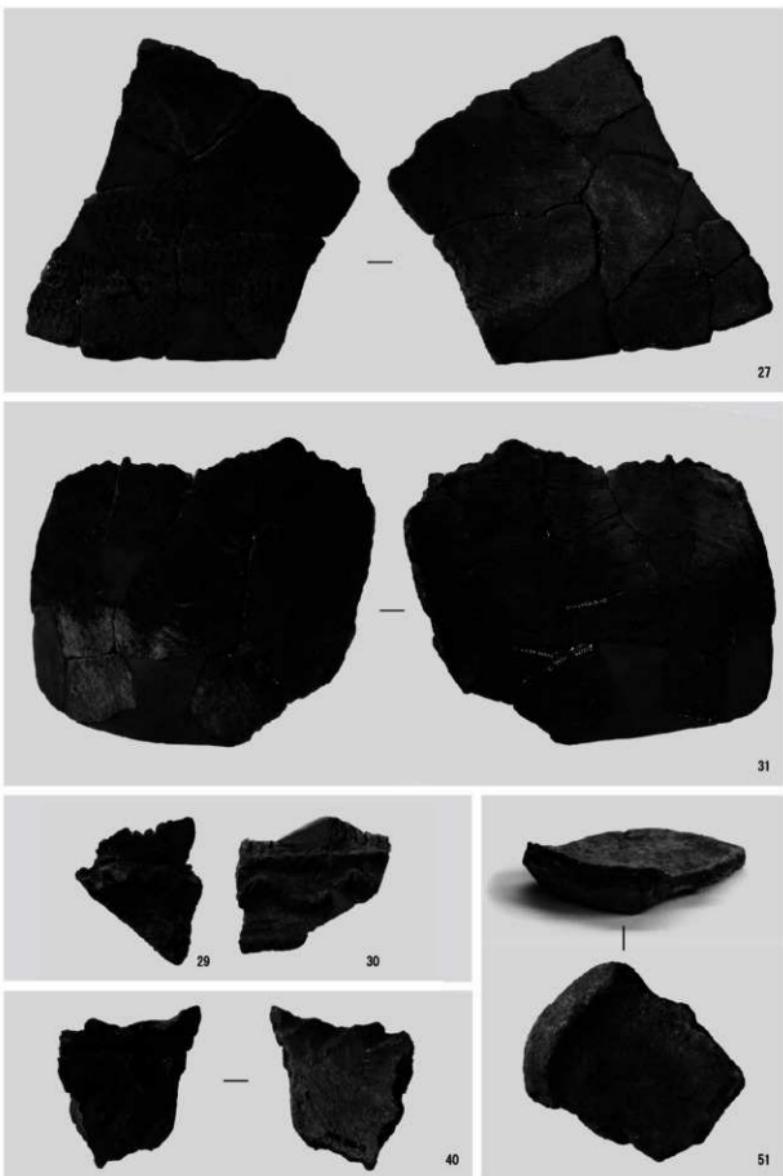


SA 5～SA 7 完掘状況（北西から）

図版8 出土遺物(1)



図版9 出土遺物(2)

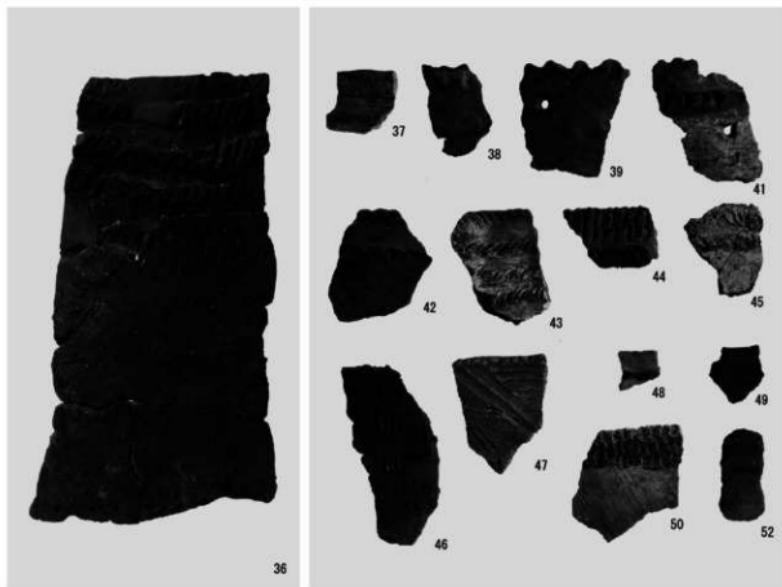


図版 10 出土遺物 (3)



34

35



37

38

39

41

42

44

45

43

46

47

48

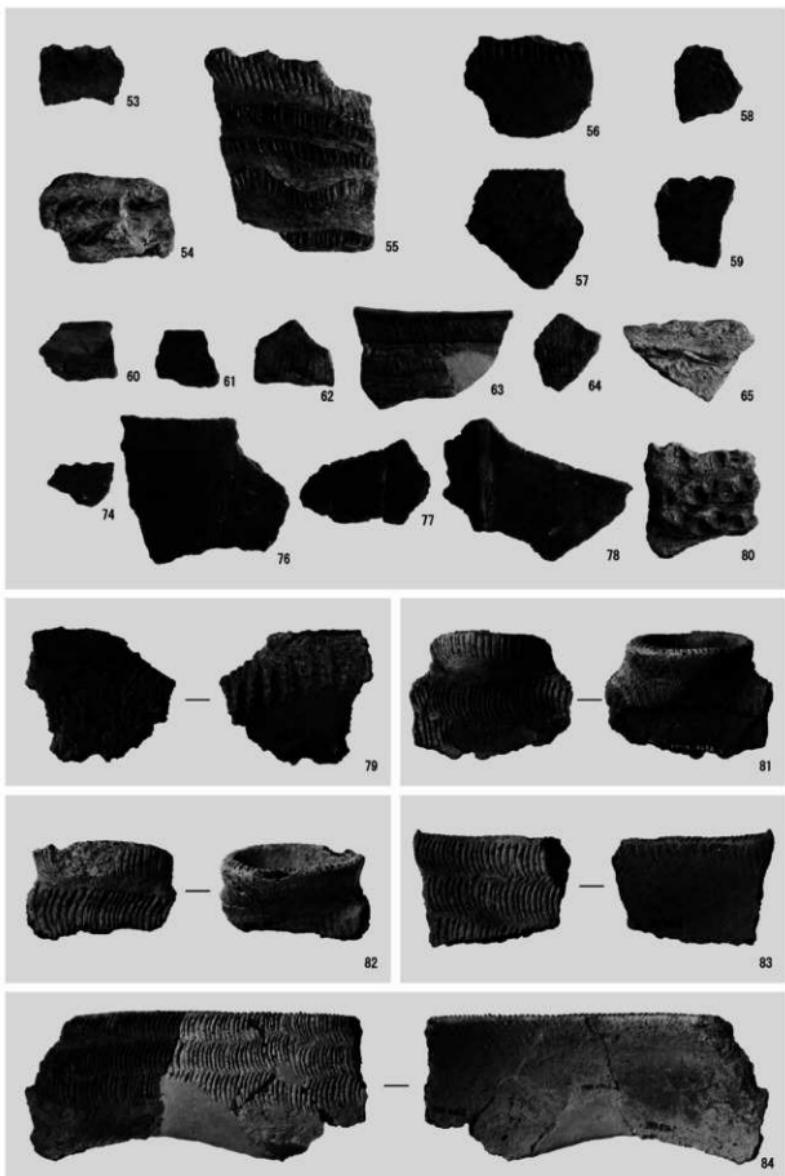
49

50

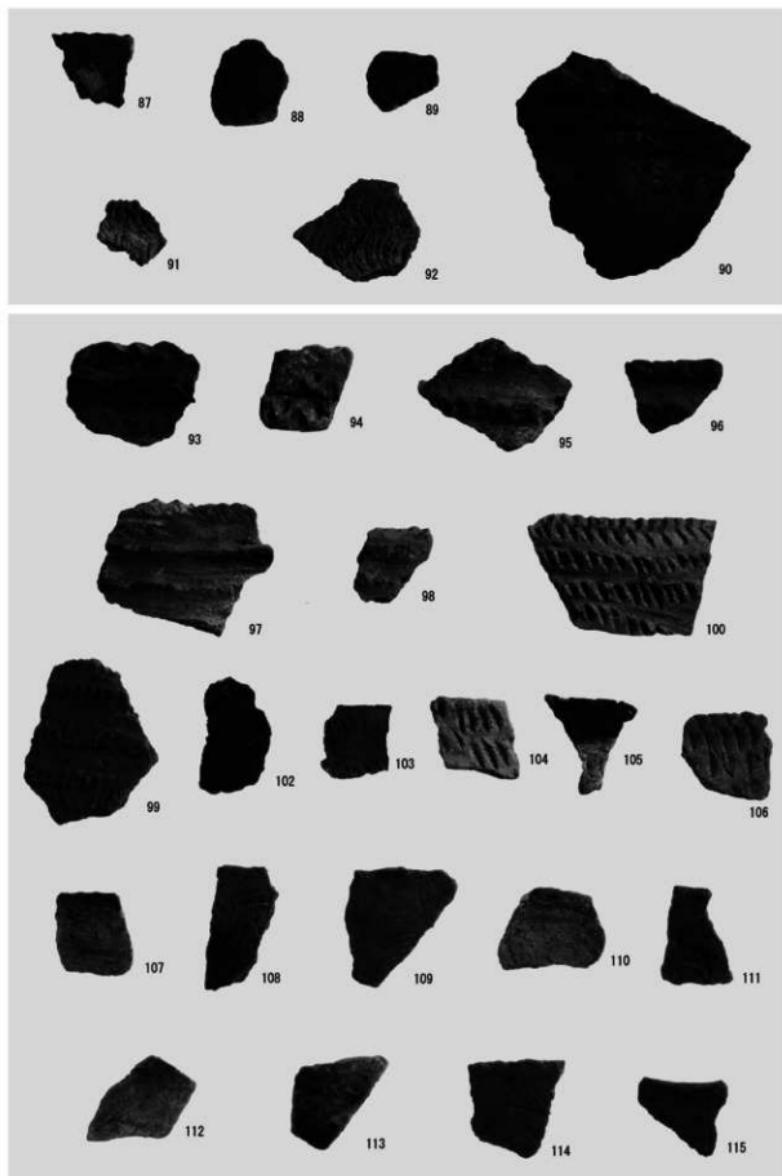
52

36

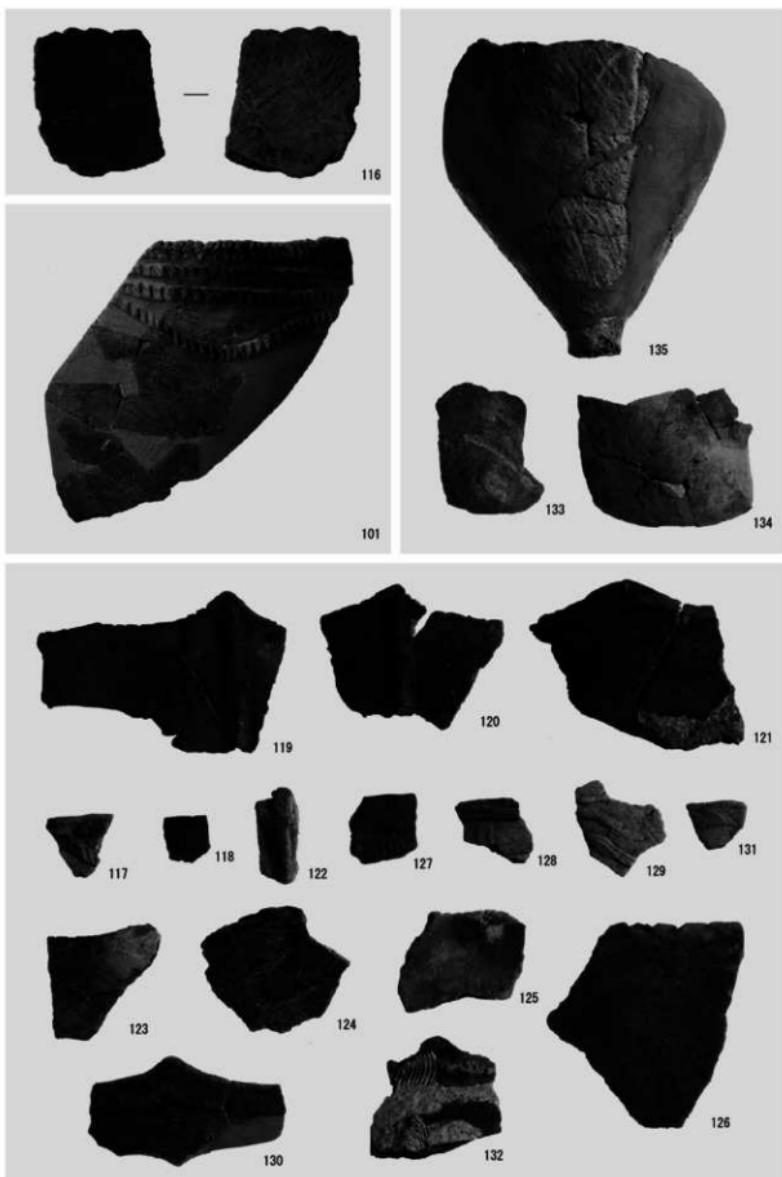
図版 11 出土遺物 (4)



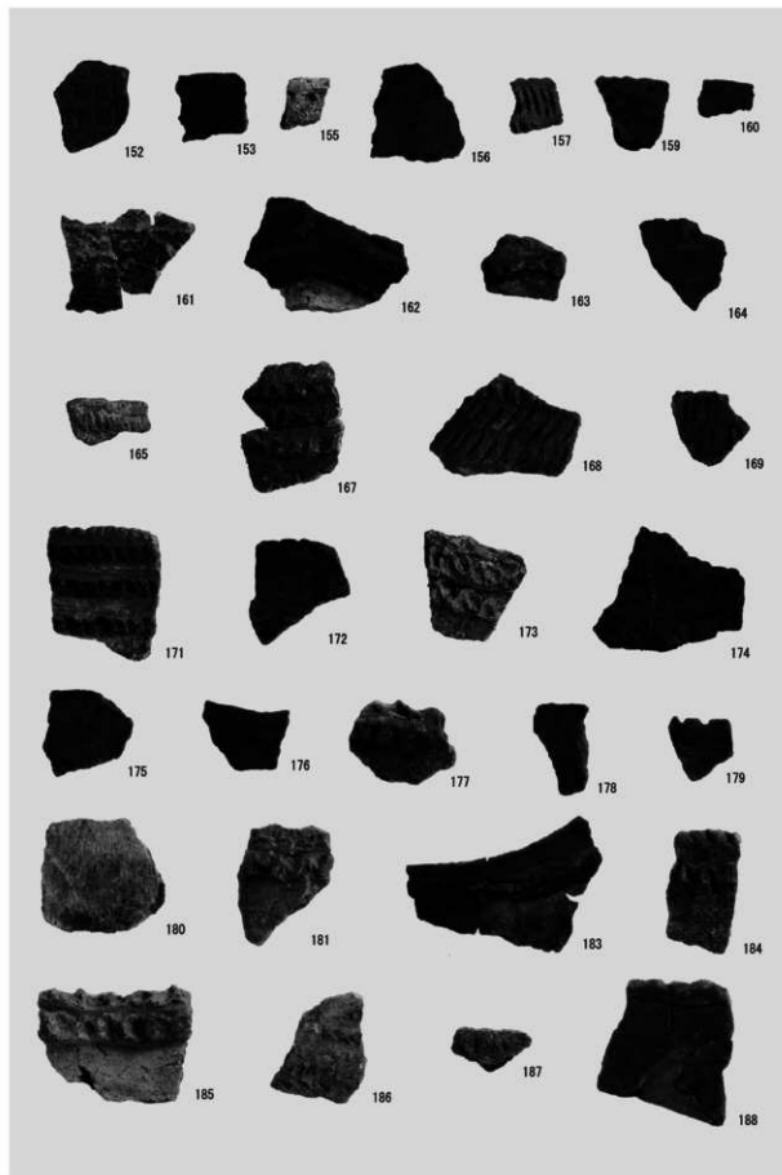
図版 12 出土遺物 (5)



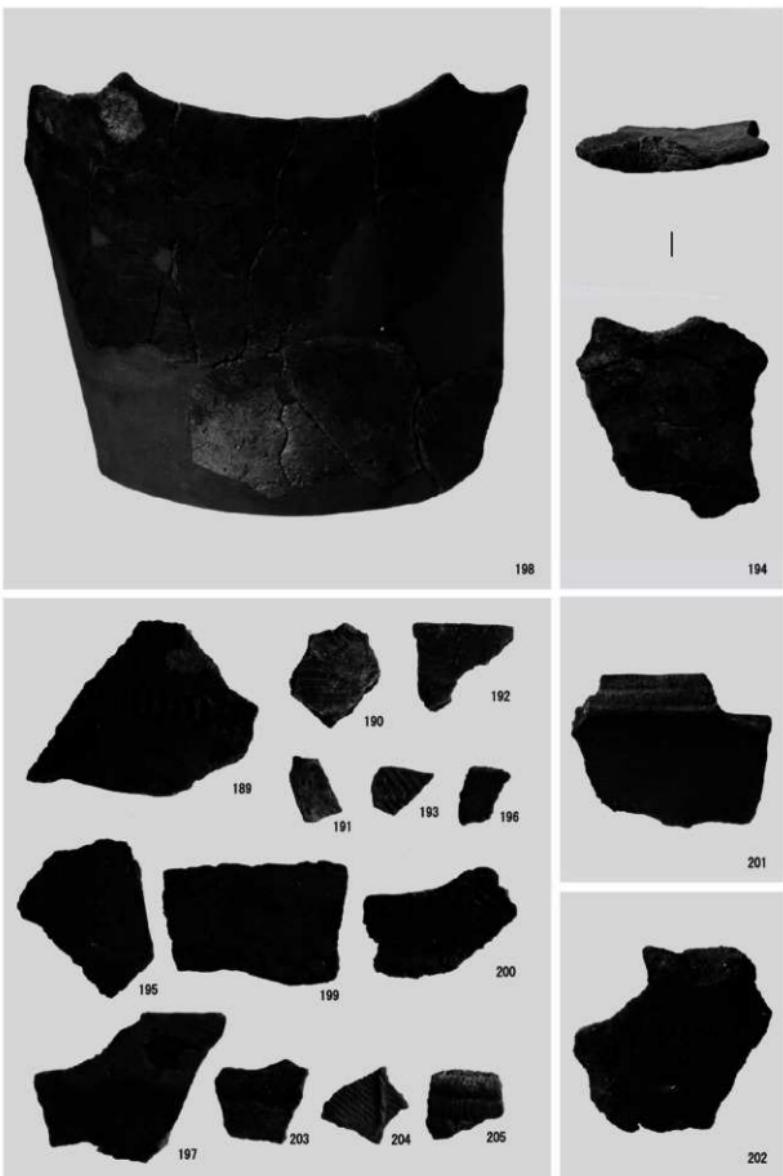
図版13 出土遺物(6)



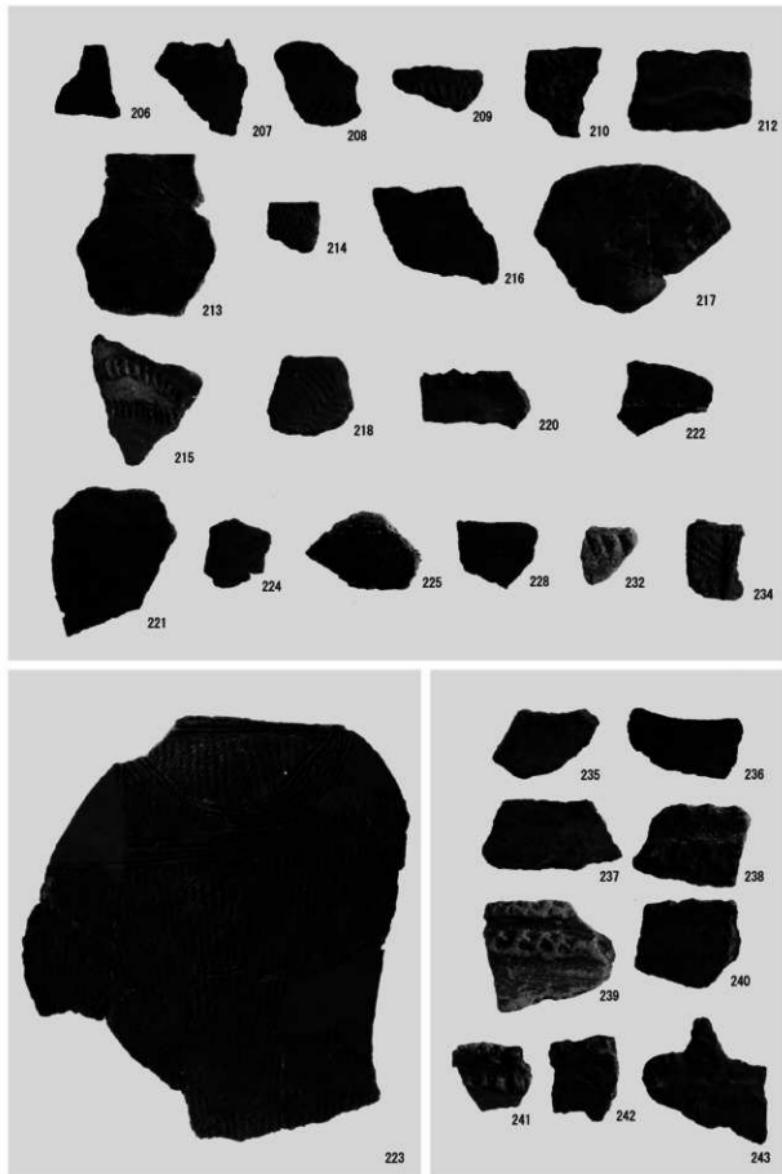
図版 14 出土遺物 (7)



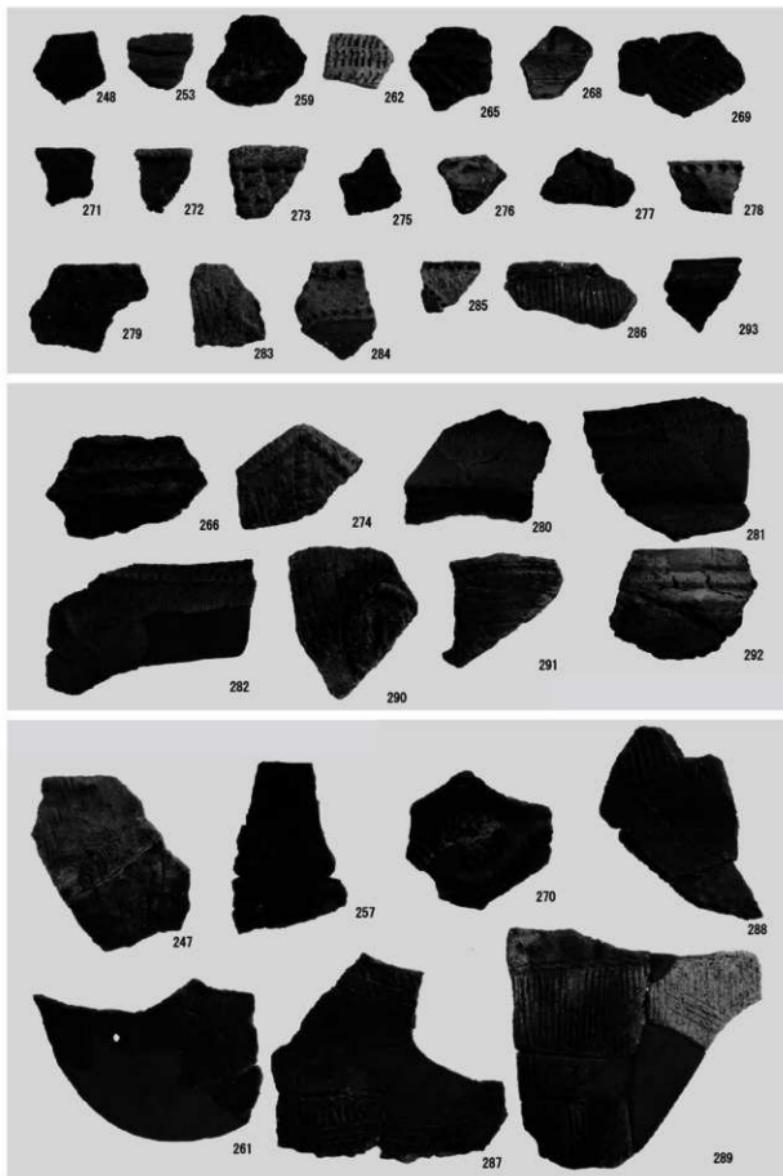
図版 15 出土遺物 (8)



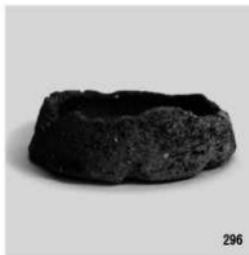
図版 16 出土遺物 (9)



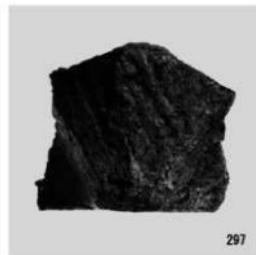
図版 17 出土遺物 (10)



图版 18 出土遗物 (11)



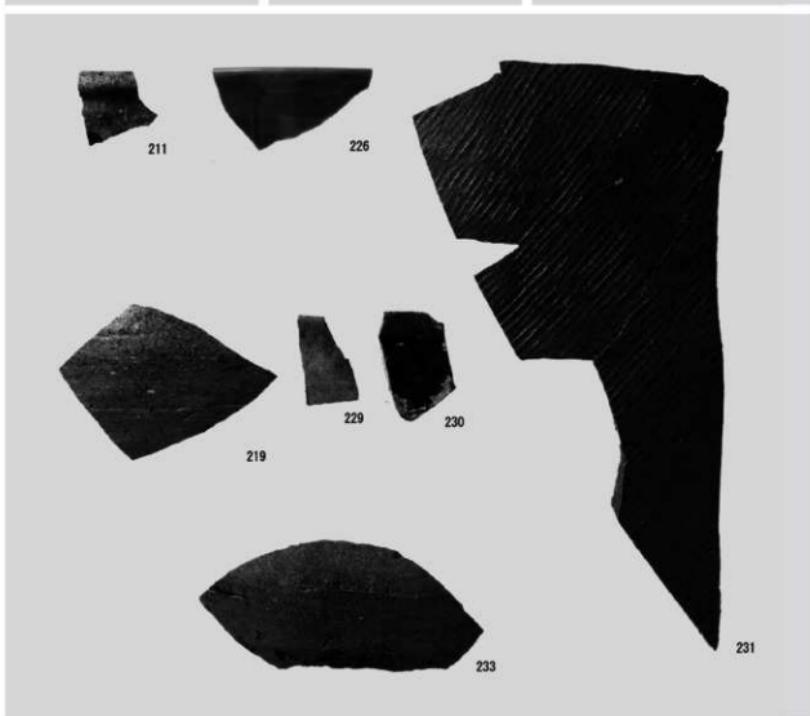
296



297



298



211

226

219

229

230

233

231

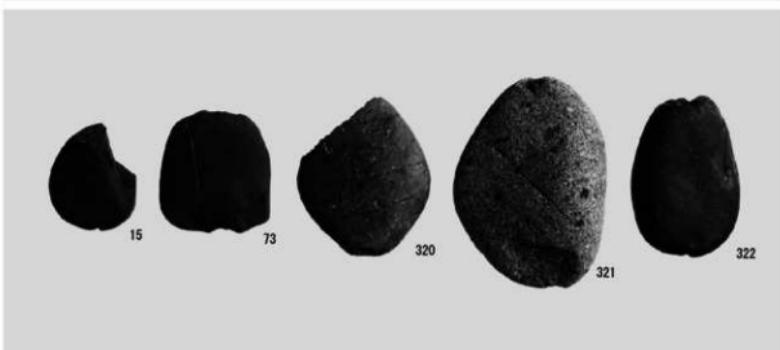
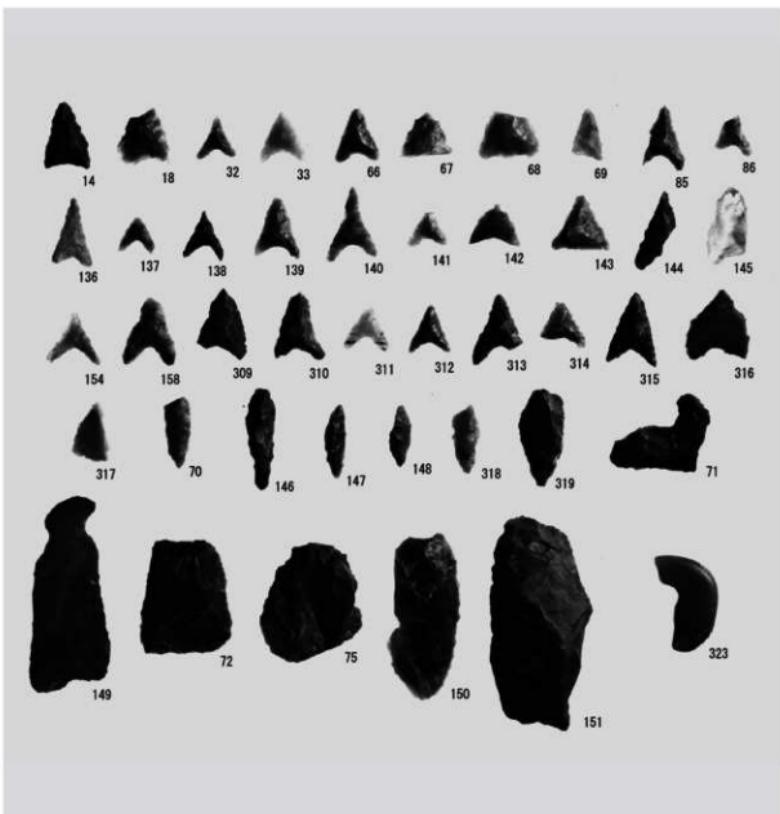


303



304

図版 19 出土遺物 (12)



報 告 書 抄 錄

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第160集

中村遺跡

2023年3月3日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印 刷 株式会社もとすいんさつ

